

令和 3 年 度

前橋市各会計決算及び基金運用状況
並びに健全化判断比率等審査意見書

前 橋 市 監 査 委 員

一般会計・特別会計決算及び
基金運用状況審査意見書

一般会計・特別会計
及び基金運用状況

内 監

令和4年8月24日

前橋市長 山 本 龍 様

| | |
|---------|---------|
| 前橋市監査委員 | 根 岸 隆 夫 |
| 同 | 長 岡 敏 夫 |
| 同 | 鈴 木 俊 司 |
| 同 | 近 藤 登 |

令和3年度前橋市一般会計・特別会計歳入歳出決算及び基金運用状況審査意見の提出について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第2項の規定により審査に付された令和3年度前橋市一般会計・特別会計歳入歳出決算及び同法第241条第5項の規定により審査に付された令和3年度前橋市基金運用状況について審査した結果、次のとおり意見を提出いたします。

目 次

一般会計・特別会計

| | | |
|----------|-------------------------|-----------|
| 第1 | 審査の基準 | 1 |
| 第2 | 審査の種類 | 1 |
| 第3 | 審査の対象 | 1 |
| 第4 | 審査の期間 | 1 |
| 第5 | 審査の着眼点 | 1 |
| 第6 | 審査の実施内容 | 2 |
| 第7 | 審査の結果 | 2 |
| 1 | 決算の概要及び審査意見 | 2 |
| | (1) 一般会計及び特別会計歳入歳出決算の概要 | 2 |
| | (2) 決算収支の状況 | 4 |
| | (3) 歳入状況 | 5 |
| | (4) 歳出状況 | 8 |
| | (5) 普通会計決算の状況 | 10 |
| | (6) 財政分析指標の状況 | 11 |
| | (7) 財産状況 | 13 |
| | (8) 審査意見 | 14 |
| 2 | 一般会計 | 19 |
| | (1) 歳入 | 20 |
| | 第1款 市 税 | 22 |
| | 第2款 地方譲与税 | 24 |
| | 第3款 利子割交付金 | 24 |
| | 第4款 配当割交付金 | 25 |
| | 第5款 株式等譲渡所得割交付金 | 25 |
| | 第6款 法人事業税交付金 | 25 |
| | 第7款 地方消費税交付金 | 26 |
| | 第8款 ゴルフ場利用税交付金 | 26 |
| | 第9款 環境性能割交付金 | 26 |
| | 第10款 地方特例交付金 | 27 |
| | 第11款 地方交付税 | 27 |

| | | |
|---------------|---------------|-----------|
| 第12款 | 交通安全対策特別交付金 | 28 |
| 第13款 | 分担金及び負担金 | 28 |
| 第14款 | 使用料及び手数料 | 29 |
| 第15款 | 国庫支出金 | 30 |
| 第16款 | 県支出金 | 31 |
| 第17款 | 財産収入 | 33 |
| 第18款 | 寄附金 | 34 |
| 第19款 | 繰入金 | 34 |
| 第20款 | 繰越金 | 35 |
| 第21款 | 諸収入 | 35 |
| 第22款 | 市債 | 37 |
| (2) 歳出 | | 39 |
| 第1款 | 議会費 | 41 |
| 第2款 | 総務費 | 41 |
| 第3款 | 民生費 | 43 |
| 第4款 | 衛生費 | 44 |
| 第5款 | 労働費 | 46 |
| 第6款 | 農林水産業費 | 46 |
| 第7款 | 商工費 | 47 |
| 第8款 | 土木費 | 49 |
| 第9款 | 消防費 | 50 |
| 第10款 | 教育費 | 51 |
| 第11款 | 災害復旧費 | 53 |
| 第12款 | 公債費 | 54 |
| 第13款 | 予備費 | 55 |
| 付 表 | | |
| | 一般会計節別支出状況一覧表 | 56 |
| 3 特別会計 | | 59 |
| (1) | 国民健康保険特別会計 | 59 |
| (2) | 後期高齢者医療特別会計 | 63 |
| (3) | 競輪特別会計 | 65 |
| (4) | 農業集落排水事業特別会計 | 67 |
| (5) | 介護保険特別会計 | 70 |

| | |
|-----------------------------|-----------|
| (6) 母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計 | 74 |
| (7) 新エネルギー発電事業特別会計 | 76 |
| (8) 用地先行取得事業特別会計 | 78 |
| (9) 産業立地推進事業特別会計 | 79 |
| 付 表 | |
| 特別会計節別支出状況一覧表 | 82 |
| 4 財産に関する調書 | 85 |
| (1) 公 有 財 産 | 85 |
| (2) 物 品 | 87 |
| (3) 債 権 | 87 |
| (4) 基 金 | 88 |

基金運用状況

| | |
|-----------------------|-----------|
| 第1 審査の基準 | 91 |
| 第2 審査の種類 | 91 |
| 第3 審査の対象 | 91 |
| 第4 審査の期間 | 91 |
| 第5 審査の着眼点 | 91 |
| 第6 審査の実施内容 | 91 |
| 第7 審査の結果 | 91 |
| 1 基金の概要 | 92 |
| 2 基金運用状況 | 92 |

凡

例

- 1 文中及び各表中で用いる百分率（％）は、小数点以下第2位を四捨五入した。
なお、構成比率（％）は、合計が100となるように一部調整した。
- 2 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「0.0」…………… 該当数値はあるが表示単位未満のもの
 - 「－」…………… 該当のないもの
令和3年度の中核市平均値で比率が確定していないもの
 - 「△」…………… 負数を示し増減を示すときは減を表すもの
 - 「皆増」…………… 前年度に数値がなく全額増加したもの
 - 「皆減」…………… 当該年度に数値がなく全額減少したもの

一 般 会 計

特 別 会 計

令和3年度前橋市一般会計・特別会計 歳入歳出決算審査意見

第1 審査の基準

本審査は、前橋市監査委員監査基準(令和2年前橋市監査委員告示第1号)に準拠し実施した。

第2 審査の種類

地方自治法(昭和22年法律第67号)第233条第2項の規定による決算審査

第3 審査の対象

令和3年度 前橋市一般会計歳入歳出決算

令和3年度 前橋市国民健康保険特別会計歳入歳出決算

令和3年度 前橋市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算

令和3年度 前橋市競輪特別会計歳入歳出決算

令和3年度 前橋市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算

令和3年度 前橋市介護保険特別会計歳入歳出決算

令和3年度 前橋市母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計歳入歳出決算

令和3年度 前橋市新エネルギー発電事業特別会計歳入歳出決算

令和3年度 前橋市用地先行取得事業特別会計歳入歳出決算

令和3年度 前橋市産業立地推進事業特別会計歳入歳出決算

令和3年度 前橋市各会計歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

第4 審査の期間

令和4年7月4日から同年8月5日まで

第5 審査の着眼点

決算その他関係書類が法令に適合し、適切かつ正確であり、効率的で効果的な事業の実施に資するものになっているかを主な着眼点とした。

第6 審査の実施内容

審査に当たっては、市長から提出された各会計歳入歳出決算書、各会計歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書が法令に規定された様式に基づき作成されているか、証書類と照査し、計数が正確であるか、予算は適正かつ効率的に執行されているかなどについて確認するとともに、必要に応じて関係職員から説明を聴取する等により実施した。

なお、現金の出納状況については、毎月、出納検査を実施し、確認済であるので省略した。

第7 審査の結果

審査に付された各会計歳入歳出決算書、各会計歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、いずれも関係法令の定めるところにより作成され、その計数は証書類と符合し、正確であり、予算の執行状況は適正であるものと認められた。

決算の概要及び意見は、次のとおりである。

1 決算の概要及び審査意見

(1) 一般会計及び特別会計歳入歳出決算の概要

一般会計と特別会計を合わせた決算総額は、歳入 263,592,296,740 円、歳出 257,168,109,802 円である。決算総額を前年度と比較すると、歳入は 24,718,994,068 円（8.6%）の減少、歳出は 25,424,115,171 円（9.0%）の減少となっている。

次に、一般会計と特別会計全体の決算額をそれぞれ前年度と比較すると、一般会計は、歳入で 25,549,290,845 円（13.3%）の減少となっている。これは主として、新型コロナウイルス感染症対策に係る国庫補助金の減によるものである。また、歳出では 26,343,416,574 円（14.0%）の減少となっている。これは主として、同感染症対策に係る事業費の減によるものである。

特別会計全体は、歳入で 830,296,777 円（0.9%）の増加、歳出で 919,301,403 円（1.0%）の増加となっている。特別会計のうち、対前年度増減額が大きい会計として、競輪特別会計では、歳入で 316,189,907 円（1.3%）の減少、歳出で 274,596,035 円（1.1%）の減少、介護保険特別会計では、歳入で 545,836,648 円（1.7%）の増加、歳出で 548,863,170 円（1.7%）の増加、産業立地推進事業特別会計では、歳入で 446,269,113 円（99.9%）の増加、歳出で 439,106,105 円（98.3%）の増加となっている。

一般会計及び特別会計の決算規模

(単位：円・%)

| 区 分 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 増 減 額 | 増減比率 | |
|--------------------------|--------------|-----------------|-----------------|------------------|---------------|--------|
| 一 般 会 計 | 歳 入 | 166,603,894,992 | 192,153,185,837 | △ 25,549,290,845 | △ 13.3 | |
| | 歳 出 | 161,641,822,292 | 187,985,238,866 | △ 26,343,416,574 | △ 14.0 | |
| | 差 引 額 | 4,962,072,700 | 4,167,946,971 | 794,125,729 | 19.1 | |
| 特 別 会 計 | 国民健康 保 険 | 歳 入 | 33,248,828,081 | 33,265,051,570 | △ 16,223,489 | 0.0 |
| | | 歳 出 | 32,535,055,628 | 32,494,495,459 | 40,560,169 | 0.1 |
| | | 差引額 | 713,772,453 | 770,556,111 | △ 56,783,658 | △ 7.4 |
| | 後期高齢 者医療 | 歳 入 | 4,509,821,382 | 4,474,892,637 | 34,928,745 | 0.8 |
| | | 歳 出 | 4,501,957,504 | 4,454,346,830 | 47,610,674 | 1.1 |
| | | 差引額 | 7,863,878 | 20,545,807 | △ 12,681,929 | △ 61.7 |
| | 競 輪 | 歳 入 | 24,345,375,608 | 24,661,565,515 | △ 316,189,907 | △ 1.3 |
| | | 歳 出 | 24,094,003,163 | 24,368,599,198 | △ 274,596,035 | △ 1.1 |
| | | 差引額 | 251,372,445 | 292,966,317 | △ 41,593,872 | △ 14.2 |
| | 農業集落 排水事業 | 歳 入 | 1,278,244,232 | 1,140,622,037 | 137,622,195 | 12.1 |
| 歳 出 | | 1,268,114,232 | 1,137,092,037 | 131,022,195 | 11.5 | |
| 差引額 | | 10,130,000 | 3,530,000 | 6,600,000 | 187.0 | |
| 介護保険 | 歳 入 | 32,506,560,940 | 31,960,724,292 | 545,836,648 | 1.7 | |
| | 歳 出 | 32,093,494,037 | 31,544,630,867 | 548,863,170 | 1.7 | |
| | 差引額 | 413,066,903 | 416,093,425 | △ 3,026,522 | △ 0.7 | |
| 母子父子寡 婦福祉資金 貸付金 | 歳 入 | 53,016,591 | 46,445,768 | 6,570,823 | 14.1 | |
| | 歳 出 | 8,355,922 | 12,676,739 | △ 4,320,817 | △ 34.1 | |
| | 差引額 | 44,660,669 | 33,769,029 | 10,891,640 | 32.3 | |
| 新エネ ルギー 一発電 事 業 | 歳 入 | 153,738,334 | 162,255,685 | △ 8,517,351 | △ 5.2 | |
| | 歳 出 | 139,681,352 | 148,625,410 | △ 8,944,058 | △ 6.0 | |
| | 差引額 | 14,056,982 | 13,630,275 | 426,707 | 3.1 | |
| 用地先行 取得事業 | 歳 入 | 0 | 0 | 0 | — | |
| | 歳 出 | 0 | 0 | 0 | — | |
| | 差引額 | 0 | 0 | 0 | — | |
| 産業立地 推進事業 | 歳 入 | 892,816,580 | 446,547,467 | 446,269,113 | 99.9 | |
| | 歳 出 | 885,625,672 | 446,519,567 | 439,106,105 | 98.3 | |
| | 差引額 | 7,190,908 | 27,900 | 7,163,008 | 約258倍 | |
| 小 計 | 歳 入 | 96,988,401,748 | 96,158,104,971 | 830,296,777 | 0.9 | |
| | 歳 出 | 95,526,287,510 | 94,606,986,107 | 919,301,403 | 1.0 | |
| | 差引額 | 1,462,114,238 | 1,551,118,864 | △ 89,004,626 | △ 5.7 | |
| 合 計 | 歳 入 | 263,592,296,740 | 288,311,290,808 | △ 24,718,994,068 | △ 8.6 | |
| | 歳 出 | 257,168,109,802 | 282,592,224,973 | △ 25,424,115,171 | △ 9.0 | |
| | 差 引 額 | 6,424,186,938 | 5,719,065,835 | 705,121,103 | 12.3 | |

(2) 決算収支の状況

一般会計と特別会計を合わせた歳入決算額から歳出決算額を差し引いた形式収支額は6,424,186,938円である。このうち、形式収支額から翌年度へ繰り越すべき財源870,550,097円を差し引いた実質収支額は5,553,636,841円となっている。また、当年度の実質収支額から前年度の実質収支額を差し引いた単年度収支額は595,201,674円の黒字となっている。

一般会計の単年度収支額は691,076,400円の黒字であり、そこに、積立金と繰上償還額を加え、積立金取崩し額を差し引いた実質単年度収支額は2,005,612,017円の黒字となっている。また、基礎的財政収支を示すプライマリーバランス（臨時財政対策債を除く。）は6,042,857,850円の黒字となっている。

特別会計の単年度収支額は、国民健康保険、後期高齢者医療、競輪、介護保険の4会計で赤字であり、特別会計の総額では95,874,726円の赤字となっている。

決 算 収 支 の 状 況

(単位：円)

| 区 分 | 歳 入 歳 出 差 引 額 (形式収支額) A | 翌 年 度 へ 繰 り 越 す べ き 財 源 B | 実 質 収 支 額 C=A-B | 前 年 度 実 質 収 支 額 D | 単 年 度 収 支 額 C-D | |
|------------------|----------------------------------|------------------------------------|--------------------|-------------------------|--------------------|--------------|
| 一 般 会 計 | 4,962,072,700 | 861,122,097 | 4,100,950,603 | 3,409,874,203 | 691,076,400 | |
| 特 別 会 計 | 国民健康保険 | 713,772,453 | 0 | 713,772,453 | 770,556,111 | △ 56,783,658 |
| | 後期高齢者医療 | 7,863,878 | 0 | 7,863,878 | 20,545,807 | △ 12,681,929 |
| | 競 輪 | 251,372,445 | 0 | 251,372,445 | 292,966,317 | △ 41,593,872 |
| | 農 業 集 落 排 水 事 業 | 10,130,000 | 9,130,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 |
| | 介 護 保 険 | 413,066,903 | 0 | 413,066,903 | 416,093,425 | △ 3,026,522 |
| | 母 子 父 子 寡 婦 福 祉 資 金 貸 付 金 | 44,660,669 | 0 | 44,660,669 | 33,769,029 | 10,891,640 |
| | 新 エ ネ ル ギ ー 発 電 事 業 | 14,056,982 | 198,000 | 13,858,982 | 13,630,275 | 228,707 |
| | 用 地 先 行 取 得 事 業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 産 業 立 地 推 進 事 業 | 7,190,908 | 100,000 | 7,090,908 | 0 | 7,090,908 |
| | 小 計 | 1,462,114,238 | 9,428,000 | 1,452,686,238 | 1,548,560,964 | △ 95,874,726 |
| 合 計 | 6,424,186,938 | 870,550,097 | 5,553,636,841 | 4,958,435,167 | 595,201,674 | |

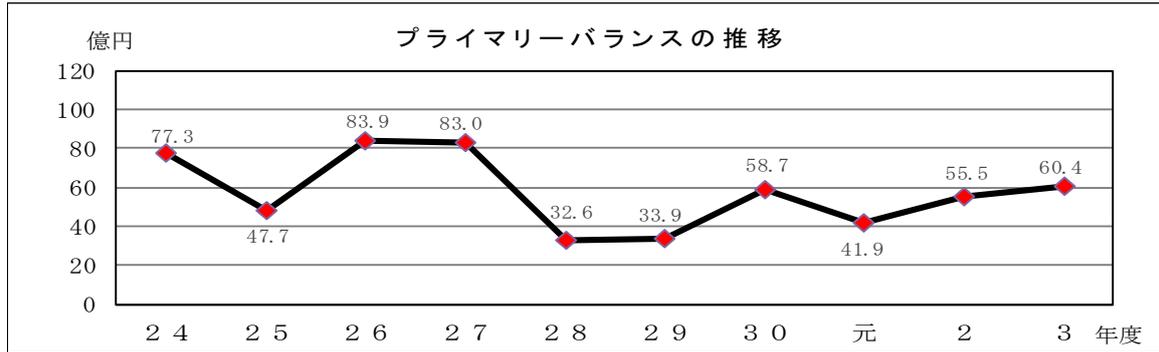
・一般会計の翌年度へ繰り越すべき財源861,122,097円は、繰越明許費繰越額817,790,546円及び事故繰越し繰越額43,331,551円である。

・特別会計の翌年度へ繰り越すべき財源9,428,000円は、繰越明許費繰越額9,230,000円及び事故繰越し繰越額198,000円である。

一般会計の実質単年度収支の状況

(単位：円)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|---------------------------|---------------|-----------------|-----------------|
| 単 年 度 収 支 A | 691,076,400 | 1,316,072,551 | △ 435,119,292 |
| 積 立 金 B | 1,309,562,828 | 1,635,426 | 2,530,801 |
| 繰 上 償 還 金 C | 4,972,789 | 0 | 0 |
| 積 立 金 取 崩 し 額 D | 0 | 2,584,272,000 | 1,505,170,000 |
| 実質単年度収支 (A + B + C - D) E | 2,005,612,017 | △ 1,266,564,023 | △ 1,937,758,491 |



- ・プライマリーバランスは「(歳入総額－市債)－(歳出総額－公債費)」の値である。
- ・算出に当たっては、臨時財政対策債を除いている。

(3) 歳入状況

ア 概 要

一般会計と特別会計を合わせた歳入決算額は263,592,296,740円であり、調定額に対する収入率は99.2%で、前年度を0.1ポイント上回っている。調定額に対する収入率を会計別にみると、一般会計は99.3%で、前年度と同率となっており、特別会計は99.0%で、前年度を0.2ポイント上回っている。

収入済額は、前年度と比較すると24,718,994,068円(8.6%) (一般会計25,549,290,845円(13.3%)の減、特別会計830,296,777円(0.9%)の増)減少している。

収入済額の主なものは、一般会計では、市税53,480,207,666円、国庫支出金36,086,681,423円、市債16,966,600,000円、諸収入15,296,960,282円、特別会計では、国民健康保険特別会計の県支出金23,291,991,083円、競輪特別会計の勝者投票券発売収入23,175,447,500円である。

不納欠損額は、前年度と比較すると45,433,876円(18.9%) (一般会計27,285,323円(23.7%)、特別会計18,148,553円(14.5%))減少し、194,715,080円(一般会計87,714,588円、特別会計107,000,492円)となっている。

収入未済額は、前年度と比較すると351,570,851円(15.4%) (一般会計234,803,453円(18.3%)、特別会計116,767,398円(11.7%))減少し、1,929,603,977円(一般会計1,046,398,373円、特別会計883,205,604円)となっている。

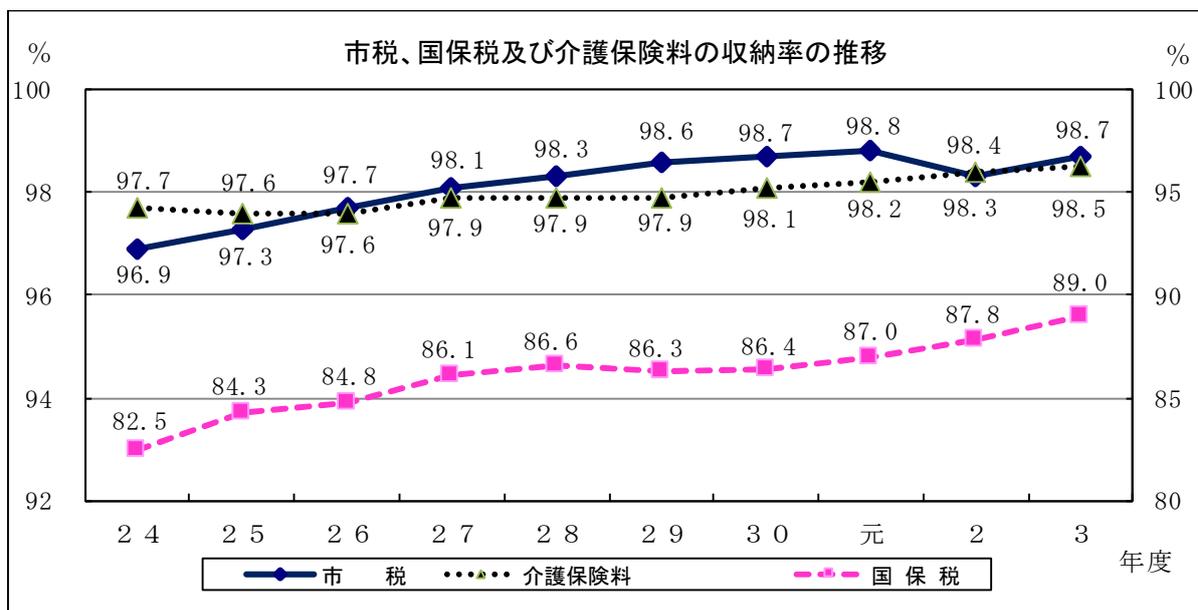
市税の収納率は、前年度を0.4ポイント上回る98.7%となっている。また、国民健康保険税は前年度を1.2ポイント上回る89.0%であり、介護保険料は前年度を0.1ポイント上回る98.5%となっている。

歳入決算の状況

(単位：円・%)

| 区分 | 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収入率 | | |
|-----|------|------------------|------------------|------------------|---------------|---------------|-------|------|
| | | | | | | 対予算 | 対調定 | |
| 3年度 | 一般会計 | 174,574,482,993 | 166,603,894,992 | 87,714,588 | 1,046,398,373 | 95.4 | 99.3 | |
| | 特別会計 | 100,298,502,900 | 97,978,607,844 | 96,988,401,748 | 883,205,604 | 96.7 | 99.0 | |
| | 合計 | 274,872,985,893 | 265,716,615,797 | 263,592,296,740 | 194,715,080 | 1,929,603,977 | 95.9 | 99.2 |
| 2年度 | 一般会計 | 200,708,597,121 | 193,549,387,574 | 114,999,911 | 1,281,201,826 | 95.7 | 99.3 | |
| | 特別会計 | 99,156,309,000 | 97,283,227,018 | 96,158,104,971 | 125,149,045 | 97.0 | 98.8 | |
| | 合計 | 299,864,906,121 | 290,832,614,592 | 288,311,290,808 | 240,148,956 | 2,281,174,828 | 96.1 | 99.1 |
| 増減 | 一般会計 | △ 26,134,114,128 | △ 25,811,379,621 | △ 25,549,290,845 | △ 27,285,323 | △ 234,803,453 | △ 0.3 | 0.0 |
| | 特別会計 | 1,142,193,900 | 695,380,826 | 830,296,777 | △ 18,148,553 | △ 116,767,398 | △ 0.3 | 0.2 |
| | 合計 | △ 24,991,920,228 | △ 25,115,998,795 | △ 24,718,994,068 | △ 45,433,876 | △ 351,570,851 | △ 0.2 | 0.1 |

- ・収入率における対予算は「収入済額÷予算現額」、対調定は「収入済額÷調定額」の値である。
- ・3年度一般会計の予算現額は前年度繰越事業費繰越財源充当額7,537,886,993円を含み、特別会計の予算現額は前年度繰越事業費繰越財源充当額656,487,900円を含む。
- ・2年度一般会計の予算現額は前年度繰越事業費繰越財源充当額6,130,560,121円を含み、特別会計の予算現額は前年度繰越事業費繰越財源充当額7,300,000円を含む。



- ・収納率は「収入済額÷調定額」の値である。
- ・左軸は市税・介護保険料の目盛、右軸は国保税の目盛を示す。

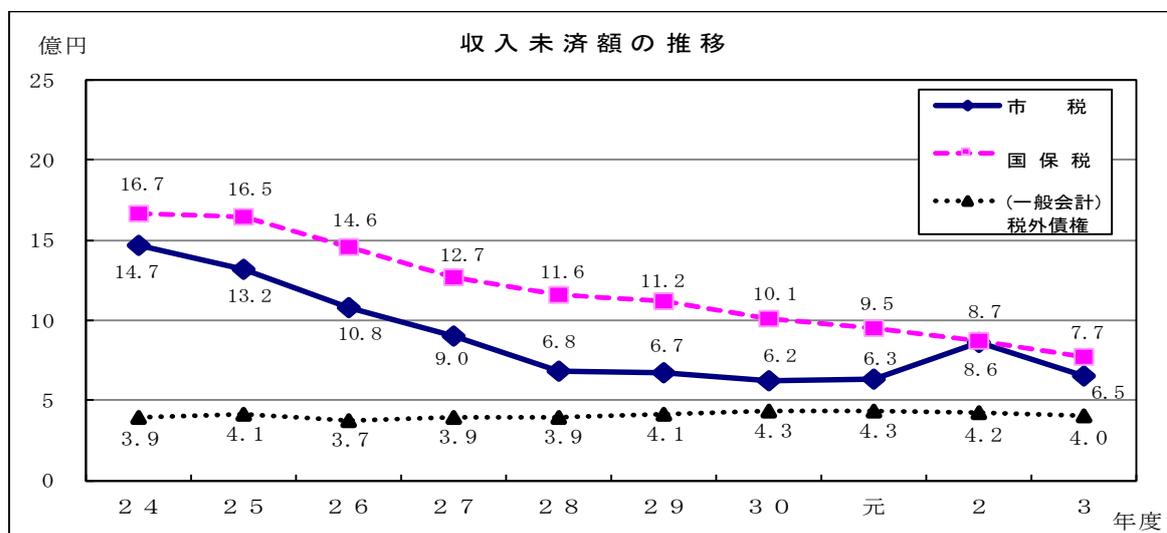
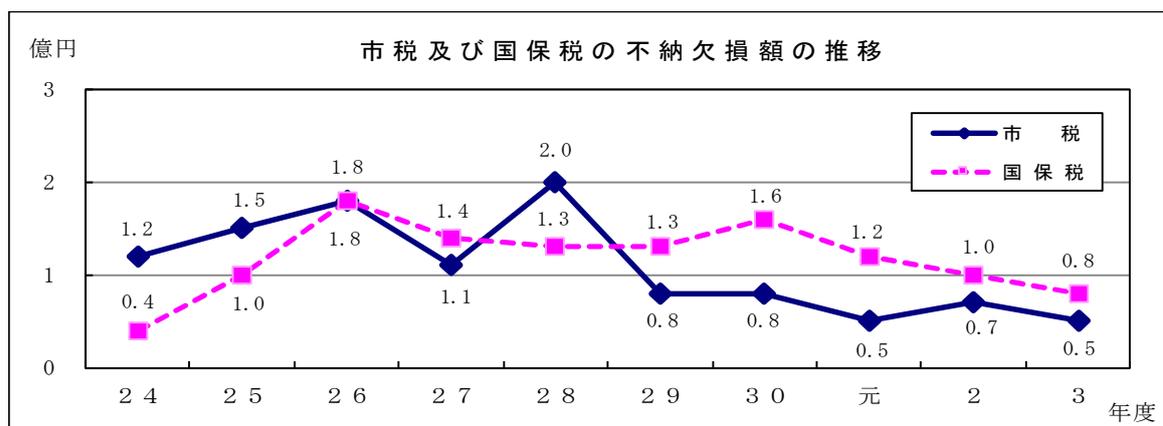
イ 不納欠損額及び収入未済額の状況

不納欠損額の状況を見ると、一般会計のうち市税については、前年度と比較すると25,469,455円(36.1%)減少し45,068,568円となっている。また、特別会計のうち国民健康保険税については、前年度と比較すると12,227,607円(12.7%)減少し83,756,725円となっている。

収入未済額の状況を見ると、一般会計のうち市税については、前年度と比較すると

210,904,003 円 (24.5%)減少し 649,567,051 円となっている。また、税外債権については、前年度と比較すると 23,899,450 円(5.7%)減少し 396,831,322 円となっており、この主なものは、生活保護費返還金 236,049,127 円、住宅新築資金等貸付金元利収入 74,719,810 円、市営住宅使用料 21,659,911 円である。更に、特別会計のうち国民健康保険税については、前年度と比較すると 109,160,035 円 (12.5%) 減少し 765,436,134 円となっている。

なお、不納欠損額と収入未済額の合計額について、調定額に対する割合をみると、市税は前年度を 0.4 ポイント下回る 1.3%となっており、国民健康保険税は前年度を 1.2 ポイント下回る 11.0%となっている。



ウ 市債の状況

一般会計における市債の借入額は 16,966,600,000 円で、15,032,417,972 円を元金償還した結果、未償還残高は前年度と比較すると 1,934,182,028 円 (1.3%) 増の 155,704,635,493 円となっている。なお、未償還残高は臨時財政対策債が増加傾向にある一方、通常債は減少傾向にある。

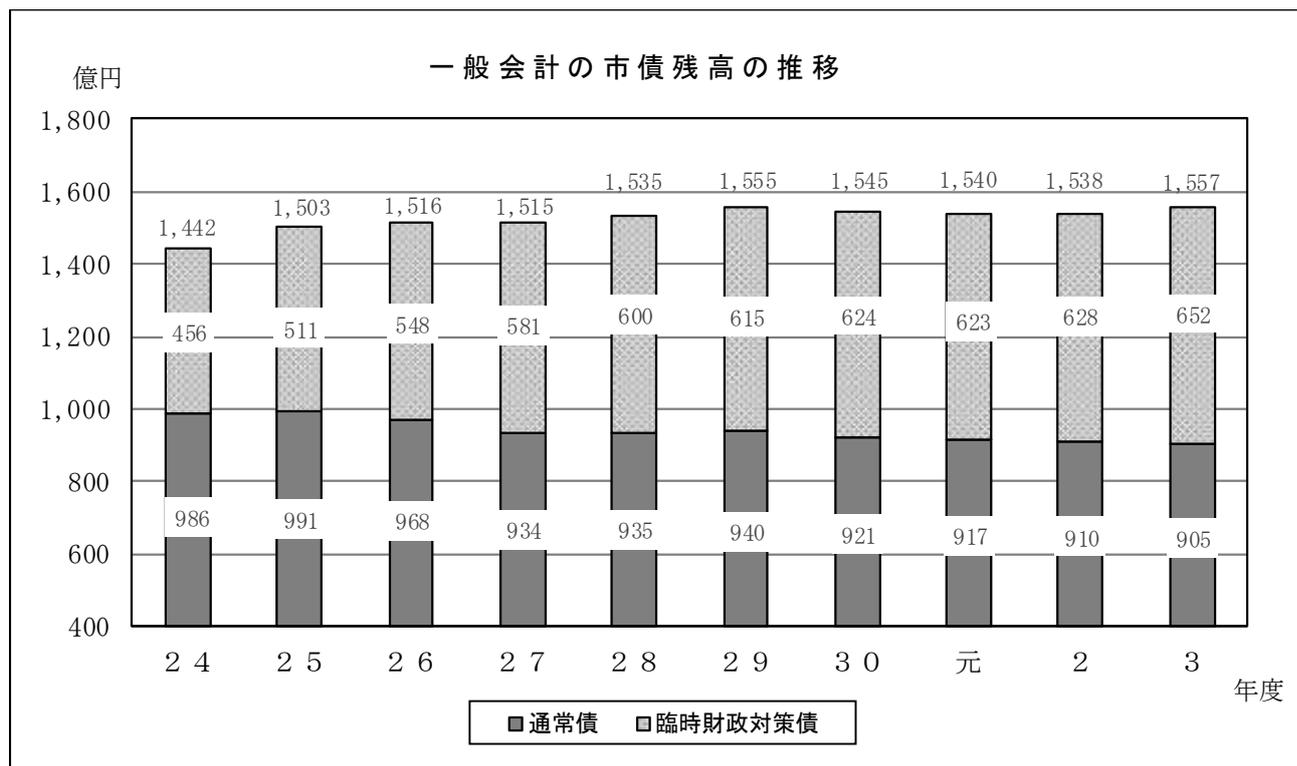
特別会計における市債の借入額は 887,700,000 円で、542,483,098 円を元金償還した結果、未償還残高は前年度と比較すると 345,216,902 円 (6.1%) 増の 6,006,734,174 円となっている。

会 計 別 市 債 現 在 高 の 状 況

(単位：円)

| 区 分 | 2 年 度 末 未 償 還 残 高 A | 3 年 度 借 入 額 B | 3 年 度 元 利 償 還 額 | | | 3 年 度 末 未 償 還 残 高 A+B-C | |
|------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|---------------|
| | | | 元 金 C | 利 子 | 計 | | |
| 一 般 会 計 | 153,770,453,465 (62,792,486,455) | 16,966,600,000 (7,613,300,000) | 15,032,417,972 (5,177,571,064) | 743,820,866 (164,582,624) | 15,776,238,838 (5,342,153,688) | 155,704,635,493 (65,228,215,391) | |
| 特 別 会 計 | 農 業 集 落 排 水 事 業 | 5,103,515,621 | 163,800,000 | 436,878,710 | 91,051,197 | 527,929,907 | 4,830,436,911 |
| | 母 子 父 子 寡 婦 福 祉 資 金 貸 付 金 | 63,696,659 | 0 | 372,722 | — | 372,722 | 63,323,937 |
| | 新 エ ネ ル ギ ー 発 電 事 業 | 379,404,992 | 0 | 22,631,666 | 935,024 | 23,566,690 | 356,773,326 |
| | 産 業 立 地 推 進 事 業 | 114,900,000 | 723,900,000 | 82,600,000 | 882,642 | 83,482,642 | 756,200,000 |
| | 小 計 | 5,661,517,272 | 887,700,000 | 542,483,098 | 92,868,863 | 635,351,961 | 6,006,734,174 |
| 合 計 | 159,431,970,737 | 17,854,300,000 | 15,574,901,070 | 836,689,729 | 16,411,590,799 | 161,711,369,667 | |

- ・「元利償還額」の「利子」には一時借入金利子を含まない。
- ・表中の（ ）は臨時財政対策債に係るもので、内数を記載している。



・単位未満を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

(4) 歳出状況

ア 概要

一般会計と特別会計を合わせた歳出決算額は257,168,109,802円で、その執行率は93.6%であ

り、前年度を0.6ポイント下回っている。これを会計別にみると、一般会計の執行率は前年度を1.1ポイント下回る92.6%であり、特別会計の執行率も前年度を0.2ポイント下回る95.2%である。

支出済額は前年度と比較すると 25,424,115,171 円 (9.0%) (一般会計 26,343,416,574 円 (14.0%) の減、特別会計 919,301,403 円 (1.0%) の増) 減少している。支出済額の主なものは、一般会計では、民生費 63,081,568,206 円、土木費 17,312,306,220 円、総務費 16,743,509,606 円、公債費 15,776,238,838 円であり、特別会計では、介護保険特別会計の保険給付費 29,541,955,950 円、国民健康保険特別会計の保険給付費 22,627,637,966 円、競輪特別会計の払戻返還金 17,331,540,060 円である。

歳 出 決 算 の 状 況

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌 年 度 繰 越 額 | 不 用 額 | 執 行 率 | |
|-------------|---------|------------------|------------------|---------------|----------------|-------|
| 3 年 度 | 一般会計 | 174,574,482,993 | 161,641,822,292 | 7,373,275,802 | 5,559,384,899 | 92.6 |
| | 特別会計 | 100,298,502,900 | 95,526,287,510 | 116,228,000 | 4,655,987,390 | 95.2 |
| | 合 計 | 274,872,985,893 | 257,168,109,802 | 7,489,503,802 | 10,215,372,289 | 93.6 |
| 2 年 度 | 一般会計 | 200,708,597,121 | 187,985,238,866 | 7,537,886,993 | 5,185,471,262 | 93.7 |
| | 特別会計 | 99,156,309,000 | 94,606,986,107 | 656,487,900 | 3,892,834,993 | 95.4 |
| | 合 計 | 299,864,906,121 | 282,592,224,973 | 8,194,374,893 | 9,078,306,255 | 94.2 |
| 増 減 | 一般会計 | △ 26,134,114,128 | △ 26,343,416,574 | △ 164,611,191 | 373,913,637 | △ 1.1 |
| | 特別会計 | 1,142,193,900 | 919,301,403 | △ 540,259,900 | 763,152,397 | △ 0.2 |
| | 合 計 | △ 24,991,920,228 | △ 25,424,115,171 | △ 704,871,091 | 1,137,066,034 | △ 0.6 |

・執行率は「支出済額÷予算現額」の値である。

・3年度一般会計の予算現額は前年度繰越事業費繰越額7,537,886,993円を含み、特別会計の予算現額は前年度繰越事業費繰越額656,487,900円を含む。

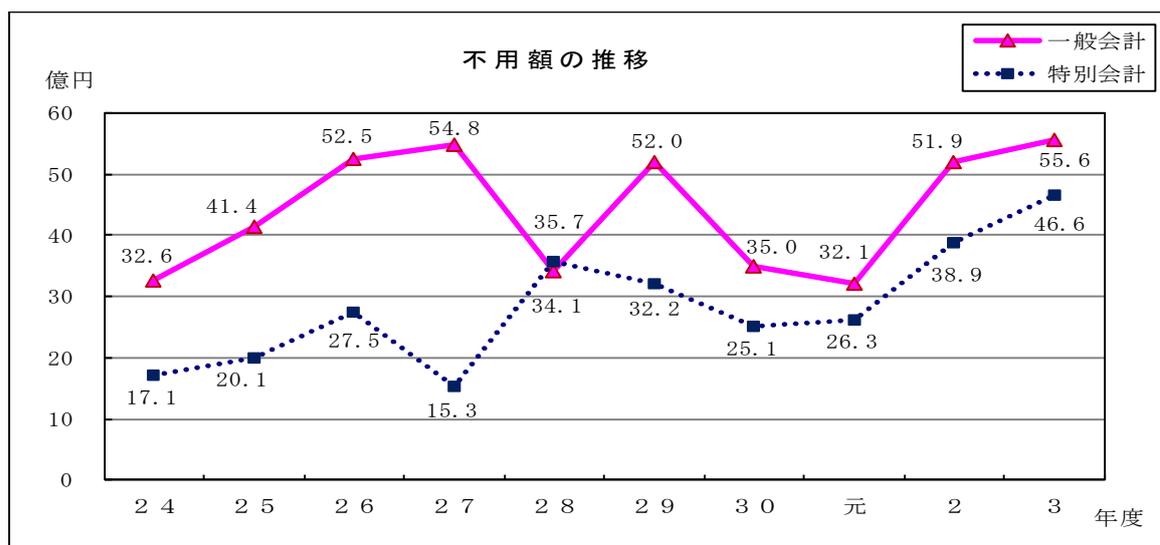
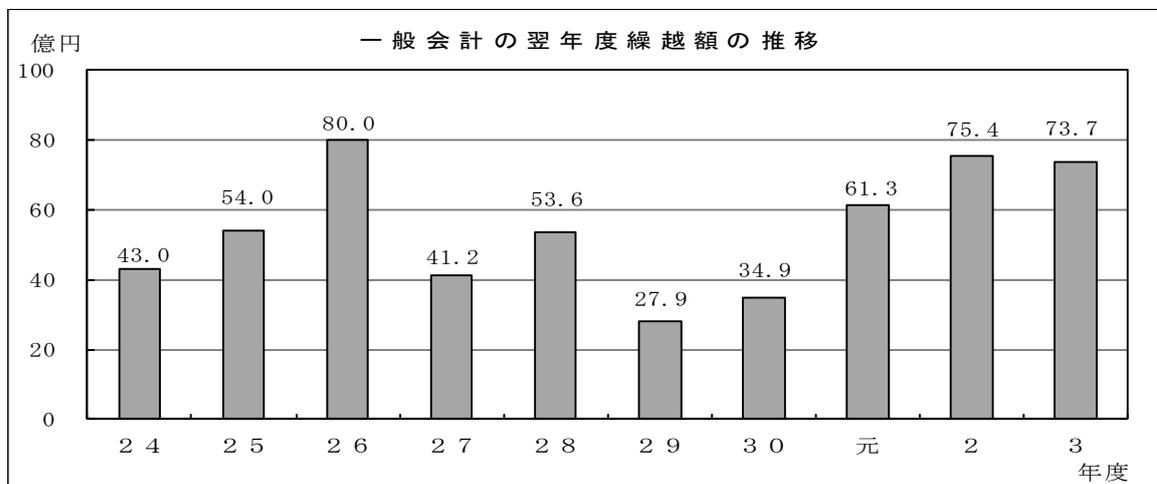
・2年度一般会計の予算現額は前年度繰越事業費繰越額6,130,560,121円を含み、特別会計の予算現額は前年度繰越事業費繰越額7,300,000円を含む。

イ 翌年度繰越額及び不用額の状況

翌年度繰越額(繰越明許費及び事故繰越し)は前年度と比較すると704,871,091円(8.6%) (一般会計164,611,191円(2.2%)、特別会計540,259,900円(82.3%)) 減少し、7,489,503,802円(一般会計7,373,275,802円、特別会計116,228,000円)となっている。この主なものは、一般会計では、土木費3,759,253,233円、教育費2,016,613,000円、総務費659,336,000円、農林水産業費489,119,000円であり、特別会計では、産業立地推進事業特別会計の産業立地推進費106,900,000円、農業集落排水事業特別会計の農業集落排水事業費9,130,000円である。

不用額は前年度と比較すると1,137,066,034円(12.5%) (一般会計373,913,637円(7.2%)、特別会計763,152,397円(19.6%)) 増加し、10,215,372,289円(一般会計5,559,384,899円、特別会計4,655,987,390円)となっている。この主なものは、一般会計では、民生費1,477,954,225

円、商工費1,373,877,455円、教育費818,433,411円、衛生費590,054,170円であり、特別会計では、競輪特別会計の払戻返還金2,090,459,940円、介護保険特別会計の保険給付費748,075,050円、競輪特別会計の競輪費654,815,535円である。



(5) 普通会計決算の状況

普通会計は、地方公共団体の財政状況を統一的な基準で比較するための財政統計上の会計である。本市の普通会計は、一般会計に母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計及び用地先行取得事業特別会計を加え、民生費の介護サービス事業（介護サービス勘定）等に係る歳入歳出を控除したものである。

当年度の普通会計の歳入決算額は166,462,110千円、歳出決算額は161,455,377千円で、歳入歳出差引額は5,006,733千円となっている。歳入歳出差引額から、翌年度へ繰り越すべき財源861,122千円を差し引いた実質収支額は4,145,611千円の黒字であり、当年度の実質収支額から前年度実質収支額を差し引いた単年度収支額は701,968千円の黒字となっている。また、単年度収

支額に積立金と繰上償還金を加え、積立金取崩し額を差し引いた実質単年度収支額は2,016,504千円の黒字となっている。

普通会計決算収支の状況

(単位：千円)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|----------------------|-------------|-------------|-------------|
| 歳 入 総 額 A | 166,462,110 | 192,015,382 | 141,967,660 |
| 歳 出 総 額 B | 161,455,377 | 187,813,666 | 138,933,088 |
| 歳入歳出差引額 (A - B) C | 5,006,733 | 4,201,716 | 3,034,572 |
| 翌年度へ繰り越すべき財源 D | 861,122 | 758,073 | 912,544 |
| 実質収支額 (C - D) E | 4,145,611 | 3,443,643 | 2,122,028 |
| 単 年 度 収 支 額 F | 701,968 | 1,321,615 | △ 430,265 |
| 積 立 金 G | 1,309,563 | 1,635 | 2,530 |
| 繰 上 償 還 金 H | 4,973 | 0 | 0 |
| 積立金取崩し額 I | 0 | 2,584,272 | 1,505,170 |
| 実質単年度収支額 (F+G+H-I) J | 2,016,504 | △ 1,261,022 | △ 1,932,905 |

(6) 財政分析指標の状況

普通会計決算における主な財政分析指標の状況をみると、次のとおりである。

ア 経常一般財源比率

経常一般財源比率は、収入の安定性と財政上の自律性を推測するもので、経常一般財源の標準財政規模に対する比率である。この比率が100%を超える度合いが高いほど経常一般財源に余裕があることを示すものである。当該比率は96.6%で、前年度を2.5ポイント上回っている。

経 常 一 般 財 源 比 率

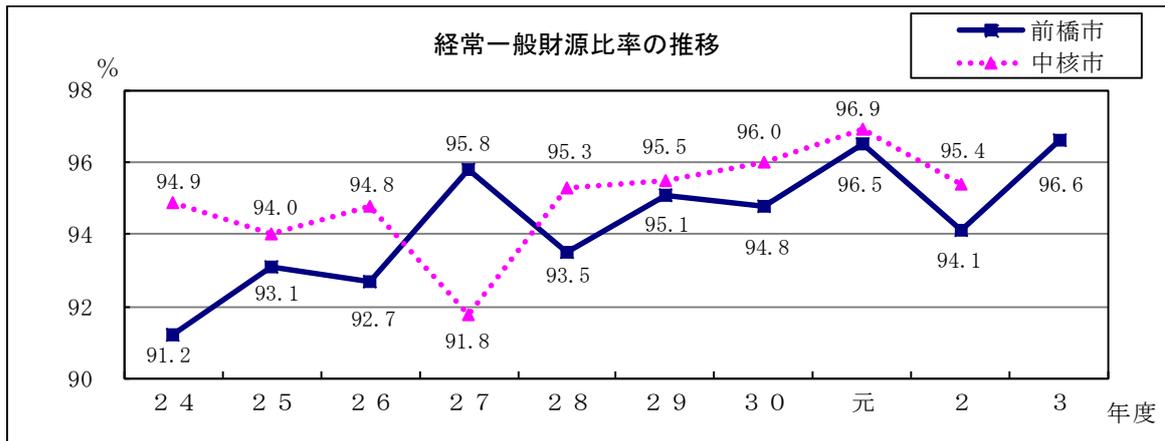
(単位：千円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|-----------------|------------|------------|------------|
| 経 常 一 般 財 源 | 77,895,842 | 72,883,846 | 73,201,039 |
| 標 準 財 政 規 模 | 80,615,926 | 77,436,219 | 75,828,522 |
| 経 常 一 般 財 源 比 率 | 96.6 | 94.1 | 96.5 |
| 中 核 市 平 均 値 | — | 95.4 | 96.9 |

(参考) 算式

$$\text{経常一般財源比率} = \frac{\text{経常一般財源}}{\text{標準財政規模}} \times 100$$

- ・ 経常一般財源は、臨時財政対策債発行額を除く。
- ・ 標準財政規模は、臨時財政対策債発行可能額を含む。



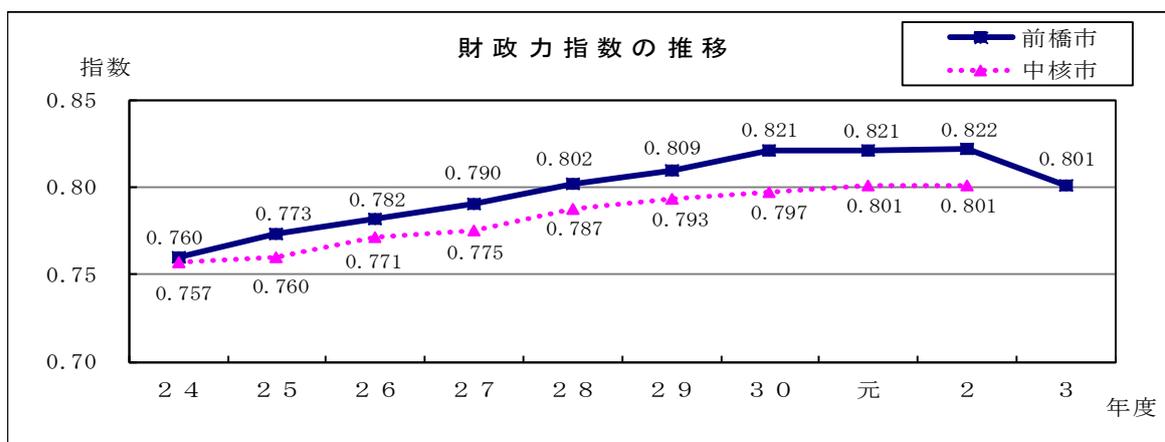
イ 財政力指数

財政力指数は、地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3か年間の平均値である。この数値が高い自治体ほど財政力が強い団体であり、財政力指数が「1」を超える自治体は普通交付税の不交付団体となる。当該指数は0.801で、前年度を0.021ポイント下回っている。

(単位: 千円)

| 区分 | 3年度 | 2年度 | 元年度 |
|------------|-------------|--------------|--------------|
| 基準財政需要額 | 60,177,484 | 58,529,353 | 56,766,336 |
| 基準財政収入額 | 46,333,139 | 47,961,446 | 46,213,733 |
| 財政力指数 | 0.801 | 0.822 | 0.821 |
| (単年度財政力指数) | (3年度 0.770) | (2年度 0.819) | (元年度 0.814) |
| | (2年度 0.819) | (元年度 0.814) | (30年度 0.833) |
| | (元年度 0.814) | (30年度 0.833) | (29年度 0.817) |
| 中核市平均値 | — | 0.801 | 0.801 |

(参考) 算式 $\left[\text{単年度財政力指数} = \frac{\text{基準財政収入額}}{\text{基準財政需要額}} \right]$ の最近3か年度の平均値



ウ 経常収支比率

経常収支比率は、財政構造の弾力性を判断する指標で、経常的経費に充当された一般財源の額

が、経常一般財源収入額（臨時財政対策債を含む。）に占める割合である。この比率が高いほど経常余剰財源が少なく、財政の硬直化が進んでいるといえる。都市にあっては80%を超える場合には、その財政構造は、弾力性を失いつつあると考えられている。

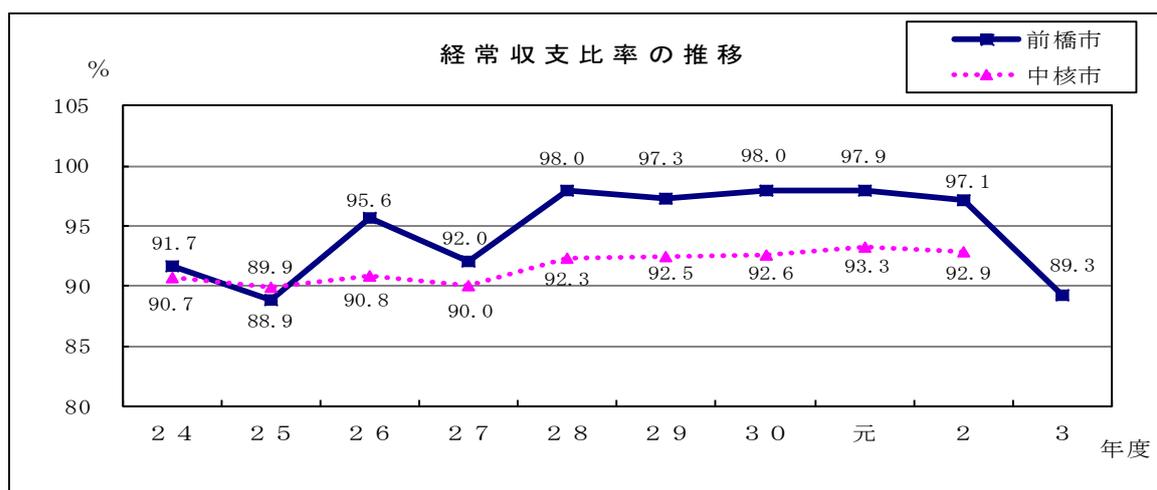
当該比率は89.3%で、前年度を7.8ポイント下回っている。

(単位：千円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|------------|------------|------------|------------|
| 経常経費充当一般財源 | 76,396,902 | 76,006,347 | 76,115,167 |
| 経常一般財源 | 77,895,842 | 72,883,846 | 73,201,039 |
| 臨時財政対策債 | 7,613,300 | 5,393,000 | 4,553,600 |
| 経常収支比率 | 89.3 | 97.1 | 97.9 |
| 中核市平均値 | — | 92.9 | 93.3 |

(参考) 算式

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費充当一般財源 (経常的経費 - 経常特定財源)}}{\text{経常一般財源 + 臨時財政対策債}} \times 100$$



(7) 財産状況

ア 公有財産

公有財産のうち、行政財産及び普通財産を合わせた当年度末現在における土地の面積は9,270,316.31㎡で、当年度中において54,491.06㎡(0.6%)増加している。また、行政財産及び普通財産を合わせた当年度末現在における建物の面積は1,419,855.98㎡で、当年度中において6,410.24㎡(0.4%)減少している。

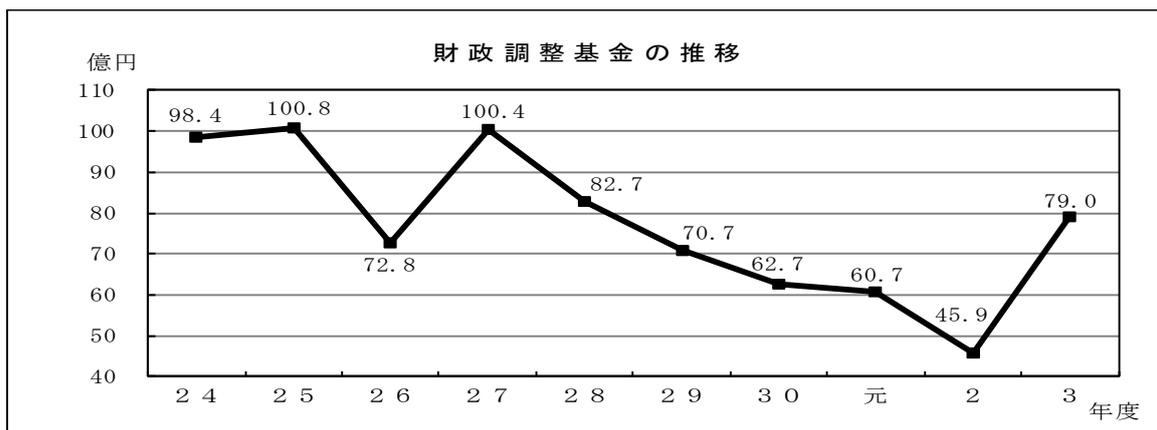
イ 基金

積立基金の当年度末現在高は20,850,453,907円で、当年度中において6,653,816,690円(46.9%)増加している。このうち、財政調整基金は3,309,562,828円を積み立て、取崩しを行わなかった結果、当年度末現在高は7,895,389,872円となっている。

積立基金の状況

(単位：円)

| 区 分 | | 3年度末現在高 | 2年度末現在高 | 元年度末現在高 |
|------|---------------|----------------|----------------|----------------|
| 積立基金 | | 20,850,453,907 | 14,196,637,217 | 15,378,360,226 |
| 主な基金 | 財政調整基金 | 7,895,389,872 | 4,585,827,044 | 6,068,463,618 |
| | 減債基金 | 2,088,482,647 | 2,429,050 | 2,428,510 |
| | 公共施設等 整備基金 | 1,382,158,073 | 805,962,662 | 863,639,627 |



(8) 審査意見

ア 一般会計

(7) 決算概要について

一般会計の決算状況をみると、歳入面では、収入率は予算現額に対して95.4%で、調定額に対しては99.3%であり、歳出面では、予算現額に対する執行率は92.6%で、前年度を1.1ポイント下回った。実質収支額は約41億95万円の黒字であり、前年度実質収支額を差し引いた単年度収支額も約6億9,108万円の黒字となった。また、実質単年度収支額は、財政調整基金の取崩しを行わなかったことなどから、約20億561万円の黒字に転じた。

更に、プライマリーバランス（臨時財政対策債を除く。）は約60億4,286万円の黒字となり、市債以外の歳入で債務返済以外の歳出を賄っている状態であり、前年度と比較すると約4億9,350万円増加している。

(イ) 収入未済額の圧縮について

歳入の状況をみると、歳入の根幹である市税収入については、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策における税制上の措置による固定資産税の減少等により、市税全体では前年度と比較すると約1億381万円の減少となった。市税の収入未済対策として、臨戸訪問や市税コールセンターによる電話催告はもとより、法令に基づく滞納処分の強化などを実施した結果、収入未済額は前年度と比較すると約2億1,090万円減少し約6億4,957万円になるとともに、収納率は前年度を0.4ポイント上回る98.7%となった。引き続き、きめ細かい納税相談の実施など、コロナ禍における滞納者の経済状況を考慮しつつ、自主財源の確保や市民負担の公平性の観点から、収入未

済額の圧縮に努められたい。

税外債権の収入未済額は約3億9,683万円で、前年度と比較して約2,390万円減少しているが、債権管理主管課においては、適宜の催告や、その状況を記録した台帳の整備などの適正な債権管理を行うとともに、収納課においては、税外債権担当者を対象とした研修会の開催など、既に各種の業務支援を行っているが、今後も債権管理主管課への支援に努められたい。

(ウ) 市債未償還残高の縮減について

市債については、借入額が元金償還額を上回ったことから、未償還残高は前年度と比較して約19億3,418万円増加し約1,557億464万円となった。しかし、後年度に全額が交付税措置される臨時財政対策債以外の通常債は、前年度と比較して約5億155万円減少している。今後の通常債の借り入れに当たっては、借入額を元金償還額以内に抑えることによる未償還残高の縮減や、元利償還金に交付税措置のある起債メニューの活用を進めるほか、地方交付税措置された臨時財政対策債の一部の償還経費分を積み立てた減債基金を適切に活用することなどにより、後年度の財政負担の軽減に努められたい。

(エ) 歳出予算の効率的執行について

歳出予算における翌年度繰越額は、前年度と比較して約1億6,461万円減少し約73億7,328万円となったが、コロナ禍前の令和元年度と比較すると約12億4,272万円(20.3%)増加している。また、不用額は、前年度と比較して約3億7,391万円増加し約55億5,938万円となり、更に、令和元年度と比較すると約23億5,124万円(73.3%)増加している。これらは主に、新型コロナウイルス感染症の影響により事業が予定どおり進捗しなかったことや、当年度において、中小企業者向けの特別融資の利用者が見込みよりも少なかったために約8億9,757万円の不用額が生じたことなどによるものである。新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないなど、社会経済情勢の先行きが不透明な状況ではあるが、事業の進行管理を徹底するほか、的確に予算の補正を行うなど、予算の計画的かつ効率的な執行に努められたい。

(オ) 財政分析指標について

普通会計における財政分析指標のうち、財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、前年度と比較して7.8ポイント下回る89.3%となり改善している。これは、地方交付税として追加交付された臨時財政対策債の償還に要する経費分約20億8,605万円を減債基金に積み立てたことが主な要因であるが、当該追加交付は臨時的なものであり、今後の数値の改善を担保するものではない。このため、収入未済額の圧縮等による財源確保や、事業の効果を分析し、効果の薄い事業を統廃合するなどの経費削減に取り組むとともに、新規事業はスクラップアンドビルドの考え方や、将来生じる経常経費も十分に考慮して実施を判断するなど、当該比率が継続的に改善されるよう努められたい。

(カ) 財産の運用について

公有財産のうち、利活用されていない普通財産については、市民の利便等につながる利活用方法を再検討し、利活用が見込めない財産は、売却や貸付等の活用による財源確保に努められたい。

また、基金のうち財政調整基金の残高は、平成28年度以降減少傾向にあったが、当年度は前年度と比較して約33億956万円増加し約78億9,539万円となった。同基金の残高水準は、標準

財政規模の10%以上を一つの目安と考えているとのことであるが、当年度の残高は、標準財政規模が約806億1,592万円であり、ほぼこの目安の水準となっている。財政調整基金は、災害等の不測の事態などに備えるためのものであり、財政運営に当たっては重要な財源であるため、同基金の目安水準の維持に努められたい。

イ 特別会計

(ア) 決算概要について

特別会計全体の決算状況をみると、歳入面では、収入率は予算現額に対して96.7%で、調定額に対しては99.0%であり、歳出面では、予算現額に対する執行率は95.2%で前年度を0.2ポイント下回った。また、実質収支額は約14億5,269万円の黒字となり、前年度実質収支額を差し引いた単年度収支額は約9,587万円の赤字となった。

(イ) 国民健康保険特別会計について

国民健康保険税については、徴収を担当する収納課において、臨戸訪問や市税コールセンター等による催告に加え、法令に基づく滞納処分を実施したほか、国民健康保険課と連携した納税相談の機会の確保などにより自主納付を促進した結果、収納率は過去最高であった前年度の87.8%を1.2ポイント上回る89.0%となった。収入未済額においても前年度と比較して約1億916万円減少の約7億6,544万円となった。事業運営の安定化や被保険者負担の公平性確保の観点から、引き続きコロナ禍における滞納者の経済状況を考慮しつつ、収入未済額の一層の圧縮に取り組まれたい。

保険給付費については、コロナ禍における受診控え等の影響もあった前年度と比較して約7億9,118万円増加の約226億2,764万円となった。国民健康保険課においては、引き続きジェネリック医薬品の使用促進やレセプト点検を強化するとともに、特定健康診査や特定保健指導の実施率向上に取り組み、医療費の適正化に努められたい。

(ロ) 後期高齢者医療特別会計について

後期高齢者医療保険料の未収金対策として、引き続き督促状発送や電話催告のほか、滞納処分等を行った結果、収納率は前年度より0.1ポイント上回る99.8%となり、収入未済額は前年度と比較して約82万円減少し約511万円となった。今後も事業運営の安定化や被保険者負担の公平性確保の観点から、引き続きコロナ禍における滞納者の経済状況を考慮しつつ、個別案件に応じた効果的な対策を講じ、収入未済額の一層の圧縮に努められたい。

(ハ) 競輪特別会計について

当年度も、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による競輪の開催中止や無観客開催期間等があったため、勝者投票券発売収入額は、前年度と比較して約2億9,510万円の減少となったが、前年度と同額の3億円を一般会計に繰り出した。当年度には、前橋本場及び館林場外車券売場の特別観覧席をリニューアルするとともに、キャッシュレス投票用ICカード「マエカ」や、同カードの会員を対象としたスマートフォン投票サービスを導入した。今後も開催事業の委託事業者と連携し、時代やニーズの変化に合わせたサービスの導入など、質の高いファンサービスに取り組み、収益事業としての使命を果たされたい。

また、グリーンドーム前橋等整備基金を適切に活用しながら施設の設備更新を計画的に進める

など、場外車券売場等を含めた各施設の適正な維持管理を行い、来場者が安全かつ快適に施設を利用できるよう努められたい。

(カ) 農業集落排水事業特別会計について

農業集落排水事業については、引き続き使用料の収入未済額の圧縮や、接続率の向上による収益の確保に努められたい。また、中長期的な経営の基本計画である農業集落排水事業の経営戦略（令和3年度～12年度）に位置付けた汚水処理の広域化・共同化など、事業の一層の効率化につながる各種施策に取り組むとともに、同戦略の達成状況を検証し、着実に計画を進められたい。

現在、令和5年度からの公営企業会計の適用に向けて準備を進めているところであるが、損益等の状態や資産の現状をよりの確に把握し、経営基盤の強化や財政マネジメントの向上に努められたい。

(カ) 介護保険特別会計について

介護保険料の未収金対策として、引き続き収納嘱託員による初期滞納者の納付意識向上につながる取り組みや、収納課との連携による徴収業務の強化などを実施した結果、収入未済額が前年度と比較して約458万円減少し約8,168万円となるとともに、収納率は98.5%となり、直近の10年間では最高の数値となった。しかし、収入未済額は滞納繰越分を中心に多額であり、事業運営の安定化や被保険者負担の公平性確保の観点から、引き続きコロナ禍における滞納者の経済状況を考慮しつつ、収入未済額の一層の圧縮に努められたい。

当年度の保険給付費は、前年度と比較して約5億309万円増加し約295億4,196万円となった。保険給付においては、要介護認定の全件点検、専門職による全事業所に対するケアプラン点検及び継続的な縦覧点検等を実施し、給付の適正化に努めているが、介護保険サービス利用者数の増加等に伴い保険給付費の増加も続くものと想定されることから、保険給付の一層の適正化に取り組まれたい。

また、当年度からスタートした第8期スマイルプラン（令和3年度～5年度）については、実施事業の結果を適切に評価・点検し、その結果に基づいた見直し等を行い、同プランに位置付けられた各種施策が着実に実施されるよう努められたい。

(キ) 母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計について

貸付事業収入の未収金対策については、前年度同様、継続的な電話、通知、訪問による催告を行ったほか、当年度からは未納期間が1か月程度の未納者にアプローチすることにより、強い返済の意識付けと納付の習慣化が図られるよう努めた。この結果、収入未済額は前年度と比較して約168万円減少し約1,529万円となった。貸付金制度の健全な運営の観点から、引き続き効果的な未収金対策を講じられたい。

また、貸付実績が減少していることから、制度の効果的な周知を行い、制度が有効に活用されるよう図られたい。

(ク) 新エネルギー発電事業特別会計について

当年度の売電収入は、天候の影響等により前年度と比較して約460万円減少し約1億4,010万円となった。また、一般会計への繰り出しは、売電収入の減少等から前年度と比較して約610万円減少し約3,875万円となった。安定した売電収入が得られるように、施設の定期的な点検及び

計画的な修繕等に取り組むなど適切な施設管理に努めるとともに、事業収益については、引き続き環境に関する施策などの財源として有効に活用されたい。

(ケ) 用地先行取得事業特別会計について

当年度も新たな先行取得は行われなかった。

(ク) 産業立地推進事業特別会計について

ローズタウン住宅団地の未分譲地の一部について、住宅用地として土地の売却等を行ったため、財産収入が前年度と比較して約1億1,888万円増加した。住宅団地用地については、住宅新築の需要や住民の利便性向上に応えるためにも、引き続き未分譲地の早期売却に努められたい。

また、西善中内産業用地については、当年度中に2期に分け立地企業の公募を行い第1期分は優先交渉権者を決定し、令和4年度に第2期分も優先交渉権者を決定することができた。こうしたことから、今後の産業団地の開発に当たっても、西善中内産業用地と同様に確実な売却につながるよう各種調査を行うなど、より慎重に事業を進められたい。

ウ むすび

当年度は、第七次総合計画（平成30年度～令和9年度）における第2期推進計画（令和3年度～6年度）の初年度として、計画に位置付けた各種施策を推進するとともに、行財政改革推進計画（令和元年度～9年度）に基づき、前橋テルサや市有温泉施設への民間活力の導入検討などを進めた。また、新型コロナウイルス感染症対策について、市民等へのワクチン接種を推進したほか、子育て世帯への臨時特別給付金の支給や、売上高が減少した中小企業等への特別融資など、市民や市内事業者を支援する各種事業を実施した。

このような状況における当年度の決算状況は、一般会計の実質単年度収支が6年ぶりに黒字になり、財政調整基金の残高も6年ぶりに増加したほか、経常収支比率が改善するなど、財政状況はおおむね好転している。これは、地方交付税が前年度と比較して約32億736万円増加したことに起因しており、この増加額には、当年度限りの措置である臨時財政対策債の償還に要する経費分約20億8,605万円等を含んでいることに留意する必要がある。更に、コロナ禍が続く中において、ロシアのウクライナ侵攻や外国為替市場における円安ドル高傾向の継続等により燃料費や物価が高騰しており、市民生活や企業活動の停滞による市税収入等への影響が懸念される所である。加えて、高齢化に伴う社会保障費等の増加が続くなど、財政分析指標の更なる改善や、改善した指標の維持は容易ではないものとする。

このため、事務事業に係る行政評価や点検などの実施を通じ、一層の財源確保や経費削減を進めるとともに、既存事業の見直しを行い、その中で、喫緊に取り組む事業を明確化し、そこに効果的に予算を配分するなど、メリハリのある財政運営に努められたい。

一 般 会 計

2 一般会計

一般会計の歳入決算額は166,603,894,992円、歳出決算額は161,641,822,292円で、歳入歳出差引額は4,962,072,700円となっている。

歳入歳出差引額から、翌年度へ繰り越すべき財源861,122,097円（繰越明許費繰越額817,790,546円、事故繰越し繰越額43,331,551円）を差し引いた実質収支額は4,100,950,603円で、前年度と比較すると691,076,400円（20.3%）の増加となっている。

実質収支額（剰余金）については、地方財政法第7条及び財政調整基金条例第2条の規定に基づき、令和4年度に2,600,000,000円を財政調整基金に積み立て、差引額1,500,950,603円は、翌年度繰越額として繰越明許費繰越額及び事故繰越し繰越額とともに繰り越されている。

実質収支額4,100,950,603円から、前年度実質収支額3,409,874,203円を差し引いた単年度収支額は691,076,400円の黒字で、前年度と比較すると624,996,151円減少している。

一般会計決算収支の状況

（単位：円・%）

| 区分 | 3年度 | 2年度 | 対前年度比較 | |
|----------------|-----------------|-----------------|------------------|--------|
| | | | 増減額 | 増減比率 |
| 1 歳入総額 | 166,603,894,992 | 192,153,185,837 | △ 25,549,290,845 | △ 13.3 |
| 2 歳出総額 | 161,641,822,292 | 187,985,238,866 | △ 26,343,416,574 | △ 14.0 |
| 3 歳入歳出差引額（1－2） | 4,962,072,700 | 4,167,946,971 | 794,125,729 | 19.1 |
| 4 翌年度へ繰り越すべき財源 | 861,122,097 | 758,072,768 | 103,049,329 | 13.6 |
| （1）継続費通次繰越額 | — | — | — | — |
| （2）繰越明許費繰越額 | 817,790,546 | 752,390,218 | 65,400,328 | 8.7 |
| （3）事故繰越し繰越額 | 43,331,551 | 5,682,550 | 37,649,001 | 662.5 |
| 5 実質収支額（3－4） | 4,100,950,603 | 3,409,874,203 | 691,076,400 | 20.3 |
| （1）基金繰入額 | 2,600,000,000 | 2,000,000,000 | 600,000,000 | 30 |
| （2）翌年度繰越額 | 1,500,950,603 | 1,409,874,203 | 91,076,400 | 6.5 |
| 6 前年度実質収支額 | 3,409,874,203 | 2,093,801,652 | 1,316,072,551 | 62.9 |
| 7 単年度収支額（5－6） | 691,076,400 | 1,316,072,551 | △ 624,996,151 | △ 47.5 |

(1) 歳 入

歳入決算額は 166,603,894,992 円、予算現額 174,574,482,993 円に対する収入率は 95.4%で、調定額 167,738,007,953 円に対する収入率は 99.3%である。

歳入決算額を前年度と比較すると 25,549,290,845 円（13.3%）の減少となっている。

歳入の構成比率で最も高いものは、市税の 32.1%であり、次いで国庫支出金 21.7%、市債 10.2%、諸収入 9.2%、地方交付税 8.9%、県支出金 6.3%となっている。

歳入決算額を前年度と比較すると、増加した主なものは、地方交付税 3,207,356,000 円(27.5%)、市債 2,765,500,000 円（19.5%）、地方消費税交付金 680,250,000 円（8.8%）、地方特例交付金 643,353,000 円(161.2%)であり、減少した主なものは、国庫支出金 27,326,175,632 円(43.1%)、諸収入 4,768,623,400 円(23.8%)、繰入金 2,293,525,771 円(71.5%)、市税 103,806,860 円(0.2%)である。

自主財源と依存財源の状況をみると、自主財源の総額は 75,928,516,908 円で、前年度と比較すると 6,348,769,051 円（7.7%）の減少となっている。

一方、依存財源の総額は 90,675,378,084 円で、前年度と比較すると 19,200,521,794 円(17.5%)の減少となっている。

財源別の構成比率は、自主財源が 45.6%で前年度を 2.8 ポイント上回り、依存財源が 54.4%で前年度を 2.8 ポイント下回っている。

款 別 歳 入 の 構 成

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 対 前 年 度 比 較 | |
|----------------------------|-----------------|-------|-----------------|-------|------------------|--------|
| | 収 入 済 額 | 構 成 率 | 収 入 済 額 | 構 成 率 | 増 減 額 | 増 減 率 |
| 1 市 税 | 53,480,207,666 | 32.1 | 53,584,014,526 | 27.9 | △ 103,806,860 | △ 0.2 |
| 2 地 方 譲 与 税 | 1,301,693,004 | 0.8 | 1,280,672,004 | 0.7 | 21,021,000 | 1.6 |
| 3 利 子 割 交 付 金 | 36,695,000 | 0.0 | 44,734,000 | 0.0 | △ 8,039,000 | △ 18.0 |
| 4 配 当 割 交 付 金 | 297,072,000 | 0.2 | 192,089,000 | 0.1 | 104,983,000 | 54.7 |
| 5 株 式 等 譲 渡 所 得 割 交 付 金 | 328,952,000 | 0.2 | 233,763,000 | 0.1 | 95,189,000 | 40.7 |
| 6 法 人 事 業 税 金 交 付 金 | 701,413,000 | 0.4 | 354,258,000 | 0.2 | 347,155,000 | 98.0 |
| 7 地 方 消 費 税 金 交 付 金 | 8,377,902,000 | 5.0 | 7,697,652,000 | 4.0 | 680,250,000 | 8.8 |
| 8 ゴ ル フ 場 利 用 金 税 交 付 金 | 20,589,478 | 0.0 | 17,573,121 | 0.0 | 3,016,357 | 17.2 |
| 9 環 境 性 能 割 金 交 付 金 | 137,705,000 | 0.1 | 118,278,000 | 0.1 | 19,427,000 | 16.4 |
| 10 地 方 特 例 金 交 付 金 | 1,042,455,000 | 0.6 | 399,102,000 | 0.2 | 643,353,000 | 161.2 |
| 11 地 方 交 付 税 | 14,862,698,000 | 8.9 | 11,655,342,000 | 6.1 | 3,207,356,000 | 27.5 |
| 12 交 通 安 全 対 策 金 特 別 交 付 金 | 84,248,000 | 0.1 | 87,347,000 | 0.0 | △ 3,099,000 | △ 3.5 |
| 13 分 担 金 及 び 負 担 金 | 70,788,163 | 0.0 | 72,721,460 | 0.0 | △ 1,933,297 | △ 2.7 |
| 14 使 用 料 及 び 手 数 料 | 3,010,603,637 | 1.8 | 2,853,590,583 | 1.5 | 157,013,054 | 5.5 |
| 15 国 庫 支 出 金 | 36,086,681,423 | 21.7 | 63,412,857,055 | 33.0 | △ 27,326,175,632 | △ 43.1 |
| 16 県 支 出 金 | 10,430,674,179 | 6.3 | 10,181,132,698 | 5.3 | 249,541,481 | 2.5 |
| 17 財 産 収 入 | 373,561,412 | 0.2 | 324,396,993 | 0.2 | 49,164,419 | 15.2 |
| 18 寄 附 金 | 616,367,640 | 0.4 | 265,026,610 | 0.1 | 351,341,030 | 132.6 |
| 19 繰 入 金 | 912,081,137 | 0.5 | 3,205,606,908 | 1.7 | △ 2,293,525,771 | △ 71.5 |
| 20 繰 越 金 | 2,167,946,971 | 1.3 | 1,906,345,197 | 1.0 | 261,601,774 | 13.7 |
| 21 諸 収 入 | 15,296,960,282 | 9.2 | 20,065,583,682 | 10.4 | △ 4,768,623,400 | △ 23.8 |
| 22 市 債 | 16,966,600,000 | 10.2 | 14,201,100,000 | 7.4 | 2,765,500,000 | 19.5 |
| 合 計 | 166,603,894,992 | 100 | 192,153,185,837 | 100 | △ 25,549,290,845 | △ 13.3 |

自 主 財 源 と 依 存 財 源 の 状 況

(単位：円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 対 前 年 度 比 較 | |
|---------|-----------------|-------|-----------------|-------|------------------|--------|
| | 収 入 済 額 | 構 成 率 | 収 入 済 額 | 構 成 率 | 増 減 額 | 増 減 率 |
| 自 主 財 源 | 75,928,516,908 | 45.6 | 82,277,285,959 | 42.8 | △ 6,348,769,051 | △ 7.7 |
| 依 存 財 源 | 90,675,378,084 | 54.4 | 109,875,899,878 | 57.2 | △ 19,200,521,794 | △ 17.5 |
| 合 計 | 166,603,894,992 | 100 | 192,153,185,837 | 100 | △ 25,549,290,845 | △ 13.3 |

・「自主財源」とは、市が自主的に収入することができる財源のことで、市税、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入をいい、「依存財源」とは、国や県の意思決定に基づき収入される財源で、自主財源以外の収入をいう。

歳入の各款別の収入状況及び前年度比較を示すと次のとおりである。

第1款 市 税

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 不 納 欠 損 額 | 収 入 未 済 額 | 収 入 率 | |
|-------|----------------|----------------|----------------|--------------|---------------|-------|-------|
| | | | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 53,194,926,000 | 54,174,843,285 | 53,480,207,666 | 45,068,568 | 649,567,051 | 100.5 | 98.7 |
| 2 年 度 | 53,296,649,000 | 54,515,023,603 | 53,584,014,526 | 70,538,023 | 860,471,054 | 100.5 | 98.3 |
| 増 減 | △ 101,723,000 | △ 340,180,318 | △ 103,806,860 | △ 25,469,455 | △ 210,904,003 | 0.0 | 0.4 |
| 増 減 率 | △ 0.2 | △ 0.6 | △ 0.2 | △ 36.1 | △ 24.5 | — | — |

税 目 別 収 入 の 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 対 前 年 度 比 較 | |
|---------------|---------------------------|----------------|-------|----------------|-------|---------------|---------|
| | | 収 入 済 額 | 収 納 率 | 収 入 済 額 | 収 納 率 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 市 民 税 | | 23,998,664,677 | 98.7 | 23,682,741,760 | 98.4 | 315,922,917 | 1.3 |
| 内 訳 | 個 人 市 民 税 | 19,389,126,495 | 98.6 | 19,636,882,837 | 98.4 | △ 247,756,342 | △ 1.3 |
| | 法 人 市 民 税 | 4,609,538,182 | 99.1 | 4,045,858,923 | 98.3 | 563,679,259 | 13.9 |
| 固 定 資 産 税 | | 21,888,057,988 | 98.6 | 22,598,370,145 | 98.1 | △ 710,312,157 | △ 3.1 |
| 内 訳 | 固 定 資 産 税 | 21,780,067,888 | 98.6 | 22,489,725,045 | 98.1 | △ 709,657,157 | △ 3.2 |
| | 国 有 資 産 等 所 在 市 町 村 交 付 金 | 107,990,100 | 100 | 108,645,100 | 100 | △ 655,000 | △ 0.6 |
| 軽 自 動 車 税 | | 1,007,626,474 | 98.3 | 970,192,698 | 98.1 | 37,433,776 | 3.9 |
| 内 訳 | 環 境 性 能 割 | 39,722,500 | 100 | 35,029,700 | 100 | 4,692,800 | 13.4 |
| | 種 別 割 | 963,515,851 | 99.5 | 930,573,200 | 99.4 | 32,942,651 | 3.5 |
| | 軽 自 動 車 税 | 4,388,123 | 26.1 | 4,589,798 | 25.2 | △ 201,675 | △ 4.4 |
| 市 た ば こ 税 | | 2,219,617,749 | 100 | 2,088,111,097 | 100 | 131,506,652 | 6.3 |
| 特 別 土 地 保 有 税 | | 0 | — | 0 | — | 0 | — |
| 入 湯 税 | | 47,600,650 | 100 | 66,139,750 | 100 | △ 18,539,100 | △ 28.0 |
| 事 業 所 税 | | 2,221,512,400 | 98.6 | 2,035,463,900 | 97.4 | 186,048,500 | 9.1 |
| 都 市 計 画 税 | | 2,097,127,728 | 98.7 | 2,142,995,176 | 98.1 | △ 45,867,448 | △ 2.1 |
| 合 計 | | 53,480,207,666 | 98.7 | 53,584,014,526 | 98.3 | △ 103,806,860 | △ 0.2 |

・ 収納率は「収入済額÷調定額」の値である。

・ 軽自動車税の内訳中、「種別割」は旧「軽自動車税」から名称変更されたものであり、「軽自動車税」は旧「軽自動車税」の滞納繰越分である。

税 目 別 不 納 欠 損 額 の 状 況

(単位：円・件・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 対 前 年 度 比 較 | | |
|-----------|------------|------------|------------|------------|--------------|--------------|--------|
| | 税 額 | 件 数 | 税 額 | 件 数 | 増 減 額 | 増減比率 | |
| 市 民 税 | 20,408,617 | 396 | 43,835,370 | 484 | △ 23,426,753 | △ 53.4 | |
| 内 訳 | 個人市民税 | 19,388,570 | 385 | 42,323,761 | 471 | △ 22,935,191 | △ 54.2 |
| | 法人市民税 | 1,020,047 | 11 | 1,511,609 | 13 | △ 491,562 | △ 32.5 |
| 固 定 資 産 税 | 21,309,056 | 107 | 22,318,000 | 76 | △ 1,008,944 | △ 4.5 | |
| 軽 自 動 車 税 | 1,299,882 | 107 | 2,257,965 | 145 | △ 958,083 | △ 42.4 | |
| 都 市 計 画 税 | 2,051,013 | — | 2,126,688 | — | △ 75,675 | △ 3.6 | |
| 合 計 | 45,068,568 | 610 | 70,538,023 | 705 | △ 25,469,455 | △ 36.1 | |

・不納欠損件数は、滞納者ごとの件数である。

税 目 別 収 入 未 済 額 の 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 等 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-----------|-------|-------------|-------------|---------------|--------|
| | | | | 増 減 額 | 増減比率 |
| 市 民 税 | 現年課税 | 112,167,266 | 163,497,236 | △ 51,329,970 | △ 31.4 |
| | 滞納繰越 | 185,357,024 | 178,300,016 | 7,057,008 | 4.0 |
| | 計 | 297,524,290 | 341,797,252 | △ 44,272,962 | △ 13.0 |
| 内 訳 | 個人市民税 | 104,290,790 | 119,483,230 | △ 15,192,440 | △ 12.7 |
| | 滞納繰越 | 151,762,104 | 151,958,797 | △ 196,693 | △ 0.1 |
| | 計 | 256,052,894 | 271,442,027 | △ 15,389,133 | △ 5.7 |
| 内 訳 | 法人市民税 | 7,876,476 | 44,014,006 | △ 36,137,530 | △ 82.1 |
| | 滞納繰越 | 33,594,920 | 26,341,219 | 7,253,701 | 27.5 |
| | 計 | 41,471,396 | 70,355,225 | △ 28,883,829 | △ 41.1 |
| 固 定 資 産 税 | 現年課税 | 87,682,301 | 231,550,047 | △ 143,867,746 | △ 62.1 |
| | 滞納繰越 | 191,193,024 | 176,973,835 | 14,219,189 | 8.0 |
| | 計 | 278,875,325 | 408,523,882 | △ 129,648,557 | △ 31.7 |
| 軽 自 動 車 税 | 現年課税 | 4,856,749 | 5,414,600 | △ 557,851 | △ 10.3 |
| | 滞納繰越 | 11,156,034 | 11,445,239 | △ 289,205 | △ 2.5 |
| | 計 | 16,012,783 | 16,859,839 | △ 847,056 | △ 5.0 |
| 事 業 所 税 | 現年課税 | 18,480,500 | 48,941,200 | △ 30,460,700 | △ 62.2 |
| | 滞納繰越 | 12,735,300 | 5,096,400 | 7,638,900 | 149.9 |
| | 計 | 31,215,800 | 54,037,600 | △ 22,821,800 | △ 42.2 |
| 都 市 計 画 税 | 現年課税 | 7,536,368 | 22,388,600 | △ 14,852,232 | △ 66.3 |
| | 滞納繰越 | 18,402,485 | 16,863,881 | 1,538,604 | 9.1 |
| | 計 | 25,938,853 | 39,252,481 | △ 13,313,628 | △ 33.9 |
| 合 計 | 現年課税 | 230,723,184 | 471,791,683 | △ 241,068,499 | △ 51.1 |
| | 滞納繰越 | 418,843,867 | 388,679,371 | 30,164,496 | 7.8 |
| | 計 | 649,567,051 | 860,471,054 | △ 210,904,003 | △ 24.5 |

市税の収入済額は 53,480,207,666 円で、前年度と比較すると 103,806,860 円（0.2%）の減少となっている。

調定額に対する収入率は 98.7% で、前年度を 0.4 ポイント上回っている。

主な税目の収入済額をみると、市民税は 23,998,664,677 円で、前年度と比較すると 315,922,917 円（1.3%）の増加となっている。固定資産税は 21,888,057,988 円で、前年度と比較すると 710,312,157 円（3.1%）の減少となっている。

不納欠損額は前年度と比較すると 25,469,455 円（36.1%）減の 45,068,568 円となっている。この主なものは、固定資産税 21,309,056 円、市民税 20,408,617 円である。

収入未済額は前年度と比較すると 210,904,003 円（24.5%）減の 649,567,051 円となっている。この主なものは、市民税 297,524,290 円、固定資産税 278,875,325 円である。

第 2 款 地方譲与税

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|---------------|---------------|---------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 1,268,301,000 | 1,301,693,004 | 1,301,693,004 | 102.6 | 100 |
| 2 年 度 | 1,271,601,000 | 1,280,672,004 | 1,280,672,004 | 100.7 | 100 |
| 増 減 | △ 3,300,000 | 21,021,000 | 21,021,000 | 1.9 | 0 |
| 増 減 比 率 | △ 0.3 | 1.6 | 1.6 | — | — |

収入済額は 1,301,693,004 円で、前年度と比較すると 21,021,000 円（1.6%）の増加となっている。

第 3 款 利子割交付金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|-------------|-------------|-------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 36,000,000 | 36,695,000 | 36,695,000 | 101.9 | 100 |
| 2 年 度 | 40,200,000 | 44,734,000 | 44,734,000 | 111.3 | 100 |
| 増 減 | △ 4,200,000 | △ 8,039,000 | △ 8,039,000 | △ 9.4 | 0 |
| 増 減 比 率 | △ 10.4 | △ 18.0 | △ 18.0 | — | — |

収入済額は 36,695,000 円で、前年度と比較すると 8,039,000 円（18.0%）の減少となっている。

第4款 配当割交付金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|-------------|-------------|-------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 181,000,000 | 297,072,000 | 297,072,000 | 164.1 | 100 |
| 2 年 度 | 184,000,000 | 192,089,000 | 192,089,000 | 104.4 | 100 |
| 増 減 | △ 3,000,000 | 104,983,000 | 104,983,000 | 59.7 | 0 |
| 増 減 比 率 | △ 1.6 | 54.7 | 54.7 | — | — |

収入済額は 297,072,000 円で、前年度と比較すると 104,983,000 円 (54.7%) の増加となっている。

第5款 株式等譲渡所得割交付金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|-------------|-------------|-------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 201,000,000 | 328,952,000 | 328,952,000 | 163.7 | 100 |
| 2 年 度 | 162,000,000 | 233,763,000 | 233,763,000 | 144.3 | 100 |
| 増 減 | 39,000,000 | 95,189,000 | 95,189,000 | 19.4 | 0 |
| 増 減 比 率 | 24.1 | 40.7 | 40.7 | — | — |

収入済額は 328,952,000 円で、前年度と比較すると 95,189,000 円 (40.7%) の増加となっている。

第6款 法人事業税交付金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|-------------|-------------|-------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 470,000,000 | 701,413,000 | 701,413,000 | 149.2 | 100 |
| 2 年 度 | 320,000,000 | 354,258,000 | 354,258,000 | 110.7 | 100 |
| 増 減 | 150,000,000 | 347,155,000 | 347,155,000 | 38.5 | 0 |
| 増 減 比 率 | 46.9 | 98.0 | 98.0 | — | — |

収入済額は 701,413,000 円で、前年度と比較すると 347,155,000 円 (98.0%) の増加となっている。これは、本交付金の交付率が、前年度の 100 分の 3.4 から標準交付率の 100 分の 7.7 になったことによるものである。

第7款 地方消費税交付金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|---------------|---------------|---------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 8,000,000,000 | 8,377,902,000 | 8,377,902,000 | 104.7 | 100 |
| 2 年 度 | 7,600,000,000 | 7,697,652,000 | 7,697,652,000 | 101.3 | 100 |
| 増 減 | 400,000,000 | 680,250,000 | 680,250,000 | 3.4 | 0 |
| 増 減 比 率 | 5.3 | 8.8 | 8.8 | — | — |

収入済額は8,377,902,000円で、前年度と比較すると680,250,000円(8.8%)の増加となっている。

第8款 ゴルフ場利用税交付金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|------------|------------|------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 20,000,000 | 20,589,478 | 20,589,478 | 102.9 | 100 |
| 2 年 度 | 17,100,000 | 17,573,121 | 17,573,121 | 102.8 | 100 |
| 増 減 | 2,900,000 | 3,016,357 | 3,016,357 | 0.1 | 0 |
| 増 減 比 率 | 17.0 | 17.2 | 17.2 | — | — |

収入済額は20,589,478円で、前年度と比較すると3,016,357円(17.2%)の増加となっている。

第9款 環境性能割交付金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|-------------|-------------|-------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 120,000,000 | 137,705,000 | 137,705,000 | 114.8 | 100 |
| 2 年 度 | 115,200,000 | 118,278,000 | 118,278,000 | 102.7 | 100 |
| 増 減 | 4,800,000 | 19,427,000 | 19,427,000 | 12.1 | 0 |
| 増 減 比 率 | 4.2 | 16.4 | 16.4 | — | — |

収入済額は137,705,000円で、前年度と比較すると19,427,000円(16.4%)の増加となっている。

第10款 地方特例交付金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|---------------|---------------|---------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 1,039,359,000 | 1,042,455,000 | 1,042,455,000 | 100.3 | 100 |
| 2 年 度 | 399,102,000 | 399,102,000 | 399,102,000 | 100 | 100 |
| 増 減 | 640,257,000 | 643,353,000 | 643,353,000 | 0.3 | 0 |
| 増 減 比 率 | 160.4 | 161.2 | 161.2 | — | — |

収入済額は1,042,455,000円で、前年度と比較すると643,353,000円(161.2%)の増加となっている。これは主として、新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補てん特別交付金653,096,000円の皆増によるものである。

第11款 地方交付税

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|----------------|----------------|----------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 14,744,345,000 | 14,862,698,000 | 14,862,698,000 | 100.8 | 100 |
| 2 年 度 | 11,635,176,000 | 11,655,342,000 | 11,655,342,000 | 100.2 | 100 |
| 増 減 | 3,109,169,000 | 3,207,356,000 | 3,207,356,000 | 0.6 | 0 |
| 増 減 比 率 | 26.7 | 27.5 | 27.5 | — | — |

収 入 済 額 の 内 訳

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-------------|----------------|----------------|---------------|---------|
| | | | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 地 方 交 付 税 | 14,862,698,000 | 11,655,342,000 | 3,207,356,000 | 27.5 |
| 内 普 通 交 付 税 | 13,844,345,000 | 10,705,176,000 | 3,139,169,000 | 29.3 |
| 内 特 別 交 付 税 | 1,018,353,000 | 950,166,000 | 68,187,000 | 7.2 |

収入済額は14,862,698,000円で、前年度と比較すると3,207,356,000円(27.5%)の増加となっている。これは主として、普通交付税の再算定において、臨時経済対策費、臨時財政対策債償還基金費が追加されたことによるものである。

第12款 交通安全対策特別交付金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|------------|-------------|-------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 84,000,000 | 84,248,000 | 84,248,000 | 100.3 | 100 |
| 2 年 度 | 82,000,000 | 87,347,000 | 87,347,000 | 106.5 | 100 |
| 増 減 | 2,000,000 | △ 3,099,000 | △ 3,099,000 | △ 6.2 | 0 |
| 増 減 比 率 | 2.4 | △ 3.5 | △ 3.5 | — | — |

収入済額は84,248,000円で、前年度と比較すると3,099,000円(3.5%)の減少となっている。

第13款 分担金及び負担金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 不 納 欠 損 額 | 収 入 未 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|-------|-------|
| | | | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 77,016,000 | 75,006,498 | 70,788,163 | 56,160 | 4,162,175 | 91.9 | 94.4 |
| 2 年 度 | 80,261,000 | 76,921,929 | 72,721,460 | 296,900 | 3,903,569 | 90.6 | 94.5 |
| 増 減 | △ 3,245,000 | △ 1,915,431 | △ 1,933,297 | △ 240,740 | 258,606 | 1.3 | △ 0.1 |
| 増 減 比 率 | △ 4.0 | △ 2.5 | △ 2.7 | △ 81.1 | 6.6 | — | — |

収 入 済 額 の 内 訳 及 び 主 な 増 減

(単位：円・%)

| 科 目 等 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|--------------|------------|------------|-------------|---------|
| | | | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 負 担 金 | 70,788,163 | 72,721,460 | △ 1,933,297 | △ 2.7 |
| 主 な 増 減 | | | | |
| 老人福祉施設入所者負担金 | 55,532,243 | 57,910,900 | △ 2,378,657 | △ 4.1 |
| ワクチン接種負担金 | 1,182,720 | — | 1,182,720 | 皆増 |

収入済額は70,788,163円で、前年度と比較すると1,933,297円(2.7%)の減少となっている。

調定額に対する収入率は94.4%で、前年度を0.1ポイント下回っている。

不納欠損額は前年度と比較すると240,740円(81.1%)減の56,160円となっている。これは、心身障害者扶養共済負担金である。

収入未済額は前年度と比較すると258,606円(6.6%)増の4,162,175円となっている。この主なものは、保育所保育料保護者負担金3,440,809円である。

○主な内容と収入済額

・老人福祉施設入所者負担金 55,532,243 円

第 14 款 使用料及び手数料

(単位：円・%)

| 区 分 | 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 不納欠損額 | 収入未済額 | 収 入 率 | |
|-------|---------------|---------------|---------------|-----------|-------------|-------|------|
| | | | | | | 対予算 | 対調定 |
| 3 年度 | 2,964,716,000 | 3,052,816,984 | 3,010,603,637 | 1,415,442 | 40,797,905 | 101.5 | 98.6 |
| 2 年度 | 2,775,987,000 | 2,904,698,117 | 2,853,590,583 | 2,288,960 | 48,818,574 | 102.8 | 98.2 |
| 増 減 | 188,729,000 | 148,118,867 | 157,013,054 | △ 873,518 | △ 8,020,669 | △ 1.3 | 0.4 |
| 増 減 率 | 6.8 | 5.1 | 5.5 | △ 38.2 | △ 16.4 | — | — |

収 入 済 額 の 内 訳 及 び 主 な 増 減

(単位：円・%)

| 科 目 等 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|------------------|---------------------|---------------|---------------|--------------|--------|
| | | | | 増 減 額 | 増減比率 |
| 使 用 料 | | 2,337,546,377 | 2,196,539,443 | 141,006,934 | 6.4 |
| 主 な 増 減 | 市民文化会館使用料 | 46,157,506 | 30,517,092 | 15,640,414 | 51.3 |
| | 保育所保育料 | 332,375,690 | 314,859,240 | 17,516,450 | 5.6 |
| | 発熱外来診療所使用料 | 74,918,103 | 31,416,834 | 43,501,269 | 138.5 |
| | 嶺公園樹林墓地使用料 | 28,060,000 | — | 28,060,000 | 皆増 |
| | 市営住宅使用料 | 984,276,379 | 1,009,968,415 | △ 25,692,036 | △ 2.5 |
| 手 数 料 | | 673,057,260 | 657,051,140 | 16,006,120 | 2.4 |
| 主 な 増 減 | 印鑑登録証明手数料 | 32,109,950 | 34,770,200 | △ 2,660,250 | △ 7.7 |
| | 搬入ごみ手数料 (六供清掃工場) | 368,552,520 | 352,004,220 | 16,548,300 | 4.7 |
| | 建築物確認申請手数料 | 6,852,000 | 8,477,000 | △ 1,625,000 | △ 19.2 |

収入済額は 3,010,603,637 円で、前年度と比較すると 157,013,054 円 (5.5%) の増加となっている。

調定額に対する収入率は 98.6% で、前年度を 0.4 ポイント上回っている。

不納欠損額は前年度と比較すると 873,518 円 (38.2%) 減の 1,415,442 円となっている。これは、市営住宅使用料 1,403,700 円、夜間急病診療所手数料 10,360 円、地域し尿処理施設使用料 1,382 円である。

収入未済額は前年度と比較すると 8,020,669 円 (16.4%) 減の 40,797,905 円となっている。この主なものは、市営住宅使用料 21,659,911 円、保育所保育料 13,936,290 円である。

○主な内容と収入済額

(使用料)

| | |
|---------------------|---------------|
| ・市営住宅使用料 | 984,276,379 円 |
| ・保育所保育料 | 332,375,690 円 |
| ・市営住宅駐車場使用料 | 100,451,140 円 |
| ・道路、準用河川占用料及び公共物使用料 | 94,080,610 円 |
| ・授業料（高等学校使用料） | 83,763,900 円 |
| ・発熱外来診療所使用料 | 74,918,103 円 |
| ・体育施設使用料 | 73,861,650 円 |
| ・5番街立体駐車場駐車料金 | 47,981,050 円 |
| ・市民文化会館使用料 | 46,157,506 円 |
| ・地域し尿処理施設使用料 | 46,122,245 円 |

(手数料)

| | |
|------------------|---------------|
| ・搬入ごみ手数料（六供清掃工場） | 368,552,520 円 |
| ・住民票手数料 | 57,887,050 円 |
| ・戸籍手数料 | 42,712,400 円 |
| ・印鑑登録証明手数料 | 32,109,950 円 |
| ・嶺公園墓地管理料 | 32,059,880 円 |
| ・諸証明等手数料 | 22,996,550 円 |
| ・食品衛生審査手数料 | 15,784,000 円 |
| ・犬の登録等手数料 | 11,668,240 円 |

第 15 款 国庫支出金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収入未済額 | 収 入 率 | |
|------------|------------------|------------------|------------------|--------|-------|-----|
| | | | | | 対予算 | 対調定 |
| 3年度 | 39,624,647,225 | 36,086,761,423 | 36,086,681,423 | 80,000 | 91.1 | 100 |
| 2年度 | 66,706,747,076 | 63,412,857,055 | 63,412,857,055 | 0 | 95.1 | 100 |
| 増 減 | △ 27,082,099,851 | △ 27,326,095,632 | △ 27,326,175,632 | 80,000 | △ 4.0 | 0 |
| 増 減 比 率 | △ 40.6 | △ 43.1 | △ 43.1 | 皆増 | — | — |

- ・ 3年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越財源充当額2,672,714,225円を含む。
- ・ 2年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越財源充当額1,886,518,076円を含む。

収入済額の内訳及び主な増減

(単位：円・%)

| 科目等 | 3年度 | 2年度 | 対前年度比較 | |
|-------|-------------------------------|----------------|------------------|--------|
| | | | 増減額 | 増減比率 |
| 国庫負担金 | 19,468,584,592 | 17,649,714,527 | 1,818,870,065 | 10.3 |
| 主な増減 | 感染症発生動向調査事業費負担金 | 57,489,824 | 137,782,358 | 239.7 |
| | 新型コロナウイルスワクチン接種対策費負担金 | — | 1,489,471,690 | 皆増 |
| 国庫補助金 | 16,550,805,967 | 45,689,024,610 | △ 29,138,218,643 | △ 63.8 |
| 主な増減 | 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 | 3,959,819,000 | △ 3,152,019,000 | △ 79.6 |
| | 子育て世帯等臨時特別支援事業費補助金（住民税非課税世帯等） | — | 3,379,131,473 | 皆増 |
| | 子育て世帯臨時特別給付金給付事業費補助金 | 395,900,000 | 4,299,042,000 | 約12倍 |
| | 〔特別定額給付金給付事業費補助金〕 | 33,532,300,000 | △ 33,532,300,000 | 皆減 |
| 委託金 | 67,290,864 | 74,117,918 | △ 6,827,054 | △ 9.2 |

収入済額は 36,086,681,423 円で、前年度と比較すると 27,326,175,632 円（43.1%）の減少となっている。これは主として、特別定額給付金給付事業費補助金 33,532,300,000 円の皆減によるものである。

収入未済額は前年度と比較すると皆増の 80,000 円となっている。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止継続支援補助金である。

○主な内容と収入済額

（国庫負担金）

- ・生活保護費国庫負担金 5,164,252,981 円
- ・子どものための教育・保育給付交付金 4,466,267,424 円
- ・児童手当費負担金 3,150,843,332 円

（国庫補助金）

- ・子育て世帯臨時特別給付金給付事業費補助金 4,694,942,000 円
- ・子育て世帯等臨時特別支援事業費補助金（住民税非課税世帯等） 3,379,131,473 円

第 16 款 県支出金

(単位：円・%)

| 区分 | 予算現額 | 調定額 | 収入済額 | 収入率 | |
|------|----------------|----------------|----------------|-------|-----|
| | | | | 対予算 | 対調定 |
| 3年度 | 11,343,911,000 | 10,430,674,179 | 10,430,674,179 | 91.9 | 100 |
| 2年度 | 11,014,765,500 | 10,181,132,698 | 10,181,132,698 | 92.4 | 100 |
| 増減 | 329,145,500 | 249,541,481 | 249,541,481 | △ 0.5 | 0 |
| 増減比率 | 3.0 | 2.5 | 2.5 | — | — |

- ・3年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越財源充当額731,400,000円を含む。
- ・2年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越財源充当額61,398,500円を含む。

収入済額の内訳及び主な増減

(単位：円・%)

| 科 目 等 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | | |
|------------------|-------------------------|---------------|---------------|---------------|--------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 | |
| 県 負 担 金 | 6,324,275,089 | 6,159,541,979 | 164,733,110 | 2.7 | |
| 主 な 増 減 | 障害者介護給付費等負担金 | 1,386,625,000 | 1,323,479,000 | 63,146,000 | 4.8 |
| | 障害児通所支援費負担金 | 400,022,500 | 358,597,019 | 41,425,481 | 11.6 |
| | 児童手当費負担金（県負担分） | 690,212,333 | 704,441,499 | △ 14,229,166 | △ 2.0 |
| 県 補 助 金 | 3,385,752,531 | 3,256,066,378 | 129,686,153 | 4.0 | |
| 主 な 増 減 | 介護基盤等整備事業費補助金 | 111,840,000 | 235,927,000 | △ 124,087,000 | △ 52.6 |
| | 福祉医療費補助金 | 1,270,540,517 | 1,150,660,253 | 119,880,264 | 10.4 |
| | 畜産競争力強化対策 整備事業費補助金 | 85,748,000 | 0 | 85,748,000 | 皆増 |
| | 群馬県まちなか居住再生等 支援事業補助金 | 132,276,000 | 0 | 132,276,000 | 皆増 |
| | 委 託 金 | 720,646,559 | 765,524,341 | △ 44,877,782 | △ 5.9 |

収入済額は10,430,674,179円で、前年度と比較すると249,541,481円（2.5%）の増加となっている。

○主な内容と収入済額

（県負担金）

- ・子どものための教育・保育給付交付金 1,949,487,063 円
- ・障害者介護給付費等負担金 1,386,625,000 円
- ・保険基盤安定制度負担金（国民健康保険） 1,012,181,267 円
- ・児童手当費負担金（県負担分） 690,212,333 円
- ・保険基盤安定制度負担金（後期高齢者医療保険） 617,600,466 円
- ・障害児通所支援費負担金 400,022,500 円

（県補助金）

- ・福祉医療費補助金 1,270,540,517 円
- ・子ども子育て支援交付金（児童福祉費） 527,951,000 円
- ・群馬県施設型給付費等補助金 279,642,000 円

（委託金）

- ・県民税徴収事務委託金 539,623,635 円

第17款 財産収入

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 未 済 額 | 収 入 率 | |
|-------|-------------|-------------|-------------|-----------|-------|-------|
| | | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 353,960,000 | 374,615,231 | 373,561,412 | 1,053,819 | 105.5 | 99.7 |
| 2 年 度 | 313,365,000 | 325,409,551 | 324,396,993 | 1,012,558 | 103.5 | 99.7 |
| 増 減 | 40,595,000 | 49,205,680 | 49,164,419 | 41,261 | 2.0 | 0.0 |
| 増 減 率 | 13.0 | 15.1 | 15.2 | 4.1 | — | — |

収 入 済 額 の 内 訳 及 び 主 な 増 減

(単位：円・%)

| 科 目 等 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|------------------|--------------------------------|-------------|-------------|-------------|---------|
| | | | | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 財 産 運 用 収 入 | | 203,928,817 | 203,936,292 | △ 7,475 | 0.0 |
| 主 な 増 減 | 土 地 家 屋 貸 付 収 入 (普 通 財 産) | 105,198,589 | 109,603,137 | △ 4,404,548 | △ 4.0 |
| | シ ョ ア サ イ ク ル 貸 付 収 入 | 3,599,240 | — | 3,599,240 | 皆 増 |
| | 株 式 等 配 当 金 | 30,741,500 | 28,549,750 | 2,191,750 | 7.7 |
| 財 産 売 払 収 入 | | 169,632,595 | 120,460,701 | 49,171,894 | 40.8 |
| 内 訳 | 土 地 売 払 収 入 | 159,930,504 | 112,972,527 | 46,957,977 | 41.6 |
| | 不 用 物 品 売 払 収 入 | 9,702,091 | 7,488,174 | 2,213,917 | 29.6 |

収入済額は373,561,412円で、前年度と比較すると49,164,419円(15.2%)の増加となっている。

調定額に対する収入率は99.7%で、前年度と同率となっている。

収入未済額は前年度と比較すると41,261円(4.1%)増の1,053,819円となっている。これは、土地家屋貸付収入(普通財産)である。

○主な内容と収入済額

- ・ 土地売払収入 159,930,504 円
- ・ 土地家屋貸付収入(普通財産) 105,198,589 円
- ・ 株式等配当金 30,741,500 円
- ・ 土地建物貸付収入(行政財産) 27,335,307 円
- ・ 前橋プラザ元気21店舗貸付収入 14,685,854 円

第18款 寄 附 金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|-------------|-------------|-------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 598,974,000 | 616,367,640 | 616,367,640 | 102.9 | 100 |
| 2 年 度 | 270,734,000 | 265,026,610 | 265,026,610 | 97.9 | 100 |
| 増 減 | 328,240,000 | 351,341,030 | 351,341,030 | 5.0 | 0 |
| 増 減 比 率 | 121.2 | 132.6 | 132.6 | — | — |

収入済額は616,367,640円で、前年度と比較すると351,341,030円(132.6%)の増加となっている。これは主として、ふるさとまえばし応援寄附金(企業版)374,798,000円の増によるものである。

○主な内容と収入済額

- ・ふるさと前橋応援寄附金(企業版) 374,898,000円
- ・ふるさと前橋応援寄附金 228,005,100円

第19款 繰 入 金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収入未済額 | 収 入 率 | |
|---------|-----------------|-----------------|-----------------|--------|-------|-------|
| | | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 1,006,107,000 | 912,098,537 | 912,081,137 | 17,400 | 90.7 | 100.0 |
| 2 年 度 | 3,377,739,000 | 3,205,606,908 | 3,205,606,908 | 0 | 94.9 | 100 |
| 増 減 | △ 2,371,632,000 | △ 2,293,508,371 | △ 2,293,525,771 | 17,400 | △ 4.2 | 0.0 |
| 増 減 比 率 | △ 70.2 | △ 71.5 | △ 71.5 | 皆増 | — | — |

収 入 済 額 の 内 訳 及 び 主 な 増 減

(単位：円・%)

| 科 目 等 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|---------------|---|-------------|---------------|-----------------|--------|
| | | | | 増 減 額 | 増減比率 |
| 繰 入 金 | | 179,137,790 | 104,369,001 | 74,768,789 | 71.6 |
| 内 訳 | 保 留 地 処 分 金 | 179,137,790 | 104,369,001 | 74,768,789 | 71.6 |
| 基 金 繰 入 金 | | 521,758,347 | 3,087,789,898 | △ 2,566,031,551 | △ 83.1 |
| 主 な 増 減 | 財 政 調 整 基 金 繰 入 金 | 0 | 2,584,272,000 | △ 2,584,272,000 | 皆減 |
| | 社 会 福 祉 基 金 繰 入 金 | 0 | 113,895,000 | △ 113,895,000 | 皆減 |
| | 職 員 退 職 手 当 基 金 繰 入 金 | 0 | 126,812,000 | △ 126,812,000 | 皆減 |
| | 新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 対 応 中 小 企 業 経 営 支 援 基 金 繰 入 金 | 332,783,388 | 0 | 332,783,388 | 皆増 |
| 特 別 会 計 繰 入 金 | | 211,185,000 | 13,448,009 | 197,736,991 | 約16倍 |
| ※ | 国 民 健 康 保 険 特 別 会 計 繰 入 金 | 193,260,000 | 0 | 193,260,000 | 皆増 |

・「※」は主な増減

収入済額は912,081,137円で、前年度と比較すると2,293,525,771円(71.5%)の減少となっている。これは主として、財政調整基金繰入金2,584,272,000円の皆減によるものである。

調定額に対する収入率は100.0%で、前年度と同率となっている。

収入未済額は前年度と比較すると皆増の17,400円となっている。これは、保留地処分金である。

○主な内容と収入済額

| | |
|------------------------------|--------------|
| ・新型コロナウイルス感染症対応中小企業経営支援基金繰入金 | 332,783,388円 |
| ・国民健康保険特別会計繰入金 | 193,260,000円 |
| ・保留地処分金 | 179,137,790円 |
| ・森林環境譲与税基金繰入金 | 52,791,850円 |
| ・教育振興基金繰入金 | 40,195,590円 |
| ・絆でつなぐ環境基金繰入金 | 37,248,730円 |

第20款 繰越金

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|---------------|---------------|---------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 2,167,946,768 | 2,167,946,971 | 2,167,946,971 | 100.0 | 100 |
| 2 年 度 | 1,906,344,545 | 1,906,345,197 | 1,906,345,197 | 100.0 | 100 |
| 増 減 | 261,602,223 | 261,601,774 | 261,601,774 | 0.0 | 0 |
| 増 減 比 率 | 13.7 | 13.7 | 13.7 | — | — |

- ・3年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越財源充当額758,072,768円を含む。
- ・2年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越財源充当額912,543,545円を含む。

収入済額は2,167,946,971円で、前年度と比較すると261,601,774円(13.7%)の増加となっている。収入済額のうち752,390,218円は前年度繰越明許費分であり、5,682,550円は前年度事故繰越し分である。

第21款 諸 収 入

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 不 納 欠 損 額 | 収 入 未 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|-----------------|-----------------|-----------------|------------|--------------|-------|-------|
| | | | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 16,492,174,000 | 15,688,854,723 | 15,296,960,282 | 41,174,418 | 350,720,023 | 92.8 | 97.5 |
| 2 年 度 | 20,318,026,000 | 20,474,455,781 | 20,065,583,682 | 41,876,028 | 366,996,071 | 98.8 | 98.0 |
| 増 減 | △ 3,825,852,000 | △ 4,785,601,058 | △ 4,768,623,400 | △ 701,610 | △ 16,276,048 | △ 6.0 | △ 0.5 |
| 増 減 比 率 | △ 18.8 | △ 23.4 | △ 23.8 | △ 1.7 | △ 4.4 | — | — |

収入済額の内訳及び主な増減

(単位：円・%)

| 科目等 | 3年度 | 2年度 | 対前年度比較 | | |
|-------------|---------------------|----------------|-----------------|-----------------|--------|
| | | | 増減額 | 増減比率 | |
| 延滞金、加算金及び過料 | 78,255,710 | 81,226,356 | △ 2,970,646 | △ 3.7 | |
| 市預金利息 | 32,442 | 220,287 | △ 187,845 | △ 85.3 | |
| 貸付金元利収入 | 11,831,596,252 | 15,615,478,313 | △ 3,783,882,061 | △ 24.2 | |
| 主な増減 | 特別融資預託金元金収入 | 8,975,656,000 | 11,451,272,000 | △ 2,475,616,000 | △ 21.6 |
| | 小口資金預託金元金収入 | 1,209,500,000 | 1,892,500,000 | △ 683,000,000 | △ 36.1 |
| | 中小企業季節資金預託金元金収入 | 255,000,000 | 445,000,000 | △ 190,000,000 | △ 42.7 |
| | 起業家独立開業支援融資預託金元金収入 | 840,699,000 | 994,252,000 | △ 153,553,000 | △ 15.4 |
| | 短期サポート資金融資預託金元金収入 | 179,000,000 | 316,000,000 | △ 137,000,000 | △ 43.4 |
| 受託事業収入 | 199,320,006 | 189,348,689 | 9,971,317 | 5.3 | |
| 収益事業収入 | 338,752,488 | 344,853,186 | △ 6,100,698 | △ 1.8 | |
| 雑入 | 2,849,003,384 | 3,834,456,851 | △ 985,453,467 | △ 25.7 | |
| 主な増減 | 学校給食費 | 1,236,567,285 | 1,098,721,400 | 137,845,885 | 12.5 |
| | 群馬県後期高齢者広域連合負担金精算金 | 176,997,539 | 18,679,209 | 158,318,330 | 847.6 |
| | 〔雑入(プレミアム付商品券発売収入)〕 | — | 1,469,300,000 | △ 1,469,300,000 | 皆減 |

収入済額は15,296,960,282円で、前年度と比較すると4,768,623,400円(23.8%)の減少となっている。これは主として、特別融資預託金元金収入2,475,616,000円の減によるものである。

調定額に対する収入率は97.5%で、前年度を0.5ポイント下回っている。

不納欠損額は前年度と比較すると701,610円(1.7%)減の41,174,418円となっている。これは、生活保護費返還金37,337,641円、住宅新築資金等貸付金元利収入3,383,707円、奨学資金貸付金元金収入242,000円、学校給食費111,070円、給付費返還金(特別定額給付金)100,000円である。

収入未済額は前年度と比較すると16,276,048円(4.4%)減の350,720,023円となっている。この主なものは、生活保護費返還金236,049,127円、住宅新築資金等貸付金元利収入74,719,810円である。

○主な内容と収入済額

- ・特別融資預託金元金収入 8,975,656,000円
- ・学校給食費 1,236,567,285円
- ・小口資金預託金元金収入 1,209,500,000円

第22款 市 債

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 収 入 率 | |
|---------|----------------|----------------|----------------|-------|-------|
| | | | | 対 予 算 | 対 調 定 |
| 3 年 度 | 20,586,100,000 | 16,966,600,000 | 16,966,600,000 | 82.4 | 100 |
| 2 年 度 | 18,821,600,000 | 14,201,100,000 | 14,201,100,000 | 75.5 | 100 |
| 増 減 | 1,764,500,000 | 2,765,500,000 | 2,765,500,000 | 6.9 | 0 |
| 増 減 比 率 | 9.4 | 19.5 | 19.5 | — | — |

- ・3年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越財源充当額3,375,700,000円を含む。
- ・2年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越財源充当額3,270,100,000円を含む。

収 入 済 額 の 内 訳 及 び 主 な 増 減

(単位：円・%)

| 科 目 等 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | | |
|-------------------|------------------------|---------------|---------------|-----------------|--------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 | |
| 総 務 債 | 2,018,800,000 | 164,500,000 | 1,854,300,000 | 約12倍 | |
| ※ 庁舎等整備事業債 | 2,016,400,000 | 148,100,000 | 1,868,300,000 | 約14倍 | |
| 民 生 債 | 270,200,000 | 338,300,000 | △ 68,100,000 | △ 20.1 | |
| 衛 生 債 | 37,600,000 | 249,400,000 | △ 211,800,000 | △ 84.9 | |
| ※ 六供清掃工場施設等整備事業債 | 0 | 197,600,000 | △ 197,600,000 | 皆減 | |
| 農 林 水 産 業 債 | 165,300,000 | 225,700,000 | △ 60,400,000 | △ 26.8 | |
| 商 工 債 | 964,200,000 | 14,100,000 | 950,100,000 | 約68倍 | |
| ※ 道の駅整備事業債 | 955,000,000 | — | 955,000,000 | 皆増 | |
| 土 木 債 | 3,521,200,000 | 4,379,500,000 | △ 858,300,000 | △ 19.6 | |
| 主 な 増 減 | 道水路等整備事業債 (合併推進事業債) | 0 | 87,200,000 | △ 87,200,000 | 皆減 |
| | 道の駅整備事業債 | 5,300,000 | 1,046,900,000 | △ 1,041,600,000 | △ 99.5 |
| | 地方道路等整備事業債 (都市計画債) | 153,300,000 | 18,200,000 | 135,100,000 | 742.3 |
| 消 防 債 | 137,400,000 | 513,200,000 | △ 375,800,000 | △ 73.2 | |
| ※ 消防施設整備事業債 | 46,600,000 | 291,000,000 | △ 244,400,000 | △ 84.0 | |
| 教 育 債 | 2,238,600,000 | 2,162,000,000 | 76,600,000 | 3.5 | |
| 主 な 増 減 | 校舎改造事業債(小学校債) | 1,273,800,000 | 359,100,000 | 914,700,000 | 254.7 |
| | 校舎改造事業債(中学校債) | 289,800,000 | 993,000,000 | △ 703,200,000 | △ 70.8 |
| | 社会体育施設整備事業債 | 53,300,000 | 221,100,000 | △ 167,800,000 | △ 75.9 |
| 臨 時 財 政 対 策 債 | 7,613,300,000 | 5,393,000,000 | 2,220,300,000 | 41.2 | |
| 特 別 減 収 対 策 債 | 0 | 390,000,000 | △ 390,000,000 | 皆減 | |
| 地 方 税 減 収 補 て ん 債 | 0 | 371,400,000 | △ 371,400,000 | 皆減 | |

- ・「※」は主な増減

収入済額は16,966,600,000円で、前年度と比較すると2,765,500,000円(19.5%)の増加となっている。
これは主として、臨時財政対策債2,220,300,000円の増によるものである。

○主な内容と収入済額

【総務債】

(総務管理債)

・庁舎等整備事業債 2,016,400,000 円

【民生債】

(児童福祉債)

・民間保育所施設整備事業債 217,600,000 円

【商工債】

(商工債)

・道の駅整備事業債 955,000,000 円

【土木債】

(道路橋りょう債)

・道路整備事業債 1,463,500,000 円 (うち繰越明許分 520,600,000 円
事故繰越し分 16,600,000 円)

(都市計画債)

・土地区画整理事業債 (街路) 758,300,000 円 (うち繰越明許分 510,900,000 円
事故繰越し分 5,700,000 円)

・土地区画整理事業債 (都市再生) 243,900,000 円 (うち繰越明許分 94,800,000 円
事故繰越し分 17,500,000 円)

・公園整備事業債 242,900,000 円 (うち繰越明許分 44,500,000 円)

【教育債】

(小学校債)

・校舎改造事業債 1,273,800,000 円 (うち繰越明許分 1,185,100,000 円)

(中学校債)

・校舎改造事業債 289,800,000 円 (うち繰越明許分 153,100,000 円)

(社会教育債)

・公民館整備事業債 302,000,000 円

【臨時財政対策債】

(臨時財政対策債)

・臨時財政対策債 7,613,300,000 円

(2) 歳 出

歳出決算額は161,641,822,292円で、予算現額174,574,482,993円に対する執行率は92.6%である。

翌年度繰越額は7,373,275,802円（繰越明許費6,789,926,495円、事故繰越し583,349,307円）で、予算現額に占める割合は4.2%である。

歳出決算額を前年度と比較すると26,343,416,574円（14.0%）の減少となっている。

歳出の構成比率で最も高いものは、民生費の39.0%であり、次いで土木費10.7%、総務費10.4%、公債費9.8%となっている。

歳出決算額を前年度と比較すると、増加した主なものは、民生費7,440,428,059円（13.4%）、総務費5,814,595,650円（53.2%）、衛生費2,538,046,535円（29.2%）、公債費437,687,398円（2.9%）であり、減少した主なものは、商工費40,038,518,216円（72.6%）、土木費1,507,949,895円（8.0%）、教育費565,003,437円（3.7%）、消防費448,810,178円（9.9%）である。

款 別 歳 出 の 構 成

（単位：円・%）

| 科 目 | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 対 前 年 度 比 較 | |
|---------------|-----------------|---------|-----------------|---------|------------------|---------|
| | 支 出 済 額 | 構 成 比 率 | 支 出 済 額 | 構 成 比 率 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 1 議 会 費 | 639,883,501 | 0.4 | 636,457,512 | 0.3 | 3,425,989 | 0.5 |
| 2 総 務 費 | 16,743,509,606 | 10.4 | 10,928,913,956 | 5.8 | 5,814,595,650 | 53.2 |
| 3 民 生 費 | 63,081,568,206 | 39.0 | 55,641,140,147 | 29.6 | 7,440,428,059 | 13.4 |
| 4 衛 生 費 | 11,224,436,830 | 6.9 | 8,686,390,295 | 4.6 | 2,538,046,535 | 29.2 |
| 5 労 働 費 | 362,274,470 | 0.2 | 488,179,099 | 0.3 | △ 125,904,629 | △ 25.8 |
| 6 農 林 水 産 業 費 | 2,637,509,185 | 1.6 | 2,528,923,035 | 1.3 | 108,586,150 | 4.3 |
| 7 商 工 費 | 15,130,608,545 | 9.4 | 55,169,126,761 | 29.4 | △ 40,038,518,216 | △ 72.6 |
| 8 土 木 費 | 17,312,306,220 | 10.7 | 18,820,256,115 | 10.0 | △ 1,507,949,895 | △ 8.0 |
| 9 消 防 費 | 4,075,398,964 | 2.5 | 4,524,209,142 | 2.4 | △ 448,810,178 | △ 9.9 |
| 10 教 育 費 | 14,658,087,927 | 9.1 | 15,223,091,364 | 8.1 | △ 565,003,437 | △ 3.7 |
| 11 災 害 復 旧 費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 12 公 債 費 | 15,776,238,838 | 9.8 | 15,338,551,440 | 8.2 | 437,687,398 | 2.9 |
| 合 計 | 161,641,822,292 | 100 | 187,985,238,866 | 100 | △ 26,343,416,574 | △ 14.0 |

性質別経費の構成

(単位：千円・%)

| 区 分 | | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 対 前 年 度 比 較 | |
|----------------------------|-----------|-------------|---------|-------------|---------|--------------|---------|
| | | 支 出 済 額 | 構 成 比 率 | 支 出 済 額 | 構 成 比 率 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 義 務 的 経 費 | 人 件 費 | 21,528,432 | 13.3 | 21,221,420 | 11.3 | 307,012 | 1.4 |
| | 扶 助 費 | 42,241,182 | 26.1 | 34,045,786 | 18.1 | 8,195,396 | 24.1 |
| | 公 債 費 | 15,776,239 | 9.8 | 15,338,551 | 8.2 | 437,688 | 2.9 |
| | 小 計 | 79,545,853 | 49.2 | 70,605,757 | 37.6 | 8,940,096 | 12.7 |
| 投 資 的 経 費 | 普通建設事業費 | 19,305,296 | 12.0 | 18,821,870 | 10.0 | 483,426 | 2.6 |
| | 災 害 復 旧 費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | 小 計 | 19,305,296 | 12.0 | 18,821,870 | 10.0 | 483,426 | 2.6 |
| そ の 他 の 経 費 | 物 件 費 | 21,476,984 | 13.3 | 20,410,967 | 10.8 | 1,066,017 | 5.2 |
| | 維 持 補 修 費 | 1,133,025 | 0.7 | 902,943 | 0.5 | 230,082 | 25.5 |
| | 補 助 費 等 | 11,603,082 | 7.2 | 47,846,144 | 25.4 | △ 36,243,062 | △ 75.7 |
| | 積 立 金 | 4,405,915 | 2.7 | 1,241,847 | 0.7 | 3,164,068 | 254.8 |
| | 投資及び出資金 | 5,162 | 0.0 | 4,019 | 0.0 | 1,143 | 28.4 |
| | 貸 付 金 | 11,827,980 | 7.3 | 15,610,301 | 8.3 | △ 3,782,321 | △ 24.2 |
| | 繰 出 金 | 12,338,525 | 7.6 | 12,541,391 | 6.7 | △ 202,866 | △ 1.6 |
| | 小 計 | 62,790,673 | 38.8 | 98,557,612 | 52.4 | △ 35,766,939 | △ 36.3 |
| 合 計 | | 161,641,822 | 100 | 187,985,239 | 100 | △ 26,343,417 | △ 14.0 |

性質別経費について、義務的経費の決算額は79,545,853千円で、前年度と比較すると8,940,096千円(12.7%)の増加となっている。

これは、子育て世帯臨時特別給付金事業等の扶助費8,195,396千円(24.1%)、公債費437,688千円(2.9%)、人件費307,012千円(1.4%)の増によるものである。

投資的経費の決算額は19,305,296千円で、前年度と比較すると483,426千円(2.6%)の増加となっている。

これは、市庁舎整備事業等の増により普通建設事業費483,426千円(2.6%)が増加したことによるものである。

その他の経費の決算額は 62,790,673 千円で、前年度と比較すると 35,766,939 千円（36.3%）の減少となっている。

これは主として、特別定額給付金事業等の減により補助費等 36,243,062 千円（75.7%）、特別融資預託金等の減により貸付金 3,782,321 千円（24.2%）が減少したことによるものである。

歳出の各款別の支出状況及び前年度比較を示すと次のとおりである。

第 1 款 議 会 費

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌 年 度 繰 越 額 | 不 用 額 | 執 行 率 |
|---------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------|
| 3 年 度 | 649,448,000 | 639,883,501 | 0 | 9,564,499 | 98.5 |
| 2 年 度 | 653,171,000 | 636,457,512 | 0 | 16,713,488 | 97.4 |
| 増 減 | △ 3,723,000 | 3,425,989 | 0 | △ 7,148,989 | 1.1 |
| 増 減 比 率 | △ 0.6 | 0.5 | — | △ 42.8 | — |

支出済額は 639,883,501 円で、予算現額に対する執行率は 98.5%である。

支出済額を前年度と比較すると 3,425,989 円（0.5%）の増加となっている。

不用額は 9,564,499 円で、この主なものは、政務活動費の負担金、補助及び交付金 6,868,188 円である。

○主な事業等と支出済額

・政務活動費 34,171,812 円

第 2 款 総 務 費

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌 年 度 繰 越 額 | 不 用 額 | 執 行 率 |
|---------|----------------|----------------|-------------|--------------|-------|
| 3 年 度 | 17,681,145,250 | 16,743,509,606 | 659,336,000 | 278,299,644 | 94.7 |
| 2 年 度 | 11,374,574,000 | 10,928,913,956 | 136,318,250 | 309,341,794 | 96.1 |
| 増 減 | 6,306,571,250 | 5,814,595,650 | 523,017,750 | △ 31,042,150 | △ 1.4 |
| 増 減 比 率 | 55.4 | 53.2 | 383.7 | △ 10.0 | — |

- ・ 3 年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額 136,318,250 円を含む。
- ・ 2 年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額 1,800,000 円を含む。

支出済額の内訳及び主な増減

(単位：円・%)

| 科 目 等 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | | |
|------------------|----------------|---------------|---------------|---------------|-------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 | |
| 総 務 管 理 費 | 14,562,972,450 | 8,568,123,763 | 5,994,848,687 | 70.0 | |
| 主 な 増 減 | 一 般 管 理 費 | 3,678,255,171 | 3,757,548,386 | △ 79,293,215 | △ 2.1 |
| | 財 政 管 理 費 | 3,974,938,941 | 5,237,399 | 3,969,701,542 | 約759倍 |
| | 財 産 管 理 費 | 2,542,801,557 | 521,207,292 | 2,021,594,265 | 387.9 |
| | 企 画 費 | 1,092,915,254 | 908,132,073 | 184,783,181 | 20.3 |
| | 支 所 費 | 575,967,802 | 620,478,784 | △ 44,510,982 | △ 7.2 |
| 徴 税 費 | 1,168,246,274 | 1,219,244,026 | △ 50,997,752 | △ 4.2 | |
| ※ 徴 収 費 | 243,422,951 | 280,602,370 | △ 37,179,419 | △ 13.2 | |
| 戸籍住民基本台帳費 | 706,124,204 | 638,700,544 | 67,423,660 | 10.6 | |
| 選 挙 費 | 153,773,481 | 211,160,299 | △ 57,386,818 | △ 27.2 | |
| ※ | 国 選 挙 費 | 87,768,470 | 0 | 87,768,470 | 皆増 |
| | 市 選 挙 費 | 0 | 152,147,676 | △ 152,147,676 | 皆減 |
| 統 計 調 査 費 | 47,708,345 | 194,619,147 | △ 146,910,802 | △ 75.5 | |
| ※ 基 幹 統 計 費 | 12,647,915 | 135,113,192 | △ 122,465,277 | △ 90.6 | |
| 監 査 委 員 費 | 104,684,852 | 97,066,177 | 7,618,675 | 7.8 | |

・「※」は主な増減

支出済額は16,743,509,606円で、予算現額に対する執行率は94.7%である。

支出済額を前年度と比較すると5,814,595,650円(53.2%)の増加となっている。

翌年度繰越額は659,336,000円で、これは、市庁舎整備事業637,351,000円、交通政策推進事業15,000,000円、住民基本台帳管理事業6,985,000円の繰越明許費である。

不用額は278,299,644円で、この主なものは、でまんど相乗りタクシー運営事業の報償費23,910,220円、情報システム運用事業の委託料21,744,096円、過年度支出(徴収費)の償還金、利子及び割引料16,684,902円である。

○主な事業等と支出済額

- ・ 財政管理事業 3,974,938,941円
- ・ 市庁舎整備事業 2,191,409,980円
- ・ 情報システム運用事業 453,809,979円
- ・ ふるさと前橋応援事業 439,311,396円
- ・ 自治会一括交付金 438,315,000円

第3款 民生費

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌 年 度 繰 越 額 | 不 用 額 | 執行率 |
|-------|----------------|----------------|-------------|---------------|-------|
| 3 年 度 | 64,967,023,000 | 63,081,568,206 | 407,500,569 | 1,477,954,225 | 97.1 |
| 2 年 度 | 57,100,672,000 | 55,641,140,147 | 3,946,000 | 1,455,585,853 | 97.4 |
| 増 減 | 7,866,351,000 | 7,440,428,059 | 403,554,569 | 22,368,372 | △ 0.3 |
| 増減比率 | 13.8 | 13.4 | 約103倍 | 1.5 | — |

- ・ 3年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額3,946,000円を含む。
- ・ 2年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額630,299,000円を含む。

支出済額の内訳及び主な増減

(単位：円・%)

| 科 目 等 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | | |
|------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|--------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 | |
| 社 会 福 祉 費 | 27,159,145,660 | 23,831,928,303 | 3,327,217,357 | 14.0 | |
| 主 な 増 減 | 社会福祉総務費 | 4,218,877,182 | 942,126,410 | 3,276,750,772 | 347.8 |
| | 障害者自立支援給付費 | 6,108,939,433 | 5,856,961,233 | 251,978,200 | 4.3 |
| | 障害者自立支援事業費 | 422,726,804 | 815,443,855 | △ 392,717,051 | △ 48.2 |
| | 福祉医療費 | 2,628,785,808 | 2,390,515,686 | 238,270,122 | 10.0 |
| | 老人福祉費 | 1,233,485,646 | 1,460,276,077 | △ 226,790,431 | △ 15.5 |
| | 国民健康保険費 | 2,439,018,770 | 2,515,117,648 | △ 76,098,878 | △ 3.0 |
| | 後期高齢者医療費 | 4,519,016,248 | 4,395,777,931 | 123,238,317 | 2.8 |
| | 介護保険費 | 4,960,301,561 | 4,817,178,433 | 143,123,128 | 3.0 |
| 児 童 福 祉 費 | 28,198,160,789 | 24,136,557,870 | 4,061,602,919 | 16.8 | |
| 主 な 増 減 | 児童福祉総務費 | 14,339,583,728 | 10,208,312,839 | 4,131,270,889 | 40.5 |
| | 保育施設費 | 12,738,082,766 | 12,608,981,967 | 129,100,799 | 1.0 |
| | 保育施設整備費 | 1,049,785,003 | 1,256,638,782 | △ 206,853,779 | △ 16.5 |
| 生 活 保 護 費 | 7,724,261,757 | 7,672,653,974 | 51,607,783 | 0.7 | |
| ※ | 生活保護総務費 | 747,252,857 | 592,293,997 | 154,958,860 | 26.2 |
| 災 害 救 助 費 | 0 | 0 | 0 | — | |

- ・ 「※」は主な増減

支出済額は63,081,568,206円で、予算現額に対する執行率は97.1%である。

支出済額を前年度と比較すると7,440,428,059円(13.4%)の増加となっている。

翌年度繰越額は407,500,569円で、これは、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金給付事業306,348,569円、障害福祉関係施設整備事業47,552,000円、地域密着型サービス整備事業33,600,000円、子育て世帯臨時特別給付金事業20,000,000円の繰越明許費である。

不用額は1,477,954,225円で、この主なものは、子育て世帯臨時特別給付金事業の負担金、補助及び交付金128,750,000円、生活保護費支給事業の扶助費122,284,764円、福祉医療費支給事業の扶助費118,990,755円、介護給付費・訓練等給付費の扶助費116,279,767円、介護保険特別会計への繰出金111,509,656円、障害児通所支援事業の扶助費90,746,310円である。

○主な事業等と支出済額

| | |
|---------------------------|----------------|
| ・認定こども園施設給付事業 | 7,228,460,828円 |
| ・生活保護費支給事業 | 6,977,008,900円 |
| ・介護給付費・訓練等給付費 | 5,579,089,689円 |
| ・介護保険特別会計繰出金 | 4,935,694,344円 |
| ・子育て世帯臨時特別給付金事業 | 4,635,638,455円 |
| ・児童手当支給事業 | 4,547,412,863円 |
| ・住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金給付事業 | 3,393,741,548円 |
| ・後期高齢者医療広域連合医療費負担金 | 3,297,376,231円 |
| ・福祉医療費支給事業 | 2,578,356,245円 |
| ・保育所委託事業 | 2,399,606,808円 |
| ・保険基盤安定制度繰出金（国民健康保険特別会計） | 1,773,589,511円 |
| ・障害児通所支援事業 | 1,581,106,072円 |
| ・児童扶養手当支給事業 | 1,145,167,527円 |
| ・民間保育所施設整備補助事業 | 845,783,613円 |
| ・保険基盤安定制度繰出金（後期高齢者医療特別会計） | 823,467,288円 |
| ・国民健康保険特別会計繰出金 | 665,087,759円 |
| ・民間児童クラブ運営事業 | 628,534,049円 |
| ・公設児童クラブ運営事業 | 493,350,083円 |

第4款 衛生費

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌 年 度 繰 越 額 | 不 用 額 | 執 行 率 |
|-------|----------------|----------------|-------------|-------------|-------|
| 3 年 度 | 11,816,361,000 | 11,224,436,830 | 1,870,000 | 590,054,170 | 95.0 |
| 2 年 度 | 9,112,816,000 | 8,686,390,295 | 3,560,000 | 422,865,705 | 95.3 |
| 増 減 | 2,703,545,000 | 2,538,046,535 | △ 1,690,000 | 167,188,465 | △ 0.3 |
| 増減比率 | 29.7 | 29.2 | △ 47.5 | 39.5 | — |

- ・3年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額3,560,000円を含む。
- ・2年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額8,206,000円を含む。

支出済額の内訳及び主な増減

(単位：円・%)

| 科 目 等 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|------------------|-----------|---------------|---------------|---------------|--------|
| | | | | 増 減 額 | 増減比率 |
| 保 健 費 | | 6,358,176,112 | 3,801,119,977 | 2,557,056,135 | 67.3 |
| 内 訳 | 保 健 総 務 費 | 2,948,648,500 | 2,584,936,765 | 363,711,735 | 14.1 |
| | 予 防 費 | 3,183,562,941 | 1,082,453,110 | 2,101,109,831 | 194.1 |
| | 診 療 所 費 | 225,964,671 | 133,730,102 | 92,234,569 | 69.0 |
| 衛 生 費 | | 222,898,234 | 246,583,484 | △ 23,685,250 | △ 9.6 |
| ※ | 斎 場 費 | 196,371,631 | 225,035,752 | △ 28,664,121 | △ 12.7 |
| 保 健 所 費 | | 864,566,537 | 490,168,375 | 374,398,162 | 76.4 |
| 清 掃 費 | | 3,778,795,947 | 4,148,518,459 | △ 369,722,512 | △ 8.9 |
| 主 な 増 減 | 清 掃 総 務 費 | 1,099,282,268 | 1,141,789,011 | △ 42,506,743 | △ 3.7 |
| | ご み 焼 却 費 | 660,941,603 | 910,224,014 | △ 249,282,411 | △ 27.4 |
| | し 尿 処 理 費 | 372,219,078 | 446,641,258 | △ 74,422,180 | △ 16.7 |

・「※」は主な増減

支出済額は11,224,436,830円で、予算現額に対する執行率は95.0%である。

支出済額を前年度と比較すると2,538,046,535円(29.2%)の増加となっている。

翌年度繰越額は1,870,000円で、これは、荻窪清掃工場運営事業858,000円、最終処分場維持整備事業792,000円、清掃施設管理事業220,000円の事故繰越しである。

不用額は590,054,170円で、この主なものは、新型コロナウイルスワクチン接種事業の委託料134,535,467円、し尿処理施設管理事業の負担金、補助及び交付金67,301,208円、予防接種事業の委託料57,516,510円、感染症予防事業の負担金、補助及び交付金40,564,715円、母子保健医療給付等助成事業の負担金、補助及び交付金23,602,451円である。

○主な事業等と支出済額

- ・新型コロナウイルスワクチン接種事業 2,270,679,377円
- ・がん検診事業 1,088,119,417円
- ・予防接種事業 898,818,564円
- ・ごみ分別収集運搬事業 852,979,929円
- ・感染症予防事業 492,766,068円
- ・六供清掃工場運営事業 381,745,526円
- ・乳幼児等健康診査事業 274,338,543円
- ・し尿処理施設管理事業 245,367,172円
- ・六供清掃工場維持整備事業 242,787,600円
- ・夜間急病診療所運営事業 225,964,671円 (うち繰越明許分 3,560,000円)

第5款 労働費

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌 年 度 繰 越 額 | 不 用 額 | 執 行 率 |
|-------|---------------|---------------|-------------|------------|-------|
| 3 年 度 | 397,869,000 | 362,274,470 | 0 | 35,594,530 | 91.1 |
| 2 年 度 | 517,867,000 | 488,179,099 | 0 | 29,687,901 | 94.3 |
| 増 減 | △ 119,998,000 | △ 125,904,629 | 0 | 5,906,629 | △ 3.2 |
| 増減比率 | △ 23.2 | △ 25.8 | — | 19.9 | — |

支 出 済 額 の 内 訳

(単位：円・%)

| 科 目 等 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|---------|-------------|-------------|---------------|--------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 |
| 労 働 諸 費 | 362,274,470 | 488,179,099 | △ 125,904,629 | △ 25.8 |

支出済額は362,274,470円で、予算現額に対する執行率は91.1%である。

支出済額を前年度と比較すると125,904,629円(25.8%)の減少となっている。

不用額は35,594,530円で、この主なものは、テルサ管理事業の委託料15,304,402円、雇用対策事業の負担金、補助及び交付金11,398,000円、テルサ管理事業の使用料及び賃借料7,050,500円、高等職業訓練校運営補助事業の負担金、補助及び交付金1,100,000円である。

○主な事業等と支出済額

- ・テルサ管理事業 259,462,098円
- ・雇用対策事業 71,413,472円
- ・勤労者住宅資金預託金 12,808,000円
- ・高等職業訓練校運営補助事業 8,653,000円

第6款 農林水産業費

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌 年 度 繰 越 額 | 不 用 額 | 執 行 率 |
|-------|---------------|---------------|--------------|-------------|-------|
| 3 年 度 | 3,222,731,000 | 2,637,509,185 | 489,119,000 | 96,102,815 | 81.8 |
| 2 年 度 | 3,175,795,000 | 2,528,923,035 | 549,151,000 | 97,720,965 | 79.6 |
| 増 減 | 46,936,000 | 108,586,150 | △ 60,032,000 | △ 1,618,150 | 2.2 |
| 増減比率 | 1.5 | 4.3 | △ 10.9 | △ 1.7 | — |

・3年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額549,151,000円を含む。

・2年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額32,470,000円を含む。

支出済額の内訳及び主な増減

(単位：円・%)

| 科目等 | | 3年度 | 2年度 | 対前年度比較 | |
|------|-----------|---------------|---------------|--------------|--------|
| | | | | 増減額 | 増減比率 |
| 農業費 | | 2,435,601,576 | 2,358,394,037 | 77,207,539 | 3.3 |
| 主な増減 | 農業総務費 | 497,192,525 | 464,621,005 | 32,571,520 | 7.0 |
| | 農業振興費 | 61,969,959 | 79,045,688 | △ 17,075,729 | △ 21.6 |
| | 生産流通費 | 26,254,095 | 39,731,142 | △ 13,477,047 | △ 33.9 |
| | 畜産業費 | 172,942,897 | 54,325,766 | 118,617,131 | 218.3 |
| | 農村整備費 | 813,487,959 | 873,359,438 | △ 59,871,479 | △ 6.9 |
| | 農村総合整備対策費 | 674,579,890 | 656,805,499 | 17,774,391 | 2.7 |
| 林業費 | | 200,673,109 | 169,754,098 | 30,919,011 | 18.2 |
| 水産業費 | | 1,234,500 | 774,900 | 459,600 | 59.3 |

支出済額は2,637,509,185円で、予算現額に対する執行率は81.8%である。

支出済額を前年度と比較すると108,586,150円(4.3%)の増加となっている。

翌年度繰越額は489,119,000円で、これは、農業農村整備事業24,200,000円、水利施設整備事業6,445,000円、園芸振興推進事業2,361,000円、農業委員会運営事業1,161,000円の繰越明許費と畜産振興推進事業454,952,000円の事故繰越しである。

不用額は96,102,815円で、この主なものは、園芸振興推進事業の負担金、補助及び交付金15,848,200円、家畜防疫対策事業の負担金、補助及び交付金13,430,463円、森林整備推進事業の委託料9,489,650円である。

○主な事業等と支出済額

- ・ 農業集落排水事業特別会計繰出金 674,579,890円
- ・ 市単独農業土木事業 159,237,512円
- ・ 多面的機能支払交付金 155,083,240円

第7款 商工費

(単位：円・%)

| 区分 | 予算現額 | 支出済額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|------|------------------|------------------|------------|---------------|-------|
| 3年度 | 16,544,070,000 | 15,130,608,545 | 39,584,000 | 1,373,877,455 | 91.5 |
| 2年度 | 55,601,688,000 | 55,169,126,761 | 1,117,000 | 431,444,239 | 99.2 |
| 増減 | △ 39,057,618,000 | △ 40,038,518,216 | 38,467,000 | 942,433,216 | △ 7.7 |
| 増減比率 | △ 70.2 | △ 72.6 | 約35倍 | 218.4 | — |

- ・ 3年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額1,117,000円を含む。
- ・ 2年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額17,830,000円を含む。

支出済額の内訳及び主な増減

(単位：円・%)

| 科目等 | | 3年度 | 2年度 | 対前年度比較 | |
|------|-------|----------------|----------------|------------------|--------|
| | | | | 増減額 | 増減比率 |
| 商工費 | | 15,130,608,545 | 55,169,126,761 | △ 40,038,518,216 | △ 72.6 |
| 主な増減 | 商工総務費 | 481,452,578 | 34,296,739,110 | △ 33,815,286,532 | △ 98.6 |
| | 商業振興費 | 11,731,754,328 | 18,615,962,636 | △ 6,884,208,308 | △ 37.0 |
| | 観光費 | 1,407,431,636 | 198,057,921 | 1,209,373,715 | 610.6 |

支出済額は15,130,608,545円で、予算現額に対する執行率は91.5%である。

支出済額を前年度と比較すると40,038,518,216円(72.6%)の減少となっている。

翌年度繰越額は39,584,000円で、これは、上武道路「道の駅」設置事業5,700,000円、経営支援事業3,339,000円の繰越明許費と生鮮食料品総合卸売市場健全運営促進事業30,545,000円の事故繰越しである。

不用額は1,373,877,455円で、この主なものは、特別融資預託金897,565,000円、小口資金融資預託金120,950,000円、起業家独立開業支援融資預託金90,303,000円、上武道路「道の駅」設置事業の負担金、補助及び交付金26,063,000円、季節資金融資預託金25,500,000円、企業誘致等促進事業の負担金、補助及び交付金24,569,000円である。

○主な事業等と支出済額

- ・特別融資預託金 8,975,656,000円
- ・小口資金融資預託金 1,209,500,000円
- ・上武道路「道の駅」設置事業 1,145,915,000円
- ・起業家独立開業支援融資預託金 840,699,000円
- ・中小企業経営振興資金補助事業 347,829,222円
- ・季節資金融資預託金 255,000,000円
- ・企業誘致等促進事業 181,609,115円
- ・短期サポート資金融資預託金 179,000,000円
- ・企業設備資金融資預託金 156,693,000円
- ・前橋プラザ元気21活用運営事業 153,792,590円
- ・経営支援事業 147,366,000円 (うち繰越明許分 971,000円)
事故繰越し分 146,000円)
- ・観光コンベンション協会補助事業 117,669,990円
- ・市営立体駐車場管理運営事業 116,683,527円

第8款 土木費

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 |
|-------|-----------------|-----------------|---------------|---------------|------|
| 3 年 度 | 21,570,972,105 | 17,312,306,220 | 3,759,253,233 | 499,412,652 | 80.3 |
| 2 年 度 | 23,516,785,221 | 18,820,256,115 | 4,080,715,105 | 615,814,001 | 80.0 |
| 増 減 | △ 1,945,813,116 | △ 1,507,949,895 | △ 321,461,872 | △ 116,401,349 | 0.3 |
| 増減比率 | △ 8.3 | △ 8.0 | △ 7.9 | △ 18.9 | — |

- ・ 3年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額4,080,715,105円を含む。
- ・ 2年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額3,109,600,121円を含む。

支出済額の内訳及び主な増減

(単位：円・%)

| 科 目 等 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|------------------|---------------|----------------|----------------|-----------------|--------|
| | | | | 増 減 額 | 増減比率 |
| 道 路 橋 り よ う 費 | | 5,509,400,120 | 7,168,214,079 | △ 1,658,813,959 | △ 23.1 |
| 主 な 増 減 | 道 路 維 持 費 | 1,856,037,456 | 1,907,043,495 | △ 51,006,039 | △ 2.7 |
| | 道 路 新 設 改 良 費 | 2,407,428,001 | 4,200,633,263 | △ 1,793,205,262 | △ 42.7 |
| | 橋 り よ う 維 持 費 | 540,198,309 | 336,532,549 | 203,665,760 | 60.5 |
| 河 川 費 | | 28,964,807 | 39,430,771 | △ 10,465,964 | △ 26.5 |
| 都 市 計 画 費 | | 10,456,026,859 | 10,264,745,181 | 191,281,678 | 1.9 |
| 主 な 増 減 | 都 市 計 画 総 務 費 | 103,906,542 | 195,475,298 | △ 91,568,756 | △ 46.8 |
| | 土 地 区 画 整 理 費 | 3,403,059,051 | 3,449,163,734 | △ 46,104,683 | △ 1.3 |
| | 街 路 事 業 費 | 673,026,695 | 818,778,544 | △ 145,751,849 | △ 17.8 |
| | 公 共 下 水 道 費 | 2,758,616,541 | 2,881,523,437 | △ 122,906,896 | △ 4.3 |
| | 公 園 費 | 1,808,587,318 | 2,104,675,058 | △ 296,087,740 | △ 14.1 |
| | 嶺 公 園 費 | 109,855,771 | 208,817,603 | △ 98,961,832 | △ 47.4 |
| | 都 市 整 備 費 | 1,502,637,026 | 489,018,639 | 1,013,618,387 | 207.3 |
| 建 築 費 | | 384,174,951 | 365,564,548 | 18,610,403 | 5.1 |
| 住 宅 費 | | 933,739,483 | 982,301,536 | △ 48,562,053 | △ 4.9 |
| ※ | 市 営 住 宅 建 設 費 | 340,815,607 | 365,265,977 | △ 24,450,370 | △ 6.7 |

- ・ 「※」は主な増減

支出済額は17,312,306,220円で、予算現額に対する執行率は80.3%である。

支出済額を前年度と比較すると1,507,949,895円(8.0%)の減少となっている。

翌年度繰越額は3,759,253,233円で、この主なものは、中心市街地再生事業1,189,494,796円、元総社蒼海土地区画整理事業523,160,038円、橋りょう長寿命化修繕計画事業341,017,386円、文京町四丁目土地区画整理事業215,337,300円、駒形第一土地区画整理事業200,276,831円、市

道00-028号線（群大附中通線）整備事業 102,031,927 円の繰越明許費と二中地区（第一）土地区画整理事業 27,550,600 円、総合運動公園整備事業 26,958,000 円の事故繰越しである。

不用額は 499,412,652 円で、この主なものは、雨水処理経費等負担金（他会計負担金）178,983,429 円、中央児童遊園管理運営事業の補償、補填及び賠償金 24,727,931 円、道水路補修改良事業の工事請負費 16,713,325 円、中央児童遊園管理運営事業の委託料 12,316,590 円、ふれあい館管理運営事業の補償、補填及び賠償金 9,076,571 円である。

○主な事業等と支出済額

| | | | |
|----------------------|-----------------|----------|----------------|
| ・雨水処理経費等負担金 | 2,496,917,743 円 | | |
| ・道水路補修改良事業 | 1,338,966,462 円 | （うち繰越明許分 | 24,319,000 円） |
| ・中心市街地再生事業 | 928,811,633 円 | （うち繰越明許分 | 738,739,569 円） |
| ・元総社蒼海土地区画整理事業 | 849,620,947 円 | （うち繰越明許分 | 487,059,100 円 |
| | | 事故繰越し分 | 12,865,900 円） |
| ・駒形第一土地区画整理事業 | 587,376,850 円 | （うち繰越明許分 | 335,832,600 円） |
| ・文京町四丁目土地区画整理事業 | 556,707,293 円 | （うち繰越明許分 | 239,532,500 円） |
| ・市営住宅管理運営事業 | 543,327,109 円 | | |
| ・橋りょう長寿命化修繕計画事業 | 537,345,820 円 | （うち繰越明許分 | 121,111,960 円） |
| ・二中地区（第一）土地区画整理事業 | 418,257,887 円 | （うち繰越明許分 | 296,072,228 円 |
| | | 事故繰越し分 | 39,780,800 円） |
| ・C C R C 整備事業 | 389,485,182 円 | （うち繰越明許分 | 16,150,500 円） |
| ・舗装長寿命化修繕計画事業 | 385,231,000 円 | （うち繰越明許分 | 57,101,000 円） |
| ・江田天川大島線（Ⅲ期） | 329,685,537 円 | （うち繰越明許分 | 182,004,983 円 |
| | | 事故繰越し分 | 17,812,000 円） |
| ・駒寄スマート I C 周辺道路整備事業 | 319,862,794 円 | （うち繰越明許分 | 90,761,169 円） |

第9款 消 防 費

（単位：円・％）

| 区 分 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 |
|-------|---------------|---------------|-------------|------------|-------|
| 3 年 度 | 4,144,489,300 | 4,075,398,964 | 0 | 69,090,336 | 98.3 |
| 2 年 度 | 4,592,228,000 | 4,524,209,142 | 3,556,300 | 64,462,558 | 98.5 |
| 増 減 | △ 447,738,700 | △ 448,810,178 | △ 3,556,300 | 4,627,778 | △ 0.2 |
| 増減比率 | △ 9.7 | △ 9.9 | 皆減 | 7.2 | — |

・3年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額3,556,300円を含む。

支 出 済 額 の 内 訳

(単位：円・%)

| 科 目 等 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | | |
|-------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 | |
| 消 防 費 | 4,075,398,964 | 4,524,209,142 | △ 448,810,178 | △ 9.9 | |
| 内 訳 | 常 備 消 防 費 | 3,658,954,188 | 3,749,497,878 | △ 90,543,690 | △ 2.4 |
| | 非 常 備 消 防 費 | 187,005,141 | 198,428,597 | △ 11,423,456 | △ 5.8 |
| | 消 防 施 設 費 | 173,208,554 | 494,045,856 | △ 320,837,302 | △ 64.9 |
| | 水 防 費 | 343,286 | 452,320 | △ 109,034 | △ 24.1 |
| | 災 害 対 策 費 | 55,887,795 | 81,784,491 | △ 25,896,696 | △ 31.7 |

支出済額は4,075,398,964円で、予算現額に対する執行率は98.3%である。

支出済額を前年度と比較すると448,810,178円(9.9%)の減少となっている。

不用額は69,090,336円で、この主なものは、消防団運営事業の旅費4,438,300円、消火栓整備事業の負担金、補助及び交付金4,274,615円、消防団車庫詰所整備管理事業の工事請負費3,460,000円である。

○主な事業等と支出済額

| | |
|-------------|--------------|
| ・消防団運営事業 | 134,096,721円 |
| ・消防局・署運営事業 | 123,352,939円 |
| ・消防車両整備事業 | 104,843,460円 |
| ・通信指令施設管理事業 | 88,222,078円 |
| ・消火栓整備事業 | 49,034,385円 |
| ・警防機械器具管理事業 | 35,147,677円 |

第10款 教 育 費

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 |
|-------|-----------------|----------------|---------------|---------------|------|
| 3 年 度 | 17,493,134,338 | 14,658,087,927 | 2,016,613,000 | 818,433,411 | 83.8 |
| 2 年 度 | 19,426,867,000 | 15,223,091,364 | 2,759,523,338 | 1,444,252,298 | 78.4 |
| 増 減 | △ 1,933,732,662 | △ 565,003,437 | △ 742,910,338 | △ 625,818,887 | 5.4 |
| 増減比率 | △ 10.0 | △ 3.7 | △ 26.9 | △ 43.3 | — |

- ・3年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額2,759,523,338円を含む。
- ・2年度の予算現額は前年度繰越事業費繰越額2,330,355,000円を含む。

支出済額の内訳及び主な増減

(単位：円・%)

| 科目等 | 3年度 | 2年度 | 対前年度比較 | |
|------------|---------------|---------------|-----------------|--------|
| | | | 増減額 | 増減比率 |
| 教育総務費 | 2,754,140,966 | 3,703,000,279 | △ 948,859,313 | △ 25.6 |
| ※ 事務局費 | 1,836,530,124 | 3,044,910,785 | △ 1,208,380,661 | △ 39.7 |
| 教育指導費 | 838,382,456 | 540,584,254 | 297,798,202 | 55.1 |
| 小学校費 | 3,288,737,346 | 1,876,527,007 | 1,412,210,339 | 75.3 |
| ※ 学校建設費 | 1,926,243,794 | 545,617,600 | 1,380,626,194 | 253.0 |
| 中学校費 | 924,880,773 | 2,054,495,570 | △ 1,129,614,797 | △ 55.0 |
| ※ 学校管理費 | 517,987,202 | 555,246,984 | △ 37,259,782 | △ 6.7 |
| 学校建設費 | 252,142,000 | 1,350,448,280 | △ 1,098,306,280 | △ 81.3 |
| 特別支援学校費 | 80,012,656 | 67,262,636 | 12,750,020 | 19.0 |
| 高等学校費 | 570,516,030 | 642,070,352 | △ 71,554,322 | △ 11.1 |
| ※ 学校管理費 | 557,555,848 | 621,757,628 | △ 64,201,780 | △ 10.3 |
| 幼稚園費 | 202,825,103 | 215,132,317 | △ 12,307,214 | △ 5.7 |
| 社会教育費 | 1,728,716,845 | 1,699,261,040 | 29,455,805 | 1.7 |
| ※ 図書館費 | 406,391,239 | 371,185,945 | 35,205,294 | 9.5 |
| 保健体育費 | 3,699,603,239 | 3,601,229,858 | 98,373,381 | 2.7 |
| 内訳 保健体育総務費 | 1,137,754,376 | 1,276,791,717 | △ 139,037,341 | △ 10.9 |
| 学校給食管理費 | 1,354,916,914 | 1,228,587,573 | 126,329,341 | 10.3 |
| 共同調理場費 | 1,206,931,949 | 1,095,850,568 | 111,081,381 | 10.1 |
| 青少年費 | 398,801,379 | 391,517,805 | 7,283,574 | 1.9 |
| 大学費 | 1,009,853,590 | 972,594,500 | 37,259,090 | 3.8 |

・「※」は主な増減

支出済額は14,658,087,927円で、予算現額に対する執行率は83.8%である。

支出済額を前年度と比較すると565,003,437円(3.7%)の減少となっている。

翌年度繰越額は2,016,613,000円で、この主なものは、校舎等大規模改修事業(小学校費)1,449,002,000円、校舎等大規模改修事業(中学校費)326,204,000円、教育施設管理運営事業72,000,000円、永明公民館整備事業60,680,000円、高等学校運営事業57,464,000円の繰越明許費である。

不用額は818,433,411円で、この主なものは、校舎等大規模改修事業(小学校費)の工事請負費434,625,706円、校舎等大規模改修事業(中学校費)の工事請負費48,882,500円、学校給食実施事業の需用費44,309,601円、教育施設管理運営事業の工事請負費33,209,000円である。

○主な事業等と支出済額

| | | |
|-------------------|-----------------|---------------------------|
| ・校舎等大規模改修事業（小学校費） | 1,815,953,794 円 | （うち繰越明許分 1,784,697,294 円） |
| ・学校給食実施事業 | 1,307,531,399 円 | |
| ・公立大学法人運営事業 | 1,009,853,590 円 | （うち繰越明許分 85,316,000 円） |
| ・教育情報ネットワーク管理事業 | 695,247,089 円 | |
| ・体育施設管理事業 | 656,295,371 円 | |
| ・共同調理場運営事業 | 534,903,263 円 | |
| ・小学校運営事業 | 487,778,021 円 | |
| ・永明公民館整備事業 | 409,741,060 円 | |
| ・共同調理場民間委託推進事業 | 341,495,000 円 | |
| ・施設維持管理事業（小学校費） | 335,519,913 円 | （うち繰越明許分 21,140,000 円） |
| ・情報教育推進事業 | 326,484,211 円 | |
| ・図書館管理運営事業 | 278,759,726 円 | |
| ・中学校運営事業 | 264,332,899 円 | |
| ・校舎等大規模改修事業（中学校費） | 252,142,000 円 | （うち繰越明許分 245,124,000 円） |
| ・高等学校運営事業 | 179,038,383 円 | （うち繰越明許分 2,101,330 円） |
| ・公民館運営事業 | 173,457,812 円 | |
| ・学校教育運営事業 | 164,313,217 円 | （うち繰越明許分 75,845,717 円） |

第 11 款 災害復旧費

（単位：円・％）

| 区 分 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 |
|-------|------------|---------|--------|------------|-----|
| 3 年 度 | 10,000,000 | 0 | 0 | 10,000,000 | 0 |
| 2 年 度 | 10,000,000 | 0 | 0 | 10,000,000 | 0 |
| 増 減 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 増減比率 | 0 | — | — | 0 | — |

予算現額 10,000,000 円に対し、全額が不用額となっている。

第12款 公債費

(単位：円・%)

| 区 分 | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 |
|-------|----------------|----------------|--------|-----------|-------|
| 3 年 度 | 15,777,240,000 | 15,776,238,838 | 0 | 1,001,162 | 100.0 |
| 2 年 度 | 15,339,335,000 | 15,338,551,440 | 0 | 783,560 | 100.0 |
| 増 減 | 437,905,000 | 437,687,398 | 0 | 217,602 | 0.0 |
| 増減比率 | 2.9 | 2.9 | — | 27.8 | — |

市債の借入及び償還状況

(単位：円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-----------|---------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|----------------------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 |
| 年度当初未償還残高 | 153,770,453,465 (62,792,486,455) | 154,018,529,344 (62,315,817,079) | △ 248,075,879 (476,669,376) | △ 0.2 (0.8) |
| 借 入 額 | 16,966,600,000 (7,613,300,000) | 14,201,100,000 (5,393,000,000) | 2,765,500,000 (2,220,300,000) | 19.5 (41.2) |
| 元 利 償 還 額 | 15,776,238,838 (5,342,153,688) | 15,338,333,101 (5,148,817,581) | 437,905,737 (193,336,107) | 2.9 (3.8) |
| 元 金 | 15,032,417,972 (5,177,571,064) | 14,449,175,879 (4,916,330,624) | 583,242,093 (261,240,440) | 4.0 (5.3) |
| (うち繰上償還分) | (4,972,789) | (0) | (4,972,789) | (皆増) |
| 利 子 | 743,820,866 (164,582,624) | 889,157,222 (232,486,957) | △ 145,336,356 (△ 67,904,333) | △ 16.3 (△ 29.2) |
| 年度末未償還残高 | 155,704,635,493 (65,228,215,391) | 153,770,453,465 (62,792,486,455) | 1,934,182,028 (2,435,728,936) | 1.3 (3.9) |

- ・「元利償還額」の「利子」には一時借入金利子を含まない。
- ・表中の()は臨時財政対策債に係るもので、内数を記載している。

公債費負担比率の状況

(単位：千円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|---------------|------------|------------|------------|
| 公債費に充当された一般財源 | 15,413,426 | 14,969,216 | 14,542,759 |
| 一 般 財 源 総 額 | 92,450,330 | 90,843,777 | 86,009,950 |
| 公 債 費 負 担 比 率 | 16.7 | 16.5 | 16.9 |

- ・各区分の数値は地方財政状況調査における普通会計の数値であり、普通会計は10頁普通会計決算の状況を参照

(参考) 算式

$$\text{公債費負担比率} = \frac{\text{公債費に充当された一般財源}}{\text{一 般 財 源 総 額}} \times 100$$

公 債 費 比 率 の 状 況

(単位：千円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|------------------|------------|------------|------------|
| 元 利 償 還 額 | 15,769,412 | 15,335,798 | 14,923,475 |
| 元利償還額に充当された特定財源 | 362,813 | 369,335 | 383,599 |
| 基準財政需要額に算入された公債費 | 7,778,761 | 7,637,865 | 7,511,754 |
| 標 準 財 政 規 模 | 80,615,926 | 77,436,219 | 75,828,522 |
| 公 債 費 比 率 | 10.5 | 10.5 | 10.3 |

- ・各区分の数値は地方財政状況調査における普通会計の数値であり、普通会計は10頁普通会計決算の状況を参照
- ・「元利償還額」には転貸債分、繰上償還分、一時借入金利子を含まない。
- ・「基準財政需要額に算入された公債費」は、災害復旧費等として基準財政需要額に算入された公債費の額である。

(参考) 算式

$$\text{公債費比率} = \frac{\text{元利償還額} - (\text{元利償還額に充当された特定財源} + \text{基準財政需要額に算入された公債費})}{\text{標準財政規模} - \text{基準財政需要額に算入された公債費}} \times 100$$

支出済額は 15,776,238,838 円で、予算現額に対する執行率は 100.0%である。

支出済額を前年度と比較すると 437,687,398 円 (2.9%) の増加となっている。

なお、支出済額 15,776,238,838 円は、元金償還額 15,032,417,972 円と起債前借利子 482,360 円を含む利子償還額 743,820,866 円の合計額である。

市債は、新たに 16,966,600,000 円を借り入れ、15,032,417,972 円の元金償還をした結果、未償還残高は前年度と比較すると 1,934,182,028 円 (1.3%) 増の 155,704,635,493 円となっている。

公債費に充当された一般財源の一般財源総額に対する比率である公債費負担比率は 16.7%で、前年度を 0.2 ポイント上回っており、元利償還額に充当された一般財源の標準財政規模に対する比率である公債費比率は 10.5%で、前年度と同率となっている。両比率とも低いほど財政運営に弾力性があるといわれている。

第 13 款 予 備 費

予算現額 300,000,000 円に対し、全額が不用額となっている。

付 表

一般会計節別支出状況一覧表

| 節等 | 款 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|----|-------------|-------------|----------------|----------------|----------------|-------------|---------------|----------------|----------------|
| | | 議会費 | 総務費 | 民生費 | 衛生費 | 労働費 | 農林水産業費 | 商工費 | 土木費 |
| 1 | 報酬 | 268,019,998 | 369,504,750 | 379,249,088 | 230,950,254 | 1,868,400 | 80,895,989 | 19,014,849 | 96,239,860 |
| 2 | 給料 | 62,691,900 | 2,078,064,919 | 1,546,915,769 | 937,668,689 | 0 | 255,008,844 | 184,627,087 | 976,720,751 |
| 3 | 職員手当等 | 142,537,341 | 2,650,750,222 | 896,893,808 | 663,571,851 | 219,964 | 154,826,329 | 115,317,695 | 589,789,025 |
| 4 | 共済費 | 111,590,781 | 729,778,941 | 547,679,181 | 335,511,877 | 336,935 | 86,983,115 | 63,915,531 | 327,868,942 |
| 5 | 災害補償費 | 0 | 196,398 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6 | 恩給及び退職年金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7 | 報償費 | 73,975 | 339,535,577 | 22,503,830 | 68,865,990 | 43,500 | 9,816,764 | 34,005,109 | 25,693,400 |
| 8 | 旅費 | 0 | 2,443,514 | 95,600 | 159,400 | 0 | 0 | 505,550 | 405,735 |
| 9 | 交際費 | 284,901 | 775,050 | 0 | 0 | 0 | 30,800 | 0 | 0 |
| 10 | 需用費 | 6,728,522 | 265,523,701 | 243,866,892 | 358,218,249 | 139,677 | 80,062,834 | 74,460,255 | 721,927,965 |
| 11 | 役務費 | 211,076 | 245,776,339 | 107,893,344 | 181,579,264 | 784,240 | 2,248,873 | 7,360,415 | 21,668,718 |
| 12 | 委託料 | 11,057,948 | 1,494,455,214 | 5,130,012,652 | 6,709,852,310 | 276,242,054 | 170,544,953 | 330,749,522 | 2,597,325,518 |
| 13 | 使用料及び賃借料 | 650,547 | 265,643,528 | 17,860,854 | 40,215,503 | 32,949,500 | 3,771,285 | 41,857,667 | 43,623,849 |
| 14 | 工事請負費 | 0 | 2,218,582,430 | 151,547,306 | 292,018,030 | 0 | 390,293,200 | 1,142,927,500 | 4,926,111,774 |
| 15 | 原材料費 | 0 | 0 | 1,251,994 | 5,382,876 | 0 | 0 | 0 | 11,045,386 |
| 16 | 公有財産購入費 | 0 | 0 | 0 | 43,564,180 | 0 | 1,159,200 | 0 | 473,714,715 |
| 17 | 備品購入費 | 39,600 | 8,193,842 | 12,410,950 | 30,446,259 | 0 | 1,030,975 | 316,580 | 9,846,395 |
| 18 | 負担金、補助及び交付金 | 35,996,912 | 1,461,477,823 | 21,890,887,235 | 1,158,980,015 | 36,149,400 | 725,737,484 | 1,224,118,476 | 3,752,462,430 |
| 19 | 扶助費 | 0 | 0 | 23,437,458,705 | 111,682,379 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 20 | 貸付金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13,532,000 | 0 | 11,814,448,000 | 0 |
| 21 | 補償、補填及び賠償金 | 0 | 1,189,661 | 706,477 | 2,507,512 | 0 | 122,780 | 20,174,113 | 2,253,933,275 |
| 22 | 償還金、利子及び割引料 | 0 | 207,960,682 | 423,216,820 | 43,930,616 | 0 | 227,270 | 56,451,487 | 771,010 |
| 23 | 投資及び出資金 | 0 | 0 | 0 | 5,161,976 | 0 | 0 | 0 | 482,201,172 |
| 24 | 積立金 | 0 | 4,403,093,322 | 2,440,290 | 0 | 0 | 0 | 261,109 | 0 |
| 25 | 寄附金 | 0 | 86,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 26 | 公課費 | 0 | 471,500 | 212,000 | 4,169,600 | 8,800 | 168,600 | 97,600 | 956,300 |
| 27 | 繰出金 | 0 | 6,193 | 8,268,465,411 | 0 | 0 | 674,579,890 | 0 | 0 |
| | 予備費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 合計 | 639,883,501 | 16,743,509,606 | 63,081,568,206 | 11,224,436,830 | 362,274,470 | 2,637,509,185 | 15,130,608,545 | 17,312,306,220 |
| | 構成比率 | 0.4 | 10.4 | 39.0 | 6.9 | 0.2 | 1.6 | 9.4 | 10.7 |

(注) ・翌年度繰越額のうち、需用費858,000円、工事請負費27,970,000円、公有財産購入費3,290,000円、備品購入費5,255,607円と負担金、補助及び交付金485,497,000円並びに補償、補填及び賠償金60,478,700円は事故繰越しであり、他は繰越明許費である。

(単位:円・%)

| 9 消防費 | 10 教育費 | 11 災害復旧費 | 12 公債費 | 計 | 構成比率 | 予算現額 | 翌年度繰越額 | 不用額 |
|---------------|----------------|----------|----------------|-----------------|------|-----------------|---------------|---------------|
| 64,530,600 | 865,200,344 | 0 | 0 | 2,375,474,132 | 1.5 | 2,449,090,433 | 0 | 73,616,301 |
| 1,565,932,239 | 1,464,486,910 | 0 | 0 | 9,072,117,108 | 5.6 | 9,101,530,649 | 0 | 29,413,541 |
| 1,189,976,526 | 1,090,226,418 | 0 | 0 | 7,494,109,179 | 4.7 | 7,634,094,647 | 0 | 139,985,468 |
| 560,307,336 | 553,563,713 | 0 | 0 | 3,317,536,352 | 2.1 | 3,385,852,883 | 0 | 68,316,531 |
| 0 | 949,993 | 0 | 0 | 1,146,391 | 0.0 | 1,313,148 | 0 | 166,757 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1,839,740 | 60,338,879 | 0 | 0 | 562,716,764 | 0.4 | 632,192,220 | 0 | 69,475,456 |
| 14,104,120 | 2,276,718 | 0 | 0 | 19,990,637 | 0.0 | 31,041,355 | 0 | 11,050,718 |
| 14,000 | 51,000 | 0 | 0 | 1,155,751 | 0.0 | 4,896,000 | 0 | 3,740,249 |
| 203,801,279 | 2,391,620,360 | 0 | 0 | 4,346,349,734 | 2.7 | 4,570,921,374 | 2,613,375 | 221,958,265 |
| 25,376,151 | 270,792,695 | 0 | 0 | 863,691,115 | 0.5 | 931,991,078 | 7,616,995 | 60,682,968 |
| 127,452,033 | 2,501,989,005 | 0 | 0 | 19,349,681,209 | 12.0 | 20,336,710,364 | 227,401,699 | 759,627,456 |
| 28,361,439 | 546,618,857 | 0 | 0 | 1,021,553,029 | 0.6 | 1,059,049,937 | 100,000 | 37,396,908 |
| 40,873,000 | 3,330,508,251 | 0 | 0 | 12,492,861,491 | 7.7 | 16,962,208,156 | 3,777,613,920 | 691,732,745 |
| 129,635 | 1,834,960 | 0 | 0 | 19,644,851 | 0.0 | 22,179,166 | 0 | 2,534,315 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 518,438,095 | 0.3 | 594,841,117 | 72,584,278 | 3,818,744 |
| 131,864,322 | 236,922,067 | 0 | 0 | 431,070,990 | 0.3 | 455,417,997 | 6,635,607 | 17,711,400 |
| 116,347,144 | 1,136,688,905 | 0 | 0 | 31,538,845,824 | 19.5 | 34,712,899,289 | 2,133,994,246 | 1,040,059,219 |
| 0 | 201,700,254 | 0 | 0 | 23,750,841,338 | 14.7 | 24,313,438,046 | 0 | 562,596,708 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 11,827,980,000 | 7.3 | 13,024,457,000 | 0 | 1,196,477,000 |
| 0 | 431,492 | 0 | 0 | 2,279,065,310 | 1.4 | 3,503,065,687 | 1,144,715,682 | 79,284,695 |
| 0 | 0 | 0 | 15,776,238,838 | 16,508,796,723 | 10.2 | 16,529,298,584 | 0 | 20,501,861 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 487,363,148 | 0.3 | 487,363,976 | 0 | 828 |
| 0 | 119,906 | 0 | 0 | 4,405,914,627 | 2.7 | 4,416,022,000 | 0 | 10,107,373 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 86,000 | 0.0 | 86,000 | 0 | 0 |
| 4,489,400 | 1,767,200 | 0 | 0 | 12,341,000 | 0.0 | 13,214,200 | 0 | 873,200 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 8,943,051,494 | 5.5 | 9,101,307,687 | 0 | 158,256,193 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 300,000,000 | 0 | 300,000,000 |
| 4,075,398,964 | 14,658,087,927 | 0 | 15,776,238,838 | 161,641,822,292 | 100 | 174,574,482,993 | 7,373,275,802 | 5,559,384,899 |
| 2.5 | 9.1 | 0 | 9.8 | 100 | — | — | — | — |

特 別 会 計

3 特別会計

(1) 国民健康保険特別会計

国民健康保険特別会計の歳入決算額は33,248,828,081円、歳出決算額は32,535,055,628円で、歳入歳出差引額713,772,453円のうち、国民健康保険基金条例第2条の規定に基づき、令和4年度に400,000,000円を国民健康保険基金に積み立て、差引額313,772,453円が翌年度繰越額として繰り越されている。

ア 歳入

収入済額は33,248,828,081円で、予算現額に対する収入率は100.3%である。

収入済額を前年度と比較すると16,223,489円(0.0%)の減少となっている。これは主として、県支出金、繰越金の増と繰入金、諸収入、国民健康保険税の減によるものである。

歳入の構成及び収入状況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-----------------|----------------|----------------|----------------|------------|----------------|---------------|-----------|
| | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 対予算 収入率 | 収 入 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比率 |
| 1 国民健康 保 険 税 | 6,526,913,000 | 7,714,171,306 | 6,864,978,447 | 105.2 | 6,978,317,813 | △ 113,339,366 | △ 1.6 |
| 2 一部負担金 | 4,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 3 国庫支出金 | 26,551,000 | 23,850,000 | 23,850,000 | 89.8 | 66,427,000 | △ 42,577,000 | △ 64.1 |
| 4 県支出金 | 23,516,839,000 | 23,291,991,083 | 23,291,991,083 | 99.0 | 22,470,975,987 | 821,015,096 | 3.7 |
| 5 財産収入 | 514,000 | 507,565 | 507,565 | 98.7 | 505,812 | 1,753 | 0.3 |
| 6 繰入金 | 2,866,031,000 | 2,839,804,270 | 2,839,804,270 | 99.1 | 3,391,232,748 | △ 551,428,478 | △ 16.3 |
| (1) 一般会計 繰入金 | 2,464,904,000 | 2,438,677,270 | 2,438,677,270 | 98.9 | 2,514,614,748 | △ 75,937,478 | △ 3.0 |
| (2) 基金 繰入金 | 401,127,000 | 401,127,000 | 401,127,000 | 100 | 876,618,000 | △ 475,491,000 | △ 54.2 |
| 7 繰越金 | 70,556,000 | 70,556,111 | 70,556,111 | 100.0 | 35,107,780 | 35,448,331 | 101.0 |
| 8 諸収入 | 151,387,000 | 168,242,749 | 157,140,605 | 103.8 | 322,484,430 | △ 165,343,825 | △ 51.3 |
| 9 市債 | 1,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 合 計 | 33,158,796,000 | 34,109,123,084 | 33,248,828,081 | 100.3 | 33,265,051,570 | △ 16,223,489 | 0.0 |

(ア) 国民健康保険税

収入済額は 6,864,978,447 円で、前年度と比較すると 113,339,366 円 (1.6%) の減少となっている。

調定額 7,714,171,306 円に対する収入率は 89.0% で、前年度を 1.2 ポイント上回っている。

不納欠損額は前年度と比較すると 12,227,607 円 (12.7%) 減の 83,756,725 円となっている。

収入未済額は前年度と比較すると 109,160,035 円 (12.5%) 減の 765,436,134 円となっている。

収入未済額の内訳は、現年課税分 264,635,129 円、滞納繰越分 500,801,005 円である。

(イ) 諸収入

収入済額は 157,140,605 円で、前年度と比較すると 165,343,825 円 (51.3%) の減少となっている。

調定額 168,242,749 円に対する収入率は 93.4% で、前年度を 2.9 ポイント下回っている。

不納欠損額は前年度と比較すると 129,489 円 (29.5%) 減の 309,968 円となっている。これは、一般被保険者返納金である。

収入未済額は前年度と比較すると 1,052,461 円 (8.9%) 減の 10,792,176 円となっている。

これは、一般被保険者第三者納付金、一般被保険者返納金、退職被保険者等返納金である。

国民健康保険税等の収入状況

(単位：円・件・%)

| 区 分 | 3 年度 | 2 年度 | 対 前 年 度 比 較 | | |
|---------|-------------|---------------|---------------|---------------|--------|
| | | | 増 減 | 増減比率 | |
| 国民健康保険税 | 調 定 額 | 7,714,171,306 | 7,948,898,314 | △ 234,727,008 | △ 3.0 |
| | 収 入 済 額 | 6,864,978,447 | 6,978,317,813 | △ 113,339,366 | △ 1.6 |
| | 不 納 欠 損 額 | 83,756,725 | 95,984,332 | △ 12,227,607 | △ 12.7 |
| | 不 納 欠 損 件 数 | 973 | 1,054 | △ 81 | △ 7.7 |
| | 収 入 未 済 額 | 765,436,134 | 874,596,169 | △ 109,160,035 | △ 12.5 |
| | 現年課税分 | 264,635,129 | 328,946,444 | △ 64,311,315 | △ 19.6 |
| | 滞納繰越分 | 500,801,005 | 545,649,725 | △ 44,848,720 | △ 8.2 |
| | 対調定収入率 | 89.0 | 87.8 | 1.2 | — |
| 諸収入 | 調 定 額 | 168,242,749 | 334,768,524 | △ 166,525,775 | △ 49.7 |
| | 収 入 済 額 | 157,140,605 | 322,484,430 | △ 165,343,825 | △ 51.3 |
| | 不 納 欠 損 額 | 309,968 | 439,457 | △ 129,489 | △ 29.5 |
| | 不 納 欠 損 件 数 | 24 | 17 | 7 | 41.2 |
| | 収 入 未 済 額 | 10,792,176 | 11,844,637 | △ 1,052,461 | △ 8.9 |
| | 対調定収入率 | 93.4 | 96.3 | △ 2.9 | — |

・不納欠損件数は、滞納者ごとの件数である。

イ 歳 出

支出済額は 32,535,055,628 円で、予算現額に対する執行率は 98.1%である。

支出済額を前年度と比較すると 40,560,169 円 (0.1%) の増加となっている。これは主として、保険給付費、諸支出金、保健事業費の増と国民健康保険事業費納付金の減によるものである。

不用額は 623,740,372 円で、この主なものは、保険給付費、保健事業費、総務費である。

歳 出 の 構 成 及 び 支 出 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-------------------------|----------------|----------------|-------------|-------|----------------|---------------|---------|
| | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 不 用 額 | 執 行 率 | 支 出 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 1 総 務 費 | 477,041,000 | 459,970,942 | 17,070,058 | 96.4 | 468,835,152 | △ 8,864,210 | △ 1.9 |
| 2 保険給付費 | 23,067,638,035 | 22,627,637,966 | 440,000,069 | 98.1 | 21,836,462,694 | 791,175,272 | 3.6 |
| (1) 療養諸費 | 19,988,550,000 | 19,616,656,669 | 371,893,331 | 98.1 | 18,878,260,884 | 738,395,785 | 3.9 |
| (2) 高 額 療 養 費 | 2,969,677,000 | 2,920,748,570 | 48,928,430 | 98.4 | 2,861,178,261 | 59,570,309 | 2.1 |
| (3) 移 送 費 | 101,000 | 0 | 101,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| (4) 出 産 育 児 諸 費 | 84,548,859 | 68,171,551 | 16,377,308 | 80.6 | 77,885,710 | △ 9,714,159 | △ 12.5 |
| (5) 葬 祭 諸 費 | 23,500,000 | 20,800,000 | 2,700,000 | 88.5 | 19,000,000 | 1,800,000 | 9.5 |
| (6) 傷 病 手 当 諸 費 | 1,261,176 | 1,261,176 | 0 | 100 | 137,839 | 1,123,337 | 815.0 |
| 3 国民健康保険事業費納付金 | 8,916,291,000 | 8,916,287,890 | 3,110 | 100.0 | 9,915,239,867 | △ 998,951,977 | △ 10.1 |
| (1) 医 療 給 付 費 分 | 5,935,331,000 | 5,935,329,745 | 1,255 | 100.0 | 6,858,160,154 | △ 922,830,409 | △ 13.5 |
| (2) 後 期 高 齢 者 支 援 金 等 分 | 2,213,180,000 | 2,213,178,297 | 1,703 | 100.0 | 2,230,650,052 | △ 17,471,755 | △ 0.8 |
| (3) 介 護 納 付 金 分 | 767,780,000 | 767,779,848 | 152 | 100.0 | 826,429,661 | △ 58,649,813 | △ 7.1 |
| 4 共 同 事 業 拠 出 金 | 13,000 | 644 | 12,356 | 5.0 | 4,155 | △ 3,511 | △ 84.5 |
| 5 財 政 安 定 化 基 金 拠 出 金 | 1,000 | 0 | 1,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 6 保 健 事 業 費 | 261,873,000 | 240,490,674 | 21,382,326 | 91.8 | 203,985,524 | 36,505,150 | 17.9 |
| 7 基 金 積 立 金 | 514,000 | 507,565 | 6,435 | 98.7 | 505,812 | 1,753 | 0.3 |
| 8 公 債 費 | 2,000 | 0 | 2,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 9 諸 支 出 金 | 292,699,000 | 290,159,947 | 2,539,053 | 99.1 | 69,462,255 | 220,697,692 | 317.7 |
| 10 予 備 費 | 142,723,965 | 0 | 142,723,965 | 0 | 0 | 0 | — |
| 合 計 | 33,158,796,000 | 32,535,055,628 | 623,740,372 | 98.1 | 32,494,495,459 | 40,560,169 | 0.1 |

・予備費7,276,035円を保険給付費へ充用している。

ウ 基 金

当年度末の残高は 1,640,411,694 円である。

国 民 健 康 保 険 基 金 の 状 況

(単位：円)

| 区 分 | 3 年 度 末 | 2 年 度 末 | 元 年 度 末 |
|-------|---------------|---------------|---------------|
| 現 在 高 | 1,640,411,694 | 1,341,031,129 | 2,017,143,317 |
| 指 数 | 81 | 66 | 100 |

・指数は元年度末を100とした数値である。

エ 被 保 険 者 等 の 状 況

当年度の被保険者数は 71,786 人で、前年度と比較すると 1,620 人(2.2%)の減少となっている。

費用額は 26,509,601,281 円で、前年度と比較すると 1,142,826,124 円(4.5%)の増加となっている。また、保険者負担額は 19,475,500,610 円で、前年度と比較すると 860,054,500 円(4.6%)の増加となっている。

特定健康診査受診率は 38.4%で、前年度を 4.9 ポイント上回り、特定保健指導利用率は 26.9%で、前年度を 0.4 ポイント上回っている。また、人間ドック健診費助成事業受診者数は 1,468 人で、前年度と比較すると 13 人(0.9%)の増加となっている。

被 保 険 者 数 及 び 医 療 給 付 等 の 状 況

| 区 分 | 単 位 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|---------------------------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|
| | | | | 増 減 | 増減比率 (%) |
| 被 保 険 者 数 | 人 | 71,786 | 73,406 | △ 1,620 | △ 2.2 |
| 内 訳 | 一 般 被 保 険 者 | 71,786 | 73,405 | △ 1,619 | △ 2.2 |
| | 退 職 被 保 険 者 等 | 0 | 1 | △ 1 | 皆減 |
| 医 療 給 付 件 数 | 件 | 1,142,093 | 1,089,983 | 52,110 | 4.8 |
| 費 用 額 (総 医 療 費) | 円 | 26,509,601,281 | 25,366,775,157 | 1,142,826,124 | 4.5 |
| 保 険 者 負 担 額 | 円 | 19,475,500,610 | 18,615,446,110 | 860,054,500 | 4.6 |
| 1 人 当 た り 保 険 者 負 担 額 | 円 | 271,299 | 253,596 | 17,703 | 7.0 |
| 特 定 健 康 診 査 受 診 率 | % | 38.4 | 33.5 | 4.9 | — |
| 特 定 保 健 指 導 利 用 率 | % | 26.9 | 26.5 | 0.4 | — |
| 人 間 ド ッ ク 健 診 費 助 成 事 業 受 診 者 数 | 人 | 1,468 | 1,455 | 13 | 0.9 |

・被保険者数は各年度平均加入状況である。

(2) 後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療特別会計の歳入決算額は4,509,821,382円、歳出決算額は4,501,957,504円で、歳入歳出差引額7,863,878円が翌年度繰越額として繰り越されている。

ア 歳 入

収入済額は4,509,821,382円で、予算現額に対する収入率は99.3%である。

収入済額を前年度と比較すると34,928,745円(0.8%)の増加となっている。これは、後期高齢者医療保険料の増と繰入金、繰越金、諸収入の減と国庫支出金の皆減によるものである。

不納欠損額は前年度と比較すると1,067,533円(35.9%)減の1,907,950円となっている。これは、後期高齢者医療保険料である。

収入未済額は前年度と比較すると818,010円(13.8%)減の5,111,604円となっている。これは、後期高齢者医療保険料である。

歳 入 の 構 成 及 び 収 入 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|------------------|---------------|---------------|---------------|------------|---------------|-------------|---------|
| | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 対予算 収入率 | 収 入 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 1 後期高齢者 医療保険料 | 3,600,144,000 | 3,597,323,814 | 3,590,304,260 | 99.7 | 3,543,319,126 | 46,985,134 | 1.3 |
| 2 使用料及び 手数料 | 1,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 3 繰 入 金 | 908,455,000 | 894,056,597 | 894,056,597 | 98.4 | 900,568,201 | △ 6,511,604 | △ 0.7 |
| 4 繰 越 金 | 20,545,000 | 20,545,807 | 20,545,807 | 100.0 | 24,617,509 | △ 4,071,702 | △ 16.5 |
| 5 諸 収 入 | 10,879,000 | 4,914,718 | 4,914,718 | 45.2 | 6,271,801 | △ 1,357,083 | △ 21.6 |
| (国庫支出金) | 0 | 0 | 0 | — | 116,000 | △ 116,000 | 皆減 |
| 合 計 | 4,540,024,000 | 4,516,840,936 | 4,509,821,382 | 99.3 | 4,474,892,637 | 34,928,745 | 0.8 |

収 入 未 済 額 等 の 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 等 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|------------------------|-------------|-----------|-----------|-------------|--------|
| | | | | 増 減 | 増減比率 |
| 後 期 高 齢 者 医 療 保 険 料 | 不 納 欠 損 額 | 1,907,950 | 2,975,483 | △ 1,067,533 | △ 35.9 |
| | 収 入 未 済 額 | 5,111,604 | 5,929,614 | △ 818,010 | △ 13.8 |
| | 現 年 調 定 分 | 4,612,869 | 4,977,314 | △ 364,445 | △ 7.3 |
| | 滞 納 繰 越 分 | 498,735 | 952,300 | △ 453,565 | △ 47.6 |
| | 対 調 定 収 入 率 | 99.8 | 99.7 | 0.1 | — |

・収入未済額は、全て普通徴収分である。

イ 歳 出

支出済額は4,501,957,504円で、予算現額に対する執行率は99.2%である。

支出済額を前年度と比較すると47,610,674円(1.1%)の増加となっている。これは、後期高齢者医療広域連合納付金、総務費の増と、諸支出金の減によるものである。

不用額は38,066,496円で、この主なものは、後期高齢者医療広域連合納付金である。

歳 出 の 構 成 及 び 支 出 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|----------------------|---------------|---------------|------------|------|---------------|--------------|--------|
| | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 不 用 額 | 執行率 | 支 出 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比率 |
| 1 総 務 費 | 92,061,000 | 86,684,270 | 5,376,730 | 94.2 | 78,931,330 | 7,752,940 | 9.8 |
| 2 後期高齢者医療 広域連合納付金 | 4,429,862,000 | 4,412,178,734 | 17,683,266 | 99.6 | 4,356,709,091 | 55,469,643 | 1.3 |
| 3 公 債 費 | 1,000 | 0 | 1,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 4 諸 支 出 金 | 8,100,000 | 3,094,500 | 5,005,500 | 38.2 | 18,706,409 | △ 15,611,909 | △ 83.5 |
| 5 予 備 費 | 10,000,000 | 0 | 10,000,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 合 計 | 4,540,024,000 | 4,501,957,504 | 38,066,496 | 99.2 | 4,454,346,830 | 47,610,674 | 1.1 |

ウ 被保険者数の状況

当年度末の被保険者数は51,478人で、前年度と比較すると1,170人(2.3%)の増加となっている。

被 保 険 者 数 の 状 況

(単位：人・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-----------|--------|--------|-------------|------|
| | | | 増 減 | 増減比率 |
| 被 保 険 者 数 | 51,478 | 50,308 | 1,170 | 2.3 |

・各年度3月31日現在の状況である。

(3) 競輪特別会計

競輪特別会計の歳入決算額は24,345,375,608円、歳出決算額は24,094,003,163円で、歳入歳出差引額251,372,445円が翌年度繰越額として繰り越されている。

ア 歳 入

収入済額は24,345,375,608円で、予算現額に対する収入率は90.1%である。

収入済額を前年度と比較すると316,189,907円(1.3%)の減少となっている。これは主として、諸収入の増と勝者投票券発売収入、繰越金の減によるものである。

収入未済額は前年度と比較すると皆減となっている。

歳 入 の 構 成 及 び 収 入 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-----------------|----------------|----------------|----------------|--------------|----------------|---------------|-----------|
| | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 対 予 算 収入率 | 収 入 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比率 |
| 1 入 場 料 | 17,170,000 | 17,749,530 | 17,749,530 | 103.4 | 14,935,280 | 2,814,250 | 18.8 |
| 2 勝者投票券 発売収入 | 26,000,000,000 | 23,175,447,500 | 23,175,447,500 | 89.1 | 23,470,550,900 | △ 295,103,400 | △ 1.3 |
| 3 勝者投票 事故収入 | 100,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 4 使用料及び 手数料 | 14,178,000 | 14,342,631 | 14,342,631 | 101.2 | 12,845,941 | 1,496,690 | 11.7 |
| 5 財 産 収 入 | 5,888,000 | 5,615,158 | 5,615,158 | 95.4 | 5,171,132 | 444,026 | 8.6 |
| 6 繰 入 金 | 191,034,000 | 277,933,048 | 277,933,048 | 145.5 | 317,122,308 | △ 39,189,260 | △ 12.4 |
| 7 繰 越 金 | 292,966,000 | 292,966,317 | 292,966,317 | 100.0 | 410,760,916 | △ 117,794,599 | △ 28.7 |
| 8 諸 収 入 | 512,136,000 | 561,321,424 | 561,321,424 | 109.6 | 430,179,038 | 131,142,386 | 30.5 |
| 合 計 | 27,033,472,000 | 24,345,375,608 | 24,345,375,608 | 90.1 | 24,661,565,515 | △ 316,189,907 | △ 1.3 |

勝 者 投 票 券 売 上 額 の 状 況

(単位：円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 元 年 度 | |
|--------------|----------------|-------|----------------|-------|----------------|-------|
| | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 |
| 前 橋 本 場 | 179,795,600 | 49.5 | 363,094,900 | 77.6 | 467,883,700 | 86.9 |
| 利根西前売サービセンター | 51,774,000 | 114.0 | 45,412,700 | 66.0 | 68,794,600 | 103.1 |
| 館林場外車券売場 | 149,731,700 | 75.3 | 198,818,200 | 73.4 | 270,713,300 | 103.3 |
| 電 話 投 票 | 3,947,319,900 | 77.7 | 5,082,467,800 | 117.8 | 4,314,758,900 | 90.4 |
| 臨時場外車券売場 | 18,763,360,400 | 105.6 | 17,768,205,700 | 132.9 | 13,374,430,700 | 103.8 |
| 合 計 | 23,091,981,600 | 98.4 | 23,457,999,300 | 126.8 | 18,496,581,200 | 99.8 |

・金額は、返還金を除く。

収入未済額等の状況

(単位：円・%)

| 科目等 | | 3年度 | 2年度 | 対前年度比較 | |
|--------------|--------|-----|---------|-----------|------|
| | | | | 増減 | 増減比率 |
| 使用料及び 手数料 | 収入未済額 | 0 | 94,299 | △ 94,299 | 皆減 |
| | 対調定収入率 | 100 | 99.3 | 0.7 | — |
| 諸収入 | 収入未済額 | 0 | 888,192 | △ 888,192 | 皆減 |
| | 対調定収入率 | 100 | 99.8 | 0.2 | — |
| 合計 | 収入未済額 | 0 | 982,491 | △ 982,491 | 皆減 |

イ 歳出

支出済額は24,094,003,163円で、予算現額に対する執行率は89.1%である。

支出済額を前年度と比較すると274,596,035円(1.1%)の減少となっている。これは、競輪費の増と払戻返還金、交付金の減によるものである。

不用額は2,939,468,837円で、この主なものは、払戻返還金、競輪費である。

歳出の構成及び支出状況

(単位：円・%)

| 科目 | 3年度 | | | | 2年度 | 対前年度比較 | |
|---------|----------------|----------------|---------------|------|----------------|---------------|--------|
| | 予算現額 | 支出済額 | 不用額 | 執行率 | | 支出済額 | 増減額 |
| 1 競輪費 | 6,488,950,000 | 5,834,134,465 | 654,815,535 | 89.9 | 5,784,524,046 | 49,610,419 | 0.9 |
| 2 交付金 | 722,421,000 | 628,328,638 | 94,092,362 | 87.0 | 755,881,682 | △ 127,553,044 | △ 16.9 |
| 3 払戻返還金 | 19,422,000,000 | 17,331,540,060 | 2,090,459,940 | 89.2 | 17,528,193,470 | △ 196,653,410 | △ 1.1 |
| 4 諸支出金 | 100,000 | 0 | 100,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 5 繰出金 | 300,000,000 | 300,000,000 | 0 | 100 | 300,000,000 | 0 | 0 |
| 6 公債費 | 1,000 | 0 | 1,000 | — | 0 | 0 | — |
| 7 予備費 | 100,000,000 | 0 | 100,000,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 合計 | 27,033,472,000 | 24,094,003,163 | 2,939,468,837 | 89.1 | 24,368,599,198 | △ 274,596,035 | △ 1.1 |

ウ 基金

当年度末の残高はグリーンドーム前橋等整備基金2,011,016,653円、グリーンドーム前橋財政調整基金701,936,552円である。

グリーンドーム前橋等整備基金及びグリーンドーム前橋財政調整基金の状況

(単位：円)

| 基金 | 区分 | 3年度末 | 2年度末 | 元年度末 |
|---------------------|-----|---------------|---------------|---------------|
| グリーンドーム 前橋等整備基金 | 現在高 | 2,011,016,653 | 1,731,619,063 | 1,615,372,828 |
| | 指数 | 124 | 107 | 100 |
| グリーンドーム 前橋財政調整基金 | 現在高 | 701,936,552 | 701,762,039 | 701,601,982 |
| | 指数 | 100 | 100 | 100 |

・指数は元年度末を100とした数値である。

(4) 農業集落排水事業特別会計

農業集落排水事業特別会計の歳入決算額は1,278,244,232円、歳出決算額は1,268,114,232円で、歳入歳出差引額10,130,000円から翌年度へ繰り越すべき財源9,130,000円を差し引いた1,000,000円が翌年度繰越額として繰り越されている。

ア 歳 入

収入済額は1,278,244,232円で、予算現額に対する収入率は99.1%である。

収入済額を前年度と比較すると137,622,195円(12.1%)の増加となっている。これは主として県支出金、市債の増と分担金及び負担金の減によるものである。

不納欠損額は前年度と比較すると11,324円(36.8%)減の19,449円となっている。これは、使用料及び手数料の農業集落排水使用料である。

収入未済額は前年度と比較すると275,445円(8.1%)増の3,661,500円となっている。これは、使用料及び手数料の農業集落排水使用料と分担金及び負担金の農業集落排水事業分担金である。

歳 入 の 構 成 及 び 収 入 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|------------|---------------|---------------|---------------|-------------|---------------|-------------|---------|
| | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 対 予 算 収 入 率 | 収 入 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 1 分担金及び負担金 | 21,001,000 | 20,453,000 | 19,812,000 | 94.3 | 26,120,000 | △ 6,308,000 | △ 24.2 |
| 2 使用料及び手数料 | 297,896,000 | 301,076,703 | 298,036,754 | 100.0 | 302,926,577 | △ 4,889,823 | △ 1.6 |
| 3 県支出金 | 116,555,000 | 116,099,000 | 116,099,000 | 99.6 | 49,435,000 | 66,664,000 | 134.9 |
| 4 繰入金 | 682,406,000 | 674,579,890 | 674,579,890 | 98.9 | 656,805,499 | 17,774,391 | 2.7 |
| 5 繰越金 | 3,530,000 | 3,530,000 | 3,530,000 | 100 | 1,000,000 | 2,530,000 | 253 |
| 6 諸収入 | 199,000 | 2,386,588 | 2,386,588 | 約12倍 | 234,961 | 2,151,627 | 915.7 |
| 7 市債 | 167,700,000 | 163,800,000 | 163,800,000 | 97.7 | 104,100,000 | 59,700,000 | 57.3 |
| 合 計 | 1,289,287,000 | 1,281,925,181 | 1,278,244,232 | 99.1 | 1,140,622,037 | 137,622,195 | 12.1 |

・第3款県支出金、第5款繰越金及び第7款市債の予算現額には、維持補修事業に係る前年度繰越事業費繰越財源充当額90,360,000円を含む。

収 入 未 済 額 等 の 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 等 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-----------------|--------|-----------|-----------|-------------|---------|
| | | | | 増 減 | 増 減 比 率 |
| 分 担 金 及 び 負 担 金 | 収入未済額 | 641,000 | 653,000 | △ 12,000 | △ 1.8 |
| | 対調定収入率 | 96.9 | 97.6 | △ 0.7 | — |
| 使 用 料 及 び 手 数 料 | 不納欠損額 | 19,449 | 30,773 | △ 11,324 | △ 36.8 |
| | 収入未済額 | 3,020,500 | 2,733,055 | 287,445 | 10.5 |
| 合 計 | 対調定収入率 | 99.0 | 99.1 | △ 0.1 | — |
| | 不納欠損額 | 19,449 | 30,773 | △ 11,324 | △ 36.8 |
| | 収入未済額 | 3,661,500 | 3,386,055 | 275,445 | 8.1 |

イ 歳 出

支出済額は1,268,114,232円で、予算現額に対する執行率は98.4%である。

支出済額を前年度と比較すると131,022,195円(11.5%)の増加となっている。これは、農業集落排水事業費の増と公債費の減によるものである。

翌年度繰越額は9,130,000円で、これは、農業集落排水事業費の繰越明許費である。

不用額は12,042,768円で、この主なものは、農業集落排水事業費である。

歳 出 の 構 成 及 び 支 出 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|---------------------|---------------|---------------|-----------|------------|-------|---------------|-------------|---------|
| | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 | 支 出 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 1 農 業 集 落 排 水 事 業 費 | 760,355,000 | 740,184,325 | 9,130,000 | 11,040,675 | 97.3 | 602,956,637 | 137,227,688 | 22.8 |
| 2 公 債 費 | 527,932,000 | 527,929,907 | 0 | 2,093 | 100.0 | 534,135,400 | △ 6,205,493 | △ 1.2 |
| 3 予 備 費 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 合 計 | 1,289,287,000 | 1,268,114,232 | 9,130,000 | 12,042,768 | 98.4 | 1,137,092,037 | 131,022,195 | 11.5 |

・第1款農業集落排水事業費の予算現額には前年度繰越事業費繰越額90,360,000円を含む。

ウ 市 債

市債は、新たに163,800,000円を借り入れ、436,878,710円の元金償還をした結果、未償還残高は前年度と比較すると273,078,710円(5.4%)減の4,830,436,911円となっている。

市 債 の 借 入 及 び 償 還 状 況

(単位：円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-----------|---------------|---------------|---------------|-------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 |
| 年度当初未償還残高 | 5,103,515,621 | 5,433,355,523 | △ 329,839,902 | △ 6.1 |
| 借 入 額 | 163,800,000 | 104,100,000 | 59,700,000 | 57.3 |
| 元 利 償 還 額 | 527,929,907 | 534,135,400 | △ 6,205,493 | △ 1.2 |
| 元 金 | 436,878,710 | 433,939,902 | 2,938,808 | 0.7 |
| 利 子 | 91,051,197 | 100,195,498 | △ 9,144,301 | △ 9.1 |
| 年度末未償還残高 | 4,830,436,911 | 5,103,515,621 | △ 273,078,710 | △ 5.4 |

エ 普及状況等

当年度の接続率は戸数で 84.1%、人口で 86.0%となっており、それぞれ前年度を 0.2 ポイント上回っている。

年間総処理汚水量は 3,337,420 m³で、前年度と比較すると 114,610 m³ (3.3%) の減少、年間有収汚水量は 2,593,201 m³で、前年度と比較すると 28,359 m³ (1.1%) の減少となっている。

普及状況等前年度比較

| 区 分 | 単 位 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-------------------|----------------|-----------|-----------|-------------|----------|
| | | | | 増 減 | 増減比率 (%) |
| 供 用 区 域 戸 数 A | 戸 | 11,649 | 11,560 | 89 | 0.8 |
| 供 用 区 域 人 口 B | 人 | 34,447 | 34,841 | △ 394 | △ 1.1 |
| 接 続 戸 数 C | 戸 | 9,801 | 9,697 | 104 | 1.1 |
| 接 続 率 (戸 数) C/A | % | 84.1 | 83.9 | 0.2 | — |
| 接 続 人 口 D | 人 | 29,632 | 29,883 | △ 251 | △ 0.8 |
| 接 続 率 (人 口) D/B | % | 86.0 | 85.8 | 0.2 | — |
| 下 水 管 布 設 延 長 | km | 378 | 378 | 0 | 0 |
| 年 間 総 処 理 汚 水 量 | m ³ | 3,337,420 | 3,452,030 | △ 114,610 | △ 3.3 |
| 年 間 有 収 汚 水 量 | m ³ | 2,593,201 | 2,621,560 | △ 28,359 | △ 1.1 |
| 年 間 総 汚 泥 処 分 量 | m ³ | 2,375 | 3,152 | △ 777 | △ 24.7 |

・各年度3月31日現在の状況である。

(5) 介護保険特別会計

介護保険特別会計の歳入決算額は32,506,560,940円、歳出決算額は32,093,494,037円で、歳入歳出差引額413,066,903円のうち、介護給付費準備基金条例第2条の規定に基づき、令和4年度に96,496,626円を介護給付費準備基金に積み立て、差引額316,570,277円が翌年度繰越額として繰り越されている。

ア 歳 入

収入済額は32,506,560,940円で、予算現額に対する収入率は98.5%である。

収入済額を前年度と比較すると545,836,648円(1.7%)の増加となっている。これは主として、国庫支出金、支払基金交付金、繰入金の増と県支出金、保険料の減によるものである。

歳 入 の 構 成 及 び 収 入 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|----------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--------------|------------|
| | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 対 予 算 収 入 率 | 収 入 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 1 保 険 料 | 6,674,990,000 | 6,813,320,870 | 6,710,638,350 | 100.5 | 6,734,571,639 | △ 23,933,289 | △ 0.4 |
| 2 使 用 料 及 び 手 数 料 | 1,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 3 国 庫 支 出 金 | 7,858,239,000 | 7,705,559,532 | 7,705,559,532 | 98.1 | 7,422,271,323 | 283,288,209 | 3.8 |
| 4 支 払 基 金 交 付 金 | 8,535,495,000 | 8,365,138,000 | 8,365,138,000 | 98.0 | 8,240,147,883 | 124,990,117 | 1.5 |
| 5 県 支 出 金 | 4,644,613,000 | 4,535,573,229 | 4,535,573,229 | 97.7 | 4,573,877,705 | △ 38,304,476 | △ 0.8 |
| 6 財 産 収 入 | 566,000 | 558,551 | 558,551 | 98.7 | 482,137 | 76,414 | 15.8 |
| 7 寄 附 金 | 1,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 8 繰 入 金 | 5,117,701,000 | 5,006,191,344 | 5,006,191,344 | 97.8 | 4,896,263,253 | 109,928,091 | 2.2 |
| (1) 一 般 会 計 繰 入 金 | 5,047,204,000 | 4,935,694,344 | 4,935,694,344 | 97.8 | 4,791,453,253 | 144,241,091 | 3.0 |
| (2) 基 金 繰 入 金 | 70,497,000 | 70,497,000 | 70,497,000 | 100 | 104,810,000 | △ 34,313,000 | △ 32.7 |
| 9 繰 越 金 | 179,077,000 | 179,077,268 | 179,077,268 | 100.0 | 91,021,266 | 88,056,002 | 96.7 |
| 10 諸 収 入 | 786,000 | 5,059,705 | 3,824,666 | 486.6 | 2,089,086 | 1,735,580 | 83.1 |
| 11 市 債 | 1,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 合 計 | 33,011,470,000 | 32,610,478,499 | 32,506,560,940 | 98.5 | 31,960,724,292 | 545,836,648 | 1.7 |

(ア) 保険料（介護保険料）

収入済額は 6,710,638,350 円で前年度と比較すると 23,933,289 円（0.4%）の減少となっている。

調定額 6,813,320,870 円に対する収入率は 98.5%で、前年度を 0.1 ポイント上回っている。

不納欠損額は前年度と比較すると 4,712,600 円（18.3%）減の 21,006,400 円となっている。

収入未済額は前年度と比較すると 4,582,550 円（5.3%）減の 81,676,120 円となっている。

収入未済額の内訳は、現年調定分 34,693,300 円、滞納繰越分 46,982,820 円である。

(イ) 諸収入

収入済額は 3,824,666 円で前年度と比較すると 1,735,580 円（83.1%）の増加となっている。

調定額 5,059,705 円に対する収入率は 75.6%で、前年度を 24.4 ポイント下回っている。

収入未済額は前年度と比較すると皆増の 1,235,039 円となっている。これは、雑入、返納金、介護報酬不正利得返還金加算金である。

保 険 料（ 介 護 保 険 料 ） 等 の 収 入 状 況

(単位：円・件・%)

| 区 分 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|--|-------------|---------------|---------------|--------------|--------|
| | | | | 増 減 | 増減比率 |
| 保 険 料 （ 介 護 保 険 料 ） | 調 定 額 | 6,813,320,870 | 6,846,549,309 | △ 33,228,439 | △ 0.5 |
| | 収 入 済 額 | 6,710,638,350 | 6,734,571,639 | △ 23,933,289 | △ 0.4 |
| | 不 納 欠 損 額 | 21,006,400 | 25,719,000 | △ 4,712,600 | △ 18.3 |
| | 不 納 欠 損 件 数 | 513 | 570 | △ 57 | △ 10 |
| | 収 入 未 済 額 | 81,676,120 | 86,258,670 | △ 4,582,550 | △ 5.3 |
| | 現 年 調 定 分 | 34,693,300 | 38,128,970 | △ 3,435,670 | △ 9.0 |
| | 滞 納 繰 越 分 | 46,982,820 | 48,129,700 | △ 1,146,880 | △ 2.4 |
| | 対 調 定 収 入 率 | 98.5 | 98.4 | 0.1 | — |
| 諸 収 入 | 調 定 額 | 5,059,705 | 2,089,086 | 2,970,619 | 142.2 |
| | 収 入 済 額 | 3,824,666 | 2,089,086 | 1,735,580 | 83.1 |
| | 不 納 欠 損 額 | 0 | 0 | 0 | — |
| | 不 納 欠 損 件 数 | 0 | 0 | 0 | — |
| | 収 入 未 済 額 | 1,235,039 | 0 | 1,235,039 | 皆増 |
| | 対 調 定 収 入 率 | 75.6 | 100 | △ 24.4 | — |

- ・ 保険料の収入未済額は、全て普通徴収分である。
- ・ 不納欠損件数は、滞納者ごとの件数である。

イ 歳 出

支出済額は 32,093,494,037 円で、予算現額に対する執行率は 97.2%である。

支出済額を前年度と比較すると 548,863,170 円 (1.7%) の増加となっている。これは主として、保険給付費、地域支援事業費の増と諸支出金の減によるものである。

不用額は 917,975,963 円で、この主なものは、保険給付費、地域支援事業費である。

歳 出 の 構 成 及 び 支 出 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|----------------------------|----------------|----------------|-------------|-------|----------------|---------------|--------|
| | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 不 用 額 | 執 行 率 | 支 出 済 額 | 増 減 額 | 増 減 率 |
| 1 総 務 費 | 448,554,000 | 424,245,678 | 24,308,322 | 94.6 | 410,038,024 | 14,207,654 | 3.5 |
| 2 保 険 給 付 費 | 30,290,031,000 | 29,541,955,950 | 748,075,050 | 97.5 | 29,038,862,525 | 503,093,425 | 1.7 |
| (1) 介 護 サービス等諸費 | 27,893,912,000 | 27,231,815,095 | 662,096,905 | 97.6 | 26,650,135,518 | 581,679,577 | 2.2 |
| (2) 介 護 予 防 サービス等諸費 | 744,358,000 | 721,944,027 | 22,413,973 | 97.0 | 676,419,170 | 45,524,857 | 6.7 |
| (3) そ の 他 諸 費 | 26,475,000 | 26,293,680 | 181,320 | 99.3 | 25,384,688 | 908,992 | 3.6 |
| (4) 高 額 介 護 サービス等費 | 770,325,000 | 743,889,031 | 26,435,969 | 96.6 | 743,516,997 | 372,034 | 0.1 |
| (5) 高 額 医 療 合 算 介 護 サービス等費 | 106,806,000 | 92,735,771 | 14,070,229 | 86.8 | 98,160,025 | △ 5,424,254 | △ 5.5 |
| (6) 特 定 入 所 者 介 護 サービス等費 | 748,155,000 | 725,278,346 | 22,876,654 | 96.9 | 845,246,127 | △ 119,967,781 | △ 14.2 |
| 3 財 政 安 定 化 基 金 拠 出 金 | 1,000 | 0 | 1,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 4 地 域 支 援 事 業 費 | 2,071,730,000 | 2,028,011,571 | 43,718,429 | 97.9 | 1,949,512,396 | 78,499,175 | 4.0 |
| 5 基 金 積 立 金 | 566,000 | 558,551 | 7,449 | 98.7 | 482,137 | 76,414 | 15.8 |
| 6 公 債 費 | 2,000 | 0 | 2,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 7 諸 支 出 金 | 100,586,000 | 98,722,287 | 1,863,713 | 98.1 | 145,735,785 | △ 47,013,498 | △ 32.3 |
| 8 予 備 費 | 100,000,000 | 0 | 100,000,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 合 計 | 33,011,470,000 | 32,093,494,037 | 917,975,963 | 97.2 | 31,544,630,867 | 548,863,170 | 1.7 |

ウ 基 金

当年度末の残高は 2,176,130,101 円である。

介 護 給 付 費 準 備 基 金 の 状 況

(単位：円)

| 区 分 | 3 年 度 末 | 2 年 度 末 | 元 年 度 末 |
|-------|---------------|---------------|---------------|
| 現 在 高 | 2,176,130,101 | 2,009,052,393 | 1,887,369,108 |
| 指 数 | 115 | 106 | 100 |

・指数は元年度末を100とした数値である。

エ 被保険者等の状況

当年度末の第1号被保険者数は 98,848 人で、前年度と比較すると 479 人 (0.5%) の増加となっている。

要支援認定者数は 4,661 人で、前年度と比較すると 181 人 (4.0%) の増加、要介護認定者数は 12,992 人で、前年度と比較すると 158 人 (1.2%) の増加となっている。

被 保 険 者 数 及 び 認 定 者 数 の 状 況

(単位：人・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | | |
|-----------------|---------|--------|-------------|------|-------|
| | | | 増 減 | 増減比率 | |
| 第 1 号 被 保 険 者 数 | 98,848 | 98,369 | 479 | 0.5 | |
| 要 支 援 認 定 者 数 | 4,661 | 4,480 | 181 | 4.0 | |
| 内 訳 | 要 支 援 1 | 2,464 | 2,255 | 209 | 9.3 |
| | 要 支 援 2 | 2,197 | 2,225 | △ 28 | △ 1.3 |
| 要 介 護 認 定 者 数 | 12,992 | 12,834 | 158 | 1.2 | |
| 内 訳 | 要 介 護 1 | 3,788 | 3,706 | 82 | 2.2 |
| | 要 介 護 2 | 2,818 | 2,836 | △ 18 | △ 0.6 |
| | 要 介 護 3 | 2,247 | 2,220 | 27 | 1.2 |
| | 要 介 護 4 | 2,484 | 2,460 | 24 | 1.0 |
| | 要 介 護 5 | 1,655 | 1,612 | 43 | 2.7 |

- ・各年度3月31日現在の状況である。
- ・要支援認定者数及び要介護認定者数は第2号被保険者を含む。

(6) 母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計

母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計の歳入決算額は53,016,591円、歳出決算額は8,355,922円で、歳入歳出差引額44,660,669円が翌年度繰越額として繰り越されている。

ア 歳 入

収入済額は53,016,591円で、予算現額に対する収入率は110.3%である。

収入済額を前年度と比較すると6,570,823円(14.1%)の増加となっている。これは主として、繰越金の増と繰入金の減によるものである。

収入未済額は前年度と比較すると1,682,335円(9.9%)減の15,293,031円となっている。これは、貸付事業収入の母子福祉資金貸付金元利収入、寡婦福祉資金貸付金元利収入である。

歳 入 の 構 成 及 び 収 入 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|----------|------------|------------|------------|--------------|------------|-------------|-----------|
| | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 対 予 算 収入率 | 収 入 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比率 |
| 1 貸付事業収入 | 16,094,000 | 34,503,393 | 19,210,362 | 119.4 | 18,155,841 | 1,054,521 | 5.8 |
| 2 繰 入 金 | 189,000 | 37,200 | 37,200 | 19.7 | 63,139 | △ 25,939 | △ 41.1 |
| 3 繰 越 金 | 31,784,000 | 33,769,029 | 33,769,029 | 106.2 | 28,226,788 | 5,542,241 | 19.6 |
| 4 諸 収 入 | 5,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 合 計 | 48,072,000 | 68,309,622 | 53,016,591 | 110.3 | 46,445,768 | 6,570,823 | 14.1 |

収 入 未 済 額 等 の 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 等 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|--------|--------|------------|------------|-------------|--------|
| | | | | 増 減 | 増減比率 |
| 貸付事業収入 | 収入未済額 | 15,293,031 | 16,975,366 | △ 1,682,335 | △ 9.9 |
| | 現年調定分 | 323,556 | 542,672 | △ 219,116 | △ 40.4 |
| | 滞納繰越分 | 14,969,475 | 16,432,694 | △ 1,463,219 | △ 8.9 |
| | 対調定収入率 | 55.7 | 51.7 | 4.0 | — |

イ 歳 出

支出済額は 8,355,922 円で、予算現額に対する執行率は 17.4%である。

支出済額を前年度と比較すると 4,320,817 円 (34.1%) の減少となっている。これは、公債費の皆増と母子父子寡婦福祉資金貸付事業費の減によるものである。

不用額は 39,716,078 円で、この主なものは、母子父子寡婦福祉資金貸付事業費である。

歳 出 の 構 成 及 び 支 出 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-------------------|------------|-----------|------------|-------|------------|-------------|---------|
| | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 不 用 額 | 執 行 率 | 支 出 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 1 母子父子寡婦福祉資金貸付事業費 | 47,599,000 | 7,983,200 | 39,615,800 | 16.8 | 12,676,739 | △ 4,693,539 | △ 37.0 |
| 2 公 債 費 | 373,000 | 372,722 | 278 | 99.9 | 0 | 372,722 | 皆増 |
| 3 予 備 費 | 100,000 | 0 | 100,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 合 計 | 48,072,000 | 8,355,922 | 39,716,078 | 17.4 | 12,676,739 | △ 4,320,817 | △ 34.1 |

貸 付 の 状 況

(単位：件・円)

| 区 分 | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 元 年 度 | |
|-------------|-------|-----------|-------|------------|-------|------------|
| | 件 数 | 金 額 | 件 数 | 金 額 | 件 数 | 金 額 |
| 修 学 資 金 | 10 | 6,780,000 | 14 | 10,849,600 | 17 | 13,183,200 |
| 技 能 習 得 資 金 | 0 | 0 | 3 | 1,294,000 | 1 | 204,000 |
| 修 業 資 金 | 1 | 816,000 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 就 学 支 度 資 金 | 2 | 350,000 | 4 | 470,000 | 3 | 899,000 |
| 合 計 | 13 | 7,946,000 | 21 | 12,613,600 | 21 | 14,286,200 |

・直近の3年間において、貸付実績のあった貸付金を記載している。

ウ 市 債

市債は、新たな借り入れはなく、372,722 円の元金償還をした結果、未償還残高は前年度と比較すると 372,722 円 (0.6%) 減の 63,323,937 円となっている。

市 債 の 借 入 及 び 償 還 状 況

(単位：円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-----------|------------|------------|-------------|---------|
| | | | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 年度当初未償還残高 | 63,696,659 | 63,696,659 | 0 | 0 |
| 借 入 額 | 0 | 0 | 0 | — |
| 元 金 償 還 額 | 372,722 | 0 | 372,722 | 皆増 |
| 年度末未償還残高 | 63,323,937 | 63,696,659 | △ 372,722 | △ 0.6 |

(7) 新エネルギー発電事業特別会計

新エネルギー発電事業特別会計の歳入決算額は153,738,334円、歳出決算額は139,681,352円で、歳入歳出差引額14,056,982円から翌年度へ繰り越すべき財源198,000円を差し引いた13,858,982円が翌年度繰越額として繰り越されている。

ア 歳 入

収入済額は153,738,334円で、予算現額に対する収入率は102.0%である。

収入済額を前年度と比較すると8,517,351円(5.2%)の減少となっている。これは、売電収入、繰越金、諸収入の減によるものである。

売電収入の状況を見ると、太陽光発電では、まえばし堀越町太陽光発電所は前年度と比較すると増加したものの、まえばし荻窪町太陽光発電所、まえばし粕川町中之沢太陽光発電所は前年度と比較すると減少している。また、小水力発電では、まえばし赤城山小水力発電所が前年度と比較すると減少している。

歳 入 の 構 成 及 び 収 入 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-------------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-----------|
| | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 対 予 算 収入率 | 収 入 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比率 |
| 1 売 電 収 入 | 137,070,000 | 140,097,559 | 140,097,559 | 102.2 | 144,700,667 | △ 4,603,108 | △ 3.2 |
| 2 使 用 料 及 び 手 数 料 | 10,000 | 10,500 | 10,500 | 105 | 10,500 | 0 | 0 |
| 3 繰 越 金 | 13,630,000 | 13,630,275 | 13,630,275 | 100.0 | 17,521,853 | △ 3,891,578 | △ 22.2 |
| 4 諸 収 入 | 1,000 | 0 | 0 | 0 | 22,665 | △ 22,665 | △ 100 |
| 合 計 | 150,711,000 | 153,738,334 | 153,738,334 | 102.0 | 162,255,685 | △ 8,517,351 | △ 5.2 |

売 電 収 入 の 状 況

(単位：円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 元 年 度 | | |
|-----------|-------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|-------|
| | 金 額 | 前 年 度 比 | 金 額 | 前 年 度 比 | 金 額 | 前 年 度 比 | |
| 太 陽 光 発 電 | 107,594,909 | 97.4 | 110,450,535 | 98.2 | 112,468,625 | 95.8 | |
| 内 訳 | 堀 越 町 | 40,866,452 | 102.7 | 39,788,980 | 98.4 | 40,455,107 | 95.7 |
| | 荻 窪 町 | 44,491,387 | 99.1 | 44,886,950 | 96.5 | 46,526,960 | 96.5 |
| | 粕 川 町 中 之 沢 | 21,297,629 | 86.1 | 24,740,175 | 101.1 | 24,465,605 | 94.3 |
| | そ の 他 | 939,441 | 90.8 | 1,034,430 | 101.3 | 1,020,953 | 113.1 |
| 小 水 力 発 電 | 32,502,650 | 94.9 | 34,250,132 | 89.8 | 38,161,220 | 261.4 | |
| 内 訳 | 赤 城 山 | 32,502,650 | 94.9 | 34,250,132 | 89.8 | 38,161,220 | 261.4 |
| 合 計 | 140,097,559 | 96.8 | 144,700,667 | 96.1 | 150,629,845 | 114.2 | |

・太陽光発電のその他は宮城小学校体育館、図書館富士見分館の太陽光発電事業による売電収入である。

イ 歳 出

支出済額は139,681,352円で、予算現額に対する執行率は92.7%である。

支出済額を前年度と比較すると8,944,058円(6.0%)の減少となっている。これは、主として、繰出金、管理費の減によるものである。

翌年度繰越額は198,000円で、これは、管理費の事故繰越しである。

不用額は10,831,648円で、この主なものは、管理費、繰出金である。

歳 出 の 構 成 及 び 支 出 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|---------------|-------------|-------------|---------|------------|-------|-------------|-------------|---------|
| | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執 行 率 | 支 出 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 1 管 理 費 | 78,286,000 | 77,362,174 | 198,000 | 725,826 | 98.8 | 80,149,384 | △ 2,787,210 | △ 3.5 |
| (1) 施 設 管 理 費 | 69,203,000 | 68,374,274 | 198,000 | 630,726 | 98.8 | 68,947,784 | △ 573,510 | △ 0.8 |
| (2) 総 務 管 理 費 | 9,083,000 | 8,987,900 | 0 | 95,100 | 99.0 | 11,201,600 | △ 2,213,700 | △ 19.8 |
| 2 繰 出 金 | 38,856,000 | 38,752,488 | 0 | 103,512 | 99.7 | 44,853,186 | △ 6,100,698 | △ 13.6 |
| 3 公 債 費 | 23,569,000 | 23,566,690 | 0 | 2,310 | 100.0 | 23,622,840 | △ 56,150 | △ 0.2 |
| 4 予 備 費 | 10,000,000 | 0 | 0 | 10,000,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 合 計 | 150,711,000 | 139,681,352 | 198,000 | 10,831,648 | 92.7 | 148,625,410 | △ 8,944,058 | △ 6.0 |

ウ 市 債

市債は、当年度に新たな借り入れはなく、22,631,666円の元金償還をした結果、未償還残高は前年度と比較すると22,631,666円(6.0%)減の356,773,326円となっている。

市 債 の 借 入 及 び 償 還 状 況

(単位：円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-----------|-------------|-------------|--------------|-------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 |
| 年度当初未償還残高 | 379,404,992 | 402,036,658 | △ 22,631,666 | △ 5.6 |
| 借 入 額 | 0 | 0 | 0 | — |
| 元 利 償 還 額 | 23,566,690 | 23,622,840 | △ 56,150 | △ 0.2 |
| 元 金 | 22,631,666 | 22,631,666 | 0 | 0 |
| 利 子 | 935,024 | 991,174 | △ 56,150 | △ 5.7 |
| 年度末未償還残高 | 356,773,326 | 379,404,992 | △ 22,631,666 | △ 6.0 |

(8) 用地先行取得事業特別会計

用地先行取得事業特別会計の歳入・歳出決算額はそれぞれ0円である。

ア 歳 入

予算現額 10,100,000 円に対して、収入済額は0円である。

歳 入 の 構 成 及 び 収 入 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|---------|------------|-------|---------|----------------|---------|-------------|------------|
| | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 対 予 算 収 入 率 | 収 入 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 1 繰 入 金 | 100,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 2 市 債 | 10,000,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 合 計 | 10,100,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |

イ 歳 出

予算現額 10,100,000 円に対し、全額が不用額となっている。

歳 出 の 構 成 及 び 支 出 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-----------------|------------|---------|------------|-------|---------|-------------|------------|
| | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 不 用 額 | 執 行 率 | 支 出 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 1 用 地 先 行 取 得 費 | 10,000,000 | 0 | 10,000,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 2 予 備 費 | 100,000 | 0 | 100,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 合 計 | 10,100,000 | 0 | 10,100,000 | 0 | 0 | 0 | — |

(9) 産業立地推進事業特別会計

産業立地推進事業特別会計の歳入決算額は892,816,580円、歳出決算額は885,625,672円で、歳入歳出差引額7,190,908円から翌年度へ繰り越すべき財源100,000円を差し引いた7,090,908円が翌年度繰越額として繰り越されている。

ア 歳 入

収入済額は892,816,580円で、予算現額に対する収入率は84.5%である。

収入済額を前年度と比較すると446,269,113円(99.9%)の増加となっている。これは主として、西善中内産業用地造成事業に係る市債、財産収入の増と繰入金の皆減によるものである。

歳 入 の 構 成 及 び 収 入 状 況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|------------|---------------|-------------|-------------|----------------|-------------|---------------|------------|
| | 予 算 現 額 | 調 定 額 | 収 入 済 額 | 対 予 算 収 入 率 | 収 入 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 1 財 産 収 入 | 168,743,000 | 168,888,680 | 168,888,680 | 100.1 | 50,013,501 | 118,875,179 | 237.7 |
| (1) 財産運用収入 | 50,315,000 | 50,459,976 | 50,459,976 | 100.3 | 50,013,501 | 446,475 | 0.9 |
| (2) 財産売払収入 | 118,428,000 | 118,428,704 | 118,428,704 | 100.0 | 0 | 118,428,704 | 皆増 |
| 2 繰 越 金 | 27,900 | 27,900 | 27,900 | 100 | 100,000 | △ 72,100 | △ 72.1 |
| 3 諸 収 入 | 0 | 0 | 0 | — | 0 | 0 | — |
| 4 市 債 | 887,800,000 | 723,900,000 | 723,900,000 | 81.5 | 32,300,000 | 691,600,000 | 約22倍 |
| (繰入金) | 0 | 0 | 0 | — | 364,133,966 | △ 364,133,966 | 皆減 |
| 合 計 | 1,056,570,900 | 892,816,580 | 892,816,580 | 84.5 | 446,547,467 | 446,269,113 | 99.9 |

・第2款繰越金、第4款市債の予算現額には、西善中内産業用地造成事業に係る前年度繰越事業費繰越財源充当額566,127,900円を含む。

イ 歳 出

支出済額は885,625,672円で、予算現額に対する執行率は83.8%となっている。

支出済額を前年度と比較すると439,106,105円(98.3%)の増加となっている。これは主として、西善中内産業用地造成事業等に係る産業立地推進費の増及び繰出金の皆増と公債費の減によるものである。

翌年度繰越額は106,900,000円で、これは、産業立地推進費の繰越明許費である。

不用額は64,045,228円で、この主なものは、産業立地推進費である。

歳出の構成及び支出状況

(単位：円・%)

| 科 目 | 3 年 度 | | | | | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|----------------------|---------------|-------------|-------------|------------|-------|-------------|---------------|---------|
| | 予 算 現 額 | 支 出 済 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 執行率 | 支 出 済 額 | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 1 産業立地推進費 | 955,062,900 | 784,218,030 | 106,900,000 | 63,944,870 | 82.1 | 70,210,236 | 714,007,794 | 約11倍 |
| (1) 産業立地推進費 (管理費) | 3,048,000 | 2,295,670 | 0 | 752,330 | 75.3 | 1,927,594 | 368,076 | 19.1 |
| (2) 産業立地推進費 (造成費) | 952,014,900 | 781,922,360 | 106,900,000 | 63,192,540 | 82.1 | 68,282,642 | 713,639,718 | 約11倍 |
| 2 繰 出 金 | 17,925,000 | 17,925,000 | 0 | 0 | 100 | 0 | 17,925,000 | 皆増 |
| 3 公 債 費 | 83,483,000 | 83,482,642 | 0 | 358 | 100.0 | 376,309,331 | △ 292,826,689 | △ 77.8 |
| 4 予 備 費 | 100,000 | 0 | 0 | 100,000 | 0 | 0 | 0 | — |
| 合 計 | 1,056,570,900 | 885,625,672 | 106,900,000 | 64,045,228 | 83.8 | 446,519,567 | 439,106,105 | 98.3 |

・第1款産業立地推進費の予算現額には、前年度繰越事業費繰越額566,127,900円を含む。

ウ 市 債

市債は、新たに723,900,000円を借り入れ、82,600,000円の元金償還をした結果、未償還残高は前年度と比較すると641,300,000円(558.1%)増の756,200,000円となっている。

市債の借入及び償還状況

(単位：円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-----------|-------------|-------------|---------------|---------|
| | | | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
| 年度当初未償還残高 | 114,900,000 | 457,900,000 | △ 343,000,000 | △ 74.9 |
| 借 入 額 | 723,900,000 | 32,300,000 | 691,600,000 | 約22倍 |
| 元 利 償 還 額 | 83,482,642 | 376,309,331 | △ 292,826,689 | △ 77.8 |
| 元 金 | 82,600,000 | 375,300,000 | △ 292,700,000 | △ 78.0 |
| 利 子 | 882,642 | 1,009,331 | △ 126,689 | △ 12.6 |
| 年度末未償還残高 | 756,200,000 | 114,900,000 | 641,300,000 | 558.1 |

付 表

特別会計節別支出状況一覧表

| 節 | 会 計 | 国民健康保険 | | 後期高齢者医療 | | 競 輪 | | 農業集落排水事業 | | 介 護 保 険 | |
|----|-----------------|----------------|------|---------------|------|----------------|------|---------------|------|----------------|------|
| | | 支出済額 | 構成比率 | 支出済額 | 構成比率 | 支出済額 | 構成比率 | 支出済額 | 構成比率 | 支出済額 | 構成比率 |
| 1 | 報 酬 | 39,367,921 | 0.1 | 1,963,530 | 0.0 | 7,449,496 | 0.0 | 1,880,400 | 0.2 | 131,467,439 | 0.4 |
| 2 | 給 料 | 152,861,951 | 0.5 | 32,739,900 | 0.7 | 48,330,684 | 0.2 | 24,101,940 | 1.9 | 194,973,466 | 0.6 |
| 3 | 職 員 手 当 等 | 91,465,063 | 0.3 | 20,650,752 | 0.5 | 32,198,594 | 0.1 | 12,737,802 | 1.0 | 117,944,523 | 0.4 |
| 4 | 共 済 費 | 55,087,947 | 0.2 | 11,120,761 | 0.3 | 17,409,937 | 0.1 | 7,368,059 | 0.6 | 72,101,391 | 0.2 |
| 5 | 災 害 補 償 費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6 | 恩 給 及 び 退 職 年 金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7 | 報 償 費 | 614,380 | 0.0 | 0 | 0 | 591,985,810 | 2.5 | 0 | 0 | 309,000 | 0.0 |
| 8 | 旅 費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 195,120 | 0.0 | 0 | 0 | 22,480 | 0.0 |
| 9 | 交 際 費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10 | 需 用 費 | 8,295,580 | 0.0 | 1,465,393 | 0.0 | 136,100,223 | 0.6 | 101,880,548 | 8.0 | 11,543,676 | 0.0 |
| 11 | 役 務 費 | 155,612,797 | 0.5 | 10,514,083 | 0.2 | 10,324,180 | 0.0 | 4,952,231 | 0.4 | 121,010,054 | 0.4 |
| 12 | 委 託 料 | 189,596,144 | 0.6 | 0 | 0 | 4,108,724,955 | 17.1 | 138,553,448 | 10.9 | 638,260,411 | 2.0 |
| 13 | 使用料及び賃借料 | 3,178,297 | 0.0 | 67,639 | 0.0 | 140,591,115 | 0.6 | 177,580 | 0.0 | 2,971,736 | 0.0 |
| 14 | 工 事 請 負 費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 251,882,400 | 1.1 | 373,159,000 | 29.4 | 0 | 0 |
| 15 | 原 材 料 費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 16 | 公 有 財 産 購 入 費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 17 | 備 品 購 入 費 | 170,500 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 52,866 | 0.0 |
| 18 | 負担金、補助及び交付金 | 31,548,137,536 | 96.9 | 4,420,340,946 | 98.2 | 637,029,338 | 2.6 | 56,440,017 | 4.5 | 30,703,486,557 | 95.7 |
| 19 | 扶 助 費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 20 | 貸 付 金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 21 | 補償、補填及び賠償金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 22 | 償還金、利子及び割引料 | 96,899,947 | 0.3 | 3,094,500 | 0.1 | 17,331,540,060 | 71.9 | 528,529,907 | 41.7 | 98,722,287 | 0.3 |
| 23 | 投資及び出資金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 24 | 積 立 金 | 507,565 | 0.0 | 0 | 0 | 470,605,151 | 2.0 | 0 | 0 | 558,551 | 0.0 |
| 25 | 寄 附 金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 26 | 公 課 費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9,636,100 | 0.0 | 18,333,300 | 1.4 | 69,600 | 0.0 |
| 27 | 繰 出 金 | 193,260,000 | 0.6 | 0 | 0 | 300,000,000 | 1.2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 合 計 | 32,535,055,628 | 100 | 4,501,957,504 | 100 | 24,094,003,163 | 100 | 1,268,114,232 | 100 | 32,093,494,037 | 100 |
| | 予 算 現 額 | 33,158,796,000 | — | 4,540,024,000 | — | 27,033,472,000 | — | 1,289,287,000 | — | 33,011,470,000 | — |
| | 翌年度繰越額 | 0 | — | 0 | — | 0 | — | 9,130,000 | — | 0 | — |
| | 不 用 額 | 623,740,372 | — | 38,066,496 | — | 2,939,468,837 | — | 12,042,768 | — | 917,975,963 | — |

(注)・農業集落排水事業特別会計の翌年度繰越額9,130,000円、産業立地推進事業特別会計の翌年度繰越額106,900,000円は繰越明許費であり、新エネルギー発電事業特別会計の翌年度繰越額198,000円は事故繰越しである。

(単位:円・%)

| 母子父子寡婦 福祉資金貸付金 | | 新エネルギー 発電事業 | | 用地先行取得事業 | | 産業立地推進事業 | | 合 計 | |
|-------------------|----------|----------------|----------|------------|----------|---------------|----------|-----------------|----------|
| 支出済額 | 構成 比率 | 支出済額 | 構成 比率 | 支出済額 | 構成 比率 | 支出済額 | 構成 比率 | 支出済額 | 構成 比率 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 182,128,786 | 0.2 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 453,007,941 | 0.5 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 274,996,734 | 0.3 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 163,088,095 | 0.2 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 726,000 | 0.1 | 593,635,190 | 0.6 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 217,600 | 0.0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6,940 | 0.1 | 435,923 | 0.3 | 0 | 0 | 35,704 | 0.0 | 259,763,987 | 0.3 |
| 30,260 | 0.4 | 253,440 | 0.2 | 0 | 0 | 2,890,900 | 0.3 | 305,587,945 | 0.3 |
| 0 | 0 | 2,568,600 | 1.8 | 0 | 0 | 72,033,126 | 8.2 | 5,149,736,684 | 5.4 |
| 0 | 0 | 64,698,311 | 46.3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 211,684,678 | 0.2 |
| 0 | 0 | 418,000 | 0.3 | 0 | 0 | 131,096,400 | 14.8 | 756,555,800 | 0.8 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 566,127,900 | 63.9 | 566,127,900 | 0.6 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 223,366 | 0.0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6,666,000 | 0.8 | 67,372,100,394 | 70.5 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7,946,000 | 95.1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7,946,000 | 0.0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,642,000 | 0.5 | 4,642,000 | 0.0 |
| 372,722 | 4.4 | 23,566,690 | 16.9 | 0 | 0 | 83,482,642 | 9.4 | 18,166,208,755 | 19.0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 471,671,267 | 0.5 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 0 | 0 | 8,987,900 | 6.4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 37,026,900 | 0.0 |
| 0 | 0 | 38,752,488 | 27.8 | 0 | 0 | 17,925,000 | 2.0 | 549,937,488 | 0.6 |
| 8,355,922 | 100 | 139,681,352 | 100 | 0 | 0 | 885,625,672 | 100 | 95,526,287,510 | 100 |
| 48,072,000 | — | 150,711,000 | — | 10,100,000 | — | 1,056,570,900 | — | 100,298,502,900 | — |
| 0 | — | 198,000 | — | 0 | — | 106,900,000 | — | 116,228,000 | — |
| 39,716,078 | — | 10,831,648 | — | 10,100,000 | — | 64,045,228 | — | 4,655,987,390 | — |

財産に関する調書

4 財産に関する調書

(1) 公有財産

公 有 財 産 の 状 況

| 区 分 | | 2 年 度 末 現 在 高 | 決 算 年 度 中 増 減 高 | | | 3 年 度 末 現 在 高 |
|-----------------|--------------|------------------|-----------------|-----------|------------|------------------|
| | | | 増 加 | 減 少 | 計 | |
| 土 地 | 行 政 財 産 (㎡) | 7,876,123.45 | 58,095.19 | 61,125.77 | △ 3,030.58 | 7,873,092.87 |
| | 普 通 財 産 (㎡) | 1,339,701.80 | 76,118.97 | 18,597.33 | 57,521.64 | 1,397,223.44 |
| | 計 (㎡) | 9,215,825.25 | 134,214.16 | 79,723.10 | 54,491.06 | 9,270,316.31 |
| 建 物 | 行 政 財 産 (㎡) | 1,288,544.71 | 9,861.78 | 16,608.84 | △ 6,747.06 | 1,281,797.65 |
| | 普 通 財 産 (㎡) | 137,721.51 | 819.93 | 483.11 | 336.82 | 138,058.33 |
| | 計 (㎡) | 1,426,266.22 | 10,681.71 | 17,091.95 | △ 6,410.24 | 1,419,855.98 |
| 山 林 | 権 利 面 積 (㎡) | 2,605,969.95 | 0 | 0 | 0 | 2,605,969.95 |
| | 立木の推定蓄積量 (㎥) | 51,267.47 | 500.00 | 51.10 | 448.90 | 51,716.37 |
| 物 権 | 地 上 権 (㎡) | 2,917.53 | 0 | 0 | 0 | 2,917.53 |
| | 温 泉 権 (件) | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 無体財産権(著作権等) (件) | | 12 | 1 | 0 | 1 | 13 |
| 有価証券(株券) (円) | | 164,671,000 | 0 | 0 | 0 | 164,671,000 |
| 出資による権利(円) | | 2,858,552,613 | 0 | 0 | 0 | 2,858,552,613 |

・有価証券(株券)の金額は現在額である。

ア 土 地

当年度末現在の土地の面積は9,270,316.31㎡で、当年度中において54,491.06㎡増加している。内訳は、行政財産で3,030.58㎡の減少、普通財産で57,521.64㎡の増加となっている。

○主な増減(所属替え等の形式的増減を除く。)

(行政財産)

- ・膳城跡(買入れ) 4,290.00㎡(買入価格 9,223,500円)
- ・膳城跡(寄附による増) 1,743.00㎡
- ・旧第二中学校(用途廃止) △14,779.09㎡
- ・野積少年海の家(譲与による減) △2,175.00㎡

(普通財産)

- ・西善中内産業用地(買入れ) 48,387.00㎡(買入価格 566,127,900円)
- ・旧第二中学校(用途廃止) 14,779.09㎡
- ・ローズタウン東地区(売払い) △11,207.43㎡(売払価格 118,428,704円)

イ 建 物

当年度末現在の建物の面積は 1,419,855.98 m²で、当年度中において 6,410.24 m²減少している。内訳は、行政財産で 6,747.06 m²の減少、普通財産で 336.82 m²の増加となっている。

○主な増減（所属替え等の形式的増減を除く。）

（行政財産）

- ・永明公民館（新築） 1,746.51 m²（新築工事 565,835,000 円）
- ・旧第二中学校（解体） △6,022.75 m²（解体工事 138,050,000 円）
- ・旧前橋市立前橋高校体育館（解体） △2,344.62 m²（解体工事 49,819,000 円）
- ・朝倉町第一団地（解体） △173.24 m²（解体工事 12,210,000 円）

（普通財産）

- ・富士見町小暮寄附受入建物(寄附による増) 276.51 m²

ウ 山 林

当年度末現在の山林の面積は 2,605,969.95 m²で、当年度中の変動はなかった。

エ 物 権

当年度末現在高は「ドームパーキングプラザ」の地上権 2,917.53 m²と「前橋荻窪温泉 あいのやまの湯」、「粕川温泉 ささらの湯」、「富士見温泉 見晴らしの湯」の温泉権 3 件で、当年度中の変動はなかった。

オ 無体財産権

当年度末現在高は 13 件で、当年度中において「赤城の恵（6416630）」の商標権 1 件が増加となっている。

その他の無体財産は「前橋市の歌 交声曲赤城嶺に」、「教職員の個人情報取扱の手引」、「2008年制作の前橋こども図書館内壁画」、「2008年制作の色紙譲渡イラスト」に係る著作権 4 件と「指定ゴミ袋の図案」、「あかぎの輝き」、「赤城の恵」、「グリーンドーム前橋（第42類）」、「グリーンドーム前橋シンボルマーク（第42類）」、「グリーンドーム前橋（第41類）」、「グリーンドーム前橋シンボルマーク（第41類）」、「赤城の恵（5252016）」の商標権 8 件である。

カ 有価証券

当年度末現在額は164,671,000円で、当年度中の変動はなかった。これは、株式会社群馬銀行、群馬テレビ株式会社、前橋青果低温貯蔵株式会社の株券である。

- ・株式会社群馬銀行 109,587,500円
- ・群馬テレビ株式会社 52,083,500円
- ・前橋青果低温貯蔵株式会社 3,000,000円

キ 出資による権利

当年度末現在高は2,858,552,613円で、当年度中の変動はなかった。

○主な出捐金

- ・群馬県信用保証協会出捐金 651,087,000円
- ・公益財団法人前橋観光コンベンション協会出捐金 41,000,000円
- ・公益財団法人群馬県蚕糸振興協会出捐金 33,780,000円

○主な出資金

- ・群馬県農業信用基金協会出資金 22,360,000円

○現物出資

- ・公立大学法人前橋工科大学現物出資 1,946,412,174円

(2) 物 品 (取得価格100万円以上の物品。ただし、美術品類は50万円以上)

当年度末現在高は1,839点で、当年度中において8点減少している。

これは主として、AV装置一式、その他選挙用物品類の減によるものである。

(3) 債 権

当年度末現在額は190,914,276円で、当年度中において22,248,686円減少している。

これは主として、母子父子寡婦福祉資金貸付金の償還によるものである。

債 権 の 状 況

(単位：円)

| 区 分 | 2年度末 現在額 | 決 算 年 度 中 増 減 額 | | | 3年度末 現在額 |
|-------------------|-------------|-----------------|------------|--------------|-------------|
| | | 増 加 | 減 少 | 計 | |
| 母子父子寡婦 福祉資金貸付金 | 124,092,693 | 2,942,000 | 17,970,727 | △ 15,028,727 | 109,063,966 |
| 奨学資金貸付金 | 8,674,500 | 0 | 1,544,000 | △ 1,544,000 | 7,130,500 |
| 住宅新築資金等貸付金 | 80,395,769 | — | 5,675,959 | △ 5,675,959 | 74,719,810 |
| 合 計 | 213,162,962 | 2,942,000 | 25,190,686 | △ 22,248,686 | 190,914,276 |

(4) 基金

当年度末の基金総額は21,851,285,332円で、当年度中において6,653,822,883円増加している。
基金の内訳は、積立基金が20,850,453,907円、運用基金が1,000,831,425円である。

積立基金のうち、一般会計に係る財政調整基金以下14基金の総額は14,320,958,907円で、特別会計に係る国民健康保険基金以下4基金の総額は6,529,495,000円となっている。

基金の状況

(単位：円)

| 区分 | 2年度末 現在高 | 決算年度中増減高 | | | 3年度末 現在高 | |
|------|--------------------------|----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|
| | | 増加 | 減少 | 計 | | |
| 積立基金 | 財政調整基金 | 4,585,827,044 | 3,309,562,828 | 0 | 3,309,562,828 | 7,895,389,872 |
| | 減債基金 | 2,429,050 | 2,086,053,597 | 0 | 2,086,053,597 | 2,088,482,647 |
| | 国際交流基金 | 172,740,734 | 0 | 22,025,813 | △ 22,025,813 | 150,714,921 |
| | 公共施設等整備基金 | 805,962,662 | 576,195,411 | 0 | 576,195,411 | 1,382,158,073 |
| | 社会福祉基金 | 710,662,971 | 2,440,290 | 0 | 2,440,290 | 713,103,261 |
| | 職員退職手当基金 | 613,837,809 | 152,661 | 0 | 152,661 | 613,990,470 |
| | 交通安全基金 | 3,436,730 | 852 | 0 | 852 | 3,437,582 |
| | ふるさと前橋応援基金 | 178,862,987 | 35,030,256 | 36,712,976 | △ 1,682,720 | 177,180,267 |
| | 企業版ふるさと納税基金 | — | 300,000,000 | 0 | 300,000,000 | 300,000,000 |
| | 教育振興基金 | 49,850,861 | 19,395 | 40,195,590 | △ 40,176,195 | 9,674,666 |
| | 絆でつなぐ環境基金 | 165,108,703 | 37,868,699 | 22,298,546 | 15,570,153 | 180,678,856 |
| | 学校教育施設整備基金 | 1,979,489 | 511 | 0 | 511 | 1,980,000 |
| | 森林環境護与税基金 | 72,473,553 | 58,229,018 | 44,012,000 | 14,217,018 | 86,690,571 |
| | 新型コロナウイルス感染症対応中小企業経営支援基金 | 1,050,000,000 | 261,109 | 332,783,388 | △ 332,522,279 | 717,477,721 |
| 小計 | 8,413,172,593 | 6,405,814,627 | 498,028,313 | 5,907,786,314 | 14,320,958,907 | |
| 特別会計 | 国民健康保険基金 | 1,341,031,129 | 700,507,565 | 401,127,000 | 299,380,565 | 1,640,411,694 |
| | グリーンドーム前橋等整備基金 | 1,731,619,063 | 470,430,638 | 191,033,048 | 279,397,590 | 2,011,016,653 |
| | グリーンドーム前橋財政調整基金 | 701,762,039 | 174,513 | 0 | 174,513 | 701,936,552 |
| | 介護給付費準備基金 | 2,009,052,393 | 237,574,708 | 70,497,000 | 167,077,708 | 2,176,130,101 |
| | 小計 | 5,783,464,624 | 1,408,687,424 | 662,657,048 | 746,030,376 | 6,529,495,000 |
| | 計 | 14,196,637,217 | 7,814,502,051 | 1,160,685,361 | 6,653,816,690 | 20,850,453,907 |
| 運用基金 | 土地開発基金 | 792,280,688 | 30,950,762 | 339,896,341 | △ 308,945,579 | 483,335,109 |
| | 現金 | 208,544,544 | 339,902,534 | 30,950,762 | 308,951,772 | 517,496,316 |
| | 計 | 1,000,825,232 | 370,853,296 | 370,847,103 | 6,193 | 1,000,831,425 |
| 合計 | 15,197,462,449 | 8,185,355,347 | 1,531,532,464 | 6,653,822,883 | 21,851,285,332 | |

ア 財政調整基金

当年度末の基金額は 7,895,389,872 円で、当年度中において 3,309,562,828 円の増加となっている。これは、前年度の決算剰余金 2,000,000,000 円、当年度の予算積立 1,307,925,000 円、運用益金 1,637,828 円の積立teによるものである。

イ 減債基金

当年度末の基金額は 2,088,482,647 円で、当年度中において 2,086,053,597 円の増加となっている。これは、予算積立 2,086,053,000 円、運用益金 597 円の積立teによるものである。

ウ 国際交流基金

当年度末の基金額は 150,714,921 円で、当年度中において 22,025,813 円の減少となっている。これは、取崩しによるものである。

エ 公共施設等整備基金

当年度末の基金額は 1,382,158,073 円で、当年度中において 576,195,411 円の増加となっている。これは、予算積立 575,995,000 円、運用益金 200,411 円の積立teによるものである。

オ 社会福祉基金

当年度末の基金額は 713,103,261 円で、当年度中において 2,440,290 円の増加となっている。これは、予算積立の積立teによるものである。

なお、運用益金 176,728 円は、社会福祉基金条例第 4 条に基づき市民の健康と福祉の増進を目的として使われた。

カ 職員退職手当基金

当年度末の基金額は 613,990,470 円で、当年度中において 152,661 円の増加となっている。これは、運用益金の積立teによるものである。

キ 交通安全基金

当年度末の基金額は 3,437,582 円で、当年度中において 852 円の増加となっている。これは、運用益金の積立teによるものである。

ク ふるさと前橋応援基金

当年度末の基金額は 177,180,267 円で、当年度中において 1,682,720 円の減少となっている。これは、予算積立 34,985,787 円、運用益金 44,469 円の積立teと 36,712,976 円の取崩しによるものである。

ケ 企業版ふるさと納税基金

当年度中に新設された基金で、当年度末の基金額は 300,000,000 円となっている。これは予算積立の積立teによるものである。

コ 教育振興基金

当年度末の基金額は 9,674,666 円で、当年度中において 40,176,195 円の減少となっている。これは、予算積立 7,000 円、運用益金 12,395 円の積立teと 40,195,590 円の取崩しによる

ものである。

サ 絆でつなぐ環境基金

当年度末の基金額は180,678,856円で、当年度中において15,570,153円の増加となっている。これは、予算積立37,829,000円、運用益金39,699円の積立でと22,298,546円の取崩しによるものである。

シ 学校教育施設整備基金

当年度末の基金額は1,980,000円で、当年度中において511円の増加となっている。これは、運用益金の積立によるものである。

ス 森林環境譲与税基金

当年度末の基金額は86,690,571円で、当年度中において14,217,018円の増加となっている。これは、予算積立58,211,000円、運用益金18,018円の積立でと44,012,000円の取崩しによるものである。

セ 新型コロナウイルス感染症対応中小企業経営支援基金

当年度末の基金額は717,477,721円で、当年度中において332,522,279円の減少となっている。これは、運用益金261,109円の積立でと332,783,388円の取崩しによるものである。

ソ 国民健康保険基金

当年度末の基金額は1,640,411,694円で、当年度中において299,380,565円の増加となっている。これは、前年度の決算剰余金700,000,000円、当年度の運用益金507,565円の積立でと401,127,000円の取崩しによるものである。

タ グリーンドーム前橋等整備基金

当年度末の基金額は2,011,016,653円で、当年度中において279,397,590円の増加となっている。これは、予算積立470,000,000円、運用益金430,638円の積立でと191,033,048円の取崩しによるものである。

チ グリーンドーム前橋財政調整基金

当年度末の基金額は701,936,552円で、当年度中において174,513円の増加となっている。これは、運用益金の積立によるものである。

ツ 介護給付費準備基金

当年度末の基金額は2,176,130,101円で、当年度中において167,077,708円の増加となっている。これは、前年度の決算剰余金237,016,157円、当年度の運用益金558,551円の積立でと70,497,000円の取崩しによるものである。

なお、土地開発基金については、地方自治法第241条第5項の規定により、別途その運用の状況を審査したので基金運用状況の項で報告する。

基金運用状況

令和3年度前橋市基金運用状況審査意見

第1 審査の基準

本審査は、前橋市監査委員監査基準(令和2年前橋市監査委員告示第1号)に準拠し実施した。

第2 審査の種類

地方自治法(昭和22年法律第67号)第241条第5項の規定による運用状況審査

第3 審査の対象

令和3年度 前橋市土地開発基金

第4 審査の期間

令和4年7月4日から同年8月5日まで

第5 審査の着眼点

基金の運用の状況を示す書類の計数が正確であり、基金の運用が确实かつ効率的に行われているかを主な着眼点とした。

第6 審査の実施内容

審査に当たっては、市長から提出された基金の運用状況を示す書類について、その計数が正確であるか、また、基金が適正に運用されているかなどを主眼として審査を実施した。なお、現金の出納状況については、毎月、出納検査を実施し、確認済であるので省略した。

第7 審査の結果

基金の運用状況を示す書類における計数は正確であり、基金の運用状況は適正であると認められた。

基金の概要及び運用状況は、次のとおりである。

1 基金の概要

土地開発基金は、公用若しくは公共用に供する土地又は公共の利益のために必要のある土地をあらかじめ取得することにより、事業の円滑な執行を図ることを目的に設置されている。

2 基金運用状況

当年度末における基金の状況は、土地 483,335,109 円(6 件、地積 21,356.81 ㎡)、現金 517,496,316 円で合計 1,000,831,425 円となっている。

当年度における運用状況のうち、土地の増加は道の駅アクセス道路整備事業用地以下 3 件 30,950,762 円(地積 1,351.07 ㎡)の買入れであり、減少は、日赤跡地生涯活躍のまち事業用地以下 5 件 339,896,341 円(地積 6,866.53 ㎡)の売払いによるものである。

なお、運用益金 6,193 円は、土地開発基金条例第 6 条に基づき基金に積み立てている。

基金の状況

(単位：円)

| 区分 | 2 年度末 現在高 | 決算年度中増減高 | | | 3 年度末 現在高 |
|----|---------------|-------------|-------------|---------------|---------------|
| | | 増加 | 減少 | 計 | |
| 土地 | 792,280,688 | 30,950,762 | 339,896,341 | △ 308,945,579 | 483,335,109 |
| 現金 | 208,544,544 | 339,902,534 | 30,950,762 | 308,951,772 | 517,496,316 |
| 合計 | 1,000,825,232 | 370,853,296 | 370,847,103 | 6,193 | 1,000,831,425 |

基金(土地)の内訳

(単位：㎡・円)

| 名称 | 2 年度末 現在高 | 決算年度中増減高 | | | 3 年度末 現在高 |
|------------------------------|--------------------------------|------------------------|-------------------------|-----------------------------|--------------------------|
| | | 増加 | 減少 | 計 | |
| 文京町四丁目土地区画整理事業土地 (文京町四丁目) | 金額 87,864,571 地積 1,582.08 | 0 | 0 | 0 | 87,864,571 1,582.08 |
| 宮地町道路事業代替用地 (宮地町) | 金額 16,119,514 地積 759.00 | 0 | 0 | 0 | 16,119,514 759.00 |
| 江田天川大島線用地 (朝倉町) | 金額 23,478,781 地積 587.97 | 10,070,000 252.19 | 24,960,642 625.58 | △ 14,890,642 △ 373.39 | 8,588,139 214.58 |
| 国鉄清算事業団用地(群馬総社駅) (総社町植野) | 金額 73,128,253 地積 874.08 | 0 | 0 | 0 | 73,128,253 874.08 |
| 上新田前箱田線事業用地代替地 (箱田町) | 金額 4,500,000 地積 102.00 | 0 | 0 | 0 | 4,500,000 102.00 |
| 西部第一落合土地区画整理事業地内土地 (元総社町) | 金額 293,134,632 地積 17,825.07 | 0 | 0 | 0 | 293,134,632 17,825.07 |
| 泉橋通線事業用地 (上泉町) | 金額 11,666,688 地積 332.55 | 5,010,000 142.81 | 16,676,688 475.36 | △ 11,666,688 △ 332.55 | 0 0 |
| 上新田前箱田線事業用地 (箱田町) | 金額 47,633,719 地積 206.49 | 0 | 47,633,719 206.49 | △ 47,633,719 △ 206.49 | 0 0 |
| 道の駅アクセス道路整備事業用地 (田口町など) | 金額 0 地積 0 | 15,870,762 956.07 | 15,870,762 956.07 | 0 | 0 0 |
| 日赤跡地生涯活躍のまち事業用地 (朝日町三丁目) | 金額 234,754,530 地積 4,603.03 | 0 | 234,754,530 4,603.03 | △ 234,754,530 △ 4,603.03 | 0 0 |
| 合計 | 金額 792,280,688 地積 26,872.27 | 30,950,762 1,351.07 | 339,896,341 6,866.53 | △ 308,945,579 △ 5,515.46 | 483,335,109 21,356.81 |

公営企業会計決算審査意見書

公営企業会計

内 監

令和4年8月24日

前橋市長 山 本 龍 様

| | |
|---------|---------|
| 前橋市監査委員 | 根 岸 隆 夫 |
| 同 | 長 岡 敏 夫 |
| 同 | 鈴 木 俊 司 |
| 同 | 近 藤 登 |

令和3年度前橋市公営企業会計決算審査意見の提出について

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定により審査に付された令和3年度前橋市公営企業会計決算について審査した結果、次のとおり意見を提出いたします。

目 次

公営企業会計

| | | |
|-----|------------------------|-----------|
| 第1 | 審査の基準 | 1 |
| 第2 | 審査の種類 | 1 |
| 第3 | 審査の対象 | 1 |
| 第4 | 審査の期間 | 1 |
| 第5 | 審査の着眼点 | 1 |
| 第6 | 審査の実施内容 | 1 |
| 第7 | 審査の結果 | 1 |
| 1 | 決算の概要及び審査意見 | 2 |
| (1) | 水道事業 | 2 |
| (2) | 下水道事業 | 4 |
| | 水道事業会計 | 7 |
| 1 | 業務状況 | 7 |
| 2 | 予算執行状況(決算報告書) | 9 |
| 3 | 経営成績(損益計算書) | 11 |
| 4 | 財政状態(貸借対照表) | 15 |
| 5 | 資金状況(キャッシュ・フロー計算書) | 19 |
| 6 | 企業債 | 20 |
| | 付 表 | |
| 1 | 水道事業損益計算書前年度比較表 | 22 |
| 2 | 水道事業費用別比較表 | 24 |
| 3 | 水道事業貸借対照表前年度比較表 | 26 |
| 4 | 水道事業経営分析表 | 28 |
| 5 | 水道事業キャッシュ・フロー計算書前年度比較表 | 32 |
| | 下水道事業会計 | 33 |
| 1 | 業務状況 | 33 |
| 2 | 予算執行状況(決算報告書) | 35 |
| 3 | 経営成績(損益計算書) | 37 |
| 4 | 財政状態(貸借対照表) | 41 |
| 5 | 資金状況(キャッシュ・フロー計算書) | 46 |
| 6 | 企業債 | 47 |

付 表

| | | |
|---|-------------------------|----|
| 1 | 下水道事業損益計算書前年度比較表 | 50 |
| 2 | 下水道事業費用別比較表 | 52 |
| 3 | 下水道事業貸借対照表前年度比較表 | 54 |
| 4 | 下水道事業経営分析表 | 56 |
| 5 | 下水道事業キャッシュ・フロー計算書前年度比較表 | 60 |

凡 例

- 文中及び各表中で用いる百分率（％）は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
なお、構成比率（％）は、合計が100となるように一部調整した。
- 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「0.0」…………… 該当数値はあるが表示単位未満のもの
 - 「－」…………… 該当のないもの
 - 「△」…………… 負数を示し増減を示すときは減を表すもの
 - 「皆増」…………… 前年度に数値がなく全額増加したもの
 - 「皆減」…………… 当該年度に数値がなく全額減少したもの
- 予算執行状況（決算報告書）を除き消費税及び地方消費税抜きの数値である。

公 營 企 業 会 計

令和3年度前橋市公営企業会計決算審査意見

第1 審査の基準

本審査は、前橋市監査委員監査基準（令和2年前橋市監査委員告示第1号）に準拠し実施した。

第2 審査の種類

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定による決算審査

第3 審査の対象

令和3年度 前橋市水道事業会計決算

令和3年度 前橋市下水道事業会計決算

第4 審査の期間

令和4年6月2日から同年7月4日まで

第5 審査の着眼点

決算その他関係書類が法令に適合し、適切かつ正確であり、効率的で効果的な事業の実施に資するものになっているかを主な着眼点とした。

第6 審査の実施内容

審査に当たっては、市長から提出された決算書類及び附属書類が法令の規定に従い作成され、各事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、また、予算執行が適正に行われているかを検証するため、総勘定元帳をはじめ関係諸帳簿及び証拠書類との突合、検算等を実施した。

次に、地方公営企業法第3条の趣旨である事業の経済性を発揮し、公共の福祉を増進するように事業が運営されているかを検証するため、各事業の経営分析を行い、必要に応じて関係職員から説明を聴取した。

なお、現金の出納状況については、毎月、出納検査を実施し、確認済であるので省略した。

第7 審査の結果

審査に付された決算書類及び附属書類は、地方公営企業法及び関係法令の定めるところにより作成され、その計数は正確であるとともに、各事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

決算の概要及び意見は、次のとおりである。

1 決算の概要及び審査意見

(1) 水道事業

ア 決算の概要

当年度の水道使用量は、前年度増加した家庭での使用量が減少し、コロナ禍前の状況に戻りつつある。その結果、総給水量が前年度と比較して 294,377 m³減少し 47,305,047 m³、年間有収水量が 528,730 m³減少し 39,195,014 m³となるとともに、給水収益が約 5,484 万円減少し約 51 億 804 万円となった。施設整備では、水道施設の適正な維持管理のため、荻窪受水場の配水池築造工事に着手したほか、配水管の整備、拡充や災害時の防災拠点となる施設等への主要管路の耐震化などを実施した。

当年度の経営成績をみると、総収益は前年度と比較すると約 2,740 万円減少し約 62 億 1,666 万円となり、総費用は前年度と比較すると約 2,068 万円減少し約 59 億 9,301 万円となった。営業損益は給水収益の減や減価償却費の増などにより、約 6 億 952 万円の営業損失で 10 期連続の赤字となり、前年度を約 6,620 万円下回った。経常損益は営業損失額の増加の影響により、前年度を約 1,983 万円下回る約 2 億 2,331 万円の経常利益となった。最終的に純損益は、前年度を約 672 万円下回る約 2 億 2,366 万円の純利益となっている。

当年度の財政状況をみると、流動資産から流動負債を差し引いた正味運転資金は、前年度と比較すると約 2 億 8,205 万円減少し約 3 億 4,596 万円となった。これに関連し、流動比率は前年度を 17.5 ポイント下回る 117.2%となったが、100%を上回っていることから、短期債務に対する支払能力は確保されている状態である。なお、当年度未処分利益剰余金約 6 億 5,454 万円は、約 2 億 2,366 万円を減債積立金に積み立て、残りの約 4 億 3,089 万円を組入資本金に組み入れることとしている。

資金状況をみると、当年度の資金期末残高は、前年度と比較すると約 1,291 万円減少し約 15 億 7,668 万円となった。業務活動によるキャッシュ・フローはプラスであり、投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローはマイナスであることから、引き続き営業活動で獲得した資金を活用し、借入金残高を減らしながら建設投資を行っている状況である。

イ 審査意見

(7) 水道料金の滞納対策について

水道料金の滞納対策として、当年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、給水停止の執行を取りやめる期間があったが、滞納者との接触を避けるため、電話や書状による滞納交渉など、実施可能な滞納対策を強化した結果、滞納額は、前年度と比較すると約 144 万円減少し、約 8,110 万円となった。新型コロナウイルス感染症の影響などに配慮しつつ、引き続き経営の健全化や料金負担の公平性の観点から、収納事務委託業者と連携し、滞納

額の圧縮に努められたい。また、当年度の不納欠損額は約 344 万円となっている。滞納金の早期回収に努めることにより、時効等による不納欠損処分を抑制するとともに、滞納者の所在不明による不納欠損額が全体の半数以上を占めていることから、所在不明による不納欠損処分を減少させる方策について研究するなど、不納欠損額の縮減にも努められたい。

(イ) 有収率の向上について

当年度の有収率は無効水量の増加などにより、前年度と比較すると 0.6 ポイント下回る 82.9%となり、平成元年度以降では最も低い数値となった。加えて、法定耐用年数を経過した管路延長の割合を示す管路経年化率が当年度は 18.0%で、直近の 5 年間で約 1.9 倍となっており、管路の老朽化が進んでいると言える。こうしたことから、劣化により漏水の原因にもなる鉛製給水管の布設替や漏水調査の実施など、各種の漏水対策などに取り組んでいるものの、無効水量の増加傾向が続いている。財政計画（令和 4～7 年度）において、管路更新率を現行の 0.4%程度から 0.6%程度に引き上げることとしているが、当年度末の管路延長は約 2,595 km であることから、更新できるのは年間 15km 程度に留まる。このため、より緊急性の高い管路を見極め、優先的に更新していくことが重要である。令和 4 年度は、AI を活用した管路の劣化予測を試行的に実施し、その結果を管路更新の順位に反映させることにより、将来の漏水対策にもつなげたいとのことだが、従来からの漏水対策に加え、新たな技術の研究などにも取り組み、有収率の向上に努められたい。

(ウ) 安定的な事業運営について

当年度は、総給水量の減少に伴う給水収益の減少などにより、営業損失額が前年度と比較すると約 6,620 万円増加した。また、供給単価が給水原価を下回る状態が続いており、販売損失額が前年度より拡大したことにより、料金回収率は前年度を 1.1 ポイント下回り 95.5%となった。財政計画（令和 4～7 年度）によれば、令和 4 年度の水道料金改定により、供給単価が給水原価を上回り販売利益が生じる見込みであり、その収益は、今後計画している管路や浄水場等の老朽化した施設の更新事業の財源などに活用していくものと考えているが、新たな財政計画に基づいた安定した事業の運営に努められたい。

(エ) 計画の着実な推進について

水道料金については、令和 4 年 4 月に、平成 11 年 4 月以来となる平均 17.0%程度の改定を実施した。更に、令和 7 年 4 月に平均 4.0%程度の改定を行う予定であるが、この料金改定においては、利用者に対し、より一層の経費削減やサービス向上に努めていくと説明していることから、その具現化にしっかりと取り組まされたい。また、料金改定等を踏まえ、当年度に「前橋市水道ビジョン 2015 改訂版」の見直しと、「財政計画（令和 4～7 年度）」の策定を行っており、これらの進捗管理等を適切に行い、計画と実績に乖離が生じていないかなどを把握するとともに、事業の成果や効果などを十分に検証され、計画を着実に推進されたい。

(2) 下水道事業

ア 決算の概要

当年度の下水道事業における施工（整備）区域面積は、前年度と比較すると 44.0ha 拡大し 6,352.4ha となり、その結果、計画区域面積における整備率は、前年度を 0.6 ポイント上回る 91.4%となった。また、コロナ禍前の状況に戻りつつあることから、一般家庭の水道使用量が減少し年間有収汚水量が前年度を 148,081 m³下回る 27,376,677 m³となった結果、下水道使用料は約 925 万円減少し約 30 億 2,861 万円となった。更に、施設整備では、下水道施設の適正な維持管理のため、前橋水質浄化センター更新事業基本設計業務のほか、管渠の面的整備や老朽化した下水道管の更生工事等を実施した。

当年度の経営成績をみると、総収益は前年度と比較すると約 1 億 7,573 万円減少し約 68 億 7,866 万円で、総費用は前年度と比較すると約 1 億 1,569 万円減少し約 65 億 7,880 万円となった。営業損益は他会計負担金や下水道使用料の減などにより、約 2 億 8,359 万円の営業損失となり、前年度を約 1 億 7,047 万円下回った。経常損益は営業外費用である支払利息の減などがあったものの、営業損失の拡大等により、前年度を約 6,660 万円下回る約 2 億 9,261 万円の経常利益となった。最終的に純損益は、前年度を約 6,004 万円下回る約 2 億 9,986 万円の純利益となっている。

当年度の財政状況をみると、流動資産から流動負債を差し引いた正味運転資金は、1 年以内に償還する企業債を流動負債として計上している影響で、約 12 億 5,042 万円のマイナスとなっている。これに関連し、短期的な支払能力を示す流動比率は、前年度を 1.0 ポイント上回る 72.5%となり、望ましいとされる 100%以上を大幅に下回っているが、下水道使用料等で賄うことから実質的な資金不足にはなっていない。なお、当年度未処分利益剰余金約 7 億 1,555 万円は、約 2 億 9,986 万円を減債積立金に積み立て、残りの約 4 億 1,569 万円を組入資本金に組み入れることとしている。

資金状況をみると、当年度の資金期末残高は、前年度と比較すると約 2 億 2,731 万円増加し約 25 億 1,737 万円となった。業務活動によるキャッシュ・フローはプラスであり、投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローはマイナスであることから、引き続き営業活動で獲得した資金を活用し、借入金残高を減らしながら建設投資を行っている状況である。

イ 審査意見

(7) 下水道使用料の滞納対策について

下水道使用料については、コロナ禍において、滞納者との接触を避けるため、電話や書状による滞納交渉等を強化した結果、滞納額は、前年度と比較すると約 317 万円減少し約 4,852 万円となった。受益者負担の公平性確保や経営の健全化の観点から、引き続き収納事務委託業者

と連携し、滞納額の圧縮に取り組まれない。また、当年度の不納欠損処分額は約 221 万円であり、水道料金と同様に、このうち半数以上が滞納者の所在不明によるものであることから、滞納金の早期回収とともに、所在不明による不納欠損処分を減少させるための方策を研究するなど、不納欠損額の縮減にも努められたい。

(イ) 企業債の新規発行及び償還について

当年度の企業債未償還残高は約 363 億 5,931 万円であり、新規発行額が償還額を下回ったことから、前年度と比較すると約 16 億 1,617 万円減少した。未償還残高は減少傾向にあるが、財政計画（令和 4～7 年度）において、未償還残高は計画期間内で約 55 億円減少するものの、その後は、前橋水質浄化センター更新事業が控えているため、増加する見込みであるとしていることから、将来の未償還残高の増加を考慮しながら、企業債の新規発行及び償還を進められたい。

(ウ) 経営の効率化について

当年度の営業利益は、前年度と比較して約 1 億 7,047 万円減少し、約 2 億 8,359 万円の営業損失となった。また、使用料単価が処理原価を下回る状態が続き、販売損失額が前年度よりも拡大したことから、使用料回収率は前年度を 5.2 ポイント下回る 82.1%となり、収益性が低下している。今後も管路整備や老朽化した施設の更新に多額の経費が見込まれる一方、人口減少等により下水道使用料収入が伸び悩むなど、厳しい経営環境が続くことが見込まれる。こうした中、当年度に策定した財政計画（令和 4～7 年度）において、計画期間中は純利益や整備に必要な資金を確保できる見込みであり、下水道使用料を据え置くことが可能としながらも、安定的な経営のためには、将来の改定を視野に入れておく必要があるとしている。これらのことから、今後の経営に当たっては、新たな財政計画に基づく事業運営を適切に行い、純利益を確保するとともに、既存事業の更なる見直しにより、統廃合や効率化できる事業を洗い出すなど、経営の一層の効率化に努められたい。

(エ) 事業計画の執行管理について

当年度は「前橋市下水道ビジョン 2016」の 5 年毎の見直しに当たり、実績や現状、関連する計画との整合性等に配慮した上で、今後 10 年間の改訂版（案）を策定した。同ビジョンの策定目的は、下水道事業が下水道の役割を果たし、将来にわたり安定した事業運営を持続的に行うためとのことであるが、計画どおりの成果が挙げられているか、適切な実施体制の下で、進捗管理や評価を確実にを行い、策定目的を達成するために位置付けた各種施策が着実に行われるよう努められたい。

水道事業会計

水 道 事 業 会 計

1 業 務 状 況

当年度における水道事業は、4か年の財政計画（平成30年度～令和3年度）の最終年次に当たり、老朽铸铁管及び老朽配水管の布設替や浄水場の設備改修工事をはじめとした施設の改良工事などを行い、清浄な水の安定給水を確保するための諸施策が実施された。

施設更新事業では、3か年事業である荻窪受水場の配水池築造工事に着手するとともに、2か年事業である中之沢浄水場の詳細設計業務に着手した。

重要給水施設管路耐震化事業では、災害時の拠点となる施設等への主要管路の耐震化を実施した。

管網整備事業では、出水不良の解消を目的とした配水管布設工事や高水圧対策のための減圧弁設置工事など、配水管等の整備、拡充を実施した。

施設改良事業では、浄水場などの施設改修工事や計装設備改修工事、都市計画事業や下水道事業など他の事業に関連した配水管の布設替工事、配水管の新設や水圧増強工事などを実施し、施設の適正な維持管理に努めた。

当年度末における給水人口は331,712人で、前年度と比較すると2,483人（0.7%）減少し、行政区域内人口については332,063人で、前年度と比較すると2,472人（0.7%）減少したことから、普及率は前年度と同率の99.9%となった。

年間総給水量は47,305,047 m^3 で、前年度と比較すると294,377 m^3 （0.6%）減少した。

なお、県央第一水道及び県央第二水道からの受水量は26,495,350 m^3 で、前年度と同量であり、年間総給水量に占める割合は、前年度を0.3ポイント上回り56.0%となった。

年間有収水量は39,195,014 m^3 で、前年度と比較すると528,730 m^3 （1.3%）減少し、有収率は、前年度を0.6ポイント下回り82.9%となった。

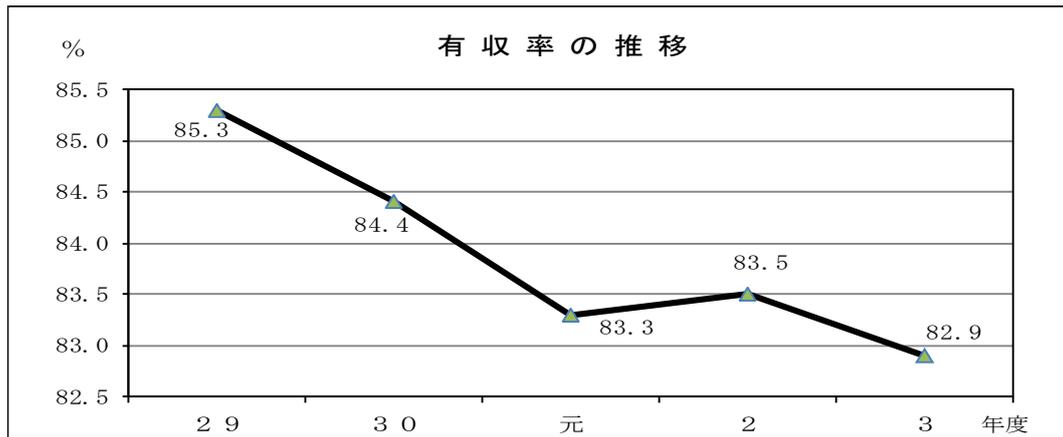
施設の稼働状況をみると、施設の利用状況を示す施設利用率は、前年度と比較し0.5ポイント上回り70.6%となるとともに、施設の稼働効率を示す負荷率は、前年度を0.9ポイント上回り94.6%となった。また、施設能力に対する最大稼働実績を示す最大稼働率は、前年度を0.2ポイント下回り74.6%となった。

当年度末における職員数は83人で、前年度と同数であり、そのうち損益勘定職員数についても61人で前年度と同数であった。人的資源が効率的に活用されているかを示す損益勘定職員一人当たりの有収水量は642,541 m^3 で、前年度と比較すると8,668 m^3 （1.3%）減少し、また、損益勘定職員一人当たりの営業収益も90,415千円で、前年度と比較すると423千円（0.5%）減少した。

普及状況等前年度比較

| 区 分 | 単位 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対前年度比較 | |
|-----------------|----------------|------------------------------|------------------------------|--------------------|----------------|
| | | | | 増 減 | 増減比率 (%) |
| 行政区域内人口 A | 人 | 332,063 | 334,535 | △ 2,472 | △ 0.7 |
| 行政区域内給水人口 B | 人 | 331,712 | 334,195 | △ 2,483 | △ 0.7 |
| 計画給水区域内人口 | 人 | 331,988 | 334,490 | △ 2,502 | △ 0.7 |
| 計画給水区域内給水人口 C | 人 | 331,756 | 334,241 | △ 2,485 | △ 0.7 |
| 普及率 B/A×100 | % | 99.9 | 99.9 | 0.0 | — |
| 年間総給水量 D | m ³ | 47,305,047 (26,495,350) | 47,599,424 (26,495,350) | △ 294,377 (0) | △ 0.6 (0) |
| 年間有収水量 E | m ³ | 39,195,014 | 39,723,744 | △ 528,730 | △ 1.3 |
| 年間無収水量 F | m ³ | 802,696 | 801,214 | 1,482 | 0.2 |
| 年間有効水量 E+F G | m ³ | 39,997,710 | 40,524,958 | △ 527,248 | △ 1.3 |
| 年間無効水量 | m ³ | 7,307,337 | 7,074,466 | 232,871 | 3.3 |
| 有効率 G/D×100 | % | 84.6 | 85.1 | △ 0.5 | — |
| 有収率 E/D×100 | % | 82.9 | 83.5 | △ 0.6 | — |
| 1日給水能力 H | m ³ | 183,703 | 186,093 | △ 2,390 | △ 1.3 |
| 1日平均給水量 I | m ³ | 129,603 | 130,409 | △ 806 | △ 0.6 |
| 1日最大給水量 J | m ³ | 137,048 | 139,114 | △ 2,066 | △ 1.5 |
| 導送配水管延長 K | km | 2,594.62 | 2,588.41 | 6.21 | 0.2 |
| 施設利用率 I/H×100 | % | 70.6 | 70.1 | 0.5 | — |
| 負荷率 I/J×100 | % | 94.6 | 93.7 | 0.9 | — |
| 最大稼働率 J/H×100 | % | 74.6 | 74.8 | △ 0.2 | — |
| 配水管使用効率 D/K | m ³ | 1 km当たり 18,232 | 1 km当たり 18,389 | 1 km当たり △ 157 | △ 0.9 |
| 職 員 数 L | 人 | 83 (61) | 83 (61) | 0 (0) | 0 (0) |
| 職員一人当たり給水人口 C/L | 人 | 5,439 | 5,479 | △ 40 | △ 0.7 |
| 職員一人当たり有収水量 E/L | m ³ | 642,541 | 651,209 | △ 8,668 | △ 1.3 |
| 職員一人当たり営業収益 | 千円 | 90,415 | 90,838 | △ 423 | △ 0.5 |

- ・年間総給水量 () 内は県央第一水道及び県央第二水道からの受水量である。
- ・職員数 () 内は損益勘定職員である。また、職員一人当たりの各項目は損益勘定職員数により積算している。
- ・職員一人当たり営業収益は地方公営企業年鑑に基づき算出した。



2 予算執行状況（決算報告書）

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入の決算額は6,763,846,540円で、予算現額6,668,867,000円に対し94,979,540円の増となり、収入率は101.4%である。

収益的支出の決算額は6,405,388,523円で、予算現額6,464,644,000円に対し59,255,477円の不用額を生じ、執行率は99.1%である。

収益的収支のうちには、特別利益として放射能関連経費に伴う東京電力賠償金1,864,935円、特別損失として過年度水道料金還付金1,333,199円、過年度加入金還付金147,080円がある。

収 益 的 収 入 の 状 況

(単位：円・%)

| 区 分 | 予算現額 | 決算額 | 対 予 算 比 較 | |
|------------|---------------|---------------|------------|-------|
| | | | 増 減 額 | 収 入 率 |
| 第1款 水道事業収益 | 6,668,867,000 | 6,763,846,540 | 94,979,540 | 101.4 |
| 第1項 営業収益 | 5,597,666,000 | 5,674,038,480 | 76,372,480 | 101.4 |
| 第2項 営業外収益 | 1,069,375,000 | 1,087,917,064 | 18,542,064 | 101.7 |
| 第3項 特別利益 | 1,826,000 | 1,890,996 | 64,996 | 103.6 |

収 益 的 支 出 の 状 況

(単位：円・%)

| 区 分 | 予算現額 | 決算額 | 不用額 | 執行率 |
|------------|---------------|---------------|------------|------|
| 第1款 水道事業費用 | 6,464,644,000 | 6,405,388,523 | 59,255,477 | 99.1 |
| 第1項 営業費用 | 6,100,173,676 | 6,059,575,420 | 40,598,256 | 99.3 |
| 第2項 営業外費用 | 345,576,181 | 344,142,962 | 1,433,219 | 99.6 |
| 第3項 特別損失 | 2,411,000 | 1,670,141 | 740,859 | 69.3 |
| 第4項 予備費 | 16,483,143 | 0 | 16,483,143 | 0 |

・予備費13,516,857円を営業費用へ8,193,676円、営業外費用へ5,323,181円充用している。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入の決算額は 784,122,876 円で、前年度からの繰越額に係る財源充当額 136,199,500 円を含む予算現額 1,004,275,500 円に対し 220,152,624 円の減となり、収入率は 78.1%である。

資本的支出の決算額は 3,268,344,723 円で、前年度からの繰越額 408,322,000 円を含む予算現額 3,830,212,000 円に対し翌年度繰越額 304,368,900 円を除く 257,498,377 円の不用額を生じ、執行率は 85.3%である。

資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額 2,484,221,847 円は、当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額（消費税の経理に伴い当年度に発生した内部留保資金）131,359,278 円、過年度損益勘定留保資金（過年度に発生した現金支出を伴わない減価償却費等の費用で内部留保されている資金）493,070,087 円、当年度損益勘定留保資金（当年度に発生した現金支出を伴わない減価償却費等の費用の合計額）1,428,905,482 円、減債積立金 430,887,000 円で補てんされている。

資 本 的 収 入 の 状 況

(単位：円・%)

| 区 分 | 予算現額 | 決算額 | 対 予 算 比 較 | |
|-----------|---------------|-------------|---------------|-------|
| | | | 増 減 額 | 収 入 率 |
| 第1款 資本的収入 | 1,004,275,500 | 784,122,876 | △ 220,152,624 | 78.1 |
| 第1項 企業債 | 476,600,000 | 409,700,000 | △ 66,900,000 | 86.0 |
| 第2項 国庫補助金 | 1,675,000 | 1,675,000 | 0 | 100 |
| 第3項 工事負担金 | 515,949,500 | 362,585,900 | △ 153,363,600 | 70.3 |
| 第4項 出資金 | 5,051,000 | 5,161,976 | 110,976 | 102.2 |
| 第5項 寄附金 | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 | 100 |

- ・第1項企業債の予算現額には、前年度繰越額に係る財源充当額86,200,000円を含み、決算額には前年度繰越額に係る財源充当額80,100,000円を含む。
- また、予算現額と決算額の差額66,900,000円には、翌年度繰越額に係る財源充当額11,100,000円を含む。
- ・第3項工事負担金の予算現額には、前年度繰越額に係る財源充当額49,999,500円を含み、決算額には前年度繰越額に係る財源充当額48,895,000円を含む。
- また、予算現額と決算額の差額153,363,600円には、翌年度繰越額に係る財源充当額48,664,000円を含む。

資 本 的 支 出 の 状 況

(単位：円・%)

| 区 分 | 予算現額 | 決算額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|------------|---------------|---------------|-------------|-------------|-------|
| 第1款 資本的支出 | 3,830,212,000 | 3,268,344,723 | 304,368,900 | 257,498,377 | 85.3 |
| 第1項 建設改良費 | 2,544,187,000 | 1,987,319,954 | 304,368,900 | 252,498,146 | 78.1 |
| 第2項 企業債償還金 | 1,281,025,000 | 1,281,024,769 | 0 | 231 | 100.0 |
| 第3項 予備費 | 5,000,000 | 0 | 0 | 5,000,000 | 0 |

- ・第1項建設改良費の予算現額には、前年度繰越額408,322,000円を含み、決算額には前年度繰越額378,290,000円を含む。

3 経営成績（損益計算書）

※付表〔1 水道事業損益計算書前年度比較表（22～23頁）〕を参照

(1) 経営状況

総収益は6,216,661,154円、総費用は5,993,005,952円で、差引き223,655,202円の純利益となっている。

営業損益（営業収益－営業費用）は609,518,807円の営業損失となっており、前年度の営業損失543,315,196円と比較すると損失が66,203,611円増加している。

経常損益（営業損益＋営業外収益－営業外費用）は223,305,789円の経常利益となっており、前年度の経常利益243,138,932円と比較すると利益が19,833,143円減少している。

純損益（経常損益＋特別利益－特別損失）は223,655,202円の純利益となっており、前年度の純利益230,372,098円と比較すると利益が6,716,896円減少している。

なお、当年度純利益223,655,202円に、減債積立金を取り崩したことによるその他未処分利益剰余金変動額430,887,000円を加えた当年度未処分利益剰余金は654,542,202円となっている。

営業活動の収支の均衡を示す営業収支比率は95.5%で、前年度を0.7ポイント下回っている。この比率は100%を超えて高いほど営業利益率が良いことを示すことから、営業収支は支出超過となっている。

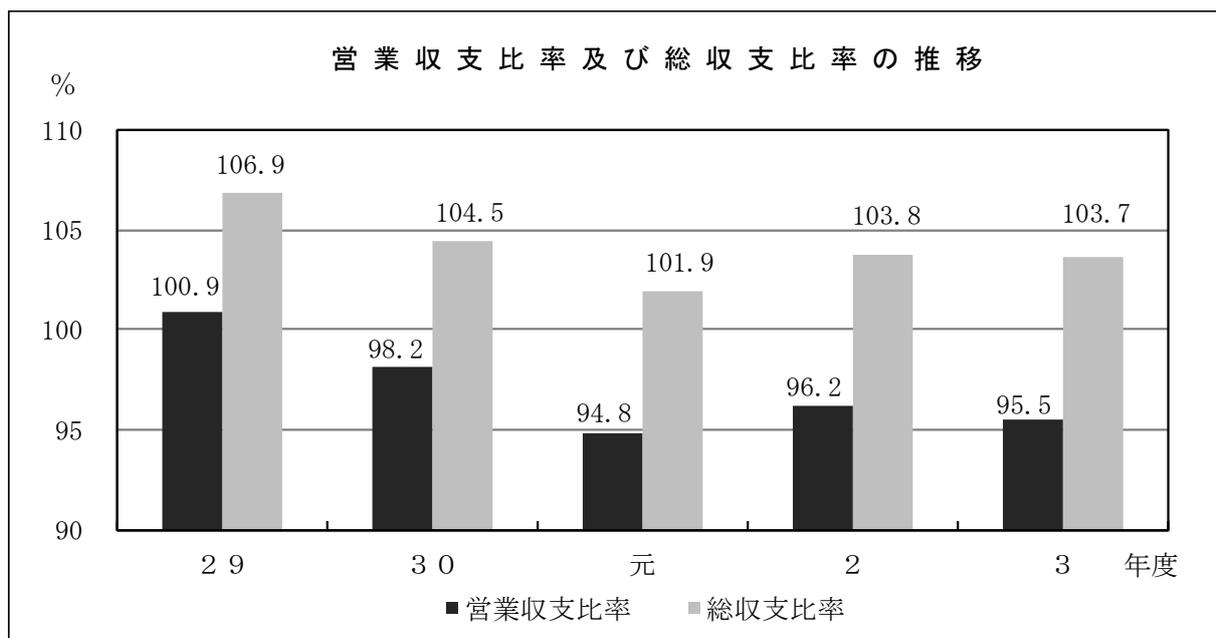
経常的な収支の均衡を示す経常収支比率は103.7%で、前年度を0.4ポイント下回っている。また、事業全体の収支の均衡を示す総収支比率も103.7%で、総収益の減等により前年度を0.1ポイント下回っている。両比率ともに100%を超えて高いほど利益が発生していることを示すが、営業収支は支出超過となっており、一概に経営の安定化が図られているとはいえない状況である。

営業収支比率、経常収支比率及び総収支比率

(単位：%)

| 区 分 | 3年度 | 2年度 | 全国平均 (2年度) | 算 出 基 礎 |
|--------------------------------|------------------|-------|---------------|--|
| 営業収支比率 (この比率は100%を超え高いほど良い) | 95.5 (△ 0.7) | 96.2 | 103.6 | $\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{営業費用}-\text{受託工事費用}} \times 100$ |
| 経常収支比率 (この比率は100%を超え高いほど良い) | 103.7 (△ 0.4) | 104.1 | 112.6 | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ |
| 総収支比率 (この比率は100%を超え高いほど良い) | 103.7 (△ 0.1) | 103.8 | 112.6 | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ |

- ・各比率は地方公営企業年鑑に基づき算出した。
- ・営業収支比率における営業収益は、営業外収益のうち負担金の一部と加入金を含む。
- ・経常収益は営業収益と営業外収益の合計額であり、経常費用は営業費用と営業外費用の合計額である。
- ・全国平均は地方公営企業年鑑における給水人口30万人以上の事業区分の平均値である。
- ・3年度（ ）内は対前年度比較増減の値である。



(2) 収 益

総収益は6,216,661,154円で、前年度と比較すると27,398,132円(0.4%)の減少となっている。

これは主として、加入金18,594,000円(10.9%)、負担金13,203,926円(7.2%)の増と給水収益54,843,654円(1.1%)、長期前受金戻入11,678,740円(1.8%)の減によるものである。

収 益 の 前 年 度 比 較

(単位：円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | | |
|-------|---------------|---------------|---------------|--------------|-------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 | |
| 総 収 益 | 6,216,661,154 | 6,244,059,286 | △ 27,398,132 | △ 0.4 | |
| 内 訳 | 給 水 収 益 | 5,108,037,038 | 5,162,880,692 | △ 54,843,654 | △ 1.1 |
| | そ の 他 営 業 収 益 | 55,197,748 | 50,913,632 | 4,284,116 | 8.4 |
| | 負 担 金 | 196,463,913 | 183,259,987 | 13,203,926 | 7.2 |
| | 加 入 金 | 189,477,000 | 170,883,000 | 18,594,000 | 10.9 |
| | 長 期 前 受 金 戻 入 | 643,883,170 | 655,561,910 | △ 11,678,740 | △ 1.8 |
| | そ の 他 の 収 益 | 23,602,285 | 20,560,065 | 3,042,220 | 14.8 |

(3) 費 用

総費用は5,993,005,952円で、前年度と比較すると20,681,236円(0.3%)の減少となっている。

これは主として、減価償却費31,201,936円(1.3%)、修繕費16,008,272円(5.4%)の増と退職給付費38,036,704円(44.9%)、支払利息及び企業債取扱諸費23,932,544円(10.1%)の減によるものである。

費用の前年度比較

(単位：円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | | |
|--|------------------------------|---------------|---------------|--------------|--------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 | |
| 総 費 用 | 5,993,005,952 | 6,013,687,188 | △ 20,681,236 | △ 0.3 | |
| 内 訳 | 人 件 費 | 410,463,689 | 402,145,081 | 8,318,608 | 2.1 |
| | 退 職 給 付 費 | 46,700,901 | 84,737,605 | △ 38,036,704 | △ 44.9 |
| | 委 託 料 | 521,843,961 | 511,739,664 | 10,104,297 | 2.0 |
| | 修 繕 費 | 312,483,554 | 296,475,282 | 16,008,272 | 5.4 |
| | 動 力 費 | 176,927,763 | 167,230,387 | 9,697,376 | 5.8 |
| | 請 負 費 | 24,366,000 | 27,429,000 | △ 3,063,000 | △ 11.2 |
| | 受 水 費 | 1,713,309,000 | 1,713,309,000 | 0 | 0 |
| | 減 価 償 却 費 | 2,380,529,088 | 2,349,327,152 | 31,201,936 | 1.3 |
| | 資 産 減 耗 費 | 38,995,459 | 52,717,665 | △ 13,722,206 | △ 26.0 |
| | 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 214,005,057 | 237,937,601 | △ 23,932,544 | △ 10.1 |
| そ の 他 の 費 用 | 153,381,480 | 170,638,751 | △ 17,257,271 | △ 10.1 | |

- ・付表〔2 水道事業費用別比較表（24～25頁）〕を参照
- ・人件費は付表〔2 水道事業費用別比較表〕の給料、手当等及び法定福利費の計である。
- ・受水費の単価（税抜き）は県央第一水道50円/m³、県央第二水道100円/m³である。

(4) 給水原価と供給単価

有収水量 1 m³当たりの給水原価は136円42銭で、前年度と比較すると1円92銭の増加となっている。

供給単価は130円32銭で、前年度と比較すると35銭の増加となっている。

給水原価は供給単価を上回っており、販売損失は 1 m³当たり6円10銭で、前年度と比較すると1円57銭増加している。

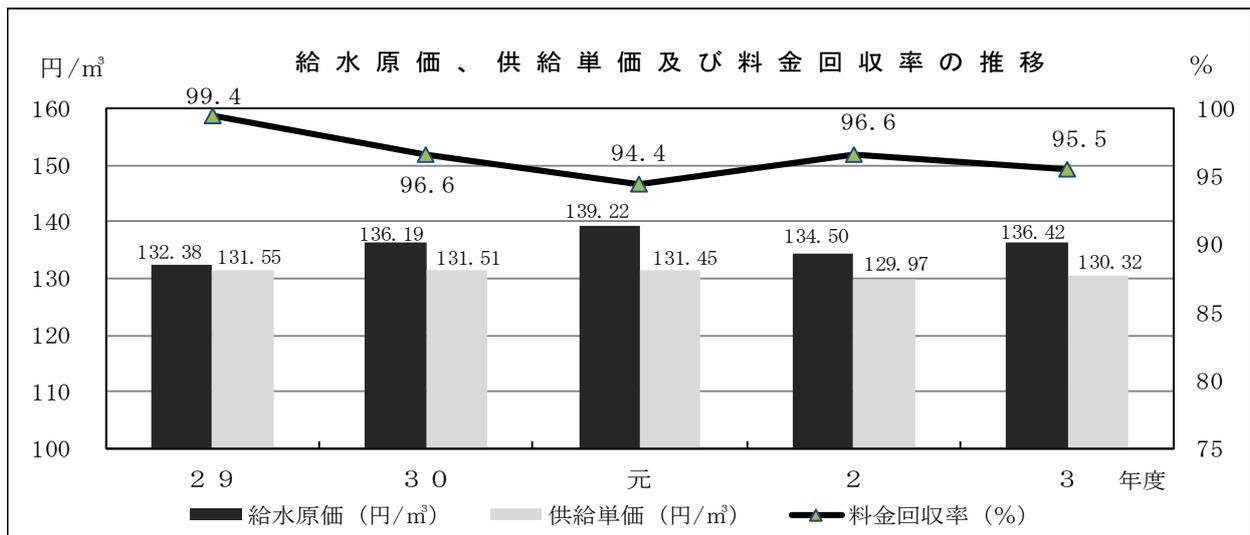
給水に係る費用がどの程度給水収益で賄えているかを示す料金回収率は95.5%で、前年度を1.1ポイント下回っている。この比率が100%を下回っている場合は、給水に係る費用が給水収益だけで賄えておらず、給水収益以外の収入でも賄われている状態である。

給 水 原 価 及 び 供 給 単 価

(単位：円/m³・%)

| 区 分 | 3 年度 | 2 年度 | 全国平均 (2 年度) | 算 出 基 礎 |
|-----------|---------------------|--------|----------------|--|
| 給 水 原 価 | 136.42 (1.92) | 134.50 | 153.71 | 経常費用 - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費) - 長期前受金戻入 年間有収水量 |
| 供 給 単 価 | 130.32 (0.35) | 129.97 | 161.51 | 給 水 収 益 年 間 有 収 水 量 |
| 販 売 利 益 | △ 6.10 (△ 1.57) | △ 4.53 | 7.80 | 供 給 単 価 - 給 水 原 価 |
| 料 金 回 収 率 | 95.5 (△ 1.1) | 96.6 | 105.1 | 供 給 単 価 給 水 原 価 × 100 |

- ・ 経常費用は営業費用と営業外費用の合計額である。
- ・ 全国平均は地方公営企業年鑑における給水人口30万人以上の事業区分の平均値である。
- ・ 3年度 () 内は対前年度比較増減の値である。



(5) 引当金の状況

ア 退職給付引当金

当年度末の残高は 329,265,863 円で、当年度中において 26,897,772 円の増加となっている。これは、会計基準変更時差異（平成 26 年度の期末要支給額と引当金残高の差額）403,466,582 円について、15 年間にわたり均等額を積み立てることとしており、その 8 年度目として 26,897,772 円を積み立てたことによるものである。

イ 賞与引当金

当年度末の残高は 46,022,000 円で、当年度中において 1,834,000 円の増加となっている。これは、翌年度支給額のうち当年度の負担（12月から3月までの4か月分）に属する額 46,022,000 円の積立てと当年度分の支出に充てるための額 44,188,000 円の取崩しによるものである。

ウ 法定福利費引当金

当年度末の残高は 8,863,000 円で、当年度中において 391,000 円の増加となっている。これは、翌年度支給額のうち当年度の負担（12月から3月までの4か月分）に属する額 8,863,000 円の積立てと当年度分の支出に充てるための額 8,472,000 円の取崩しによるものである。

エ 貸倒引当金

水道料金における当年度末の残高は 4,661,311 円で、当年度中において 478,656 円の増加となっている。これは、期末未収残高に貸倒実績率の平均を乗じて算出した貸倒引当金設定額と貸倒引当金残高との差額 3,922,494 円の積立てと当年度分の不納欠損に充てるための額 3,443,838 円の取崩しによるものである。

引 当 金 の 状 況

(単位：円)

| 区 分 | 2 年 度 末 残 高 | 決 算 年 度 中 増 減 高 | | | 3 年 度 末 残 高 |
|-----------------|----------------|-----------------|------------|------------|----------------|
| | | 増 加 | 減 少 | 計 | |
| 退 職 給 付 引 当 金 | 302,368,091 | 26,897,772 | 0 | 26,897,772 | 329,265,863 |
| 賞 与 引 当 金 | 44,188,000 | 46,022,000 | 44,188,000 | 1,834,000 | 46,022,000 |
| 法 定 福 利 費 引 当 金 | 8,472,000 | 8,863,000 | 8,472,000 | 391,000 | 8,863,000 |
| 貸 倒 引 当 金 | 4,182,655 | 3,922,494 | 3,443,838 | 478,656 | 4,661,311 |

4 財政状態（貸借対照表）

※付表〔3 水道事業貸借対照表前年度比較表（26～27頁）〕を参照

(1) 資 産

当年度末の資産合計は53,767,663,923円で、前年度と比較すると615,560,604円（1.1%）の減少となっている。

資産の構成比率は、固定資産95.6%、流動資産4.4%である。

固定資産の合計は51,414,680,974円で、前年度と比較すると530,684,375円（1.0%）の減少となっている。

これは主として、建設仮勘定211,990,530円（384.0%）の増と構築物578,919,997円（1.2%）、機械及び装置126,005,904円（4.8%）、建物50,059,575円（4.5%）の減によるものである。なお、当年度新たに計上した所有権移転ファイナンス・リース取引に係る資産（庁舎等LED照明）19,526,500円（皆増）がある。

流動資産の合計は2,352,982,949円で、前年度と比較すると84,876,229円（3.5%）の減少となっている。

これは主として、その他未収金26,733,260円（31.3%）の増と前払金50,100,000円（56.0%）、営業外未収金37,586,294円（27.8%）の減によるものである。

なお、水道料金の滞納額及び不納欠損額は、次表のとおりである。

水道料金の滞納額及び不納欠損額

(単位：円・%)

| 区 分 | | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 元 年 度 | |
|------|-------|------------|------|------------|------|------------|------|
| | | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 |
| 水道料金 | 滞 納 額 | 81,098,726 | 98.3 | 82,543,015 | 98.6 | 83,712,330 | 94.6 |
| | 不納欠損額 | 3,443,838 | 85.0 | 4,050,858 | 94.4 | 4,292,250 | 96.6 |

- ・各年度3月31日現在の状況で、納期限が未到来の未収金は滞納額に含まない。
- ・金額は消費税及び地方消費税込みの数値である。
- ・収益的収入である水道料金の滞納額のうち現年度調定分は営業未収金、過年度調定分は特別利益未収金として翌年度に繰り越される。

(2) 負 債

当年度末の負債合計は25,959,867,681円で、前年度と比較すると844,377,782円（3.2%）の減少となっている。

負債の構成比率は、固定負債42.6%、流動負債7.7%、繰延収益49.7%である。

固定負債の合計は11,056,628,890円で、前年度と比較すると779,394,564円（6.6%）の減少となっている。

これは主として、退職給付引当金26,897,772円（8.9%）の増と1年を超えて償還される建設改良費等の財源に充てるための企業債823,117,670円（7.1%）の減によるものである。

流動負債の合計は2,007,018,870円で、前年度と比較すると197,172,881円（10.9%）の増加となっている。

これは主として、建設改良未払金176,823,531円（181.8%）、営業外未払金67,708,300円（410.3%）の増と1年以内に償還される建設改良費等の財源に充てるための企業債48,207,099円（3.8%）の減によるものである。

繰延収益の合計は12,896,219,921円で、前年度と比較すると262,156,099円（2.0%）の減少となっている。

これは主として、工事負担金164,488,095円（1.7%）、受贈財産評価額52,786,507円（2.4%）、国県補助金35,354,894円（3.7%）、他会計補助金10,585,579円（5.3%）の減によるものである。

(3) 資 本

当年度末の資本合計は27,807,796,242円で、前年度と比較すると228,817,178円（0.8%）の増加となっている。

資本の構成比率は、資本金94.1%、剰余金5.9%である。

資本金の合計は26,176,907,042円で、前年度と比較すると636,443,208円(2.5%)の増加となっている。

これは、組入資本金631,281,232円(2.9%)、繰入資本金5,161,976円(0.2%)の増によるものである。

剰余金の合計は1,630,889,200円で、前年度と比較すると407,626,030円(20.0%)の減少となっている。

これは、当年度未処分利益剰余金207,111,128円(24.0%)、減債積立金200,514,902円(22.7%)の減によるものである。

当年度未処分利益剰余金654,542,202円は、剰余金処分計算書(案)により、地方公営企業法第32条第2項に基づき、議会の議決により223,655,202円を減債積立金に積み立てることとし、430,887,000円を組入資本金に組み入れることとしている。

(4) 財務比率及び構成比率の状況

ア 流動比率

短期債務に対して、これに応ずべき流動資産の割合を示す流動比率は117.2%で、前年度を17.5ポイント下回っている。

これは主として、流動負債における未払金の増と流動資産における前払金の減によるものである。

この比率が100%を上回っている場合は、短期債務に対する支払能力が確保されている状態である。

イ 固定比率

固定資産と自己資本(資本金、剰余金、評価差額等及び繰延収益の合計)との比率を示す固定比率は126.3%で、前年度を1.2ポイント下回っている。

これは主として、減価償却に伴う固定資産の減によるものである。

この比率は、100%以下であれば固定資産への投資が自己資本の枠内におさまっていることになるが、設備の取得財源を負債である企業債に依存しているため高率となっている。

ウ 固定資産対長期資本比率

固定資産の調達が固定負債と自己資本(資本金、剰余金、評価差額等及び繰延収益の合計)の範囲内で行われているかどうかを示す固定資産対長期資本比率は99.3%で、前年度を0.5ポイント上回っている。

これは主として、企業債の償還に伴う固定負債の減によるものである。

この比率が100%を下回っている場合は、固定比率が100%を超えていても、長期的な資本の枠内の投資が行われていることを示し、必ずしも不健全な状態とはいえない。

エ 自己資本構成比率

負債資本合計の中に占める自己資本(資本金、剰余金、評価差額等及び繰延収益の合計)の

割合を示す自己資本構成比率は 75.7%で、前年度を 0.8 ポイント上回っている。

これは主として、企業債の償還に伴う負債の減によるものである。

この比率は高い方が経営の健全性は高い状況である。

オ 固定資産構成比率

総資産（固定資産、流動資産及び繰延資産の合計）に占める固定資産の割合を示す固定資産構成比率は 95.6%で、前年度を 0.1 ポイント上回っている。

これは主として、流動資産の減に伴う総資産の減によるものである。

この比率は低い方が柔軟な経営が可能となるが、水道事業は多くの施設を保有していることから資本が固定化傾向にあるため高率となっており、経営の柔軟性は比較的低い状況にある。

カ 固定負債構成比率

負債資本合計の中に占める固定負債の割合を示す固定負債構成比率は 20.6%で、前年度を 1.2 ポイント下回っている。

これは主として、企業債の償還に伴う固定負債の減によるものである。

この比率は自己資本構成比率とは逆の傾向を示し、低い方が経営の健全性は高い状況である。

財 務 比 率 及 び 構 成 比 率

(単位：%)

| 区 分 | | 3年度 | 2年度 | 全国平均 (2年度) | 算 出 基 礎 |
|------------------|--|-------------------|-------|---------------|---|
| 財 務 比 率 | ア 流 動 比 率 (この比率は100%以上である ことが望ましい) | 117.2 (△ 17.5) | 134.7 | 239.5 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ |
| | イ 固 定 比 率 (この比率は100%以下であ れば固定資産への投資が自己 資本の枠内におさまっている) | 126.3 (△ 1.2) | 127.5 | 123.5 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$ |
| | ウ 固定資産対長期資本比率 (この比率は100%以下で、 かつ、低いことが望ましい) | 99.3 (0.5) | 98.8 | 93.5 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債} + \text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$ |
| 構 成 比 率 | エ 自 己 資 本 構 成 比 率 (この比率は高い方が経営の 健全性は高い) | 75.7 (0.8) | 74.9 | 72.4 | $\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等}}{\text{負債資本合計}} \times 100$ |
| | オ 固 定 資 産 構 成 比 率 (この比率は低い方が柔軟な 経営が可能となる) | 95.6 (0.1) | 95.5 | 89.4 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産} + \text{流動資産} + \text{繰延資産}} \times 100$ |
| | カ 固 定 負 債 構 成 比 率 (この比率は低い方が経営の 健全性は高い) | 20.6 (△ 1.2) | 21.8 | 23.2 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$ |

・付表 [4 水道事業経営分析表 (28~31頁)] を参照

・全国平均は地方公営企業年鑑における給水人口30万人以上の事業区分の平均値である。

・3年度 () 内は対前年度比較増減の値である。

5 資金状況（キャッシュ・フロー計算書）

※付表〔5 水道事業キャッシュ・フロー計算書前年度比較表（32頁）〕を参照

(1) 資金状況

キャッシュ・フロー計算書が対象とする資金の範囲は、貸借対照表における現金預金と同範囲とし、その表示は業務活動、投資活動及び財務活動に区分することとされている。

当年度の資金は、3区分の合計により、期末残高は1,576,679,352円であり、前年度と比較すると12,913,441円の減少となっている。

キャッシュ・フロー計算書から見た水道事業の経営状況は、業務活動によるキャッシュ・フローはプラスで、投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローはマイナスであることから、業務活動で着実に資金を獲得しつつ、借入金残高を減らしながら建設投資を行っている状況である。なお、表示方法は間接法により作成している。

キャッシュ・フロー計算書の前年度比較

(単位：円)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対前年度比較増減額 |
|----------------------|-----------------|-----------------|---------------|
| 業務活動による キャッシュ・フロー | 2,140,168,903 | 1,919,521,314 | 220,647,589 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △ 1,286,919,551 | △ 1,933,320,935 | 646,401,384 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △ 866,162,793 | △ 35,524,205 | △ 830,638,588 |
| 資金増加額(又は減少額) | △ 12,913,441 | △ 49,323,826 | 36,410,385 |
| 資 金 期 首 残 高 | 1,589,592,793 | 1,638,916,619 | △ 49,323,826 |
| 資 金 期 末 残 高 | 1,576,679,352 | 1,589,592,793 | △ 12,913,441 |

(2) 業務活動によるキャッシュ・フロー

業務活動は、通常の業務活動の実施に係る資金の状態を表し、そのキャッシュ・フローは2,140,168,903円で、前年度と比較すると資金が220,647,589円の増加となっている。

これは主として、未収金の増減額の減、未払金の増減額の増、現金支出を伴わない費用である有形固定資産減価償却費の増に伴う資金の増と、現金支出を伴わない費用である固定資産除却費の減に伴う資金の減によるものである。

(3) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動は、将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表し、そのキャッシュ・フローは△1,286,919,551円で、前年度と比較すると資金が646,401,384円の増加となっている。

これは主として、有形固定資産の取得による支出の減、工事負担金による収入の増に伴う資金の増と、有形固定資産の売却による収入の減に伴う資金の減によるものである。

(4) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動は、業務活動及び投資活動を行うための財務活動に係る資金の状態を表し、そのキャッシュ・フローは△866,162,793円で、前年度と比較すると資金が830,638,588円の減少となっている。

これは、市一般会計からの出資金による収入の増に伴う資金の増と、建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入の減、建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出の増に伴う資金の減によるものである。

6 企業債

借入額は409,700,000円で、1,281,024,769円を元金償還した結果、未償還残高は前年度と比較すると871,324,769円(6.8%)減の11,943,355,363円となっている。

なお、元利償還額は1,495,023,098円で、前年度と比較すると17,842,090円(1.2%)の増加となっている。

料金収入に対する企業債元利償還金の割合を示す企業債元利償還金対料金収入比率は29.3%で、前年度を0.7ポイント上回っている。この比率は低い方が柔軟な経営が可能となる。

企業債の借入及び償還状況

(単位：円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|-----------|----------------|----------------|---------------|--------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 |
| 年度当初未償還残高 | 12,814,680,132 | 12,854,223,539 | △ 39,543,407 | △ 0.3 |
| 借 入 額 | 409,700,000 | 1,199,700,000 | △ 790,000,000 | △ 65.8 |
| 元 利 償 還 額 | 1,495,023,098 | 1,477,181,008 | 17,842,090 | 1.2 |
| 元 金 | 1,281,024,769 | 1,239,243,407 | 41,781,362 | 3.4 |
| 利 子 | 213,998,329 | 237,937,601 | △ 23,939,272 | △ 10.1 |
| 年度末未償還残高 | 11,943,355,363 | 12,814,680,132 | △ 871,324,769 | △ 6.8 |

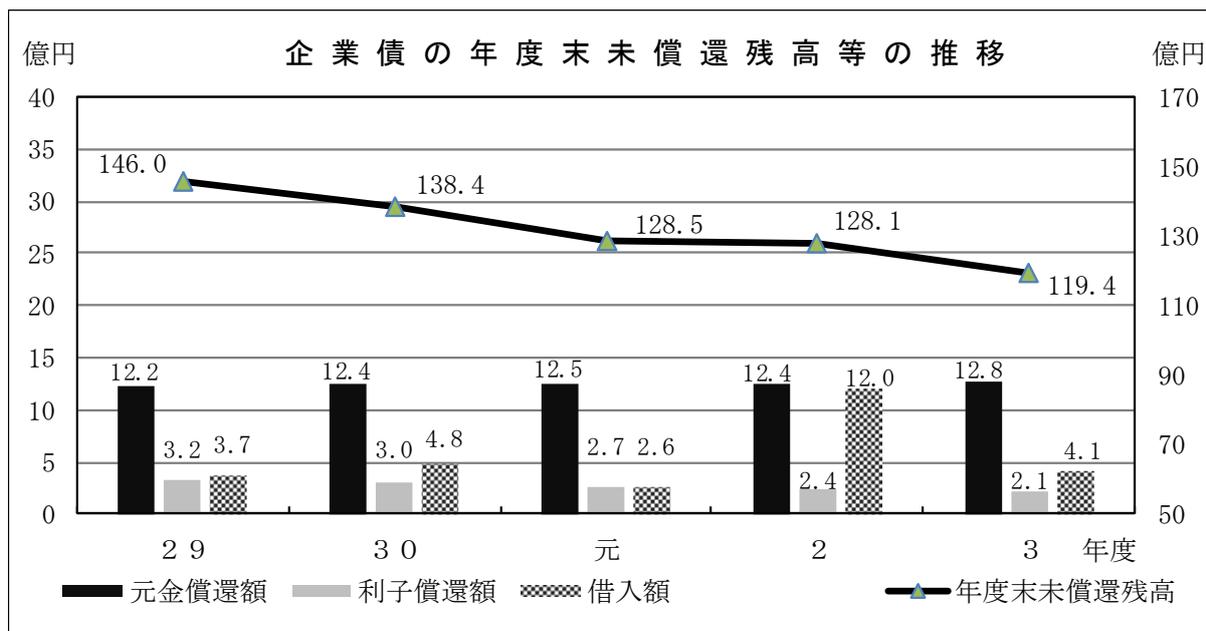
企業債元利償還金対料金収入比率

(単位：%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 全国平均 (2 年 度) | 算 出 基 礎 |
|---|-----------------|-------|-----------------|---|
| 企業債元利償還金対料金収入比率 (この比率は低い方が経営の健全性は高い) | 29.3 (0.7) | 28.6 | 24.4 | $\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{料 金 収 入}} \times 100$ |

・全国平均は地方公営企業年鑑における給水人口30万人以上の事業区分の平均値である。

・3年度()内は対前年度比較増減の値である。



・左軸は元金償還額・利子償還額・借入額の目盛、右軸は年度末未償還残高の目盛を示す。

付 表

1 水道事業損益計算書前年度比較表

費 用

| 勘定科目 | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
|----------------------------------|---------------|------|---------------|------|--------------|------------|
| | 金 額 | 構成比率 | 金 額 | 構成比率 | | |
| 1 営 業 費 用 | 5,772,753,593 | 96.3 | 5,757,109,520 | 95.7 | 15,644,073 | 0.3 |
| (1) 原水及び浄水費 | 2,299,072,051 | 38.4 | 2,306,943,366 | 38.3 | △ 7,871,315 | △ 0.3 |
| (2) 配水及び給水費 | 451,194,664 | 7.5 | 427,310,771 | 7.1 | 23,883,893 | 5.6 |
| (3) 業 務 費 | 417,975,102 | 7.0 | 403,210,902 | 6.7 | 14,764,200 | 3.7 |
| (4) 総 係 費 | 184,987,229 | 3.1 | 217,599,664 | 3.6 | △ 32,612,435 | △ 15.0 |
| (5) 減 価 償 却 費 | 2,380,529,088 | 39.7 | 2,349,327,152 | 39.1 | 31,201,936 | 1.3 |
| (6) 資 産 減 耗 費 | 38,995,459 | 0.6 | 52,717,665 | 0.9 | △ 13,722,206 | △ 26.0 |
| 2 営 業 外 費 用 | 218,713,144 | 3.7 | 241,880,846 | 4.0 | △ 23,167,702 | △ 9.6 |
| (1) 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 214,005,057 | 3.6 | 237,937,601 | 3.9 | △ 23,932,544 | △ 10.1 |
| (2) 雑 支 出 | 4,708,087 | 0.1 | 3,943,245 | 0.1 | 764,842 | 19.4 |
| 3 特 別 損 失 | 1,539,215 | 0.0 | 14,696,822 | 0.3 | △ 13,157,607 | △ 89.5 |
| (1) 過年度損益修正損 | 1,539,016 | 0.0 | 1,644,807 | 0.0 | △ 105,791 | △ 6.4 |
| (2) その他特別損失 | 199 | 0.0 | 11,059,895 | 0.2 | △ 11,059,696 | △ 100.0 |
| (固定資産売却損) | 0 | 0 | 1,992,120 | 0.1 | △ 1,992,120 | 皆減 |
| 合 計 | 5,993,005,952 | 100 | 6,013,687,188 | 100 | △ 20,681,236 | △ 0.3 |

収 益

(単位：円・%)

| 区分 勘定科目 | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
|--------------------------|---------------|------|---------------|------|--------------|------------|
| | 金 額 | 構成比率 | 金 額 | 構成比率 | | |
| 1 営 業 収 益 | 5,163,234,786 | 83.1 | 5,213,794,324 | 83.5 | △ 50,559,538 | △ 1.0 |
| (1) 給 水 収 益 | 5,108,037,038 | 82.2 | 5,162,880,692 | 82.7 | △ 54,843,654 | △ 1.1 |
| (2) その他営業収益 | 55,197,748 | 0.9 | 50,913,632 | 0.8 | 4,284,116 | 8.4 |
| 2 営 業 外 収 益 | 1,051,537,740 | 16.9 | 1,028,334,974 | 16.5 | 23,202,766 | 2.3 |
| (1) 受 取 利 息 及 び 配 当 金 | 20,326 | 0.0 | 42,164 | 0.0 | △ 21,838 | △ 51.8 |
| (2) 他 会 計 補 助 金 | 1,271,755 | 0.0 | 1,290,618 | 0.0 | △ 18,863 | △ 1.5 |
| (3) 負 担 金 | 196,463,913 | 3.2 | 183,259,987 | 2.9 | 13,203,926 | 7.2 |
| (4) 加 入 金 | 189,477,000 | 3.0 | 170,883,000 | 2.8 | 18,594,000 | 10.9 |
| (5) 長期前受金戻入 | 643,883,170 | 10.4 | 655,561,910 | 10.5 | △ 11,678,740 | △ 1.8 |
| (6) 雑 収 益 | 20,421,576 | 0.3 | 17,297,295 | 0.3 | 3,124,281 | 18.1 |
| 3 特 別 利 益 | 1,888,628 | 0.0 | 1,929,988 | 0.0 | △ 41,360 | △ 2.1 |
| (1) 過年度損益修正益 | 1,888,628 | 0.0 | 1,929,988 | 0.0 | △ 41,360 | △ 2.1 |
| 合 計 | 6,216,661,154 | 100 | 6,244,059,286 | 100 | △ 27,398,132 | △ 0.4 |

当期利益（損失）

(単位：円)

| 区分 損益計算 | 3 年 度 | 2 年 度 | 増 減 額 |
|--------------------------------|---------------|---------------|---------------|
| | 金 額 | 金 額 | |
| 営 業 損 益 | △ 609,518,807 | △ 543,315,196 | △ 66,203,611 |
| 経 常 損 益 | 223,305,789 | 243,138,932 | △ 19,833,143 |
| 当 年 度 純 損 益 | 223,655,202 | 230,372,098 | △ 6,716,896 |
| 前年度繰越利益剰余金 | 0 | 0 | 0 |
| そ の 他 未 処 分 利 益 剰 余 金 変 動 額 | 430,887,000 | 631,281,232 | △ 200,394,232 |
| 当年度未処分利益剰余金 | 654,542,202 | 861,653,330 | △ 207,111,128 |

2 水道事業費用別比較表

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|------------------------------|---------------|---------------|--------------|--------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 |
| 給 料 | 213,180,626 | 211,532,245 | 1,648,381 | 0.8 |
| 手 当 等 | 127,484,750 | 121,303,371 | 6,181,379 | 5.1 |
| 退 職 給 付 費 | 46,700,901 | 84,737,605 | △ 38,036,704 | △ 44.9 |
| 法 定 福 利 費 | 69,798,313 | 69,309,465 | 488,848 | 0.7 |
| 報 酬 | 11,668,752 | 12,203,319 | △ 534,567 | △ 4.4 |
| 備 消 品 費 | 9,133,550 | 11,761,319 | △ 2,627,769 | △ 22.3 |
| 燃 料 費 | 3,109,333 | 2,596,670 | 512,663 | 19.7 |
| 光 熱 水 費 | 9,197,633 | 8,981,376 | 216,257 | 2.4 |
| 通 信 運 搬 費 | 33,499,112 | 34,061,495 | △ 562,383 | △ 1.7 |
| 委 託 料 | 521,843,961 | 511,739,664 | 10,104,297 | 2.0 |
| 賃 借 料 | 4,600,646 | 5,098,300 | △ 497,654 | △ 9.8 |
| 修 繕 費 | 312,483,554 | 296,475,282 | 16,008,272 | 5.4 |
| 動 力 費 | 176,927,763 | 167,230,387 | 9,697,376 | 5.8 |
| 薬 品 費 | 7,555,490 | 7,389,720 | 165,770 | 2.2 |
| 材 料 費 | 6,251,550 | 10,210,802 | △ 3,959,252 | △ 38.8 |
| 請 負 費 | 24,366,000 | 27,429,000 | △ 3,063,000 | △ 11.2 |
| 受 水 費 | 1,713,309,000 | 1,713,309,000 | 0 | 0 |
| 減 価 償 却 費 | 2,380,529,088 | 2,349,327,152 | 31,201,936 | 1.3 |
| 資 産 減 耗 費 | 38,995,459 | 52,717,665 | △ 13,722,206 | △ 26.0 |
| 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 214,005,057 | 237,937,601 | △ 23,932,544 | △ 10.1 |
| そ の 他 の 費 用 | 68,365,414 | 78,335,750 | △ 9,970,336 | △ 12.7 |
| 合 計 | 5,993,005,952 | 6,013,687,188 | △ 20,681,236 | △ 0.3 |

(注) ・手当等は、児童手当を除き、賞与引当金への繰入額（会計年度任用職員分を除く。）を含む。
また、法定福利費は、会計年度任用職員の社会保険料を除き、法定福利費引当金への繰入額（会計年度任用職員分を除く。）を含む。
なお、児童手当、会計年度任用職員の社会保険料及び会計年度任用職員に係る引当金繰入額は、その他の費用に含まれている。
・退職給付費は、退職給付引当金への引当額を含む。
なお、退職給付費の実支出額は、3年度 19,803,129円、2年度 57,839,833円である。

(単位：円・%)

| 構 成 比 率 | | | 指 数 (30年度:100) | | |
|---------|-------|-------|----------------|-------|-------|
| 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
| 3.6 | 3.5 | 3.4 | 102 | 101 | 99 |
| 2.1 | 2.0 | 1.9 | 110 | 104 | 102 |
| 0.8 | 1.4 | 1.1 | 70 | 128 | 97 |
| 1.2 | 1.1 | 1.1 | 104 | 103 | 100 |
| 0.2 | 0.2 | 0.2 | 79 | 83 | 85 |
| 0.2 | 0.2 | 0.2 | 88 | 113 | 98 |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 119 | 99 | 101 |
| 0.2 | 0.1 | 0.2 | 90 | 88 | 98 |
| 0.6 | 0.6 | 0.6 | 98 | 99 | 101 |
| 8.7 | 8.5 | 8.1 | 96 | 94 | 91 |
| 0.1 | 0.1 | 0.1 | 82 | 91 | 97 |
| 5.2 | 4.9 | 4.8 | 91 | 87 | 86 |
| 2.9 | 2.8 | 3.0 | 94 | 89 | 98 |
| 0.1 | 0.1 | 0.1 | 110 | 108 | 103 |
| 0.1 | 0.2 | 0.1 | 103 | 168 | 120 |
| 0.4 | 0.5 | 1.3 | 112 | 127 | 365 |
| 28.6 | 28.5 | 28.3 | 99 | 99 | 100 |
| 39.7 | 39.1 | 38.1 | 103 | 101 | 101 |
| 0.6 | 0.9 | 2.0 | 131 | 178 | 406 |
| 3.6 | 4.0 | 4.4 | 72 | 81 | 90 |
| 1.1 | 1.3 | 1.0 | 95 | 109 | 87 |
| 100 | 100 | 100 | 98 | 99 | 100 |

3 水道事業貸借対照表前年度比較表

資 産

| 勘定科目 | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 増 減 額 | 増 減 率 |
|---------------------|----------------|-------|----------------|-------|---------------|--------|
| | 金 額 | 構成比率 | 金 額 | 構成比率 | | |
| 1 固 定 資 産 | 51,414,680,974 | 95.6 | 51,945,365,349 | 95.5 | △ 530,684,375 | △ 1.0 |
| (1) 有 形 固 定 資 産 | 51,412,356,974 | 95.6 | 51,943,041,349 | 95.5 | △ 530,684,375 | △ 1.0 |
| 土 地 | 1,717,727,398 | 3.2 | 1,717,727,398 | 3.2 | 0 | 0 |
| 立 木 | 39,140,000 | 0.1 | 39,140,000 | 0.1 | 0 | 0 |
| 建 物 | 1,051,771,589 | 2.0 | 1,101,831,164 | 2.0 | △ 50,059,575 | △ 4.5 |
| 構 築 物 | 45,779,796,222 | 85.1 | 46,358,716,219 | 85.2 | △ 578,919,997 | △ 1.2 |
| 機 械 及 び 装 置 | 2,507,077,186 | 4.7 | 2,633,083,090 | 4.8 | △ 126,005,904 | △ 4.8 |
| 車 両 運 搬 具 | 7,376,773 | 0.0 | 9,809,078 | 0.0 | △ 2,432,305 | △ 24.8 |
| 工 具、器 具 及 び 備 品 | 22,748,676 | 0.0 | 27,532,300 | 0.1 | △ 4,783,624 | △ 17.4 |
| リ ー ス 資 産 | 19,526,500 | 0.0 | 0 | 0 | 19,526,500 | 皆増 |
| 建 設 仮 勘 定 | 267,192,630 | 0.5 | 55,202,100 | 0.1 | 211,990,530 | 384.0 |
| (2) 投 資 そ の 他 の 資 産 | 2,324,000 | 0.0 | 2,324,000 | 0.0 | 0 | 0 |
| 出 資 金 | 2,324,000 | 0.0 | 2,324,000 | 0.0 | 0 | 0 |
| 2 流 動 資 産 | 2,352,982,949 | 4.4 | 2,437,859,178 | 4.5 | △ 84,876,229 | △ 3.5 |
| (1) 現 金 預 金 | 1,576,679,352 | 2.9 | 1,589,592,793 | 2.9 | △ 12,913,441 | △ 0.8 |
| 預 金 | 1,576,679,352 | 2.9 | 1,589,592,793 | 2.9 | △ 12,913,441 | △ 0.8 |
| (2) 未 収 金 | 704,243,842 | 1.3 | 730,381,090 | 1.3 | △ 26,137,248 | △ 3.6 |
| 営 業 未 収 金 | 499,078,206 | 0.9 | 513,888,268 | 0.9 | △ 14,810,062 | △ 2.9 |
| 営 業 外 未 収 金 | 97,795,429 | 0.2 | 135,381,723 | 0.2 | △ 37,586,294 | △ 27.8 |
| 特 別 利 益 未 収 金 | 4,504 | 0.0 | 0 | 0 | 4,504 | 皆増 |
| そ の 他 未 収 金 | 112,027,014 | 0.2 | 85,293,754 | 0.2 | 26,733,260 | 31.3 |
| 未 収 金 貸 倒 引 当 金 | △ 4,661,311 | △ 0.0 | △ 4,182,655 | △ 0.0 | △ 478,656 | 11.4 |
| (3) 貯 蔵 品 | 29,398,480 | 0.1 | 25,124,020 | 0.1 | 4,274,460 | 17.0 |
| そ の 他 貯 蔵 品 | 29,398,480 | 0.1 | 25,124,020 | 0.1 | 4,274,460 | 17.0 |
| (4) 前 払 金 | 39,440,000 | 0.1 | 89,540,000 | 0.2 | △ 50,100,000 | △ 56.0 |
| 前 払 金 | 39,440,000 | 0.1 | 89,540,000 | 0.2 | △ 50,100,000 | △ 56.0 |
| (5) そ の 他 流 動 資 産 | 3,221,275 | 0.0 | 3,221,275 | 0.0 | 0 | 0 |
| 保 管 有 価 証 券 | 3,201,275 | 0.0 | 3,201,275 | 0.0 | 0 | 0 |
| つ り 銭 準 備 資 金 | 20,000 | 0.0 | 20,000 | 0.0 | 0 | 0 |
| 資 産 合 計 | 53,767,663,923 | 100 | 54,383,224,527 | 100 | △ 615,560,604 | △ 1.1 |

負債・資本

(単位：円・%)

| 区分 勘定科目 | 3年度 | | 2年度 | | 増減額 | 増減比率 |
|---------------------|----------------|------|----------------|------|---------------|--------|
| | 金額 | 構成比率 | 金額 | 構成比率 | | |
| 1 固定負債 | 11,056,628,890 | 20.6 | 11,836,023,454 | 21.8 | △ 779,394,564 | △ 6.6 |
| (1) 企業債 | 10,710,537,693 | 19.9 | 11,533,655,363 | 21.2 | △ 823,117,670 | △ 7.1 |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債 | 10,710,537,693 | 19.9 | 11,533,655,363 | 21.2 | △ 823,117,670 | △ 7.1 |
| (2) リース債務 | 16,825,334 | 0.1 | 0 | 0 | 16,825,334 | 皆増 |
| リース債務 | 16,825,334 | 0.1 | 0 | 0 | 16,825,334 | 皆増 |
| (3) 引当金 | 329,265,863 | 0.6 | 302,368,091 | 0.6 | 26,897,772 | 8.9 |
| 退職給付引当金 | 329,265,863 | 0.6 | 302,368,091 | 0.6 | 26,897,772 | 8.9 |
| 2 流動負債 | 2,007,018,870 | 3.7 | 1,809,845,989 | 3.3 | 197,172,881 | 10.9 |
| (1) 企業債 | 1,232,817,670 | 2.3 | 1,281,024,769 | 2.4 | △ 48,207,099 | △ 3.8 |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債 | 1,232,817,670 | 2.3 | 1,281,024,769 | 2.4 | △ 48,207,099 | △ 3.8 |
| (2) リース債務 | 4,295,830 | 0.0 | 0 | 0 | 4,295,830 | 皆増 |
| リース債務 | 4,295,830 | 0.0 | 0 | 0 | 4,295,830 | 皆増 |
| (3) 未払金 | 680,854,710 | 1.3 | 449,049,291 | 0.8 | 231,805,419 | 51.6 |
| 営業未払金 | 316,372,290 | 0.6 | 335,257,493 | 0.6 | △ 18,885,203 | △ 5.6 |
| 営業外未払金 | 84,212,300 | 0.2 | 16,504,000 | 0.0 | 67,708,300 | 410.3 |
| 建設改良未払金 | 274,111,329 | 0.5 | 97,287,798 | 0.2 | 176,823,531 | 181.8 |
| その他未払金 | 6,158,791 | 0.0 | 0 | 0 | 6,158,791 | 皆増 |
| (4) 未払費用 | 1,134,074 | 0.0 | 503,429 | 0.0 | 630,645 | 125.3 |
| 未払費用 | 1,134,074 | 0.0 | 503,429 | 0.0 | 630,645 | 125.3 |
| (5) 預り金 | 29,830,311 | 0.0 | 23,407,225 | 0.0 | 6,423,086 | 27.4 |
| 税金預り金 | 2,816,234 | 0.0 | 2,880,369 | 0.0 | △ 64,135 | △ 2.2 |
| 諸預り金 | 27,014,077 | 0.0 | 20,526,856 | 0.0 | 6,487,221 | 31.6 |
| (6) 引当金 | 54,885,000 | 0.1 | 52,660,000 | 0.1 | 2,225,000 | 4.2 |
| 賞与引当金 | 46,022,000 | 0.1 | 44,188,000 | 0.1 | 1,834,000 | 4.2 |
| 法定福利費引当金 | 8,863,000 | 0.0 | 8,472,000 | 0.0 | 391,000 | 4.6 |
| (7) その他流動負債 | 3,201,275 | 0.0 | 3,201,275 | 0.0 | 0 | 0 |
| 預り有価証券 | 3,201,275 | 0.0 | 3,201,275 | 0.0 | 0 | 0 |
| 3 繰延収益 | 12,896,219,921 | 24.0 | 13,158,376,020 | 24.2 | △ 262,156,099 | △ 2.0 |
| (1) 長期前受金 | 12,896,219,921 | 24.0 | 13,158,376,020 | 24.2 | △ 262,156,099 | △ 2.0 |
| 国県補助金 | 928,732,456 | 1.7 | 964,087,350 | 1.8 | △ 35,354,894 | △ 3.7 |
| 工事負担金 | 9,551,403,183 | 17.8 | 9,715,891,278 | 17.9 | △ 164,488,095 | △ 1.7 |
| 他会計補助金 | 188,993,195 | 0.4 | 199,578,774 | 0.4 | △ 10,585,579 | △ 5.3 |
| 他会計負担金 | 71,351,753 | 0.1 | 74,251,148 | 0.1 | △ 2,899,395 | △ 3.9 |
| 受贈財産評価額 | 2,133,707,267 | 4.0 | 2,186,493,774 | 4.0 | △ 52,786,507 | △ 2.4 |
| 寄附金 | 6,573,535 | 0.0 | 1,811,645 | 0.0 | 4,761,890 | 262.8 |
| その他長期前受金 | 15,458,532 | 0.0 | 16,262,051 | 0.0 | △ 803,519 | △ 4.9 |
| 負債合計 | 25,959,867,681 | 48.3 | 26,804,245,463 | 49.3 | △ 844,377,782 | △ 3.2 |
| 1 資本金 | 26,176,907,042 | 48.7 | 25,540,463,834 | 47.0 | 636,443,208 | 2.5 |
| (1) 資本金 | 26,176,907,042 | 48.7 | 25,540,463,834 | 47.0 | 636,443,208 | 2.5 |
| 固有資本金 | 526,562,604 | 1.0 | 526,562,604 | 1.0 | 0 | 0 |
| 繰入資本金 | 3,334,643,553 | 6.2 | 3,329,481,577 | 6.1 | 5,161,976 | 0.2 |
| 組入資本金 | 22,315,700,885 | 41.5 | 21,684,419,653 | 39.9 | 631,281,232 | 2.9 |
| 2 剰余金 | 1,630,889,200 | 3.0 | 2,038,515,230 | 3.7 | △ 407,626,030 | △ 20.0 |
| (1) 資本剰余金 | 293,634,218 | 0.5 | 293,634,218 | 0.5 | 0 | 0 |
| 国県補助金 | 10,109,041 | 0.0 | 10,109,041 | 0.0 | 0 | 0 |
| 工事負担金 | 169,995,252 | 0.3 | 169,995,252 | 0.3 | 0 | 0 |
| 他会計補助金 | 32,958,775 | 0.1 | 32,958,775 | 0.1 | 0 | 0 |
| 受贈財産評価額 | 79,777,938 | 0.1 | 79,777,938 | 0.1 | 0 | 0 |
| その他剰余金 | 793,212 | 0.0 | 793,212 | 0.0 | 0 | 0 |
| (2) 利益剰余金 | 1,337,254,982 | 2.5 | 1,744,881,012 | 3.2 | △ 407,626,030 | △ 23.4 |
| 減債積立金 | 682,251,780 | 1.3 | 882,766,682 | 1.6 | △ 200,514,902 | △ 22.7 |
| 利益積立金 | 461,000 | 0.0 | 461,000 | 0.0 | 0 | 0 |
| 当年度未処分利益剰余金 | 654,542,202 | 1.2 | 861,653,330 | 1.6 | △ 207,111,128 | △ 24.0 |
| 資本合計 | 27,807,796,242 | 51.7 | 27,578,979,064 | 50.7 | 228,817,178 | 0.8 |
| 負債・資本合計 | 53,767,663,923 | 100 | 54,383,224,527 | 100 | △ 615,560,604 | △ 1.1 |

4 水道事業経営分析表

| 区 分 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|------------------|-----------------------|------------|------------|------------|
| 財 務 比 率 | 流 動 比 率 | % 117.2 | % 134.7 | % 151.6 |
| | 固 定 比 率 | 126.3 | 127.5 | 126.8 |
| | 固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率 | 99.3 | 98.8 | 98.2 |
| 構 成 比 率 | 自 己 資 本 構 成 比 率 | 75.7 | 74.9 | 74.8 |
| | 固 定 資 産 構 成 比 率 | 95.6 | 95.5 | 94.9 |
| | 固 定 負 債 構 成 比 率 | 20.6 | 21.8 | 21.8 |
| 回 転 率 | 自 己 資 本 回 転 率 | 回 0.14 | 回 0.14 | 回 0.14 |
| | 固 定 資 産 回 転 率 | 0.11 | 0.11 | 0.11 |
| | 減 価 償 却 率 | % 4.6 | % 4.5 | % 4.5 |

| 算 出 基 礎 | 左 の 説 明 |
|--|---|
| $\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$ | <p>流動負債に対する流動資産の割合であり、短期債務に対する支払能力を表している。この比率は100%以上であることが望ましい。</p> |
| $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資 本 金 + 剰 余 金 + 評 価 差 額 等 + 繰 延 収 益}} \times 100$ | <p>自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益）が、どの程度固定資産に投下されているかを見る指標であり、100%以下であれば固定資産への投資が自己資本の枠内におさまっていることになる。</p> |
| $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{固 定 負 債 + 資 本 金 + 剰 余 金 + 評 価 差 額 等 + 繰 延 収 益}} \times 100$ | <p>固定資産の調達が自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益）と固定負債の範囲内で行われているかどうかを示すもので、100%以下で、かつ、低いことが望ましい。</p> |
| $\frac{\text{資 本 金 + 剰 余 金 + 評 価 差 額 等 + 繰 延 収 益}}{\text{負 債 資 本 合 計}} \times 100$ | <p>負債資本合計に対する自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益）の占める割合で、この比率は高い方が経営の健全性が高い。</p> |
| $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{固 定 資 産 + 流 動 資 産 + 繰 延 資 産}} \times 100$ | <p>総資産（固定資産＋流動資産＋繰延資産）に対する固定資産の占める割合で、この比率は低い方が柔軟な経営が可能となる。</p> |
| $\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{負 債 資 本 合 計}} \times 100$ | <p>負債資本合計に対する固定負債の占める割合で、この比率は低い方が経営が安定している。</p> |
| $\frac{\text{営 業 収 益 - 受 託 工 事 収 益}}{\text{期 首 自 己 資 本 + 期 末 自 己 資 本}} \times 100$ | <p>自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益）に対する営業収益の割合を示すもので、この比率は高いほど投下資本に比して営業活動が活発であることを意味する。</p> |
| $\frac{\text{営 業 収 益 - 受 託 工 事 収 益}}{\text{期 首 固 定 資 産 + 期 末 固 定 資 産}} \times 100$ | <p>固定資産に対する営業収益の割合で、この比率は高い方が施設が有効に稼働していることを示す。</p> |
| $\frac{\text{当 年 度 減 価 償 却 費}}{\text{有 形 固 定 資 産 + 無 形 固 定 資 産 - 土 地 - 立 木 - 建 設 仮 勘 定 + 当 年 度 減 価 償 却 費}} \times 100$ | <p>減価償却費を固定資産の帳簿価格と比較することによって、固定資産に投下された資本の回収状況を見るためのものである。</p> |

| 区 分 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|--------------------------------------|---------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 損 益 に 関 す る 比 率 | 総 資 本 利 益 率 | % 0.41 | % 0.45 | % 0.21 |
| | 総 収 支 比 率 | 103.7 | 103.8 | 101.9 |
| | 経 常 収 支 比 率 | 103.7 | 104.1 | 101.9 |
| | 営 業 収 支 比 率 | 95.5 | 96.2 | 94.8 |
| | 利 子 負 担 率 | 1.8 | 1.9 | 2.1 |
| | 企業債償還元金対減価償却費比率 | 73.8 | 73.2 | 73.9 |
| | 企業債元利償還金対料金収入比率 | 29.3 | 28.6 | 29.3 |
| | 職 員 1 人 当 た り 営 業 収 益 | 千円 90,415 | 千円 90,838 | 千円 90,826 |
| | 職 員 1 人 当 た り 有 形 固 定 資 産 | 619,426 | 625,820 | 624,040 |

| 算 出 基 礎 | 左 の 説 明 |
|---|--|
| $\frac{\text{当年度経常利益(損失)}}{\frac{\text{期首総資本} + \text{期末総資本}}{2}} \times 100$ | <p>企業の収益性を判断するもので、この比率は高いほど総合的な収益性が高いことになる。 (注)総資本=負債資本合計</p> |
| $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | <p>事業活動に伴う全ての収支の均衡から、支払能力と安定性を分析するもので、この比率は100%を超えて高いほど純利益が発生しているため、経営の安定が図られているといえる。</p> |
| $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ | <p>経常費用の経常収益に対する割合で、料金(使用料)収入や一般会計繰入金等の収益で維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄っているかを示すもので、この数値が100%以上なら単年度の収支は黒字である。</p> |
| $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費用}} \times 100$ | <p>通常の営業活動に要する費用を本来の営業活動により得た収益でどの程度賄っているかを示すもので、この比率は100%を超えて高いほど営業利益率が良いといえる。</p> |
| $\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{建設改良等の財源に充てるための企業債・長期借入金} + \text{その他の企業債・長期借入金} + \text{再建債} + \text{一時借入金} + \text{リース債務}} \times 100$ | <p>支払利息と企業債等との割合で、資金調達のための負債に対して支払う支払利息利率の高低を示すもので、高金利の企業債等を借り入れて事業を行った場合は高くなる。</p> |
| $\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$ | <p>企業債償還元金とその主要償還財源である減価償却費を比較したもので、この比率は低いほど償還能力が高い。</p> |
| $\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$ | <p>料金(使用料)収入に対する企業債元利償還金の割合を示すもので、この比率は低いほど経営状態が良好といえる。</p> |
| $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$ | <p>職員一人当たりの労働力がどの程度の営業収益をあげているのかを示すものである。</p> |
| $\frac{\text{期末有形固定資産}}{\text{損益勘定所属職員数} + \text{資本勘定所属職員数}}$ | <p>職員1人当たりどの程度固定資産を保有しているかを示すものである。</p> |

5 水道事業キャッシュ・フロー計算書前年度比較表

(単位：円)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 増 減 額 |
|-----------------------------|-----------------|-----------------|---------------|
| 1 業務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 当年度純利益 | 223,655,202 | 230,372,098 | △ 6,716,896 |
| 有形固定資産減価償却費 | 2,380,529,088 | 2,349,327,152 | 31,201,936 |
| 固定資産除却費 | 38,995,459 | 52,717,665 | △ 13,722,206 |
| 不用品売却原価 | 701,781 | 595,112 | 106,669 |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | 478,656 | △ 189,311 | 667,967 |
| 退職給付引当金の増減額 (△は減少) | 26,897,772 | 26,897,772 | 0 |
| 賞与引当金の増減額 (△は減少) | 841,000 | 1,008,000 | △ 167,000 |
| 法定福利費引当金の増減額 (△は減少) | 190,000 | 218,000 | △ 28,000 |
| 長期前受金戻入額 | △ 643,883,170 | △ 655,561,910 | 11,678,740 |
| 受取利息及び配当金 | △ 20,326 | 42,164 | △ 62,490 |
| 支払利息及び企業債取扱諸費 | 214,005,057 | 237,937,601 | △ 23,932,544 |
| 有形固定資産売却損益 (△は益) | 0 | 1,992,120 | △ 1,992,120 |
| 未収金の増減額 (△は増加) | 52,407,292 | △ 45,071,026 | 97,478,318 |
| 貯蔵品の増減額 (△は増加) | △ 4,274,460 | △ 5,384,050 | 1,109,590 |
| その他流動資産の増減額 (△は増加) | 0 | △ 10,000 | 10,000 |
| 未払金の増減額 (△は減少) | 54,623,902 | △ 37,446,212 | 92,070,114 |
| 未払消費税の増減額 (リース資産) (△は減少) | 1,952,650 | 0 | 1,952,650 |
| 未払費用の増減額 (△は減少) | 630,645 | △ 659,223 | 1,289,868 |
| 預り金の増減額 (△は減少) | 6,423,086 | 715,127 | 5,707,959 |
| 小 計 | 2,354,153,634 | 2,157,501,079 | 196,652,555 |
| 受取利息及び配当金 | 20,326 | △ 42,164 | 62,490 |
| 支払利息及び企業債取扱諸費 | △ 214,005,057 | △ 237,937,601 | 23,932,544 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 2,140,168,903 | 1,919,521,314 | 220,647,589 |
| 2 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 有形固定資産の取得による支出 (建設改良費) | △ 1,629,431,751 | △ 2,212,246,060 | 582,814,309 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 0 | 6,853,000 | △ 6,853,000 |
| 国庫補助金による収入 | 850,000 | 0 | 850,000 |
| 工事負担金による収入 | 336,662,200 | 272,072,125 | 64,590,075 |
| 寄附金による収入 | 5,000,000 | 0 | 5,000,000 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,286,919,551 | △ 1,933,320,935 | 646,401,384 |
| 3 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 市一般会計からの出資金による収入 | 5,161,976 | 4,019,202 | 1,142,774 |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入 | 409,700,000 | 1,199,700,000 | △ 790,000,000 |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 | △ 1,281,024,769 | △ 1,239,243,407 | △ 41,781,362 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 866,162,793 | △ 35,524,205 | △ 830,638,588 |
| 4 資金増加額 (又は減少額) | △ 12,913,441 | △ 49,323,826 | 36,410,385 |
| 5 資金期首残高 | 1,589,592,793 | 1,638,916,619 | △ 49,323,826 |
| 6 資金期末残高 | 1,576,679,352 | 1,589,592,793 | △ 12,913,441 |

(注) ・本表は間接法により作成している。

下水道事業会計

下水道事業会計

1 業務状況

当年度における下水道事業は、4か年の財政計画（平成30年度～令和3年度）の最終年次に当たり、管渠布設及びポンプ場や処理場の施設整備等を行い、快適な生活環境の拡充と河川等公共用水域の水質保全を図るための諸施策が実施された。

下水道管渠新設事業では、流域関連公共下水道地区を中心に汚水管渠を整備した結果、施工（整備）区域面積は、前年度と比較すると44.0ha（0.7%）拡大し6,352.4haとなっている。このうち、処理区域面積は、前年度と比較すると43.7ha（0.7%）拡大し6,329.6haとなった。計画区域面積に対する整備率は、前年度を0.6ポイント上回り91.4%であり、行政区域内人口に対する普及率は、前年度を0.1ポイント上回り71.6%となった。

雨水対策事業では、本庁管内の雨水排水調査分析業務及び永明地区の雨水管渠工事を実施した。

改築更新事業では、ストックマネジメント計画に基づき老朽化した下水道管の更生工事や地震対策工事を実施した。

処理場建設事業では、前橋水質浄化センター更新事業基本設計業務を完了したほか、3系送風機設備更新工事や3系汚泥濃度計更新工事など水処理施設の諸設備等の更新工事を実施し、ポンプ場建設事業では、天川大島第一中継ポンプ場非常用発電設備と汚水ポンプ吐出弁の更新工事等を実施した。

施設改良事業では、下水道布設替工事や取付管改築・更新工事等を実施した。

公共下水道使用戸数は、前年度と比較すると1,011戸（0.8%）増加し130,032戸となり、水洗便所使用戸数も前年度と比較すると1,016戸（0.8%）増加し129,997戸となった。

処理区域内人口237,698人に対する水洗化人口は229,331人であり、水洗化率は前年度と同率の96.5%であった。

年間下水流入量は、前年度と比較すると1,225,449 m^3 （3.2%）増加し39,425,436 m^3 となった。

なお、年間下水流入量のうち県央水質浄化センターへの下水流入量は21,271,618 m^3 で、前年度と比較すると3,154,273 m^3 （17.4%）増加した。

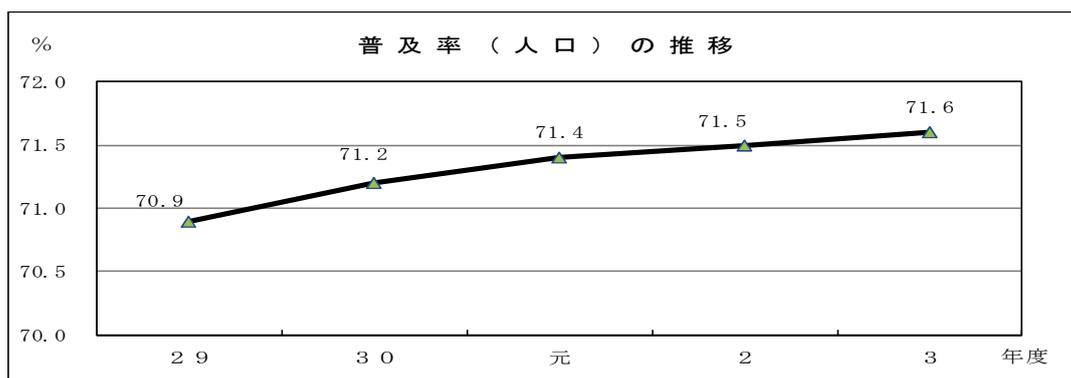
年間有収汚水量は、前年度と比較すると148,081 m^3 （0.5%）減少し27,376,677 m^3 となった。

当年度末における職員数は48人で前年度と比較すると2人（4%）減少し、そのうち損益勘定職員数は30人で前年度と比較すると1人（3.2%）減少した。人的資源が効率的に活用されているかを示す損益勘定職員一人当たりの有収汚水量は912,556 m^3 で、前年度と比較すると24,661 m^3 （2.8%）増加し、また、損益勘定職員一人当たりの営業収益も148,902千円で、前年度と比較すると1,631千円（1.1%）増加した。

普及状況等前年度比較

| 区 分 | | 単位 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対前年度比較 | |
|--------------------|-----------------|------------------------------|------------------------------|----------------------------|------------------|----------|
| | | | | | 増 減 | 増減比率 (%) |
| 計画 区域 | 面 積 A | ha | 6,948.5 | 6,948.5 | 0 | 0 |
| | 人 口 | 人 | 221,609 | 221,609 | 0 | 0 |
| 施工 (整備) 区域 | 面 積 B | ha | 6,352.4 | 6,308.4 | 44.0 | 0.7 |
| | 人 口 | 人 | 237,716 | 239,151 | △ 1,435 | △ 0.6 |
| | 整備率(面積) B/A×100 | % | 91.4 | 90.8 | 0.6 | — |
| 処 理 区 域 | 面 積 C | ha | 6,329.6 | 6,285.9 | 43.7 | 0.7 |
| | 処理区域内人口 D | 人 | 237,698 | 239,130 | △ 1,432 | △ 0.6 |
| | 水洗化人口 E | 人 | 229,331 | 230,713 | △ 1,382 | △ 0.6 |
| | 普及率(面積) C/A×100 | % | 91.1 | 90.5 | 0.6 | — |
| | 水洗化率 E/D×100 | % | 96.5 | 96.5 | 0.0 | — |
| | 公共下水道処理可能戸数 | 戸 | 134,475 | 133,260 | 1,215 | 0.9 |
| | 公共下水道使用戸数 | 戸 | 130,032 | 129,021 | 1,011 | 0.8 |
| | 水洗便所使用戸数 | 戸 | 129,997 | 128,981 | 1,016 | 0.8 |
| 行政区域内人口 F | 人 | 332,063 | 334,535 | △ 2,472 | △ 0.7 | |
| 普及率(人口) D/F×100 | % | 71.6 | 71.5 | 0.1 | — | |
| 管 渠 延 長 | km | 1,535.05 | 1,526.30 | 8.75 | 0.6 | |
| 年 間 下 水 流 入 量 | m ³ | 39,425,436 (21,271,618) | 38,199,987 (18,117,345) | 1,225,449 (3,154,273) | 3.2 (17.4) | |
| 年 間 有 収 汚 水 量 G | m ³ | 27,376,677 | 27,524,758 | △ 148,081 | △ 0.5 | |
| 汚 泥 処 理 量 | t | 6,259 | 6,087 | 172 | 2.8 | |
| し尿及び浄化槽汚泥処理量 | m ³ | 35,511 | 38,247 | △ 2,736 | △ 7.2 | |
| 職 員 数 H | 人 | 48 (30) | 50 (31) | △ 2 (△ 1) | △ 4 (△ 3.2) | |
| 職員一人当たり処理区域内人口 D/H | 人 | 7,923 | 7,714 | 209 | 2.7 | |
| 職員一人当たり有収汚水量 G/H | m ³ | 912,556 | 887,895 | 24,661 | 2.8 | |
| 職員一人当たり営業収益 | 千円 | 148,902 | 147,271 | 1,631 | 1.1 | |

- ・計画区域人口は事業計画における令和7年度末時点の推計人口である。
- ・年間下水流入量()内は県央水質浄化センターへの流入量である。
- ・職員数()内は損益勘定職員である。また、職員一人当たりの各項目は損益勘定職員数により積算している。
- ・職員一人当たり営業収益は地方公営企業年鑑に基づき算出した。



2 予算執行状況（決算報告書）

(1) 収益的収入及び支出

収益的収入の決算額は7,181,731,957円で、予算現額7,457,509,000円に対し275,777,043円の減となり、収入率は96.3%である。

収益的支出の決算額は6,772,299,031円で、予算現額7,200,002,000円に対し翌年度繰越額228,657,000円を除く199,045,969円の不用額を生じ、執行率は94.1%である。

収益的収支のうちには、特別利益として貸倒引当金の余剰金6,234,151円、放射能関連経費に伴う東京電力賠償金1,619,750円、特別損失として過年度下水道使用料還付金795,335円がある。

収益的収入の状況

(単位：円・%)

| 区分 | 予算現額 | 決算額 | 対予算比較 | |
|-------------|---------------|---------------|---------------|-------|
| | | | 増減額 | 収入率 |
| 第1款 下水道事業収益 | 7,457,509,000 | 7,181,731,957 | △ 275,777,043 | 96.3 |
| 第1項 営業収益 | 6,213,676,000 | 5,937,088,826 | △ 276,587,174 | 95.5 |
| 第2項 営業外収益 | 1,235,776,000 | 1,236,572,115 | 796,115 | 100.1 |
| 第3項 特別利益 | 8,057,000 | 8,071,016 | 14,016 | 100.2 |

収益的支出の状況

(単位：円・%)

| 区分 | 予算現額 | 決算額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|-------------|---------------|---------------|-------------|-------------|------|
| 第1款 下水道事業費用 | 7,200,002,000 | 6,772,299,031 | 228,657,000 | 199,045,969 | 94.1 |
| 第1項 営業費用 | 6,558,006,000 | 6,145,987,096 | 228,657,000 | 183,361,904 | 93.7 |
| 第2項 営業外費用 | 625,438,472 | 625,438,472 | 0 | 0 | 100 |
| 第3項 特別損失 | 1,577,000 | 873,463 | 0 | 703,537 | 55.4 |
| 第4項 予備費 | 14,980,528 | 0 | 0 | 14,980,528 | 0 |

・予備費 15,019,472円を営業費用へ 429,000円、営業外費用へ 14,590,472円充用している。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入の決算額は2,862,062,897円で、前年度からの繰越額に係る財源充当額597,142,000

円を含む予算現額 3,171,616,000 円に対し 309,553,103 円の減となり、収入率は 90.2%である。

資本的支出の決算額は 5,356,336,318 円で、前年度からの繰越額 676,767,000 円を含む予算現額 5,808,707,000 円に対し翌年度繰越額 326,800,000 円を除く 125,570,682 円の不用額を生じ、執行率は 92.2%である。

資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額 2,494,273,421 円は、当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額（消費税の経理に伴い当年度に発生した内部留保資金）109,573,795 円、過年度損益勘定留保資金（過年度に発生した現金支出を伴わない減価償却費等の費用で内部留保されている資金）796,380,331 円、当年度損益勘定留保資金（当年度に発生した現金支出を伴わない減価償却費等の費用の合計額）1,172,632,157 円、減債積立金 415,687,138 円で補てんされている。

なお、企業債償還金の財源に充てるため、資本費平準化債 360,000,000 円を借り入れている。

資 本 的 収 入 の 状 況

(単位：円・%)

| 区 分 | 予算現額 | 決算額 | 対 予 算 比 較 | |
|-------------|---------------|---------------|---------------|-------|
| | | | 増 減 額 | 収入率 |
| 第1款 資本的収入 | 3,171,616,000 | 2,862,062,897 | △ 309,553,103 | 90.2 |
| 第1項 企業債 | 1,702,100,000 | 1,492,000,000 | △ 210,100,000 | 87.7 |
| 第2項 国県補助金 | 815,850,000 | 722,702,000 | △ 93,148,000 | 88.6 |
| 第3項 受益者負担金 | 103,575,000 | 100,701,088 | △ 2,873,912 | 97.2 |
| 第4項 工事負担金 | 42,987,000 | 44,045,300 | 1,058,300 | 102.5 |
| 第5項 出資金 | 482,201,000 | 482,201,172 | 172 | 100.0 |
| 第6項 負担金 | 23,630,000 | 19,140,043 | △ 4,489,957 | 81.0 |
| 第7項 その他資本収入 | 1,273,000 | 1,273,294 | 294 | 100.0 |

- ・第1項企業債の予算現額には前年度繰越額に係る財源充当額 255,300,000円を含み、決算額には前年度繰越額に係る財源充当額 228,400,000円を含む。
また、予算現額と決算額の差額 210,100,000円には、翌年度繰越額に係る財源充当額 142,700,000円を含む。
- ・第2項国県補助金の予算現額及び決算額には、前年度繰越額に係る財源充当額 317,000,000円を含む。
また、予算現額と決算額の差額 93,148,000円には、翌年度繰越額に係る財源充当額 90,548,000円を含む。
- ・第4項工事負担金の予算現額には、前年度繰越額に係る財源充当額 20,792,000円を含み、決算額には前年度繰越額に係る財源充当額 30,822,000円を含む。
- ・第6項負担金の予算現額及び決算額には、前年度繰越額に係る財源充当額 4,050,000円を含む。
また、予算現額と決算額の差額 4,489,957円には、翌年度繰越額に係る財源充当額 1,577,200円を含む。

資 本 的 支 出 の 状 況

(単位：円・%)

| 区 分 | 予算現額 | 決算額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 執行率 |
|--------------|---------------|---------------|-------------|-------------|-------|
| 第1款 資本的支出 | 5,808,707,000 | 5,356,336,318 | 326,800,000 | 125,570,682 | 92.2 |
| 第1項 建設改良費 | 2,694,680,000 | 2,248,163,655 | 326,800,000 | 119,716,345 | 83.4 |
| 第2項 企業債償還金 | 3,108,173,000 | 3,108,172,663 | 0 | 337 | 100.0 |
| 第3項 予備費 | 5,000,000 | 0 | 0 | 5,000,000 | 0 |
| 第4項 国庫補助金返還金 | 854,000 | 0 | 0 | 854,000 | 0 |

- ・第1項建設改良費の予算現額には、前年度繰越額 676,767,000円を含み、決算額には前年度繰越額 669,763,000円を含む。

3 経営成績（損益計算書）

※付表〔1 下水道事業損益計算書前年度比較表（50～51頁）〕を参照

(1) 経営状況

総収益は6,878,659,999円、総費用は6,578,800,868円で、差引き299,859,131円の純利益となっている。

営業損益（営業収益－営業費用）は283,587,046円の営業損失となっており、前年度の営業損失113,114,523円と比較すると損失が170,472,523円増加している。

経常損益（営業損益＋営業外収益－営業外費用）は292,606,631円の経常利益となっており、前年度の経常利益359,206,236円と比較すると利益が66,599,605円減少している。

純損益（経常損益＋特別利益－特別損失）は299,859,131円の純利益となっており、前年度の純利益359,897,449円と比較すると利益が60,038,318円減少している。

なお、当年度純利益299,859,131円に、減債積立金を取り崩したことによるその他未処分利益剰余金変動額415,687,138円を加えた当年度未処分利益剰余金は715,546,269円となっている。

営業活動の収支の均衡を示す営業収支比率は75.5%で、前年度を1.3ポイント下回っている。この比率は100%を超えて高いほど営業利益率が良いことを示すことから、営業収支は支出超過となっている。

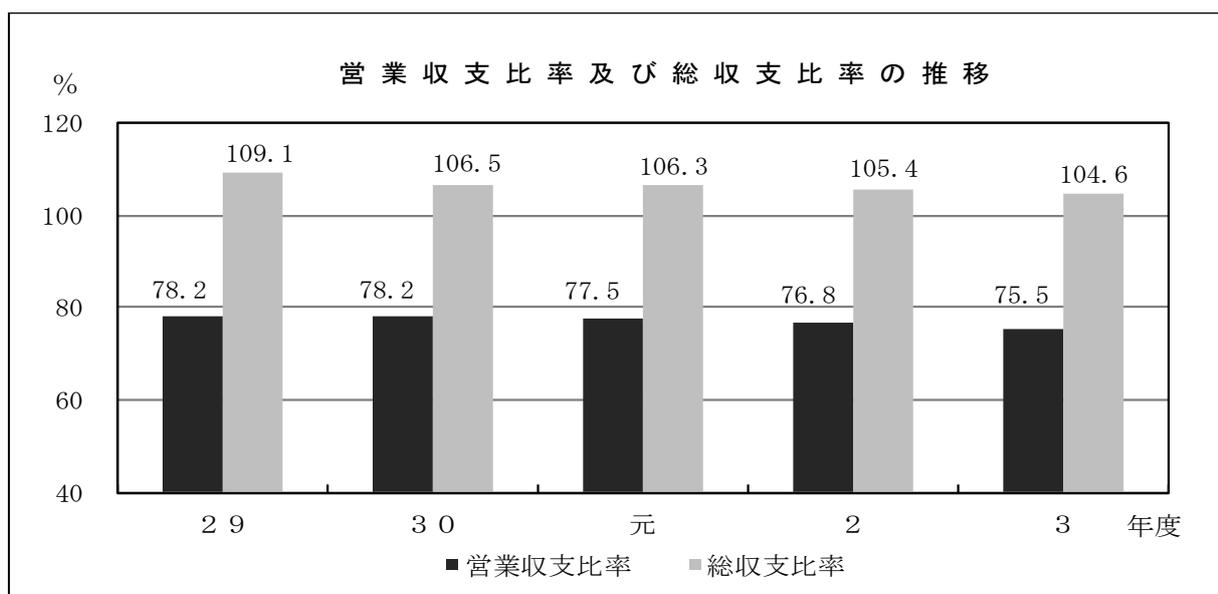
経常的な収支の均衡を示す経常収支比率は104.4%で、前年度を1.0ポイント下回っている。また、事業全体の収支の均衡を示す総収支比率は104.6%で、総収益の減等により前年度を0.8ポイント下回っている。両比率ともに100%を超えて高いほど利益が発生していることを示すが、営業収支は支出超過となっており、経営の安定化が図られているとはいえない状況である。

営業収支比率、経常収支比率及び総収支比率

(単位：%)

| 区 分 | 3年度 | 2年度 | 全国平均 (2年度) | 算 出 基 礎 |
|--------------------------------|------------------|-------|---------------|--|
| 営業収支比率 (この比率は100%を超え高いほど良い) | 75.5 (△ 1.3) | 76.8 | 73.6 | $\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{営業費用}-\text{受託工事費用}} \times 100$ |
| 経常収支比率 (この比率は100%を超え高いほど良い) | 104.4 (△ 1.0) | 105.4 | 106.7 | $\frac{\text{経 常 収 益}}{\text{経 常 費 用}} \times 100$ |
| 総収支比率 (この比率は100%を超え高いほど良い) | 104.6 (△ 0.8) | 105.4 | 106.6 | $\frac{\text{総 収 益}}{\text{総 費 用}} \times 100$ |

- ・各比率は地方公営企業年鑑に基づき算出した。
- ・営業収支比率における営業収益は他会計負担金の一部を除いた。
- ・経常収益は営業収益と営業外収益の合計額であり、経常費用は営業費用と営業外費用の合計額である。
- ・全国平均は地方公営企業年鑑における公共下水道の法適用団体の平均値である。
- ・3年度（ ）内は対前年度比較増減の値である。



(2) 収 益

総収益は6,878,659,999円で、前年度と比較すると175,731,189円(2.5%)の減少となっている。

これは主として、長期前受金戻入18,081,873円(1.5%)の増と、他会計負担金191,817,489円(6.9%)、下水道使用料9,253,286円(0.3%)の減によるものである。

収 益 の 前 年 度 比 較

(単位：円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | | |
|-------|-----------------|---------------|---------------|---------------|-------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 | |
| 総 収 益 | 6,878,659,999 | 7,054,391,188 | △ 175,731,189 | △ 2.5 | |
| 内 訳 | 下 水 道 使 用 料 | 3,028,613,442 | 3,037,866,728 | △ 9,253,286 | △ 0.3 |
| | 他 会 計 負 担 金 | 2,605,273,353 | 2,797,090,842 | △ 191,817,489 | △ 6.9 |
| | 長 期 前 受 金 戻 入 | 1,224,531,884 | 1,206,450,011 | 18,081,873 | 1.5 |
| | 過 年 度 損 益 修 正 益 | 1,819,510 | 1,888,598 | △ 69,088 | △ 3.7 |
| | そ の 他 の 収 益 | 18,421,810 | 11,095,009 | 7,326,801 | 66.0 |

(3) 費 用

総費用は6,578,800,868円で、前年度と比較すると115,692,871円(1.7%)の減少となっている。

これは主として、退職給付費74,732,668円(192.7%)、流域下水道管理運営費29,071,759円(3.4%)、減価償却費25,340,029円(0.8%)の増と請負費180,351,000円(33.6%)の減によるものである。

費 用 の 前 年 度 比 較

(単位：円・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | | |
|-------|------------------------------|---------------|---------------|---------------|--------|
| | | | 増 減 額 | 増 減 比 率 | |
| 総 費 用 | 6,578,800,868 | 6,694,493,739 | △ 115,692,871 | △ 1.7 | |
| 内 | 人 件 費 | 274,760,322 | 278,710,437 | △ 3,950,115 | △ 1.4 |
| | 退 職 給 付 費 | 113,512,964 | 38,780,296 | 74,732,668 | 192.7 |
| | 委 託 料 | 586,794,796 | 572,619,343 | 14,175,453 | 2.5 |
| | 修 繕 費 | 37,763,633 | 37,236,220 | 527,413 | 1.4 |
| | 電 力 料 | 167,962,313 | 170,439,557 | △ 2,477,244 | △ 1.5 |
| | 請 負 費 | 356,441,000 | 536,792,000 | △ 180,351,000 | △ 33.6 |
| | 減 価 償 却 費 | 3,210,676,045 | 3,185,336,016 | 25,340,029 | 0.8 |
| | 資 産 減 耗 費 | 13,761,575 | 7,865,443 | 5,896,132 | 75.0 |
| | 流 域 下 水 道 管 理 運 営 費 | 894,736,262 | 865,664,503 | 29,071,759 | 3.4 |
| 訳 | 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 575,178,582 | 641,596,416 | △ 66,417,834 | △ 10.4 |
| | そ の 他 の 費 用 | 347,213,376 | 359,453,508 | △ 12,240,132 | △ 3.4 |

・付表〔2 下水道事業費用別比較表（52～53頁）〕を参照

・人件費は付表〔2 下水道事業費用別比較表〕の給料、手当等及び法定福利費の計である。

(4) 処理原価と使用料単価

有収汚水量 1 m³当たりの処理原価は 134 円 70 銭で、前年度と比較すると 8 円 23 銭の増加となっている。

使用料単価は 110 円 63 銭で、前年度と比較すると 26 銭の増加となっている。

処理原価は使用料単価を上回っており、販売損失は 1 m³当たり 24 円 7 銭で、前年度と比較すると 7 円 97 銭増加している。

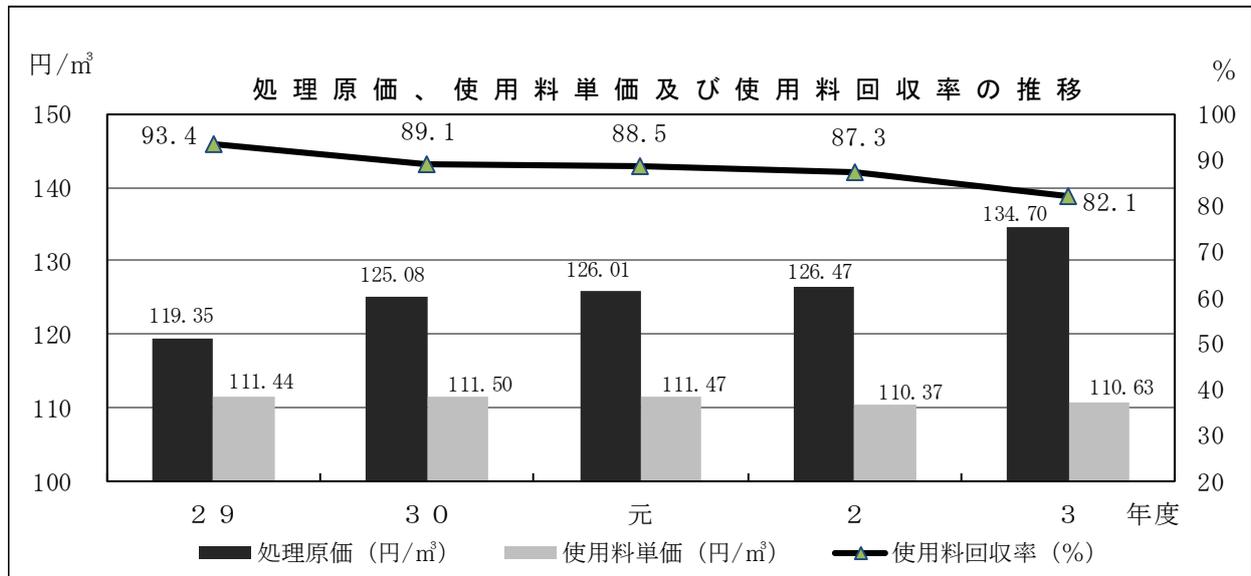
汚水処理に係る費用がどの程度下水道使用料で賄えているかを示す使用料回収率は 82.1%で、前年度を 5.2 ポイント下回っている。この比率が 100% を下回っている場合は、汚水処理に係る費用が下水道使用料だけで賄われておらず、下水道使用料以外の収入でも賄われている状態である。

処 理 原 価 及 び 使 用 料 単 価

(単位：円/m³・%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 全国平均 (2年度) | 算 出 基 礎 |
|-------------|---------------------|---------|---------------|--|
| 処 理 原 価 | 134.70 (8.23) | 126.47 | 132.14 | $\frac{\text{汚 水 処 理 費 量}}{\text{有 収 汚 水 量}}$ |
| 使 用 料 単 価 | 110.63 (0.26) | 110.37 | 132.95 | $\frac{\text{下 水 道 使 用 料 量}}{\text{有 収 汚 水 量}}$ |
| 販 売 利 益 | △ 24.07 (△ 7.97) | △ 16.10 | 0.81 | 使用料単価 - 処理原価 |
| 使 用 料 回 収 率 | 82.1 (△ 5.2) | 87.3 | 100.6 | $\frac{\text{使 用 料 単 価}}{\text{処 理 原 価}} \times 100$ |

- ・全国平均は地方公営企業年鑑における公共下水道の法適用団体の平均値である。
- ・3年度 () 内は対前年度比較増減の値である。



(5) 引当金の状況

ア 退職給付引当金

当年度末の残高は 339,176,929 円で、当年度中において 26,604,995 円の増加となっている。これは、会計基準変更時差異（平成 26 年度の期末要支給額と引当金残高の差額）399,074,925 円について、15 年間にわたり均等額を積み立てることとしており、その 8 年度目として 26,604,995 円を積み立てたことによるものである。

イ 賞与引当金

当年度末の残高は 32,424,000 円で、当年度中において 1,286,000 円の増加となっている。これは、翌年度支給額のうち当年度の負担（12 月から 3 月までの 4 か月分）に属する額 32,424,000 円の積立てと当年度分の支出に充てるための額 31,138,000 円の取崩しによるも

のである。

ウ 法定福利費引当金

当年度末の残高は 6,184,000 円で、当年度中において 257,000 円の増加となっている。これは、翌年度支給額のうち当年度の負担（12月から3月までの4か月分）に属する額 6,184,000 円の積立てと当年度分の支出に充てるための額 5,927,000 円の取崩しによるものである。

エ 貸倒引当金

下水道使用料における当年度末の残高は 2,824,863 円で、当年度中において 218,179 円の増加となっている。これは、期末未収残高に貸倒実績率の平均を乗じて算出した貸倒引当金設定額と貸倒引当金残高の差額 2,432,517 円の積立てと当年度分の不納欠損に充てるための額 2,214,338 円の取崩しによるものである。

受益者負担金及び分担金における当年度末の残高は 120,000 円（受益者負担金 0 円、分担金 120,000 円）で、当年度中において 6,309,151 円の減少となっている。これは、貸倒引当金の余剰金 6,234,151 円（受益者負担金 2,413,734 円、分担金 3,820,417 円）の特別利益への振替えによるものと、当年度の不納欠損に充てるための額 75,000 円（過年度未収分担金）の取崩しによるものである。

引 当 金 の 状 況

(単位：円)

| 区 分 | 2 年 度 末 残 高 | 決 算 年 度 中 増 減 高 | | | 3 年 度 末 残 高 | |
|-----------------|----------------|-----------------|------------|-------------|----------------|-----------|
| | | 増 加 | 減 少 | 計 | | |
| 退 職 給 付 引 当 金 | 312,571,934 | 26,604,995 | 0 | 26,604,995 | 339,176,929 | |
| 賞 与 引 当 金 | 31,138,000 | 32,424,000 | 31,138,000 | 1,286,000 | 32,424,000 | |
| 法 定 福 利 費 引 当 金 | 5,927,000 | 6,184,000 | 5,927,000 | 257,000 | 6,184,000 | |
| 貸 倒 引 当 金 | 9,035,835 | 2,432,517 | 8,523,489 | △ 6,090,972 | 2,944,863 | |
| 内 訳 | 下 水 道 使 用 料 | 2,606,684 | 2,432,517 | 2,214,338 | 218,179 | 2,824,863 |
| | 受 益 者 負 担 金 | 2,413,734 | 0 | 2,413,734 | △ 2,413,734 | 0 |
| | 分 担 金 | 4,015,417 | 0 | 3,895,417 | △ 3,895,417 | 120,000 |

4 財政状態（貸借対照表）

※付表〔3 下水道事業貸借対照表前年度比較表（54～55頁）〕を参照

(1) 資 産

当年度末の資産合計は 97,825,091,886 円で、前年度と比較すると 734,232,272 円（0.7%）の減少となっている。

資産の構成比率は、固定資産 96.6%、流動資産 3.4%である。

固定資産の合計は 94,529,229,470 円で、前年度と比較すると 957,598,757 円（1.0%）の減少となっている。

これは主として、建設仮勘定 177,697,378 円(123.2%)の増と、構築物 1,052,277,025 円(1.2%)、施設利用権 113,477,909 円（3.3%）の減によるものである。なお、当年度新たに計上した所有権移転ファイナンス・リース取引に係る資産（庁舎等LED照明）7,823,500 円（皆増）がある。

流動資産の合計は 3,295,862,416 円で、前年度と比較すると 223,366,485 円（7.3%）の増加となっている。

これは主として、預金 227,313,351 円（9.9%）、前払金 46,420,000 円（273.1%）の増と営業未収金 44,470,732 円（6.2%）の減によるものである。

なお、下水道使用料、水洗便所奨励工事代、受益者負担金、分担金の滞納額及び不納欠損額は、次表のとおりである。

下水道使用料等の滞納額及び不納欠損額

(単位：円・%)

| 区 分 | | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 元 年 度 | |
|-------------------------|-----------|------------|------|------------|-------|------------|-------|
| | | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 | 金 額 | 前年度比 |
| 下 水 道 使 用 料 | 滞 納 額 | 48,517,647 | 93.9 | 51,687,081 | 105.9 | 48,800,992 | 95.1 |
| | 不 納 欠 損 額 | 2,214,338 | 90.7 | 2,441,639 | 82.1 | 2,972,910 | 117.2 |
| 水 洗 便 所 奨 励 工 事 代 | 滞 納 額 | 0 | 皆減 | 126,000 | 100 | 126,000 | 100 |
| | 不 納 欠 損 額 | 75,600 | 皆増 | 0 | — | 0 | — |
| 受 益 者 負 担 金 | 滞 納 額 | 11,060 | 5.7 | 193,727 | 68.4 | 283,167 | 196.3 |
| | 不 納 欠 損 額 | 0 | — | 0 | 皆減 | 33,750 | 2.7 |
| 分 担 金 | 滞 納 額 | 325,000 | 66.7 | 487,000 | 67.7 | 719,000 | 69.4 |
| | 不 納 欠 損 額 | 75,000 | 皆増 | 0 | — | 0 | — |

- ・各年度3月31日現在の状況で、納期限が未到来の未収金は滞納額に含まない。
- ・金額は消費税及び地方消費税込みの数値である。
- ・収益的収入である下水道使用料及び水洗便所奨励工事代の滞納額のうち現年度調定分は営業未収金、過年度調定分は特別利益未収金として翌年度に繰り越される。
- ・資本的収入である受益者負担金及び分担金の滞納額はその他未収金として翌年度に繰り越される。

(2) 負 債

当年度末の負債合計は 75,169,589,945 円で、前年度と比較すると 1,572,911,775 円（2.0%）の減少となっている。

負債の構成比率は、固定負債 44.7%、流動負債 6.1%、繰延収益 49.2%である。

固定負債の合計は 33,629,861,755 円で、前年度と比較すると 1,550,020,000 円（4.4%）の減少となっている。

これは主として、退職給付引当金 26,604,995 円（8.5%）の増と 1 年を超えて償還される建設改良費等の財源に充てるための企業債 1,592,766,244 円（5.0%）の減によるものである。

流動負債の合計は 4,546,281,095 円で、前年度と比較すると 250,149,353 円（5.8%）の増加となっている。

これは主として、営業未払金 130,866,689 円（27.4%）、諸預り金 89,347,545 円（81.6%）、建設改良未払金 70,092,556 円（13.2%）の増と、1 年以内に償還される建設改良費等の財源に充てるための企業債 51,406,419 円（1.9%）の減によるものである。

繰延収益の合計は 36,993,447,095 円で、前年度と比較すると 273,041,128 円（0.7%）の減少となっている。

これは主として、受贈財産評価額 78,813,896 円（3.2%）の増と他会計負担金 151,915,130 円（3.5%）、国庫補助金 109,911,654 円（0.5%）の減によるものである。

(3) 資 本

当年度末の資本合計は 22,655,501,941 円で、前年度と比較すると 838,679,503 円（3.8%）の増加となっている。

資本の構成比率は、資本金 80.3%、剰余金 19.7%である。

資本金の合計は 18,183,365,606 円で、前年度と比較すると 957,169,219 円（5.6%）の増加となっている。

これは、繰入資本金 529,460,372 円（8.3%）、組入資本金 427,708,847 円（4.3%）の増によるものである。

剰余金の合計は 4,472,136,335 円で、前年度と比較すると 118,489,716 円（2.6%）の減少となっている。

これは主として、当年度未処分利益剰余金 72,060,027 円（9.1%）、減債積立金 55,789,689 円（13.4%）の減によるものである。

当年度未処分利益剰余金 715,546,269 円は、剰余金処分計算書（案）により、地方公営企業法第 3 2 条第 2 項に基づき、議会の議決により 299,859,131 円を減債積立金に積み立てることとし、415,687,138 円を組入資本金に組み入れることとしている。

(4) 財務比率及び構成比率の状況

ア 流動比率

短期債務に対して、これに必ずべき流動資産の割合を示す流動比率は72.5%で、前年度を1.0ポイント上回っている。

これは主として、流動資産における現金預金、前払金の増によるものである。

この比率が100%を上回っている場合は、短期債務に対する支払能力が確保されていることを示すが、下水道事業は1年以内に償還される企業債が多額であるため低率となっており、十分に確保されているとはいえない状況である。

イ 固定比率

固定資産と自己資本（資本金、剰余金、評価差額等及び繰延収益の合計）との比率を示す固定比率は158.5%で、前年度を3.1ポイント下回っている。

これは主として、一般会計からの出資金収入などに伴う自己資本の増と減価償却に伴う固定資産の減によるものである。

この比率は、自己資本がどの程度固定資産に投下されているかを見る指標であり、100%以下であれば固定資産への投資が自己資本の枠内におさまっていることになるが、設備の取得財源を負債である企業債に依存しているため高率となっている。

ウ 固定資産対長期資本比率

固定資産の調達に固定負債と自己資本（資本金、剰余金、評価差額等及び繰延収益の合計）の範囲内で行われているかどうかを示す固定資産対長期資本比率は101.3%で、前年度と同率となっている。

この比率が100%を上回っている場合は、固定資産の一部が流動負債によって調達されていることを示すため低率が望ましいが、流動負債のうち、下水道事業は1年以内に償還される企業債が多額であるため高率となっている。

エ 自己資本構成比率

負債資本合計の中に占める自己資本（資本金、剰余金、評価差額等及び繰延収益の合計）の割合を示す自己資本構成比率は61.0%で、前年度を1.1ポイント上回っている。

これは主として、一般会計からの出資金収入などに伴う自己資本の増と企業債の償還に伴う負債の減によるものである。

この比率は高い方が経営の健全性が高い状況であるが、下水道事業は施設建設を負債である企業債に依存しているため低率となっており、改善してきているものの、経営の健全性は比較的低い状況にある。

オ 固定資産構成比率

総資産(固定資産、流動資産及び繰延資産の合計)に占める固定資産の割合を示す固定資産構成比率は96.6%で、前年度を0.3ポイント下回っている。

これは主として、流動資産における現金預金、前払金の増によるものである。

この比率は低い方が柔軟な経営が可能となるが、下水道事業は多くの施設を保有していることから資本が固定化傾向にあるため高率となっており、経営の柔軟性は比較的低い状況にある。

カ 固定負債構成比率

負債資本合計の中に占める固定負債の割合を示す固定負債構成比率は34.4%で、前年度を1.3ポイント下回っている。

これは主として、企業債の償還に伴う固定負債の減によるものである。

この比率は低い方が経営の健全性が高い状況であるが、下水道事業は施設建設を負債である企業債に依存しているため高率となっており、改善してきているものの、経営の健全性は比較的低い状況にある。

財 務 比 率 及 び 構 成 比 率

(単位：%)

| 区 分 | | 3年度 | 2年度 | 全国平均 (2年度) | 算 出 基 礎 |
|------------------|--|------------------|-------|---------------|--|
| 財 務 比 率 | ア 流 動 比 率 (この比率は100%以上である ことが望ましい) | 72.5 (1.0) | 71.5 | 67.5 | $\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$ |
| | イ 固 定 比 率 (この比率は100%以下であ れば固定資産への投資が自己 資本の枠内におさまっている) | 158.5 (△ 3.1) | 161.6 | 156.5 | $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資 本 金} + \text{剰 余 金} + \text{評 価 差 額 等} + \text{繰 延 収 益}} \times 100$ |
| | ウ 固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率 (この比率は100%以下で、 かつ、低いことが望ましい) | 101.3 (0.0) | 101.3 | 101.5 | $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{固 定 負 債} + \text{資 本 金} + \text{剰 余 金} + \text{評 価 差 額 等} + \text{繰 延 収 益}} \times 100$ |
| 構 成 比 率 | エ 自 己 資 本 構 成 比 率 (この比率は高い方が経営の 健全性は高い) | 61.0 (1.1) | 59.9 | 62.0 | $\frac{\text{資 本 金} + \text{剰 余 金} + \text{評 価 差 額 等} + \text{繰 延 収 益}}{\text{負 債 資 本 合 計}} \times 100$ |
| | オ 固 定 資 産 構 成 比 率 (この比率は低い方が柔軟な 経営が可能となる) | 96.6 (△ 0.3) | 96.9 | 97.0 | $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{固 定 資 産} + \text{流 動 資 産} + \text{繰 延 資 産}} \times 100$ |
| | カ 固 定 負 債 構 成 比 率 (この比率は低い方が経営の 健全性は高い) | 34.4 (△ 1.3) | 35.7 | 33.6 | $\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{負 債 資 本 合 計}} \times 100$ |

・付表 [4 下水道事業経営分析表 (56～59頁)] を参照

・全国平均は地方公営企業年鑑における公共下水道の法適用団体の平均値である。

・3年度 () 内は対前年度比較増減の値である。

5 資金状況（キャッシュ・フロー計算書）

※付表〔5 下水道事業キャッシュ・フロー計算書前年度比較表（60頁）〕を参照

(1) 資金状況

キャッシュ・フロー計算書が対象とする資金の範囲は、貸借対照表における現金預金と同範囲とし、その表示は業務活動、投資活動及び財務活動に区分することとされている。

当年度の資金は、3区分の合計により、期末残高は2,517,365,355円であり、前年度と比較すると227,313,351円の増加となっている。

キャッシュ・フロー計算書から見た下水道事業の経営状況は、業務活動によるキャッシュ・フローはプラスで、投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローはマイナスであることから、業務活動で着実に資金を獲得しつつ、借入金残高を減らしながら建設投資を行っている状況である。なお、表示方法は間接法により作成している。

キャッシュ・フロー計算書の前年度比較

(単位：円)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対前年度比較増減額 |
|----------------------|-----------------|-----------------|---------------|
| 業務活動による キャッシュ・フロー | 2,567,234,264 | 2,674,164,110 | △ 106,929,846 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △ 1,205,949,422 | △ 1,142,672,611 | △ 63,276,811 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △ 1,133,971,491 | △ 1,100,272,535 | △ 33,698,956 |
| 資金増加額(又は減少額) | 227,313,351 | 431,218,964 | △ 203,905,613 |
| 資 金 期 首 残 高 | 2,290,052,004 | 1,858,833,040 | 431,218,964 |
| 資 金 期 末 残 高 | 2,517,365,355 | 2,290,052,004 | 227,313,351 |

(2) 業務活動によるキャッシュ・フロー

業務活動は、通常の業務活動の実施に係る資金の状態を表し、そのキャッシュ・フローは2,567,234,264円で、前年度と比較すると資金が106,929,846円の減少となっている。

これは主として、預り金の増減額の増、有形固定資産減価償却費の増に伴う資金の増と未払金の増減額の減、当年度純利益の減に伴う資金の減によるものである。

(3) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動は、将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表し、そのキャッシュ・フローは△1,205,949,422円で、前年度と比較すると資金が63,276,811円の減少となっている。

これは主として、国庫補助金返還による支出の減、工事負担金による収入の増に伴う資金の増と、有形固定資産の取得による支出の増、国庫補助金による収入の減に伴う資金の減によるものである。

(4) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動は、業務活動及び投資活動を行うための財務活動に係る資金の状態を表し、そのキャッシュ・フローは△1,133,971,491円で、前年度と比較すると資金が33,698,956円の減少となっている。

これは主として、建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入の増に伴う資金の増と建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出の増、その他の企業債による収入の減に伴う資金の減によるものである。

6 企業債

建設改良費等の財源に充てるための企業債借入額は1,132,000,000円で、2,776,172,663円を元金償還した結果、未償還残高は前年度と比較すると1,644,172,663円(4.8%)減の32,924,409,821円となっている。未償還残高の負債における内訳は、1年を超えて償還される固定負債の残高において30,199,643,577円、1年以内に償還される流動負債の残高において2,724,766,244円となっている。

その他の企業債である資本費平準化債借入額は360,000,000円で、332,000,000円を元金償還した結果、未償還残高は前年度と比較すると28,000,000円(0.8%)増の3,434,900,000円となっている。未償還残高の負債における内訳は、1年を超えて償還される固定負債の残高において3,084,300,000円、1年以内に償還される流動負債の残高において350,600,000円となっている。

建設改良費等の財源に充てるための企業債とその他の企業債の借入額の合計は1,492,000,000円であり、3,108,172,663円の元金償還をした結果、未償還残高は前年度と比較すると1,616,172,663円(4.3%)減の36,359,309,821円となっている。

なお、建設改良費等の財源に充てるための企業債とその他の企業債の元利償還額の合計は3,683,348,550円で、前年度と比較すると1,444,944円(0.0%)の増加となっている。

使用料収入に対する企業債元利償還金の割合を示す企業債元利償還金対料金収入比率は110.0%で、前年度を0.3ポイント下回っている。この比率は低い方が柔軟な経営が可能となるが、下水道事業は多額の企業債未償還残高を保有しており、当年度の元利償還金も多いため高率となっている。

企業債の借入及び償還状況

(単位：円・%)

| 区分 | 3年度 | 2年度 | 対前年度比較 | | |
|-----------|-----------|----------------|----------------|-----------------|--------|
| | | | 増減額 | 増減比率 | |
| 建設改良費等の財源 | 年度当初未償還残高 | 34,568,582,484 | 36,209,189,674 | △ 1,640,607,190 | △ 4.5 |
| | 借入額 | 1,132,000,000 | 1,089,700,000 | 42,300,000 | 3.9 |
| | 元利償還額 | 3,332,348,370 | 3,351,204,481 | △ 18,856,111 | △ 0.6 |
| | 元金 | 2,776,172,663 | 2,730,307,190 | 45,865,473 | 1.7 |
| | 利子 | 556,175,707 | 620,897,291 | △ 64,721,584 | △ 10.4 |
| | 年度末未償還残高 | 32,924,409,821 | 34,568,582,484 | △ 1,644,172,663 | △ 4.8 |
| その他 | 年度当初未償還残高 | 3,406,900,000 | 3,316,900,000 | 90,000,000 | 2.7 |
| | 資本費平準化借入額 | 360,000,000 | 400,000,000 | △ 40,000,000 | △ 10 |
| | 元利償還額 | 351,000,180 | 330,699,125 | 20,301,055 | 6.1 |
| | 元金 | 332,000,000 | 310,000,000 | 22,000,000 | 7.1 |
| | 利子 | 19,000,180 | 20,699,125 | △ 1,698,945 | △ 8.2 |
| | 年度末未償還残高 | 3,434,900,000 | 3,406,900,000 | 28,000,000 | 0.8 |
| 合計 | 年度当初未償還残高 | 37,975,482,484 | 39,526,089,674 | △ 1,550,607,190 | △ 3.9 |
| | 借入額 | 1,492,000,000 | 1,489,700,000 | 2,300,000 | 0.2 |
| | 元利償還額 | 3,683,348,550 | 3,681,903,606 | 1,444,944 | 0.0 |
| | 元金 | 3,108,172,663 | 3,040,307,190 | 67,865,473 | 2.2 |
| | 利子 | 575,175,887 | 641,596,416 | △ 66,420,529 | △ 10.4 |
| | 年度末未償還残高 | 36,359,309,821 | 37,975,482,484 | △ 1,616,172,663 | △ 4.3 |

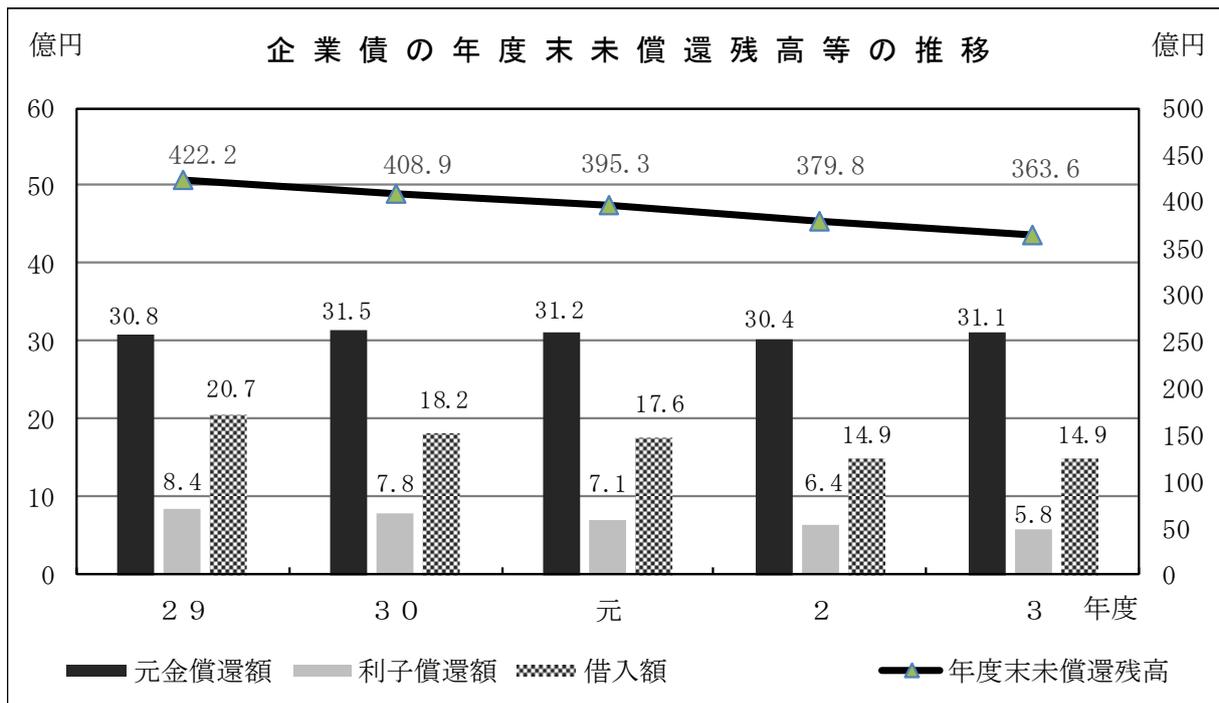
企業債元利償還金対料金収入比率

(単位：%)

| 区分 | 3年度 | 2年度 | 全国平均 (2年度) | 算出基礎 |
|---|------------------|-------|---------------|---|
| 企業債元利償還金対料金収入比率 (この比率は低い方が経営の健全性は高い) | 110.0 (△ 0.3) | 110.3 | 113.6 | $\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{使用料収入}} \times 100$ |

・全国平均は地方公営企業年鑑における公共下水道の法適用団体の平均値である。

・3年度()内は対前年度比較増減の値である。



・ 左軸は元金償還額・利子償還額・借入額の目盛、右軸は年度末未償還残高の目盛を示す。

付 表

1 下水道事業損益計算書前年度比較表

費 用

| 区分 勘定科目 | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 増 減 額 | 増 減 比 率 |
|----------------------------------|---------------|------|---------------|------|---------------|------------|
| | 金 額 | 構成比率 | 金 額 | 構成比率 | | |
| 1 営 業 費 用 | 5,917,791,814 | 90.0 | 5,948,692,093 | 88.9 | △ 30,900,279 | △ 0.5 |
| (1) 下 水 管 維 持 費 | 235,029,132 | 3.6 | 249,678,198 | 3.7 | △ 14,649,066 | △ 5.9 |
| (2) ポ ン プ 場 費 | 116,667,223 | 1.8 | 129,995,286 | 2.0 | △ 13,328,063 | △ 10.3 |
| (3) 処 理 場 費 | 803,847,509 | 12.2 | 912,480,304 | 13.6 | △ 108,632,795 | △ 11.9 |
| (4) し 尿 処 理 費 | 228,865,933 | 3.5 | 273,593,274 | 4.1 | △ 44,727,341 | △ 16.3 |
| (5) 住 宅 団 地 排 水 処 理 費 | 67,153,261 | 1.0 | 56,224,426 | 0.9 | 10,928,835 | 19.4 |
| (6) 受 託 工 事 費 | 227,273 | 0.0 | 470,000 | 0.0 | △ 242,727 | △ 51.6 |
| (7) 総 係 費 | 346,827,601 | 5.3 | 267,384,643 | 4.0 | 79,442,958 | 29.7 |
| (8) 減 価 償 却 費 | 3,210,676,045 | 48.8 | 3,185,336,016 | 47.6 | 25,340,029 | 0.8 |
| (9) 資 産 減 耗 費 | 13,761,575 | 0.2 | 7,865,443 | 0.1 | 5,896,132 | 75.0 |
| (10) 流 域 下 水 道 管 理 運 営 費 | 894,736,262 | 13.6 | 865,664,503 | 12.9 | 29,071,759 | 3.4 |
| 2 営 業 外 費 用 | 660,207,893 | 10.0 | 744,604,261 | 11.1 | △ 84,396,368 | △ 11.3 |
| (1) 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 575,178,582 | 8.7 | 641,596,416 | 9.6 | △ 66,417,834 | △ 10.4 |
| (2) 雑 支 出 | 85,029,311 | 1.3 | 103,007,845 | 1.5 | △ 17,978,534 | △ 17.5 |
| 3 特 別 損 失 | 801,161 | 0.0 | 1,197,385 | 0.0 | △ 396,224 | △ 33.1 |
| (1) 過 年 度 損 益 修 正 損 | 799,361 | 0.0 | 1,197,385 | 0.0 | △ 398,024 | △ 33.2 |
| (2) そ の 他 特 別 損 失 | 1,800 | 0.0 | 0 | 0 | 1,800 | 皆増 |
| 合 計 | 6,578,800,868 | 100 | 6,694,493,739 | 100 | △ 115,692,871 | △ 1.7 |

収 益

(単位：円・%)

| 区分 勘定科目 | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 増 減 額 | 増 減 率 |
|--------------------------|---------------|------|---------------|------|---------------|--------|
| | 金 額 | 構成比率 | 金 額 | 構成比率 | | |
| 1 営 業 収 益 | 5,634,204,768 | 81.9 | 5,835,577,570 | 82.8 | △ 201,372,802 | △ 3.5 |
| (1) 下 水 道 使 用 料 | 3,028,613,442 | 44.0 | 3,037,866,728 | 43.1 | △ 9,253,286 | △ 0.3 |
| (2) 他 会 計 負 担 金 | 2,605,273,353 | 37.9 | 2,797,090,842 | 39.7 | △ 191,817,489 | △ 6.9 |
| (3) 受 託 工 事 収 益 | 227,273 | 0.0 | 470,000 | 0.0 | △ 242,727 | △ 51.6 |
| (4) そ の 他 営 業 収 益 | 90,700 | 0.0 | 150,000 | 0.0 | △ 59,300 | △ 39.5 |
| 2 営 業 外 収 益 | 1,236,401,570 | 18.0 | 1,216,925,020 | 17.2 | 19,476,550 | 1.6 |
| (1) 受 取 利 息 及 び 配 当 金 | 25,501 | 0.0 | 58,195 | 0.0 | △ 32,694 | △ 56.2 |
| (2) 負 担 金 | 2,481,391 | 0.0 | 2,576,113 | 0.0 | △ 94,722 | △ 3.7 |
| (3) 長 期 前 受 金 戻 入 | 1,224,531,884 | 17.8 | 1,206,450,011 | 17.1 | 18,081,873 | 1.5 |
| (4) 雑 収 益 | 9,362,794 | 0.2 | 7,840,701 | 0.1 | 1,522,093 | 19.4 |
| 3 特 別 利 益 | 8,053,661 | 0.1 | 1,888,598 | 0.0 | 6,165,063 | 326.4 |
| (1) 過 年 度 損 益 修 正 益 | 1,819,510 | 0.0 | 1,888,598 | 0.0 | △ 69,088 | △ 3.7 |
| (2) そ の 他 特 別 利 益 | 6,234,151 | 0.1 | 0 | 0 | 6,234,151 | 皆増 |
| 合 計 | 6,878,659,999 | 100 | 7,054,391,188 | 100 | △ 175,731,189 | △ 2.5 |

当期利益（損失）

(単位：円)

| 区分 損益計算 | 3 年 度 | 2 年 度 | 増 減 額 |
|--------------------------------|---------------|---------------|---------------|
| | 金 額 | 金 額 | |
| 営 業 損 益 | △ 283,587,046 | △ 113,114,523 | △ 170,472,523 |
| 経 常 損 益 | 292,606,631 | 359,206,236 | △ 66,599,605 |
| 当 年 度 純 損 益 | 299,859,131 | 359,897,449 | △ 60,038,318 |
| 前 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金 | 0 | 0 | 0 |
| そ の 他 未 処 分 利 益 剰 余 金 変 動 額 | 415,687,138 | 427,708,847 | △ 12,021,709 |
| 当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金 | 715,546,269 | 787,606,296 | △ 72,060,027 |

2 下水道事業費用別比較表

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 対 前 年 度 比 較 | |
|------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------|----------------|
| | | | 増 減 額 | 増減比率 |
| 給 料 | 142,200,357 | 144,808,598 | △ 2,608,241 | △ 1.8 |
| 手 当 等 | 85,899,129 | 86,109,020 | △ 209,891 | △ 0.2 |
| 退 職 給 付 費 | 113,512,964 | 38,780,296 | 74,732,668 | 192.7 |
| 法 定 福 利 費 | 46,660,836 | 47,792,819 | △ 1,131,983 | △ 2.4 |
| 報 酬 | 13,087,766 | 14,280,313 | △ 1,192,547 | △ 8.4 |
| 備 消 品 費 | 7,041,030 | 6,963,709 | 77,321 | 1.1 |
| 燃 料 費 | 1,368,301 | 1,412,405 | △ 44,104 | △ 3.1 |
| 光 熱 水 費 | 18,440,509 | 17,323,622 | 1,116,887 | 6.4 |
| 通 信 運 搬 費 | 4,478,191 | 4,142,842 | 335,349 | 8.1 |
| 委 託 料 | 586,794,796 | 572,619,343 | 14,175,453 | 2.5 |
| 賃 借 料 | 1,294,226 | 1,629,652 | △ 335,426 | △ 20.6 |
| 修 繕 費 | 37,763,633 | 37,236,220 | 527,413 | 1.4 |
| 電 力 料 | 167,962,313 | 170,439,557 | △ 2,477,244 | △ 1.5 |
| 薬 品 費 | 45,125,720 | 45,475,153 | △ 349,433 | △ 0.8 |
| 材 料 費 | 2,691,230 | 1,953,700 | 737,530 | 37.8 |
| 請 負 費 | 356,441,000 | 536,792,000 | △ 180,351,000 | △ 33.6 |
| 負 担 金 | 1,049,632,924 (894,736,262) | 1,013,625,264 (865,664,503) | 36,007,660 (29,071,759) | 3.6 (3.4) |
| 減 価 償 却 費 | 3,210,676,045 | 3,185,336,016 | 25,340,029 | 0.8 |
| 資 産 減 耗 費 | 13,761,575 | 7,865,443 | 5,896,132 | 75.0 |
| 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 575,178,582 | 641,596,416 | △ 66,417,834 | △ 10.4 |
| そ の 他 の 費 用 | 98,789,741 | 118,311,351 | △ 19,521,610 | △ 16.5 |
| 合 計 | 6,578,800,868 | 6,694,493,739 | △ 115,692,871 | △ 1.7 |

(注) ・手当等は、児童手当を除き、賞与引当金への繰入額（会計年度任用職員分を除く。）を含む。
また、法定福利費は、会計年度任用職員の社会保険料を除き、法定福利費引当金への繰入額（会計年度任用職員分を除く。）を含む。

なお、児童手当、会計年度任用職員の社会保険料及び会計年度任用職員に係る引当金繰入額は、その他の費用に含まれている。

・退職給付費は、退職給付引当金への引当額を含む。

なお、退職給付費の実支出額は、3年度 86,907,969円、2年度 12,175,301円である。

・負担金の（ ）内は、流域下水道管理運営費を内数で表示している。

(単位：円・%)

| 構 成 比 率 | | | 指 数 (30年度:100) | | |
|---------|-------|-------|----------------|-------|-------|
| 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
| 2.2 | 2.2 | 2.2 | 99 | 101 | 101 |
| 1.3 | 1.3 | 1.3 | 106 | 106 | 104 |
| 1.7 | 0.6 | 0.6 | 219 | 75 | 78 |
| 0.7 | 0.7 | 0.7 | 101 | 103 | 101 |
| 0.2 | 0.2 | 0.2 | 100 | 110 | 114 |
| 0.1 | 0.1 | 0.1 | 100 | 98 | 105 |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 103 | 106 | 102 |
| 0.3 | 0.3 | 0.3 | 94 | 88 | 101 |
| 0.1 | 0.1 | 0.1 | 101 | 94 | 98 |
| 8.9 | 8.5 | 7.9 | 106 | 103 | 93 |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 64 | 81 | 102 |
| 0.6 | 0.6 | 0.6 | 99 | 97 | 98 |
| 2.6 | 2.5 | 3.2 | 83 | 84 | 103 |
| 0.7 | 0.7 | 0.7 | 115 | 115 | 117 |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 463 | 336 | 238 |
| 5.4 | 8.0 | 6.6 | 85 | 128 | 103 |
| 16.0 | 15.1 | 15.1 | 109 | 105 | 103 |
| 48.8 | 47.6 | 47.9 | 102 | 102 | 100 |
| 0.2 | 0.1 | 0.1 | 68 | 39 | 47 |
| 8.7 | 9.6 | 10.8 | 74 | 83 | 91 |
| 1.5 | 1.8 | 1.6 | 111 | 133 | 116 |
| 100 | 100 | 100 | 100 | 101 | 99 |

3 下水道事業貸借対照表前年度比較表

資 産

| 区分 勘定科目 | 3 年 度 | | 2 年 度 | | 増 減 額 | 増 減 比率 |
|---------------------|----------------|-------|----------------|-------|-----------------|--------|
| | 金 額 | 構成比率 | 金 額 | 構成比率 | | |
| 1 固 定 資 産 | 94,529,229,470 | 96.6 | 95,486,828,227 | 96.9 | △ 957,598,757 | △ 1.0 |
| (1) 有 形 固 定 資 産 | 91,189,169,823 | 93.2 | 92,033,290,671 | 93.4 | △ 844,120,848 | △ 0.9 |
| 土 地 | 750,859,944 | 0.9 | 735,161,762 | 0.8 | 15,698,182 | 2.1 |
| 立 木 | 7,303,000 | 0.0 | 7,303,000 | 0.0 | 0 | 0 |
| 建 物 | 773,347,425 | 0.8 | 802,504,436 | 0.8 | △ 29,157,011 | △ 3.6 |
| 構 築 物 | 83,291,655,066 | 85.1 | 84,343,932,091 | 85.6 | △ 1,052,277,025 | △ 1.2 |
| 機 械 及 び 装 置 | 5,993,553,524 | 6.1 | 5,964,812,976 | 6.1 | 28,740,548 | 0.5 |
| 車 両 運 搬 具 | 7,731,159 | 0.0 | 8,255,984 | 0.0 | △ 524,825 | △ 6.4 |
| 工 具、器 具 及 び 備 品 | 34,963,696 | 0.0 | 27,085,291 | 0.0 | 7,878,405 | 29.1 |
| リ ー ス 資 産 | 7,823,500 | 0.0 | 0 | 0 | 7,823,500 | 皆増 |
| 建 設 仮 勘 定 | 321,932,509 | 0.3 | 144,235,131 | 0.1 | 177,697,378 | 123.2 |
| (2) 無 形 固 定 資 産 | 3,335,383,647 | 3.4 | 3,448,861,556 | 3.5 | △ 113,477,909 | △ 3.3 |
| 施 設 利 用 権 | 3,335,383,647 | 3.4 | 3,448,861,556 | 3.5 | △ 113,477,909 | △ 3.3 |
| (3) 投 資 そ の 他 の 資 産 | 4,676,000 | 0.0 | 4,676,000 | 0.0 | 0 | 0 |
| 出 資 金 | 4,676,000 | 0.0 | 4,676,000 | 0.0 | 0 | 0 |
| 2 流 動 資 産 | 3,295,862,416 | 3.4 | 3,072,495,931 | 3.1 | 223,366,485 | 7.3 |
| (1) 現 金 預 金 | 2,517,365,355 | 2.6 | 2,290,052,004 | 2.3 | 227,313,351 | 9.9 |
| 預 金 | 2,517,365,355 | 2.6 | 2,290,052,004 | 2.3 | 227,313,351 | 9.9 |
| (2) 未 収 金 | 714,997,061 | 0.7 | 765,363,927 | 0.8 | △ 50,366,866 | △ 6.6 |
| 営 業 未 収 金 | 669,314,144 | 0.7 | 713,784,876 | 0.7 | △ 44,470,732 | △ 6.2 |
| 営 業 外 未 収 金 | 3,194,921 | 0.0 | 3,349,286 | 0.0 | △ 154,365 | △ 4.6 |
| 特 別 利 益 未 収 金 | 728,847 | 0.0 | 3,481,244 | 0.0 | △ 2,752,397 | △ 79.1 |
| そ の 他 未 収 金 | 44,704,012 | 0.0 | 53,784,356 | 0.1 | △ 9,080,344 | △ 16.9 |
| 未 収 金 貸 倒 引 当 金 | △ 2,944,863 | △ 0.0 | △ 9,035,835 | △ 0.0 | 6,090,972 | △ 67.4 |
| (3) 前 払 金 | 63,420,000 | 0.1 | 17,000,000 | 0.0 | 46,420,000 | 273.1 |
| 前 払 金 | 63,420,000 | 0.1 | 17,000,000 | 0.0 | 46,420,000 | 273.1 |
| (4) そ の 他 流 動 資 産 | 80,000 | 0.0 | 80,000 | 0.0 | 0 | 0 |
| つ り 銭 準 備 資 金 | 80,000 | 0.0 | 80,000 | 0.0 | 0 | 0 |
| 資 産 合 計 | 97,825,091,886 | 100 | 98,559,324,158 | 100 | △ 734,232,272 | △ 0.7 |

負債・資本

(単位：円・%)

| 区分 勘定科目 | 3年度 | | 2年度 | | 増減額 | 増減比率 |
|---------------------|----------------|------|----------------|------|-----------------|--------|
| | 金額 | 構成比率 | 金額 | 構成比率 | | |
| 1 固定負債 | 33,629,861,755 | 34.4 | 35,179,881,755 | 35.7 | △ 1,550,020,000 | △ 4.4 |
| (1) 企業債 | 33,283,943,577 | 34.0 | 34,867,309,821 | 35.4 | △ 1,583,366,244 | △ 4.5 |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債 | 30,199,643,577 | 30.9 | 31,792,409,821 | 32.3 | △ 1,592,766,244 | △ 5.0 |
| その他の企業債 | 3,084,300,000 | 3.1 | 3,074,900,000 | 3.1 | 9,400,000 | 0.3 |
| (2) リース債務 | 6,741,249 | 0.0 | 0 | 0 | 6,741,249 | 皆増 |
| リース債務 | 6,741,249 | 0.0 | 0 | 0 | 6,741,249 | 皆増 |
| (3) 引当金 | 339,176,929 | 0.4 | 312,571,934 | 0.3 | 26,604,995 | 8.5 |
| 退職給付引当金 | 339,176,929 | 0.4 | 312,571,934 | 0.3 | 26,604,995 | 8.5 |
| 2 流動負債 | 4,546,281,095 | 4.6 | 4,296,131,742 | 4.4 | 250,149,353 | 5.8 |
| (1) 企業債 | 3,075,366,244 | 3.1 | 3,108,172,663 | 3.2 | △ 32,806,419 | △ 1.1 |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債 | 2,724,766,244 | 2.8 | 2,776,172,663 | 2.8 | △ 51,406,419 | △ 1.9 |
| その他の企業債 | 350,600,000 | 0.3 | 332,000,000 | 0.4 | 18,600,000 | 5.6 |
| (2) リース債務 | 1,721,170 | 0.0 | 0 | 0 | 1,721,170 | 皆増 |
| リース債務 | 1,721,170 | 0.0 | 0 | 0 | 1,721,170 | 皆増 |
| (3) 未払金 | 1,229,640,305 | 1.3 | 1,039,569,629 | 1.1 | 190,070,676 | 18.3 |
| 営業未払金 | 607,971,654 | 0.6 | 477,104,965 | 0.5 | 130,866,689 | 27.4 |
| 営業外未払金 | 20,564,900 | 0.1 | 31,596,900 | 0.0 | △ 11,032,000 | △ 34.9 |
| 建設改良未払金 | 600,960,320 | 0.6 | 530,867,764 | 0.6 | 70,092,556 | 13.2 |
| その他未払金 | 143,431 | 0.0 | 0 | 0 | 143,431 | 皆増 |
| (4) 未払費用 | 600,225 | 0.0 | 531,169 | 0.0 | 69,056 | 13.0 |
| 未払費用 | 600,225 | 0.0 | 531,169 | 0.0 | 69,056 | 13.0 |
| (5) 預り金 | 200,345,151 | 0.2 | 110,793,281 | 0.1 | 89,551,870 | 80.8 |
| 税金預り金 | 1,505,657 | 0.0 | 1,301,332 | 0.0 | 204,325 | 15.7 |
| 諸預り金 | 198,839,494 | 0.2 | 109,491,949 | 0.1 | 89,347,545 | 81.6 |
| (6) 引当金 | 38,608,000 | 0.0 | 37,065,000 | 0.0 | 1,543,000 | 4.2 |
| 賞与引当金 | 32,424,000 | 0.0 | 31,138,000 | 0.0 | 1,286,000 | 4.1 |
| 法定福利費引当金 | 6,184,000 | 0.0 | 5,927,000 | 0.0 | 257,000 | 4.3 |
| 3 繰延収益 | 36,993,447,095 | 37.8 | 37,266,488,223 | 37.8 | △ 273,041,128 | △ 0.7 |
| (1) 長期前受金 | 36,986,112,277 | 37.8 | 37,266,488,223 | 37.8 | △ 280,375,946 | △ 0.8 |
| 国庫補助金 | 21,955,207,632 | 22.4 | 22,065,119,286 | 22.4 | △ 109,911,654 | △ 0.5 |
| 県補助金 | 376,250,850 | 0.4 | 363,935,965 | 0.4 | 12,314,885 | 3.4 |
| 工事負担金 | 6,272,671,407 | 6.4 | 6,328,485,538 | 6.4 | △ 55,814,131 | △ 0.9 |
| 他会計補助金 | 1,470,966,129 | 1.5 | 1,518,993,283 | 1.5 | △ 48,027,154 | △ 3.2 |
| 他会計負担金 | 4,213,594,769 | 4.3 | 4,365,509,899 | 4.4 | △ 151,915,130 | △ 3.5 |
| 受贈財産評価額 | 2,557,137,335 | 2.7 | 2,478,323,439 | 2.5 | 78,813,896 | 3.2 |
| その他長期前受金 | 140,284,155 | 0.1 | 146,120,813 | 0.2 | △ 5,836,658 | △ 4.0 |
| (2) 建設仮勘定長期前受金 | 7,334,818 | 0.0 | 0 | 0 | 7,334,818 | 皆増 |
| 建設仮勘定長期前受金 | 7,334,818 | 0.0 | 0 | 0 | 7,334,818 | 皆増 |
| 負債合計 | 75,169,589,945 | 76.8 | 76,742,501,720 | 77.9 | △ 1,572,911,775 | △ 2.0 |
| 1 資本金 | 18,183,365,606 | 18.6 | 17,226,196,387 | 17.5 | 957,169,219 | 5.6 |
| (1) 資本金 | 18,183,365,606 | 18.6 | 17,226,196,387 | 17.5 | 957,169,219 | 5.6 |
| 固有資本金 | 825,051,351 | 0.8 | 825,051,351 | 0.8 | 0 | 0 |
| 繰入資本金 | 6,942,928,047 | 7.2 | 6,413,467,675 | 6.5 | 529,460,372 | 8.3 |
| 組入資本金 | 10,415,386,208 | 10.6 | 9,987,677,361 | 10.2 | 427,708,847 | 4.3 |
| 2 剰余金 | 4,472,136,335 | 4.6 | 4,590,626,051 | 4.6 | △ 118,489,716 | △ 2.6 |
| (1) 資本剰余金 | 3,396,692,617 | 3.5 | 3,387,332,617 | 3.4 | 9,360,000 | 0.3 |
| 国庫補助金 | 2,233,609,669 | 2.3 | 2,233,609,669 | 2.3 | 0 | 0 |
| 県補助金 | 16,471,211 | 0.0 | 16,471,211 | 0.0 | 0 | 0 |
| 工事負担金 | 219,714,980 | 0.2 | 219,714,980 | 0.2 | 0 | 0 |
| 他会計負担金 | 707,647,518 | 0.8 | 698,287,518 | 0.7 | 9,360,000 | 1.3 |
| 受贈財産評価額 | 219,249,239 | 0.2 | 219,249,239 | 0.2 | 0 | 0 |
| (2) 利益剰余金 | 1,075,443,718 | 1.1 | 1,203,293,434 | 1.2 | △ 127,849,716 | △ 10.6 |
| 減債積立金 | 359,897,449 | 0.4 | 415,687,138 | 0.4 | △ 55,789,689 | △ 13.4 |
| 当年度未処分利益剰余金 | 715,546,269 | 0.7 | 787,606,296 | 0.8 | △ 72,060,027 | △ 9.1 |
| 資本合計 | 22,655,501,941 | 23.2 | 21,816,822,438 | 22.1 | 838,679,503 | 3.8 |
| 負債・資本合計 | 97,825,091,886 | 100 | 98,559,324,158 | 100 | △ 734,232,272 | △ 0.7 |

4 下水道事業経営分析表

| 区 分 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|------------------|-----------------------|-----------|-----------|-----------|
| 財 務 比 率 | 流 動 比 率 | % 72.5 | % 71.5 | % 74.3 |
| | 固 定 比 率 | 158.5 | 161.6 | 164.4 |
| | 固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率 | 101.3 | 101.3 | 101.0 |
| 構 成 比 率 | 自 己 資 本 構 成 比 率 | 61.0 | 59.9 | 59.2 |
| | 固 定 資 産 構 成 比 率 | 96.6 | 96.9 | 97.3 |
| | 固 定 負 債 構 成 比 率 | 34.4 | 35.7 | 37.2 |
| 回 転 率 | 自 己 資 本 回 転 率 | 回 0.08 | 回 0.08 | 回 0.08 |
| | 固 定 資 産 回 転 率 | 0.05 | 0.05 | 0.05 |
| | 減 価 償 却 率 | % 3.3 | % 3.3 | % 3.2 |

| 算 出 基 礎 | 左 の 説 明 |
|--|---|
| $\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$ | <p>流動負債に対する流動資産の割合であり、短期債務に対する支払能力を表している。この比率は100%以上であることが望ましい。</p> |
| $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{資 本 金 + 剰 余 金 + 評 価 差 額 等 + 繰 延 収 益}} \times 100$ | <p>自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益）が、どの程度固定資産に投下されているかを見る指標であり、100%以下であれば固定資産への投資が自己資本の枠内におさまっていることになる。</p> |
| $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{固 定 負 債 + 資 本 金 + 剰 余 金 + 評 価 差 額 等 + 繰 延 収 益}} \times 100$ | <p>固定資産の調達自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益）と固定負債の範囲内で行われているかどうかを示すもので、100%以下で、かつ、低いことが望ましい。</p> |
| $\frac{\text{資 本 金 + 剰 余 金 + 評 価 差 額 等 + 繰 延 収 益}}{\text{負 債 資 本 合 計}} \times 100$ | <p>負債資本合計に対する自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益）の占める割合で、この比率は高い方が経営の健全性が高い。</p> |
| $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{固 定 資 産 + 流 動 資 産 + 繰 延 資 産}} \times 100$ | <p>総資産（固定資産＋流動資産＋繰延資産）に対する固定資産の占める割合で、この比率は低い方が柔軟な経営が可能となる。</p> |
| $\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{負 債 資 本 合 計}} \times 100$ | <p>負債資本合計に対する固定負債の占める割合で、この比率は低い方が経営が安定している。</p> |
| $\frac{\text{営 業 収 益 - 受 託 工 事 収 益}}{\frac{\text{期 首 自 己 資 本 + 期 末 自 己 資 本}}{2}}$ | <p>自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益）に対する営業収益の割合を示すもので、この比率は高いほど投下資本に比して営業活動が活発であることを意味する。</p> |
| $\frac{\text{営 業 収 益 - 受 託 工 事 収 益}}{\frac{\text{期 首 固 定 資 産 + 期 末 固 定 資 産}}{2}}$ | <p>固定資産に対する営業収益の割合で、この比率は高い方が施設が有効に稼働していることを示す。</p> |
| $\frac{\text{当 年 度 減 価 償 却 費}}{\text{有 形 固 定 資 産 + 無 形 固 定 資 産 - 土 地 - 立 木 - 建 設 仮 勘 定 + 当 年 度 減 価 償 却 費}} \times 100$ | <p>減価償却費を固定資産の帳簿価格と比較することによって、固定資産に投下された資本の回収状況をみるためのものである。</p> |

| 区 分 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|--------------------------------------|--------------------------|---------------|---------------|---------------|
| 損 益 に 関 す る 比 率 | 総 資 本 利 益 率 | % 0.30 | % 0.36 | % 0.41 |
| | 総 収 支 比 率 | 104.6 | 105.4 | 106.3 |
| | 経 常 収 支 比 率 | 104.4 | 105.4 | 106.2 |
| | 営 業 収 支 比 率 | 75.5 | 76.8 | 77.5 |
| | 利 子 負 担 率 | 1.6 | 1.7 | 1.8 |
| | 企業債償還元金対減価償却費比率 | 139.8 | 138.0 | 145.6 |
| | 企業債元利償還元金対料金収入比率 | 110.0 | 110.3 | 116.1 |
| | 職 員 1 人 当 たり 営 業 収 益 | 千円 148,902 | 千円 147,271 | 千円 139,564 |
| | 職 員 1 人 当 たり 有 形 固 定 資 産 | 1,899,774 | 1,840,666 | 1,817,405 |

| 算 出 基 礎 | 左 の 説 明 |
|---|--|
| $\frac{\text{当年度経常利益(損失)}}{\frac{\text{期首総資本} + \text{期末総資本}}{2}} \times 100$ | <p>企業の収益性を判断するもので、この比率は高いほど総合的な収益性が高いことになる。 (注)総資本=負債資本合計</p> |
| $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | <p>事業活動に伴う全ての収支の均衡から、支払能力と安定性を分析するもので、この比率は100%を超えて高いほど純利益が発生しているため、経営の安定が図られているといえる。</p> |
| $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ | <p>経常費用の経常収益に対する割合で、料金(使用料)収入や一般会計繰入金等の収益で維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄っているかを示すもので、この数値が100%以上なら単年度の収支は黒字である。</p> |
| $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費用}} \times 100$ | <p>通常の営業活動に要する費用を本来の営業活動により得た収益でどの程度賄っているかを示すもので、この比率は100%を超えて高いほど営業利益率が良いといえる。</p> |
| $\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{建設改良等の財源に充てるための企業債・長期借入金} + \text{その他の企業債・長期借入金} + \text{再建債} + \text{一時借入金} + \text{リース債務}} \times 100$ | <p>支払利息と企業債等との割合で、資金調達のための負債に対して支払う支払利息利率の高低を示すもので、高金利の企業債等を借り入れて事業を行った場合は高くなる。</p> |
| $\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$ | <p>企業債償還元金とその主要償還財源である減価償却費を比較したもので、この比率は低いほど償還能力が高い。</p> |
| $\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$ | <p>料金(使用料)収入に対する企業債元利償還金の割合を示すもので、この比率は低いほど経営状態が良好といえる。</p> |
| $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$ | <p>職員一人当たりの労働力がどの程度の営業収益をあげているのかを示すものである。</p> |
| $\frac{\text{期末有形固定資産}}{\text{損益勘定所属職員数} + \text{資本勘定所属職員数}}$ | <p>職員1人当たりどの程度固定資産を保有しているかを示すものである。</p> |

5 下水道事業キャッシュ・フロー計算書前年度比較表

(単位：円)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 増 減 額 |
|-----------------------------|-----------------|-----------------|---------------|
| 1 業務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 当年度純利益 | 299,859,131 | 359,897,449 | △ 60,038,318 |
| 有形固定資産減価償却費 | 3,042,956,001 | 3,007,770,725 | 35,185,276 |
| 無形固定資産減価償却費 | 167,720,044 | 177,565,291 | △ 9,845,247 |
| 固定資産除却費 | 13,761,575 | 7,865,443 | 5,896,132 |
| 不用品売却原価 | 461,624 | 25,000 | 436,624 |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | △ 6,090,972 | △ 46,464 | △ 6,044,508 |
| 退職給付引当金の増減額 (△は減少) | 26,604,995 | 26,604,995 | 0 |
| 賞与引当金の増減額 (△は減少) | 1,647,000 | 719,000 | 928,000 |
| 法定福利費引当金の増減額 (△は減少) | 314,000 | 164,000 | 150,000 |
| 長期前受金戻入額 | △ 1,224,531,884 | △ 1,206,450,011 | △ 18,081,873 |
| 受取利息及び配当金 | △ 25,501 | △ 58,195 | 32,694 |
| 支払利息及び企業債取扱諸費 | 575,178,582 | 641,596,416 | △ 66,417,834 |
| 未収金の増減額 (△は増加) | 47,294,785 | 35,109,147 | 12,185,638 |
| 前払金の増減額 (△は増加) | △ 13,000,000 | 0 | △ 13,000,000 |
| 未払金の増減額 (△は減少) | 119,834,689 | 241,347,995 | △ 121,513,306 |
| 未払消費税の増減額 (リース資産) (△は減少) | 782,350 | 0 | 782,350 |
| 未払費用の増減額 (△は減少) | 69,056 | △ 277,816 | 346,872 |
| 預り金の増減額 (△は減少) | 89,551,870 | 23,869,356 | 65,682,514 |
| 小 計 | 3,142,387,345 | 3,315,702,331 | △ 173,314,986 |
| 受取利息及び配当金 | 25,501 | 58,195 | △ 32,694 |
| 支払利息及び企業債取扱諸費 | △ 575,178,582 | △ 641,596,416 | 66,417,834 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 2,567,234,264 | 2,674,164,110 | △ 106,929,846 |
| 2 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 有形固定資産の取得による支出 (建設改良費) | △ 2,048,616,311 | △ 1,869,501,704 | △ 179,114,607 |
| 無形固定資産の取得による支出 (建設改良費) | △ 54,242,135 | △ 51,062,661 | △ 3,179,474 |
| 国庫補助金返還による支出 | 0 | △ 92,330,979 | 92,330,979 |
| 国庫補助金による収入 | 721,102,000 | 740,184,500 | △ 19,082,500 |
| 受益者負担金返還による支出 | 0 | △ 2,440 | 2,440 |
| 受益者負担金・分担金による収入 | 101,045,755 | 93,903,826 | 7,141,929 |
| 工事負担金による収入 | 63,570,300 | 15,587,000 | 47,983,300 |
| 市一般会計からの負担金による収入 | 10,033,429 | 1,604,900 | 8,428,529 |
| その他資本による収入 | 1,157,540 | 18,944,947 | △ 17,787,407 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,205,949,422 | △ 1,142,672,611 | △ 63,276,811 |
| 3 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 市一般会計からの出資金による収入 | 482,201,172 | 450,334,655 | 31,866,517 |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入 | 1,132,000,000 | 1,089,700,000 | 42,300,000 |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 | △ 2,776,172,663 | △ 2,730,307,190 | △ 45,865,473 |
| その他の企業債による収入 | 360,000,000 | 400,000,000 | △ 40,000,000 |
| その他の企業債の償還による支出 | △ 332,000,000 | △ 310,000,000 | △ 22,000,000 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,133,971,491 | △ 1,100,272,535 | △ 33,698,956 |
| 4 資金増加額 (又は減少額) | | | |
| | 227,313,351 | 431,218,964 | △ 203,905,613 |
| 5 資金期首残高 | | | |
| | 2,290,052,004 | 1,858,833,040 | 431,218,964 |
| 6 資金期末残高 | | | |
| | 2,517,365,355 | 2,290,052,004 | 227,313,351 |

(注) ・本表は間接法により作成している。

健全化判断比率等审查意见书

健全化判断比率等

内 監

令和4年8月24日

前橋市長 山 本 龍 様

| | |
|---------|---------|
| 前橋市監査委員 | 根 岸 隆 夫 |
| 同 | 長 岡 敏 夫 |
| 同 | 鈴 木 俊 司 |
| 同 | 近 藤 登 |

令和3年度前橋市健全化判断比率・資金不足比率審査意見の提出について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第3条第1項及び第22条第1項の規定により審査に付された令和3年度決算に基づく前橋市健全化判断比率及び資金不足比率について審査した結果、次のとおり意見を提出いたします。

目 次

| | | |
|-----|--------------------|---|
| 第1 | 審査の基準 | 1 |
| 第2 | 審査の種類 | 1 |
| 第3 | 審査の対象 | 1 |
| 第4 | 審査の期間 | 1 |
| 第5 | 審査の着眼点 | 1 |
| 第6 | 審査の実施内容 | 1 |
| 第7 | 審査の結果 | 1 |
| 1 | 財政の健全性に関する比率 | 2 |
| (1) | 健全化判断比率の状況 | 2 |
| (2) | 公営企業会計に係る資金不足比率の状況 | 7 |
| 2 | 審査意見 | 8 |
| 3 | 参 考 | 9 |

凡 例

- 文中及び各表中で用いる百分率（％）は、小数点以下第2位を切り捨てた。ただし、単年度実質公債費比率、早期健全化基準、財政再生基準及び経営健全化基準を除く。
- 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
「－」…………… 該当のないもの
令和3年度の中核市平均値で比率が確定していないもの
「△」…………… 負数を示し増減を示すときは減を表すもの

令和3年度前橋市健全化判断比率・資金不足比率審査意見

第1 審査の基準

本審査は、前橋市監査委員監査基準（令和2年前橋市監査委員告示第1号）に準拠し実施した。

第2 審査の種類

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第3条第1項の規定による健全化判断比率審査及び同法第22条第1項の規定による資金不足比率審査

第3 審査の対象

健全化判断比率

- ・実質赤字比率
- ・連結実質赤字比率
- ・実質公債費比率
- ・将来負担比率

資金不足比率

審査に付された比率の算定の基礎となる事項を記載した書類

第4 審査の期間

令和4年7月4日から同年8月5日まで

第5 審査の着眼点

健全化判断比率等は、法令で規定された算式に基づき正確に算定されているか、算定された比率は、その算定の基礎となる事項を記載した書類（地方財政状況調査表等）と整合するか等を主な着眼点とした。

第6 審査の実施内容

審査に当たっては、市長から提出された健全化判断比率、資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類が地方公共団体の財政の健全化に関する法律及び関係法令の規定に従い作成され、比率の対象となる会計の実質赤字額（公営企業会計にあっては、資金不足額）、公債費及び将来負担の状態が適正に記載されているかどうかを検証するため、各会計の決算書や地方財政状況調査表をはじめ関係諸帳簿及び証拠書類との突合、検算等を実施した。

次に、連結の対象となる会計間の計数に不整合がないか審査し、必要に応じて関係職員から説明を聴取した。

第7 審査の結果

審査に付された比率等は、法令の定めるところにより、適正に作成されていると認められた。

また、審査した健全化判断比率及び資金不足比率は、いずれも早期健全化基準及び経営健全化基準の基準値を下回り、財政の早期健全化及び公営企業の経営の健全化の対象となるものはなかった。

審査の対象となる比率の概要及び意見は、次のとおりである。

1 財政の健全性に関する比率

(1) 健全化判断比率の状況

健全化判断比率は実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率の4比率からなっており、それぞれの比率の状況は、次のとおりである。

ア 実質赤字比率

実質赤字比率は、一般会計等（本市においては、一般会計、母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計及び用地先行取得事業特別会計をいう。以下同じ。）を対象とし、実質赤字額の標準財政規模に対する比率である。

一般会計等の実質収支額は4,145,611千円の黒字となっており、実質赤字額はないため、当該比率には該当せず、比率は「－」で表記した。

当該比率の早期健全化基準は11.25%、財政再生基準は20%である。

なお、健全化判断比率の算定において、各比率の分母の基礎となる標準財政規模は、標準税収入額等59,158,250千円、普通交付税額13,844,345千円及び臨時財政対策債発行可能額7,613,331千円の合計80,615,926千円である。

(単位：%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|---------------|-------|-------|-------|
| 実 質 赤 字 比 率 | － | － | － |
| 中 核 市 平 均 値 | － | － | － |
| 早 期 健 全 化 基 準 | 11.25 | 11.25 | 11.25 |
| 財 政 再 生 基 準 | 20 | 20 | 20 |

(参考) 算式

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計等の実質赤字額} \quad (\Delta 4,145,611 \text{千円})}{\text{標準財政規模} \quad (80,615,926 \text{千円})}$$

・実質収支額が黒字の場合は負数となり、実質赤字比率は算定されない。

一般会計等実質収支額の状況

(単位：千円)

| 会 計 名 等 | 実 質 収 支 額 | | 増 減 額 |
|---------------------|-----------|-----------|---------|
| | 3 年 度 | 2 年 度 | |
| 一 般 会 計 | 4,100,950 | 3,409,874 | 691,076 |
| 一般会計等に属する特別会計 | 44,661 | 33,769 | 10,892 |
| 内 母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計 | 44,661 | 33,769 | 10,892 |
| 誤 用地先行取得事業特別会計 | 0 | 0 | 0 |
| 一般会計等実質収支額合計 | 4,145,611 | 3,443,643 | 701,968 |

イ 連結実質赤字比率

連結実質赤字比率は、一般会計等、特別会計（一般会計等以外の特別会計のうち公営企業に係る特別会計以外の会計をいう。以下同じ。）及び公営企業会計（地方公営企業法適用企業に係る特別会計及び地方公営企業法非適用企業に係る特別会計をいう。以下同じ。）を対象とし、連結実質赤字額の標準財政規模に対する比率である。

一般会計等、特別会計及び公営企業会計の連結実質収支額は9,300,975千円の黒字となっており、連結実質赤字額はないため、当該比率には該当せず、比率は「－」で表記した。

当該比率の早期健全化基準は16.25%、財政再生基準は30%である。

(単位：%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|-----------------|-------|-------|-------|
| 連 結 実 質 赤 字 比 率 | － | － | － |
| 中 核 市 平 均 値 | － | － | － |
| 早 期 健 全 化 基 準 | 16.25 | 16.25 | 16.25 |
| 財 政 再 生 基 準 | 30 | 30 | 30 |

(参考) 算式

$$\text{連結実質赤字比率} = \frac{\text{連 結 実 質 赤 字 額} \quad (\Delta 9,300,975 \text{千円})}{\text{標 準 財 政 規 模} \quad (80,615,926 \text{千円})}$$

・連結実質収支額が黒字の場合は負数となり、連結実質赤字比率は算定されない。

連 結 実 質 収 支 額 の 状 況

(単位：千円)

| 会 計 名 等 | | 3 年 度 | 2 年 度 | 増 減 額 | |
|---------------------------------|-----------------|----------------|-----------|-----------|-----------|
| 一 般 会 計 等 | | 4,145,611 | 3,443,643 | 701,968 | |
| 一般会計等以外の特別会計のうち公営企業に係る特別会計以外の会計 | 国民健康保険特別会計 | 713,772 | 770,557 | △ 56,785 | |
| | 後期高齢者医療特別会計 | 7,863 | 20,546 | △ 12,683 | |
| | 競 輪 特 別 会 計 | 251,373 | 292,967 | △ 41,594 | |
| | 介 護 保 険 特 別 会 計 | 413,067 | 416,093 | △ 3,026 | |
| 公営企業会計 | 法適用企業 | 水道事業会計 | 1,578,782 | 1,909,038 | △ 330,256 |
| | | 下水道事業会計 | 1,824,947 | 1,884,536 | △ 59,589 |
| | 法非適用企業 | 農業集落排水事業特別会計 | 1,000 | 1,000 | 0 |
| | | 新エネルギー発電事業特別会計 | 14,057 | 13,631 | 426 |
| | | 産業立地推進事業特別会計 | 350,503 | 1,202,850 | △ 852,347 |
| 連結実質収支額合計 | | 9,300,975 | 9,954,861 | △ 653,886 | |

ウ 実質公債費比率

実質公債費比率は、一般会計等、特別会計、公営企業会計、一部事務組合等（本市においては、群馬県市町村会館管理組合、群馬県市町村総合事務組合及び群馬県後期高齢者医療広域連合である。以下同じ。）を対象とし、一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率である。

過去3か年間の平均で算出される当該比率は8.0%で、前年度を0.1ポイント上回っているが、単年度の比率は標準財政規模の増などにより前年度を下回っている。

当該比率の早期健全化基準は25%、財政再生基準は35%である。

(単位：%)

| 区 分 | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|---------------|---------------|----------------|----------------|
| 実 質 公 債 費 比 率 | 8.0 | 7.9 | 7.9 |
| (単年度実質公債費比率) | (3年度 7.99271) | (2年度 8.31069) | (元年度 7.80463) |
| | (2年度 8.31069) | (元年度 7.80463) | (30年度 7.78388) |
| | (元年度 7.80463) | (30年度 7.78388) | (29年度 8.13718) |
| 中 核 市 平 均 値 | — | 5.7 | 6.0 |
| 早 期 健 全 化 基 準 | 25 | 25 | 25 |
| 財 政 再 生 基 準 | 35 | 35 | 35 |

(参考) 算式

$$\text{実質公債費比率 (3か年平均)} = \frac{(\text{①地方債の元利償還金等}) - (\text{②特定財源} + \text{④元利償還金等に係る基準財政需要額算入額})}{\text{③標準財政規模} - (\text{④元利償還金等に係る基準財政需要額算入額})}$$

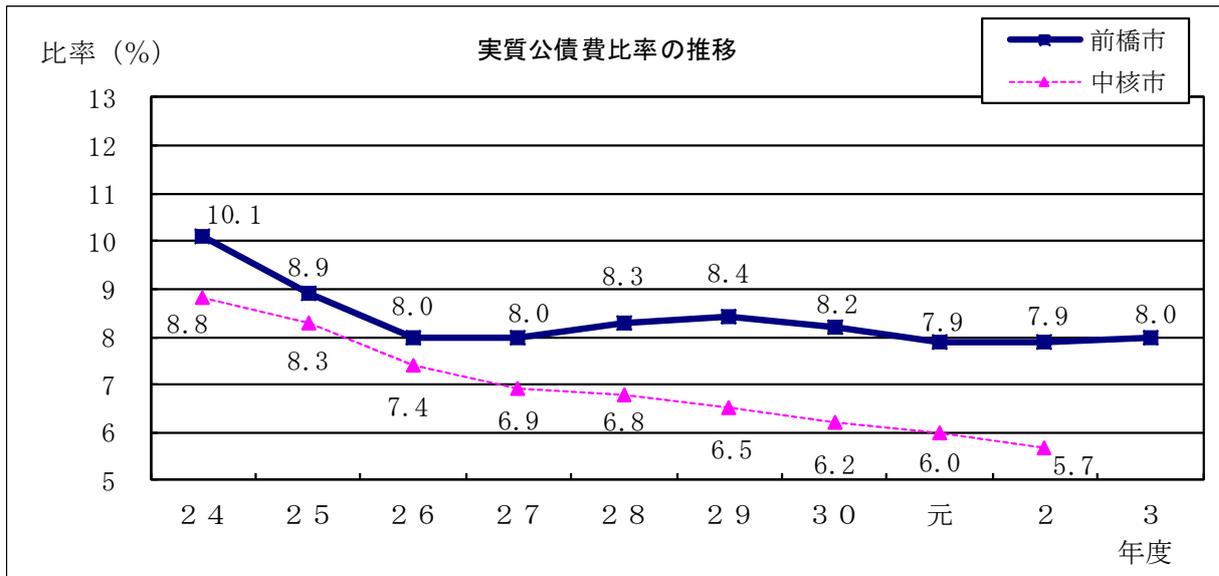
・各年度の比率の算定については、下段の単年度実質公債費比率の状況のとおり

単年度実質公債費比率の状況

(単位：千円・%)

| 項 目 | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 |
|------------------------|------------|------------|------------|
| ①地方債の元利償還金等 | 17,750,369 | 17,336,694 | 17,002,407 |
| 内 一般会計等の元利償還金 | 15,770,784 | 15,338,190 | 14,926,266 |
| 訳 準元利償還金 | 1,979,585 | 1,998,504 | 2,076,141 |
| ②特定財源 | 1,765,768 | 1,587,710 | 1,669,052 |
| ③標準財政規模 | 80,615,926 | 77,436,219 | 75,828,522 |
| ④元利償還金等に係る基準財政需要額算入額 | 10,370,049 | 10,157,674 | 10,212,249 |
| 単年度実質公債費比率 ①－(②＋④)/③－④ | 7.99271 | 8.31069 | 7.80463 |

- ・一般会計等の元利償還金は、繰上償還額等を除いて算出している。
- ・準元利償還金には、一時借入金の利子を含む。



エ 将来負担比率

将来負担比率は、一般会計等、特別会計、公営企業会計、一部事務組合等及び地方公社等（本市においては、公立大学法人前橋工科大学及び群馬県信用保証協会である。）を対象とし、一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率である。

当該比率は55.6%で、前年度を10.4ポイント下回っている。なお、当該比率の早期健全化基準は350%であるが、財政再生基準は定められていない。

将来負担額は194,378,817千円であり、前年度と比較すると569,808千円の増加となっている。これは、地方債の現在高1,933,809千円の増と公営企業債等繰入見込額1,064,347千円、退職手当負担見込額187,456千円、設立法人の負債額等負担見込額112,198千円の減によるものである。

充当可能財源等は155,319,420千円であり、前年度と比較すると5,923,696千円の増加となっている。これは、充当可能基金7,271,662千円の増と、基準財政需要額算入見込額1,238,526千円、充当可能特定歳入（特定財源見込額）109,440千円の減によるものである。

(単位：%)

| 区分 | 3年度 | 2年度 | 元年度 |
|---------|------|------|------|
| 将来負担比率 | 55.6 | 66.0 | 66.6 |
| 中核市平均値 | — | 42.0 | 46.0 |
| 早期健全化基準 | 350 | 350 | 350 |

(参考) 算式

$$\text{将来負担比率} = \frac{\text{将来負担額} - (\text{充当可能基金額} + \text{特定財源見込額} + \text{地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額})}{\text{標準財政規模} - (\text{元利償還金等に係る基準財政需要額算入額})}$$

$$= \frac{194,378,817 \text{千円} - (20,621,453 \text{千円} + 15,621,721 \text{千円} + 119,076,246 \text{千円})}{80,615,926 \text{千円} - 10,370,049 \text{千円}}$$

$$= 55.6\%$$

・元利償還金等に係る基準財政需要額算入額は、4頁単年度実質公債費比率の状況項目④を参照

将 来 負 担 額 の 状 況

(単位：千円)

| 項 目 | 3 年 度 | 2 年 度 | 増 減 額 |
|-----------------|-------------|-------------|-------------|
| 地方債の現在高 | 155,767,959 | 153,834,150 | 1,933,809 |
| 債務負担行為に基づく支出予定額 | 0 | 0 | 0 |
| 公営企業債等繰入見込額 ※1 | 20,939,885 | 22,004,232 | △ 1,064,347 |
| 組合負担等見込額 | 0 | 0 | 0 |
| 退職手当負担見込額 ※2 | 17,670,973 | 17,858,429 | △ 187,456 |
| 設立法人の負債額等負担見込額 | 0 | 112,198 | △ 112,198 |
| 内 訳 | 地方道路公社 | 0 | 0 |
| | 土地開発公社 | 0 | 0 |
| | 地方独立行政法人 | 0 | 0 |
| | 第三セクター等 ※3 | 0 | 112,198 |
| 連結実質赤字額 | 0 | 0 | 0 |
| 組合連結実質赤字額負担見込額 | 0 | 0 | 0 |
| 将来負担額合計 | 194,378,817 | 193,809,009 | 569,808 |

(参考) 見込額の算出基礎

※1 公営企業（水道事業等）の年度末企業債残高×元金償還に係る準元金償還割合（3か年平均値）

※2 職員全員が年度末に普通退職した場合の退職手当見込額のうち一般会計等が負担する額

※3 群馬県信用保証協会：損失補償付債務残高×平均残存年数×損失補償実行率

充 当 可 能 財 源 等 の 状 況

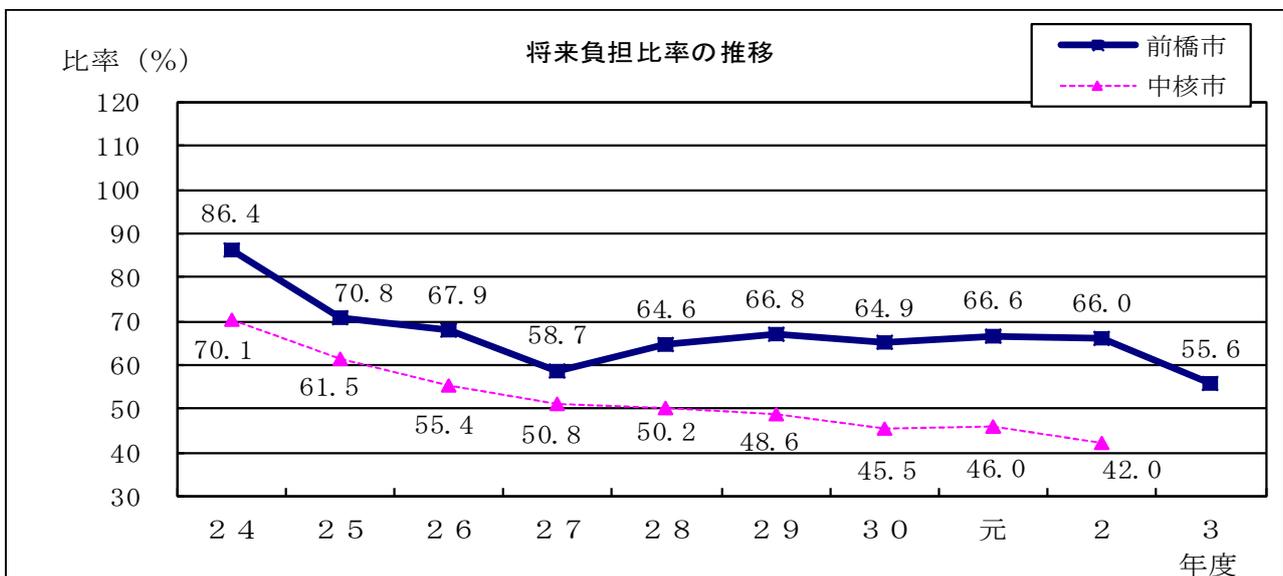
(単位：千円)

| 項 目 | 3 年 度 | 2 年 度 | 増 減 額 |
|----------------------|-------------|-------------|-------------|
| 充当可能基金 | 20,621,453 | 13,349,791 | 7,271,662 |
| 充当可能特定歳入（特定財源見込額） ※1 | 15,621,721 | 15,731,161 | △ 109,440 |
| 基準財政需要額算入見込額 ※2 | 119,076,246 | 120,314,772 | △ 1,238,526 |
| 充当可能財源等合計 | 155,319,420 | 149,395,724 | 5,923,696 |

(参考) 見込額の考え方

※1 地方債の現在高等に対して、充てることができる認められる国庫支出金、公営住宅使用料、都市計画税収入などの見込額

※2 地方債の現在高等に対して、その償還等に要する経費として普通交付税の算定に用いる基準財政需要額に算入されることが見込まれる額



(2) 公営企業会計に係る資金不足比率の状況

資金不足比率は、公営企業会計ごとに算定するものとなっており、一般会計等の実質赤字比率に相当するものである。算定された各会計の資金不足額は、連結実質赤字額及び将来負担比率における将来負担額の算定に反映している。

なお、資金不足比率は、対象となる公営企業会計ごとに審査した。また、各公営企業会計に資金不足額はないため、当該比率には該当せず、比率は「－」で表記した。

当該比率の経営健全化基準は20%である。

(単位：%)

| 区 分 | 会 計 名 | 資 金 不 足 比 率 | | | 経 営 健 全 化 基 準 | |
|-------------|-------------|-----------------------------|-------|-------|---------------|----|
| | | 3 年 度 | 2 年 度 | 元 年 度 | | |
| 公 営 企 業 会 計 | 法 適 用 企 業 | 水 道 事 業 会 計 | － | － | － | 20 |
| | | 下 水 道 事 業 会 計 | － | － | － | |
| | 法 非 適 用 企 業 | 農 業 集 落 排 水 事 業 特 別 会 計 | － | － | － | |
| | | 新 エ ネ ル ギ ー 発 電 事 業 特 別 会 計 | － | － | － | |
| | | 産 業 立 地 推 進 事 業 特 別 会 計 | － | － | － | |

(参考) 算式

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資 金 の 不 足 額}}{\text{事 業 の 規 模}}$$

- ・資金に剰余がある場合は負数となり、資金不足比率は算定されない。
各会計の算定については、資金不足額等の状況のとおり

○資金の不足額

法 適 用 企 業 . . . (流動負債 + 建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした
地方債の現在高 - 流動資産) - 解消可能資金不足額

法 非 適 用 企 業 . . . 歳出額 + 建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債
現在高 - (歳入額 - 翌年度に繰り越すべき財源) - 解消可能資金不足額

※資金不足が生じる公営企業会計については、将来解消が見込まれる「解消可能資金不足額」を資金の不足額から控除するが、各公営企業会計に資金の不足額はないため、「解消可能資金不足額」は算定していない。

※流動資産及び流動負債の額の算定にあたっては、控除企業債等の調整を行っている。

※宅地造成事業を行う公営企業については、販売用土地に係る流動資産の算定等に関する特例がある。

○事業の規模

法 適 用 企 業 営業収益の額 - 受託工事収益の額

法 非 適 用 企 業 営業収益に相当する収入の額 - 受託工事収益に相当する収入の額

※宅地造成事業のみを行う公営企業については、「事業経営のための財源規模」を示す資本及び負債の合計額

資 金 不 足 額 等 の 状 況

(単位：千円)

| 区 分 | 会 計 名 | 項 目 | 3 年 度 | 2 年 度 | 増 減 額 | |
|--------|--------|----------------|-------|-------------|-------------|-----------|
| 公営企業会計 | 法適用企業 | 水道事業会計 | 資金不足額 | △ 1,578,782 | △ 1,909,038 | 330,256 |
| | | | 事業の規模 | 5,515,330 | 5,541,111 | △ 25,781 |
| | | 下水道事業会計 | 資金不足額 | △ 1,824,947 | △ 1,884,536 | 59,589 |
| | | | | 事業の規模 | 4,467,074 | 4,565,403 |
| | 法非適用企業 | 農業集落排水事業特別会計 | 資金不足額 | △ 1,000 | △ 1,000 | 0 |
| | | | | 事業の規模 | 297,806 | 302,694 |
| | | 新エネルギー発電事業特別会計 | 資金不足額 | △ 14,057 | △ 13,631 | △ 426 |
| | | | | 事業の規模 | 140,098 | 144,701 |
| | | 産業立地推進事業特別会計 | 資金不足額 | △ 350,503 | △ 1,202,850 | 852,347 |
| | | | | 事業の規模 | 1,106,703 | 1,317,750 |

2 審査意見

健全化判断比率及び資金不足比率について審査したところ、いずれも財政の早期健全化及び公営企業の経営健全化の対象となる基準値を下回り、財政の健全段階の範囲となっている。

各比率のうち、実質公債費比率について、令和3年度の単年度比率は、地方交付税の増等に伴う標準財政規模の増などにより改善したものの、過去3か年の平均で算出される実質公債費比率は、8.0%となっており、前年度に比較し0.1ポイント悪化していることから、改善に努められたい。また、将来負担比率は、前年度を10.4ポイント下回る55.6%となり、2年連続で改善した。これは主に、当年度は臨時財政対策債の償還に要する経費の一部が地方交付税として追加交付されたことなどによる標準財政規模の増や、財政調整基金等の残高が増加したことなどによる充当可能基金の増などの臨時的な措置等によるところが大きいものと考えるが、将来負担すべき実質的な負債を減らすためにも、引き続き比率の改善に向け努力されたい。

新型コロナウイルス感染症の流行が収束しない状況下において、ウクライナ情勢などの影響による物価高や燃油高などが重なり、今後も厳しい財政状況が続くものと見込まれる。このため、今後の行財政運営に当たっては、引き続き財源確保への取り組みを進めながら、行財政改革推進計画(令和元年度～9年度)に位置付けた各施策を着実に推進することなどにより、事業の効率化や経費削減に努められたい。更に、財政調整基金の残高について、一つの目安としている標準財政規模の10%以上の水準を維持するなど、各基金において必要となる残高を確保するとともに、将来の財政負担の軽減のため、市債残高の縮減等に努められたい。こうしたことにより、多様化する市民ニーズや社会経済情勢の変化に柔軟に対応することができる、健全かつ持続可能な行財政運営を実現するよう要望する。

3 参 考

○健全化判断比率等対象会計

| 区 分 ・ 会 計 名 等 | | | 健全化判断比率等の対象 | | | |
|--|---|-----------------------------------|----------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|----------------------------|
| 一 般 会 計 等 | 一 般 会 計 | | 実 質 赤 字 比 率 | 連 結 実 質 赤 字 比 率 | 実 質 公 債 費 比 率 | 将 来 負 担 比 率 |
| | 一 般 会 計 等 に 属 す る 特 別 会 計 | 母 子 父 子 寡 婦 福 祉 資 金 貸 付 金 特 別 会 計 | | | | |
| | | 用 地 先 行 取 得 事 業 特 別 会 計 | | | | |
| 公 営 事 業 会 計 | 一 般 会 計 等 以 外 の 特 別 会 計 の う ち 公 営 企 業 に 係 る 特 別 会 計 以 外 の 会 計 | 国 民 健 康 保 険 特 別 会 計 | 資 金 不 足 比 率 | | | |
| | | 後 期 高 齢 者 医 療 特 別 会 計 | | | | |
| | | 競 輪 特 別 会 計 | | | | |
| | | 介 護 保 険 特 別 会 計 | | | | |
| | 法 適 用 企 業 | 水 道 事 業 会 計 | | | | |
| | | 下 水 道 事 業 会 計 | | | | |
| | 公 営 企 業 会 計 | 法 非 適 用 業 企 業 | | 農 業 集 落 排 水 事 業 特 別 会 計 | | |
| | | | | 新 エ ネ ル ギ ー 発 電 事 業 特 別 会 計 | | |
| | | | | 産 業 立 地 推 進 事 業 特 別 会 計 | | |
| | 一 部 事 務 組 合 ・ 広 域 連 合 | 一 部 事 務 組 合 | | 群 馬 県 市 町 村 会 館 管 理 組 合 | | |
| 群 馬 県 市 町 村 総 合 事 務 組 合 | | | | | | |
| 広 域 連 合 | | 群 馬 県 後 期 高 齢 者 医 療 広 域 連 合 | | | | |
| 地 方 公 社 ・ 第 三 セ ク タ ー 等 | 地 方 独 立 行 政 法 人 | 公 立 大 学 法 人 前 橋 工 科 大 学 | | | | |
| | 第 三 セ ク タ ー | 群 馬 県 信 用 保 証 協 会 | | | | |

